2019年度
実習受け入れ施設、保育士養成校、実習生を対象としたアンケート集計結果

公益社団法人兵庫県保育協会
調査研究委員会
保育実習充実支援実行委員会

1. はじめに（目的等）

保育人材の確保と定着について困難な状況である中、本協会では実習の時点で保育士職の魅力ややりがいをしっかりと伝えていくことが必要だと考えられます。そのためにも保育所・認定こども園、保育士養成校、実習生の 3 者を対象に、実習の現状や思いについて状況調査を行い、今後の実習生の受け入れ方の提案や研修の企画につなげていくことを目的とし、本調査を行いました。

2. 調査対象

アンケートＡ：兵庫県保育協会会員施設【実習生の受け入れ側】
アンケートＢ：兵庫県内保育士養成校【実習生を送り出す側】
アンケートＣ：実習生（就職して 2 年目以内の保育士を含めます）【実習生自身】

3. 調査方法

依頼文書とアンケート用紙を送付し、返信用封筒を使用して回答を得ました。

4. 回答期間

2019 年 7 月 19 日～2019 年 8 月 9 日必着

5. 回答状況

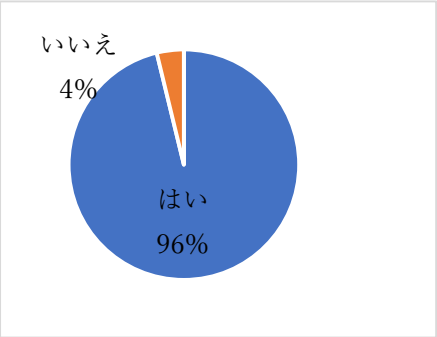
アンケート内容	送付施設数	最大送付部数	回答数	回答率
A 本協会会員施設	499 件	499 部	292 部	58.5%
B 保育士養成校	34 件	275 部	64 部	23.3%
C 実習生等	533 件	1,772 部	466 部	28.2%

A

実習受け入れ施設（会員施設）を対象としたアンケート　結果

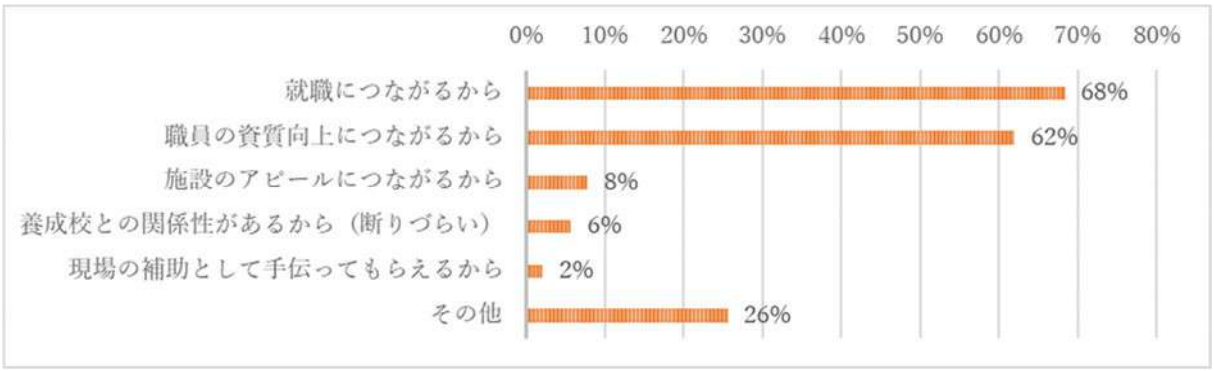
1. 貴施設では実習生を受け入れていますか？

回答欄	件数	%
はい	281	96.23%
いいえ	11	3.77%
合計	292	100.00%



1-2. はいと回答した場合の上位２つの理由を教えてください。

回答欄	件数	%
就職につながるから	192	68.33%
職員の資質向上につながるから	174	61.92%
施設のアピールにつながるから	22	7.83%
養成校との関係性があるから（断りづらい）	16	5.69%
現場の補助として手伝ってもらえるから	6	2.14%
その他	72	25.62%

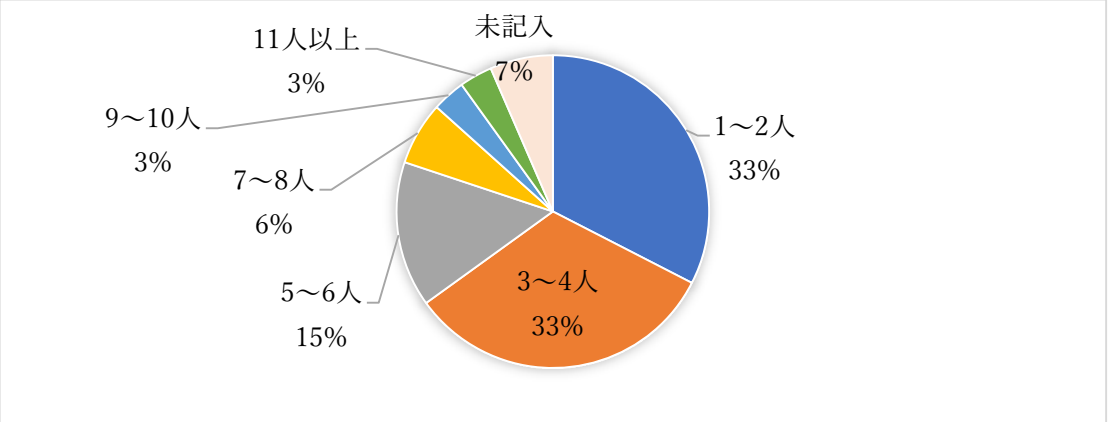


1-3.「いいえ」と回答した場合の理由を教えてください。※理由記入後、以降の回答は無し。

・新設のため受け入れ体制が整っていないため
・まだスタートができておりません。
・実習生を受け入れる余裕がないため（日々の保育でいっぱいのため）
・今年度は、職員人数や保育経験が浅い者ばかりだったので他園にお願いした。
・新園で実習生を指導できる体制ができていない。大学からの要請がない。
・依頼が無いため。
・過去に受け入れていたが、就職につながらないため、受け入れをやめました。
・希望する実習生がいない。実習希望の学生がいれば受け入れます。
・以前は受け入れをしていたが、事情により停止した。

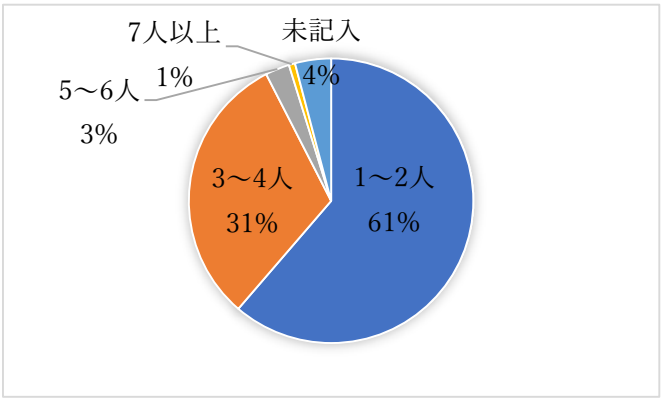
2. 年間で何名くらいの実習生を受け入れていますか？

回答欄	件数	%
1～2 人	95	32.53%
3～4 人	95	32.53%
5～6 人	44	15.07%
7～8 人	19	6.51%
9～10 人	10	3.42%
11 人以上	10	3.42%
未記入	19	6.51%
合計	292	100.00%



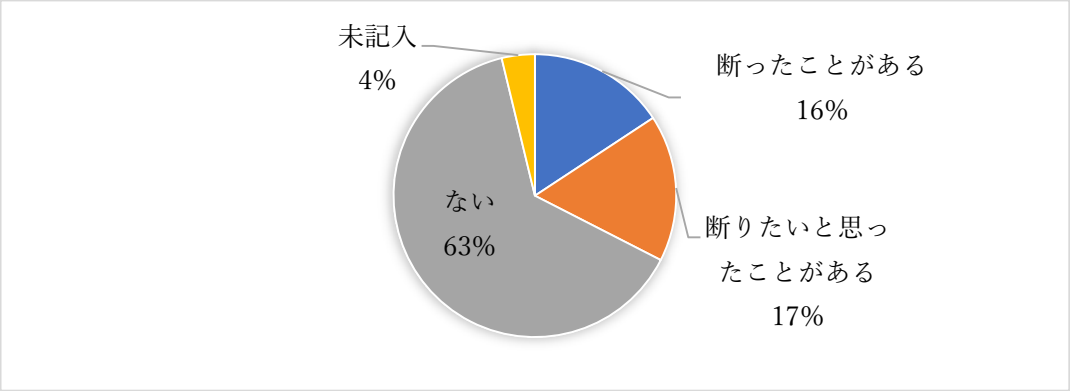
3. 同時期に最大何名の実習生を受け入れできますか？

回答欄	件数	%
1～2 人	179	61.30%
3～4 人	91	31.16%
5～6 人	8	2.74%
7 人以上	2	0.68%
未記入	12	4.11%
合計	292	100.00%



4. 実習の受け入れを断ることはありますか？
　または断りたいと思ったことはありますか？

回答欄	件数	%
ない	186	63.70%
断りたいと思ったことがある	49	16.78%
断ったことがある	46	15.75%
未記入	11	3.77%
合計	292	100.00%



4-2. 断ったことがあるまたは断りたいと思ったことがあると回答した場合、理由を教えてください

★断ったことがある理由

・実習時期が重なったため。
・初回のあいさつからオリエンテーション実習の日程等全ての日付が決められており、合わせることができなかったため。
・実習の時期が園の都合と合わなかった。
・同時期に希望が多く、当園の卒園児でなかったこともあり、事情を説明の上、断った。
・同時期の受け入れの申し出、およびこちらの日程の都合。
・園の大きな行事（運動会・発表会など）と実習期間が重なり部分・全日実習に対応できないと判断したとき。
・行事等で慌しい時。他園に就職が決まっているのに実習を希望された時。
・3 月は年度末で忙しくお断りしたことがあります。
・園の行事（運動会）と重なる為。
・2 月末～3 月にかけての実習は業務過多のため 1 名にして欲しいと要望もしくはお断りした。
・施設建設中の時に断った。
・行事にもよるが現場が忙しく、指導がしっかりできないと思ったので。
・日程が他の大学を重なり、受け入れが難しいと判断した。
・同時期の実習生の受け入れ人数を超えてしまった為。

・年度末（2～3 月）行事前で丁寧に関わって指導が行えないと思った時
・4 人以上になってしまった場合
・既に実習生の受け入れが決まっている時に重なったため。
・複数人に重なったときには断る。
・他校と実習時間が重なった為受け入れクラスが無かった。
・実習生がすでに予定されていたので。
・同時に 4 名の申し込みがあり、指導する職員がいない為。
・学生が地元出身でないので。同時期上限名以上受け入れになったので。
・実習生が 3 名以上、同じ期間に申込みがあると断っています。
・人数が多すぎる場合。学校の方針に疑問を感じた場合。
・大きな行事の前で同時期にもう一人受け入れをしていたから。
・同時期に複数人の申し込みがあり、自園のある市町村にお住まいの方を優先させていただくことにしたため。
・代表の学生が電話してきて友達と 5 人受けて欲しいと言われたので断った。
・同時期に先に受け入れが決まっていた為。
・同時期にたくさんの実習生の要請があった為。
・受け入れ人数が多く重なった為。
・一度に 3 人以上であったことから、対応が難しいと考えた為。
・同時期、3 名以上になった時、同時期に丁寧に指導できるのは 2 名位までと考えているので。
・実習の申し入れが多く、人数が多いと職員にも負担になるため。
・Ⅰで受け入れたが、指導を受ける態度に疑問を持ったのでⅡはお断りしました。
・実習生がアレルギー児童に除去しているものを与え学校に報告した際の対応が悪かった為。
・高校の専門課程で 2 年生と 3 年生の 2 回受け入れ、その後、短大で受け入れて欲しいと言われたが、他の施設の様子も学ばれた方が、どちらにとっても質が向上すると考えたから。
・指導者（指導できる職員が）がいない。就職に結びつかない。
・毎年、実習希望者数の調査依頼はあるが、数年続けて希望者がなく、断りの連絡が続いた大学があったため、その大学のみ実習の受け入れを辞退した。
・一度だけ 0157 が騒がれ始め、園児が家庭のバーベキューから 0126 というのになり、保健所が入ってきた時。他に感染はなかったが実習生に感染しては困るので断りました。
・大学の考え方や実習に対する姿勢。
・幼稚園実習だったので、幼稚園に行くように勧めた。
・卒園生でない時。
・園児数が少なく集団としての子どもの姿を学ぶ機会としては不十分と考えた為。また人手不足の中、指導に時間を要し日々の業務への支障が生じる現状がある。

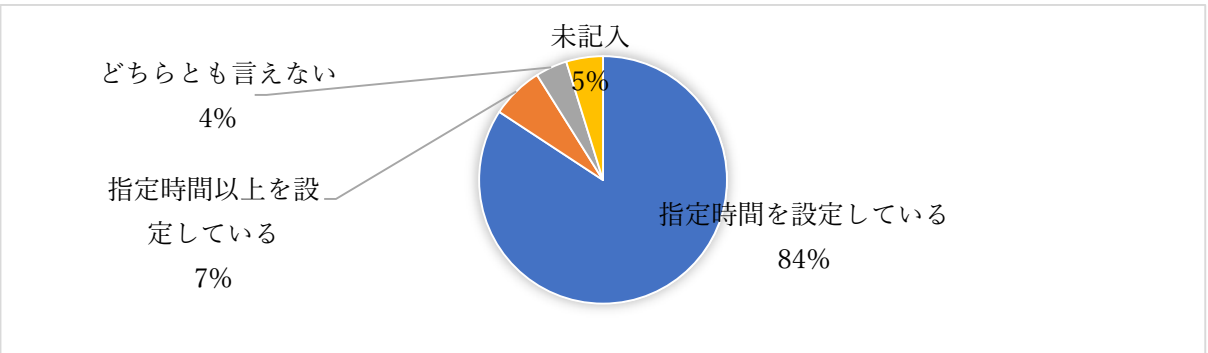
★断りたいと思った理由

・大きな行事に向かう時期に担当の職員の負担を考えるとそう思ったことがある。
・行事がある時
・大きな行事の前に実習時期が重なった。あまりにも低レベルの実習生で実習Ⅱを断りたいと思ったことがある。(教える保育教諭のストレスが大きいため)
・時期的に園が忙しく実習生に十分な実習をしてもらいにくいことがあった為。
・他校との実習が重なった時。
・運動会や発表会など、大きな行事前だと実習生のことまで気がまわらないため。
・行事前で非常に多忙な時期（指導ができない為）
・実習生が別大学を同日に重なり（4 名）行事の多い週で十分な指導ができるか不安であった為。
・実習の時期が重なると負担が大きい。
・行事前
・大きい行事の前は実習生に対応してあげられなくなるから。
・2 校の学生が、期間が重なるため。
・大きな研修会や行事が重なった時。
・園の行事と重なる時（運動会、発表会)。
・実習時期の変更ができない時、指導する保育教諭の経験が 1～2 年の時。
・希望された時期が行事前（発表会）で忙しかった為。
・行事の前などは避けたい。
・実習される時期によって、年度末などは園自体も忙しく、保育士も忙しく、できれば断りたいな･･･という気持ちになったことはあります。
・忙しさでゆったり指導できないと思ったり、評価を記入するのに手間取るので困難かなと思ったりで時期によっては断りたいと思うこともある。
・行事があり忙しく、十分に関われない時は申し訳ないので。
・実習ノートの添削や指導の時間がとれない時がある。(行事で保育士不足)
・新任保育士が多く、実習指導（特に記録の記入）が難しい。又はクラスの子ども達の特性が強く、非日常が難しいクラスがある場合。
・何人も同時期に重なったり、園の行事との兼ね合い等から
・一度に受け入れ可能数より多い希望があるとき。
・実習生と指導する職員が不足している為。
・実習期間が数人重なり園のクラスも少ないことから受け入れができなかった。
・実習の依頼が多すぎた為。
・実習生の人数が多すぎて、丁寧な指導ができないと思ったから。
・複数名、実習生が重なる時。行事前で実習生の指導が保育士の業務の負担となると考えられる時。
・断ったことは無いがトライやるウィーク、看護師の実習生と日が重なると部屋に大人が多すぎて、保育実習生の方に適切な対応がしてあげられない為。
・同時期に 3 名以上で希望があった時。
・人数が集中した時。
・実習生に学ぶ意欲が見られなった時

・直接、電話での実習申込の時の対応を聞いて。
・自分から全く積極的に動こうとしない方は、勉強する意欲が見られなく思います。
・学生さんの実習意欲が弱いため、指導する保育士が疲れ切る。
・オリエンテーションでの話から、保育士になる気がほぼないということが分かった時。
・実習 2 回のうち 1 回目に来た時にひどい状態の学生に、2 回目は断りたいと思ったことがあるが事情で学校を辞めたようだった。
・社会人としての資質に欠けているような依頼だった。
・事前訪問の時間に遅れる、検便提出ができない、学生気分のまま金髪など。
・やる気のない学生が来たときは断りたいと思った。
・アルバイトの時間を気にして誠意が見えない、努力しようとしない姿が保育者に伝わるとき。
・将来、他園への就職希望があった為。
・地域外の他園で断られて、本園に依頼にこられたので。
・急な依頼や本人からの突然の依頼の場合。
・実習指導が困難なとき（児童の様子や職員配置）
・職員の負担になることや、実習生の指導に手がまわらないことがある。
・正職員が少なく、保育にあたる職員で手一杯の中、実習生の指導が十分にできにくいと思ったため。
・指導者が不在。
・職員の数が少なく、指導できる雰囲気ではないことがあったので。
・職員への負担が大きい。

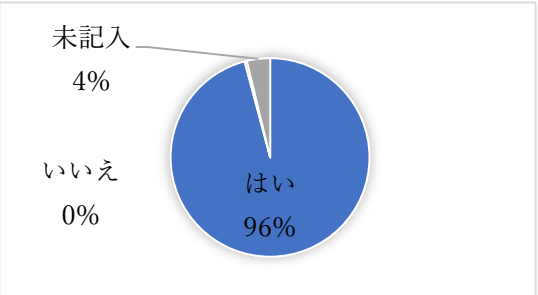
5. 保育実習の時間は指定時間数（80 時間）に設定していますか？
それ以上の時間を実習していますか？

回答欄	件数	%
指定時間を設定している	246	84.25%
指定時間以上を設定している	20	6.85%
どちらとも言えない	12	4.11%
未記入	14	4.79%
合計	292	100.00%



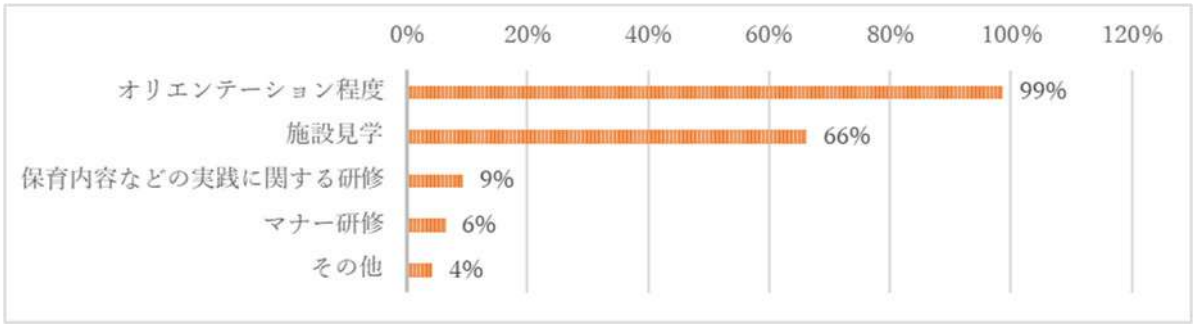
6. 実習前に実習生と話す機会や研修を設定していますか？

回答欄	件数	%
はい	280	95.89%
いいえ	1	0.34%
未記入	11	3.77%
合計	292	100.00%



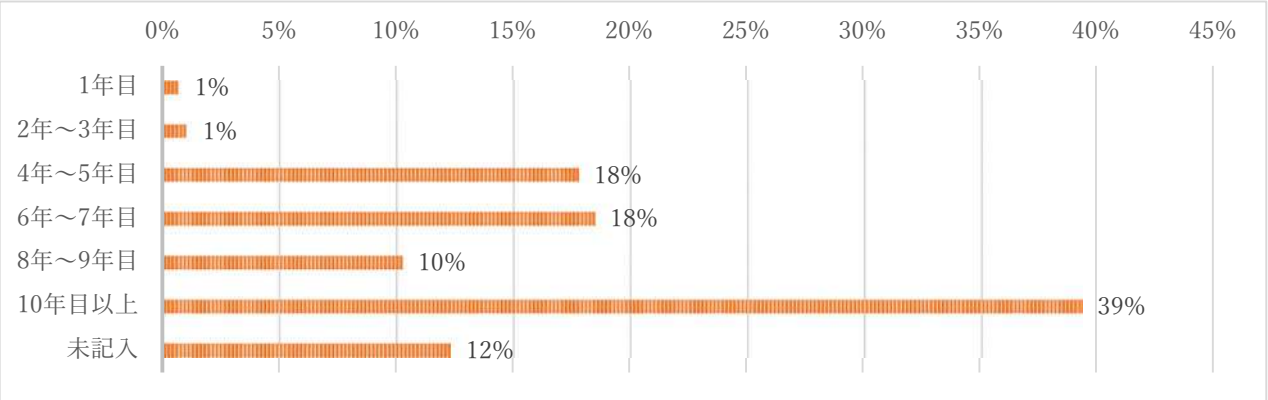
6-2. はいと回答した場合、どのような機会と研修を実施していますか？（複数回答可）

回答欄	件数	%
オリエンテーション程度	276	98.57%
施設見学	185	66.07%
保育内容などの実践に関する研修	26	9.29%
マナー研修	18	6.43%
その他	12	4.29%



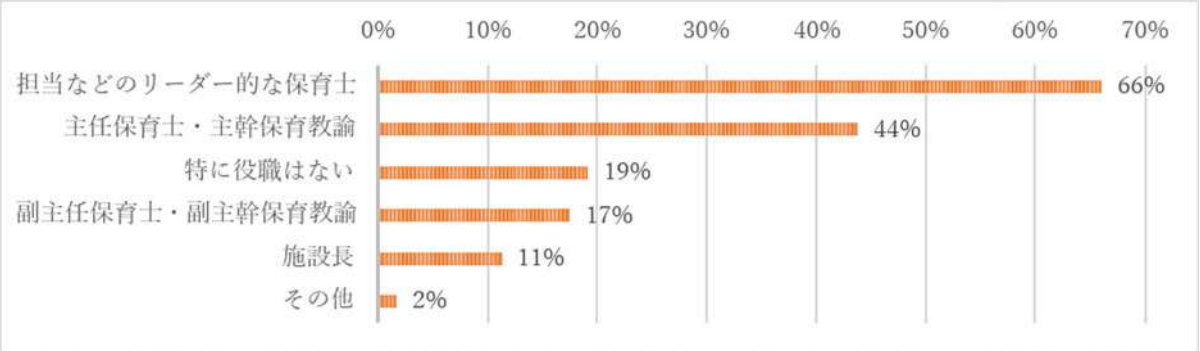
7. 保育実習の指導者はどれくらいの経験年数の者が対応していますか？
1番多いと思われる年数を教えてください。

回答欄	件数	%
1年目	2	0.68%
2年～3年目	3	1.03%
4年～5年目	52	17.81%
6年～7年目	54	18.49%
8年～9年目	30	10.27%
10年目以上	115	39.38%
未記入	36	12.33%
合計	292	100.00%



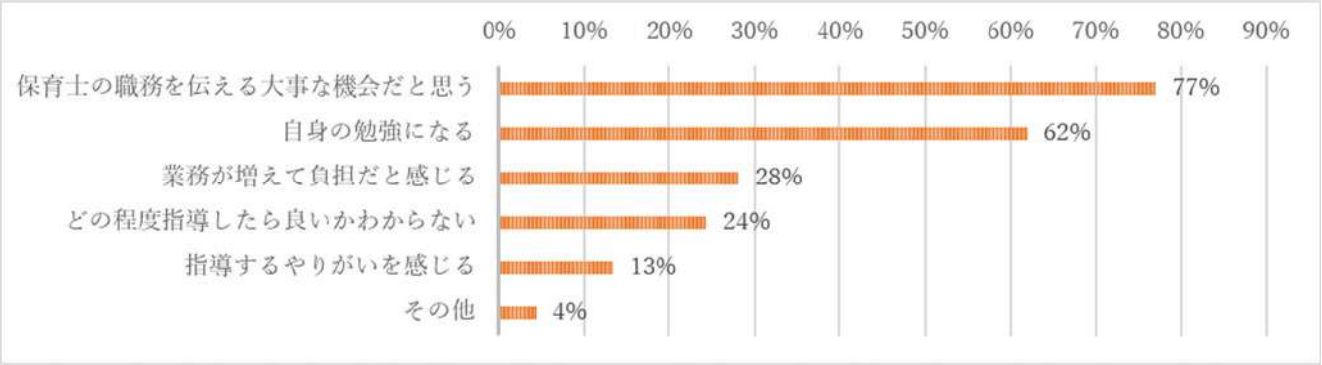
8. 上記の実習の指導者は役職がついていますか？（複数回答可）

回答欄	件数	%
担当などのリーダー的な保育士	193	66.10%
主任保育士・主幹保育教諭	128	43.84%
特に役職はない	56	19.18%
副主任保育士・副主幹保育教諭	51	17.47%
施設長	33	11.30%
その他	5	1.71%



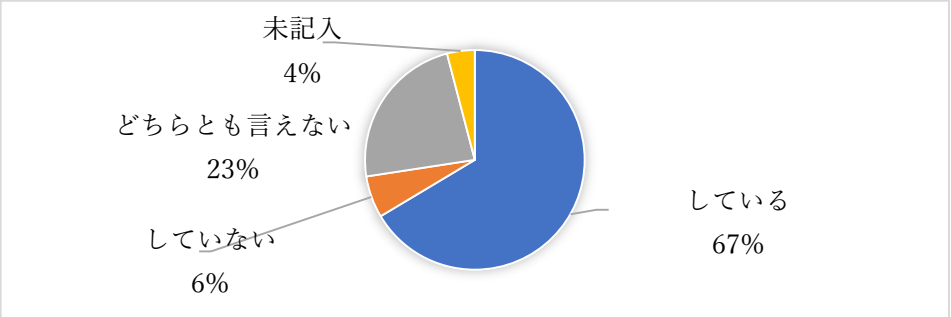
9. 実習の指導者が実習に対して感じるイメージを教えてください。（複数回答可）

回答欄	件数	%
保育士の職務を伝える大事な機会だと思う	225	77.05%
自身の勉強になる	181	61.99%
業務が増えて負担だと感じる	82	28.08%
どの程度指導したら良いかわからない	71	24.32%
指導するやりがいを感じる	39	13.36%
その他	13	4.45%



10. 実習生の対応や指導方法、実習生の目的は施設内で共有していますか？

回答欄	件数	%
している	194	66.44%
どちらとも言えない	68	23.29%
していない	18	6.16%
未記入	12	4.11%
合計	292	100.00%



10-2. していると回答した場合、どのように共有しているか教えてください。

・職員会等で話し合っている。
・職員会で情報交換している。実習生の自己紹介カード等を回覧する。
・職員会議。
・職員会議などで受け入れる前に再確認する。
・会議で実習生の実習の回数や目標、得意なことを伝えている。
・良かったところや問題点を話し、共通理解し、誰でも指導できるようにしている。
・実習前に行ったオリエンテーションの内容に加えて、実習を受け入れる側の対応の仕方を職員会で伝えている。
・実習ノートの記入方法や提出日のことや部分実習の予定日など事前に職員会議で職員に周知している。
・記録の提出の方法や添削の仕方等も含め、職員会議やミーティングで話し合いをする。
・職員会議等で共通理解している。
・職員会議で打ち合わせをする。
・指導方法など共通理解をしている。
・毎日の連絡会時に。
・朝の会や休憩時間等、時間を使って接し方、言葉がけ等話をしている。
・職員会を通して報告し、全員で把握する。
・実習生の保育士としての姿勢を会議等でシェアを行っている。
・実習生を受け入れる前には、職員会議で共通理解をはかっている。
・笑顔、挨拶、返事、言葉づかい、態度について日ごろ私たちが気をつけていることを指導している。
・職員会議等での紹介、目的・意義などの伝達、指導者の心構え等の共有。
・職員会議での事前告知、情報共有をしている。
・職員会議等で話し合っている。
・担当する職員への研修（指導方法等の共通理解)、職員会での共通理解。
・職員会議で共有している。
・職員会にて伝達・記録。
・会議や職員連絡ノートなどを活用。
・研究保育前の会議など。
・研究保育を全員で見て、全員で反省会をしている。
・職員会議で意志統一をしている。
・プログラム、ねらい、スケジュールなどを職員会議、職朝で共有。
・オリエンテーションの内容を職員会議で報告。
・実習生についての職員会議を行っています。
・職員会議などで園内研修など情報共有している。
・職員会議で伝えている。
・受け入れ前に職員会等で、共通理解しておく。
・会議をしている。
・職員会議。

・職員会議で実習生の受け入れについて話をしている。
・記録確認、担任間の伝達、職員会議での反省会など。
・受け入れる計画をたて学生が学びたい内容を全員で共通理解をしておく。
・実習を指導する担任には事前の打ち合わせの際に知らせ職員会議などで全職員へ共有している。
・職員会議での話し合い。
・職員会議、実習後の反省会。
・園内研修、職員会議等の共有、日々の反省会などを含む。
・園内の職員共通理解と同様に、全職員が実習生に対して同じよう関われるよう研修する。
・職員会議で伝達。
・職員会議や回覧で実習生について周知する。実習中には声掛けをして園の一員であることを実感してもらう。
・職員会議、ミーティング。
・職員会の場で、学生が事前に提出する資料を口頭で伝え共有している。
・職員会議で話し合ったり、実習ノートは回覧している。
・会議等
・実習前に職員会議で話し合う。
・ミーティングで様子を伝える。
・事前の職員会議、実習生の保育実践時の反省会。
・職員会議で共通理解しています。絵本の読み聞かせや手遊びなどできるだけ毎日してもらうようにしています。
・会議の中や、個別に伝えたりしている。
・職員会議などで周知し、実習に対しての共通理解をしておくようにしています。
・職員会議で実習生に学んでほしいこと、感じてほしいことを話し合う。
・実習生の対応や指導については職員会議にて。
・事前に職員会議で担当保育士を決め、クラスごとに指導方法を変えていく。
・これからの保育士、保育教諭を育てていこうということを共有し職員会で全員で話し合っている。
・職員会、カンファレンスなどで共通理解をしている。
・職員会議で情報の伝達。
・職員会議で等で伝達。
・受け入れ前に必ず職員間で話し合いを持っている。
・職員会議、オリエンテーション
・保育士を目指す動機など職員全体で話し合う。
・職員でのミーティングで知らせている。
・職員会議の中で議題としてあげ、実習生への理解をすすめる。
・職員会議で皆に伝え、担当保育Ｉにはよりきめ細かく説明している。
・学校からの説明文の配布、職員会での話し合い。
・職員会議での話し合い、合い間を見ての情報交換と共有。
・職員会議や回覧で周知、各クラスを案内する時に紹介を兼ねる。
・職員会で周知し、対応や指導方法等を共有する。

・職員会議で共通理解をはかっている。
・会議で話し合う。（実習生受け入れについて）資料。
・職員会議、研修を通して子どもへの接し方、指導法。
・職員会議、回覧など。
・実習ノートや指導方法等、職員会で連携している。
・情報伝達、終礼時報告など。
・反省会を毎日行う。指導案に目を通し指導する。
・職員会での話し合い。
・職員会議を開いて共通理解につとめている。
・職員会議の中で受け入れの日程や目的を伝え共有している。
・会議をして共有している。
・職員会議やミーティング。
・実習毎にミーティングを重ねる。
・全クラスに入り、全員で指導できるようにしている。
・全クラス紹介し、ミーティングでも自己紹介している。
・ミーティング
・ミーティングで話をしている。
・受け入れの時のミーティング、途中経過報告、事後の振り返り等。
・受け入れの際ミーティングを持っている。
・職員間の話し合いの中で、実習記録を皆で見ている。
・毎日、指導者と打ち合わせをする（報告)。職員会議でも報告する。
・カンファレンスを行っている。
・実習生が来る前に園内研修を行っている。
・園長が園内研修を行う。
・園内研修で意志統一、園長よりその日に報告。
・受け入れ前の研修を行っている。
・一日実習等の見学を何人かの先生が見て、指導助言することがある。園内研修のように行い、担任をもっている者も勉強となるので。
・日程表を全職員に提示。
・オリエンテーション後、クラスを発表する。〇月〇日にどこのクラスに入る等知らせ表を貼っている。
・オリエンテーションでの確認事項の掲示。
・お知らせボードに貼る。
・実習生の心得、実習計画を回覧し共通理解をしている。
・実習生の入られるクラスを貼り出している。
・実習指導案の回覧。
・資料等の回覧。
・養成校からの実習に関する案内は事前に回覧し、重要な点は主幹保育教諭と話し合い各スタッフに伝えるようにしている。
・実習生本人の実習目標を全員が読めるようにする。「保育実習指導のミニマムスタンダード」を読み参考にしている。

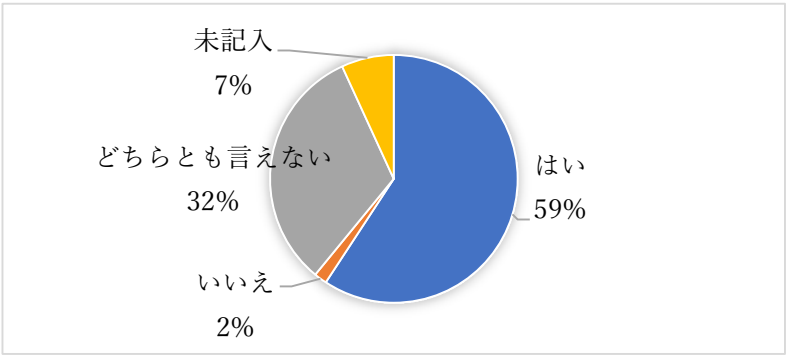
・実習生が書いている自己アピール文、実習にあたって思うことなど書いてもらっているものは回覧し、また 1 回目の実習は各年齢を順に入ってもらう観察実習、2 回目は 1 週間ずつ 2 クラスを選んで部分実習半日実習をすることにしている。
・指導者を主とした実習生の対応以外に色々な者が対応できるよう教師間で話し合ってもらっている。
・実習記録に対する検討を複数でする。部分実習、1 日実習の視察など。
・担当者会議での話し合いなど。
・副園長と担当で話し合い。
・指導の職員と主幹保育教諭が実習生への指導内容を打ち合わせしている。クラス代表会でその内容を示し、共通理解を図っている。
・最終日あたりで担当した者（指導日がある者）を中心に集まり反省会を行っており、次年度に生かしている。
・実習記録は担任、園長の他、複数の保育士で目を通し、表現の仕方などが適切か確認している。
・あえて共有する場は設定していないが、休憩時等で職員に伝えることはしている。（毎回全職員という訳ではないが）
・職員の共通理解はあるが、実習担当者が責任を持ち指導にあたっている。
・主担会議にて周知している。
・リーダー会議など。
・自分達が研修等にて学んだことを伝えていくことと同様に先輩から後輩及び新任へ指導を伝える体制がある。
・保育教諭同士がコミュニケーションを図り、実習生の良かった点、指導した点を共有し、良かった点はより良く、指導された点は改善が見られたら認めの言葉をかけるようにしている。実習ノートは保育教諭が声をかけ合い、同じ視点で添削し、少しずつ添削箇所が減るようにしている。
・実習生対応マニュアルを作成し、それに基づいて指導していく。
・実習生に対してのマニュアルの確認をしている。
・実習の手引きがあれば、目を通し共通理解している。
・実習のプロセス、指導案等のアドバイス、提出期限、振り返り。
・マニュアルが身についている。
・マニュアルがある。
・マニュアルと職員会議にて話し合い、共有している。
・オリエンテーション時に子どもや保護者等の接し方を知らせている。実習生への配布資料等は職員全員に配布している。
・実習生マニュアルをもとに、施設内研修で学びあう。
・マニュアルに基づきながら話す。
・実習生受け入れマニュアルを作り、事前読み合わせを行い対応している。
・実習生対応マニュアルや事前資料を担当クラス内で確認している。
・実習マニュアルを通じて園内研修時に共通理解を図っている。
・実習生の受け入れマニュアル。
・実習要項を作っている。

・実習生対応マニュアルに基づき、事前に職員間で話し合っている。
・簡単なマニュアルに沿って対応、実習ノートを園長を含む複数の職員で確認。
・実習生対象に用意しているしおりの内容を職員も周知している。
・基本的な内容マニュアルを作っている。（が、それ通りにはいかない事が多い）
・マニュアルを作成している。
・マニュアルを作成し、周知している。
・実習生受け入れマニュアルで共有。
・実習生受け入れマニュアルを作っており、それを事前確認したり、オリエンテーションをした主任や園長が担当者と相談している。
・観察実習ノートの見方（指導方法）の部分実習について一緒に考えてカリキュラムの作成にあたるようにしている。
・園の遊びの方針はきちんと伝える。
・実習生に何を学びたいか、実習の目的は何か出してもらう。
・社会福祉法人の施設として保育士を育てるという責務がある。
・実習するにあたり尊敬できるモデリングとなるように意識して接するようにしている。
・挨拶など周囲の人との人間関係を良くするための心遣いを共有していきたいと考えています。
・指導の前にどれだけ子どもの中に入り、関われているか見る。
・園全体で受け入れているという意識を持つ。挨拶や実習態度など様子と伝え合う。
・日誌に目を通す。案を見てアドバイスをきく。
・指導案の書き方や職場のマナーなど、実習生に分かりやすいように統一している。
・保育士確保のため、仕事にやりがいを感じることができ、次の意欲に繋がることを願って指導にあたる。
・子どもの理解や保育への見方、考え方などをしっかり伝える。
・指導案の記入の方法等、共有し指導している。
・幼児に対する関わり方、考え方。
・ⅠとⅡでは少し違うが、基本的には保育・教育という職業に興味や楽しさを持っていただけるよう優しく丁寧にという対応を心掛けている。
・職員間の共通理解。
・実習生の目標などを周知。
・基本的に保育士は楽しいと感じられるように受け入れています。
・実習生を受け入れる前に、どんな事をしてもらうかの話し合いをする。
・子どもの発達に応じた関わり方、保育者の責任と喜びを見て学んで頂きたい。同僚と同じ方向（園の方針や考え方）に向かって協力している姿とそのことの魅力を感じていただきたいと思っている。
・パワハラをしないこと、楽しさを伝えること。
・参加実習や設定実習などの内容は共有・相談している。
・楽しんで実習ができようにする。礼儀、言葉使い、行儀等の声掛け。
・保育士の仕事のやりがいをしっかりと伝えるようにしている。
・頑張り、努力を認めるような声掛け。
・いっぱい失敗してもらう。何でも聞ける雰囲気を作る、挨拶・笑顔の手本となるように。

・優しく丁寧に指導していく。細かく言葉がけするようにしていく。
・反省会を通して。
・環境整備、休憩、服装、挨拶など。
・記録を赤で直さない。書き直しをさせない→次回から訂正して書ける指導。子どもと関わる事を中心に活動。
・実習ノート等では出来ている事を認め、しっかりと褒める等。
・記録の記入に対する指導の仕方、設定保育が難しい学生への対応など。
・記録の書き方や子どもへの言葉のかけ方等。
・学生の提出する目標や学びたい内容等を会議で伝え、個々の実習に合わせて進めている。設定保育については早めに計画をもらい話し合う。
・保育理念、方針を元に職員間で同じ目的に向かって保育をしています。方法は個々によって違いがあっても思いは同じですので、大切にしている部分を実習生さんに伝えられるよう実習日誌を丁寧に見ること、質問に丁寧に答える事を共有しています。
・日々の話し合い。
・事前に会議を開き同じ対応が取れるよう打ち合わせをしております。
・実習ノート上における質問や反省の中で答える事で共有している。
・保育者になりたいという学生の思いを受け入れ、お手本となるような態度で関わるよう共有している。

11. 保育実習Ⅰと保育実習Ⅱで指導内容はそれぞれに合った内容を指導していると感じますか？その理由も教えてください。

回答欄	件数	%
はい	173	59.25%
どちらとも言えない	94	32.19%
いいえ	5	1.71%
未記入	20	6.85%
合計	292	100.00%



★「はい」（合っていると思った場合）の理由

・学校との事前打ち合わせにより指導しているから。
・学校側からの細かい内容を把握し、内容に合わせて指導をしています。
・養成校の指示に従い行うができるだけ経験をつめるようにしている。
・各学校からの指導内容に沿うようにしている。
・学校の希望に副って内容を設定している。
・学生が持っている「実習の手引き」に書かれている実習内容を読んで指導しているつもりです。
・学校の要項をみて、それに合った内容にしている。
・Ⅰで見学実習、部分実習を行い、Ⅱで全日実習を行い、段階を踏んでいるから。
・Ⅰは保育について学生があまりよく理解できていないため、初歩的な事を。Ⅱに関しては経験を積み上げていけるようにしている。
・実習・観察と分けている。
・見学等から実際に保育をしていく。
・Ⅰは見学や流れを中心に理解してもらう。Ⅱは現場に入り、補助者に関わっていく。
・Ⅰは見学、Ⅱは実践。
・保育Ⅰは、感じて慣れてみて子どもを素直にかわいいと感じてもらう。保育Ⅱは、実践に向かってねらいを考えながら自分自身の課題に気づき将来の夢につなげてほしいと考えています。
・Ⅰは見たこと経験したこと等を踏まえ、どう感じたか聞くようにし、Ⅱはやってみたいこと、知りたい事を聞き、可能な限りサポートする。
・主に観察する実習と、実際に保育してみる実習に分かれているため。
・Ⅰの時は保育や保育者の姿勢を見てもらうことを中心だが、Ⅱになるとできるだけ子どもとかかわる（設定、部分保育）ことを増やしている。
・Ⅰは各クラスの観察が主ですが、Ⅱでは１つのクラスに最初から通して入ることで設定保育以外でも子どもたちとの関わりも十分に持ち、声をかけてもらったりして、実習生本人が多く活動できるようにしている。
・ⅡではⅠよりも細かく掘り下げて指導をします。
・実習Ⅱは一定のクラスに入り進んで子どもたちの状況の把握に努め、設定保育に向け指導計画（日案）作成に取り組み、指導者の意見をあおぎ現クラスの子どもたちにそったものであるか等を考え公開保育をする。反省会を催し、現職員の感じたこと等を聞き保育士になる意欲が向上するように持っていく。
・実習Ⅰでは、しっかりと見学してもらい、保育士の良い所、悪い所を感じてもらい、実習Ⅱへつなげられるようにしている。
・Ⅰは観察実習と部分実習、Ⅱは部分＋全日実習
・保育実習Ⅰでは観察を、保育実習Ⅱでは最終的には全日実習ができるよう担当保育士が丁寧に関わっている。
・保育実習Ⅱでは、より深く子どもと関わってもらっている。
・Ⅰの見学実習で各年齢に合った一日の流れや、発達の違い、それによって支援の仕方が変わってくることを学んでもらい、Ⅱの参加実習でⅠで学んだことを踏まえて、自らが主体となって保育を設定し、実践することで深い学びにつなげている。

・保育実習Ⅱのときは実際に現場で働く心構え等を指導する。
・Ⅰは全年齢を把握し成長発達を見て知っていただく。Ⅱは固定の組に入り 1～2 週間の流れを保育、子どもへの個別配慮も勉強していただく。
・実習Ⅰは見学…ポイントをとらえて見ているか確認している。実習Ⅱは本実習…計画案・指導・反省などもしっかり確認している。
・見学→部分・計画実習
・保育実習Ⅱは就職も視野に入れて指導している。
・設定保育の時間を設けている。
・部分実習、半日実習、一日実習と実習生が責任をもって行う実習が違う。
・実技の部分で、活動の計画・実施に内容の変化をつけている。
・実習Ⅰは、すべての年齢のクラスを経験してもらい、園とはどのようなものなのかを知ってもらう。実習Ⅱは、ひとつのクラスで実習し、より深く実習を行えるようにする。
・実習生の実習経験により、指導内容が変わるのは当然だと思う。
・Ⅰでは観察実習を主に行い、絵本の読み聞かせ実習程度。Ⅱでは実践実習。
・実習Ⅰは実習Ⅱに向けたクラスの対応をし、子どもに不安なく関われるようにしているため。
・Ⅰは観察中心、Ⅱは実践中心。
・発達の連続性が学べるようにしている。
・見学実習から研究保育へと指導している。
・Ⅰは全体をサラリと。Ⅱは具体的に実践するために指導案→実践→反省しています。
・Ⅱでは責任実習や担当するクラスを固定し、より深く子どもと関われるようにしている。
・ⅠとⅡでは本人の経験が違うため。
・学年により部分実習のやり方、時間設定、園の保育、一日の流れなど。
・Ⅰでは保育に慣れる。子どもに慣れる。保育Ⅰの仕事内容を学ぶ。Ⅱでは保育を実践してみる。保育カリキュラムを作成してみるなど教育面を軸に行っている。
・Ⅰ・Ⅱと学びたいポイントが何なのか明確にしている。
・実習ⅠとⅡでは学習している内容が違う為。
・保育実習Ⅱに向けて保育実習Ⅰでは基本的なことを伝えています。Ⅱでは実際に一日主に立って保育を進めていけるよう指導しています。
・全く初めての方には「保育所とは」「保育所の子ども達とは」「年齢ごとの発達など」を見てもらい、実習Ⅱに向けて学校でしっかり勉強しながら準備してもらうよう伝え、実習期間中はクラス担当と話しながら実践していってもらっている。
・Ⅰでは観察実習、Ⅱでは研究保育というように徐々に階段をふまえ楽しさだけでなく、自分を振り返り考えて保育が行えるようにしている。
・様々な年齢のクラスで実習することで園全体の教育・保育がわかる。
・Ⅰでは期間中に各年齢クラスを回り、年齢による子どもの成長を感じさせ、Ⅱでは主に幼児クラスに固定し職員としての子どもの接し方などを経験させている。
・保育の分野と教育の分野に分かれている。
・Ⅰでは主に園内の仕事や流れをみてもらうようにしています。Ⅱでは実践ということを主に目的にしながら予定を組んでいます。
・Ⅰは保育所の特性を、Ⅱは保育士の専門性を伝える。

・段階を踏んでいるため。
・保育実習Ⅰでは観察を、Ⅱでは実際に保育に参加してもらい部分実習や全日実習をしているので
・Ⅱの方には一日責任実習をしていただき、実際に主担になった場合にどんなことに気をつけなければいけないか等、自分で気づける機会を設けているから。
・Ⅰでは実際を知り感じてほしい。Ⅱでは卒業後現場にいる自分の姿を想像し、難しさも感じながら向上心をもって意欲的になれるように指導している。
・全体のクラスを観察して年齢ごとの違いを感じてもらう内容と、１つか２つのクラスを限定して深く関わり実践に近い内容にしている。
・実習Ⅰでは見学・参加実習で無理のない範囲で実習してもらい、実習Ⅱでは設定保育までの過程を含め、実習につながるようにしてもらっている。
・Ⅰは見学中心（手遊び、絵本の読み聞かせなどはしている）Ⅱは設定中心。
・実習Ⅱの方では、保育士の目線や仕事、保育に対する考え等も伝えられるようにしている。
・大学の実習内容を見てから実習Ⅰ、Ⅱの内容を考えて取り組んでいる。
・保育実習Ⅰは見学してもらうが、実習Ⅱでは色々な指導計画をもとに、実際に子どもを指導することも取り入れている。
・実習Ⅱではより保育者としてどう子どもたちを指導するか、現場の実践に近い実習を行う。
・見学観察と実際に実習を行う。初めてと経験しているとは違う。
・保育実習Ⅰは初めての実習と言う事でこちらも配慮をして指導している。
・実習Ⅱでは自分で指導案作成→実際に保育する機会を多くしている。
・Ⅰでは参加しながら、Ⅱに向けて子どもの前で緊張しないよう、絵本等を読む機会を作っている。Ⅱはリーダーとの計画を立てる時間を多く取っている。
・できるだけ乳児・幼児のどちらも経験できるようにクラスを決めている。
・実習Ⅰの時はノートの書き方や援助の仕方など基本的な事から保育についての相談。実習Ⅱでは自ら取り組んでいくよう、援助や計画の仕方について伝え、実践の場として指導している。
・子どもの姿、教師の姿を捉える参観実習からより実践的な実習へと進めている。
・初めての実習と数回の実習経験後に行う実習との違いがある為。
・保育実習Ⅰでは子どもの活動、保育者の活動、役割、保育の環境について。保育実習Ⅱでは園における保育に実際に参加し、指導計画での保育の理解、指導案に基づいた保育実践を行ってもらうよう部分実習の経験をするよう指導している。
・実習Ⅱは子ども達にも慣れてもらっているので本人希望の内容にしている。
・観察では保育士が子どもと関わる姿を見ていただき、全日実習ではそれを踏まえて指導案を組んでいただいています。
・Ⅱではより実践に沿った指導を心掛けている。
・Ⅰでは子どもたちの生活や保育内容を知ってもらう。Ⅱでは計画から実践まで体験してもらう。(反省も大切)
・実習の手引きを参考に実習ⅠをふまえたⅡの指導内容を行っている。
・観察と実習に分かれているので。

・Ⅰは観察、参加、部分実習、Ⅱは参加、指導実習を指導している。
・Ⅰは観察なので園全体の子どもに関わり、年齢ごとの成長・発達を知る機会にしている。
・Ⅰは2週間の中で全クラス（全年齢）の観察実習、Ⅱはクラスを担当して実際に保育をする実習を実施している。
・保育実習Ⅰは観察実習がメインなので主に発達段階の違いからの援助の仕方を指導しているが、実習Ⅱはさらに深く細かく指導している。
・実習Ⅰでは基本的なことを現場で確認する。実習Ⅱでは現場で実際に子どもとの関わり、対応を経験してもらっている。
・保育実習Ⅰは主に観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めてもらう。Ⅱは現場に出て活かしていけるよう保育計画を立て部分実習や全日実習を行っていただき、保育指導を学んでいただくようにしています
・内容を明確にして指導している。
・観察実習・指導実習と2段階の要領を実施、その内容で指導。
・ⅠよりⅡの方が経験も踏まえ、細かく指導したりしている。
・Ⅰをふまえてより実践的な実習をⅡで行っている為。
・保育実習Ⅰでは見学・参加→部分実習の実施。Ⅱでは加えて設定時間の長い実習の実施をしています。
・指導内容を把握し関わっているから。
・Ⅰは観察、Ⅱは実践で合っていると思う。現状の状況をⅠ・Ⅱに分けて学生に丁寧に伝える努力はしている。
・観察や部分、半日実習などの量・質を実習内容によって変えている。
・保育実習Ⅱではより深く子ども達の姿を感じてもらえるようにしている。
・実習Ⅰで見学、Ⅱで実践を交えるなど工夫しているため。
・保育実習ⅠとⅡでは実習生の経験値も学習内容も違っているので、それらに応じた事をするのが適していると思われるから。
・実習生の学年に合わせて実習内容を変えている。
・実習生の実習に対してのねらいに沿った指導を心がけている。観察と参加、それぞれの実習に応じた指導をしている。
・実習生の思いも聞き入れた上で内容を決めるようにしている。
・計画的に実施している。
・実習生の希望に合わせる。
・実習生を対象に振り返りを行い、実習生の感想を確認することで内容が理解されているかを確認している。
・設定保育を3～4日は入れている。反省会を持ち、次につなげていくようにしている。
・実習ⅠとⅡを同じ実習生が訪問してくれるので、前回の経験を活かせる。
・保育実習Ⅰ、Ⅱの内容を熟読し、実習生と打ち合わせする中で、実習内容の程度を考え、指導するようにしている。
・実習生の希望に沿い、力をつけてほしい。
・実習生がⅠでの反省を込めてⅡに向かえるよう評価と課題を明確にする。
・常に実習生の意向を確認している。
・クラスや年齢の希望にあわせ、実習をして頂く。

・実習の経験を考慮しながら指導している。
・学校で出している文章や実習生に確認して行っている。
・学生の理解、実習の経験、接し方など無理のない形で対応している。
・実習Ⅰで経験された中で課題と感じた事を実習Ⅱまでに自ら学び、活かそうとする姿が見られた時は感じます。
・Ⅱでは実習生に指導計画をたててもらい、指導計画に沿って指導している。
・観察実習から部分・全日実習を経て、研修保育後、反省会を通して保育の大切さを指導している。人としてありの方の重要性も合わせて伝えている。
・本人達も多くの実習経験により成長している。次の課題に向けて指導している。
・学校の要求、本人の要求にできる範囲で応じている。
・事前にオリエンテーションで決めたことをみんなで共有し、反省会では振り返りを行い、内容の点検をしている。
・実習スケジュールは園長と指導者が一緒に計画し、指導を行っている。
・養成校からの実習Ⅰ・Ⅱの実習要綱を読ませていただき職員にも渡しているため。
・見学と指導案を書いての実習とは違うから
・経験が違うから。
・指導内容は当然違ってくる。
・実習ノートの評価コメント。
・園児への関わり。
・より実践的な実習にしたい為。
・指導案や日々の実習日誌などに目を通し、そのように感じます。
・的確に指導してくれる。
・保育知識等に差があるから。

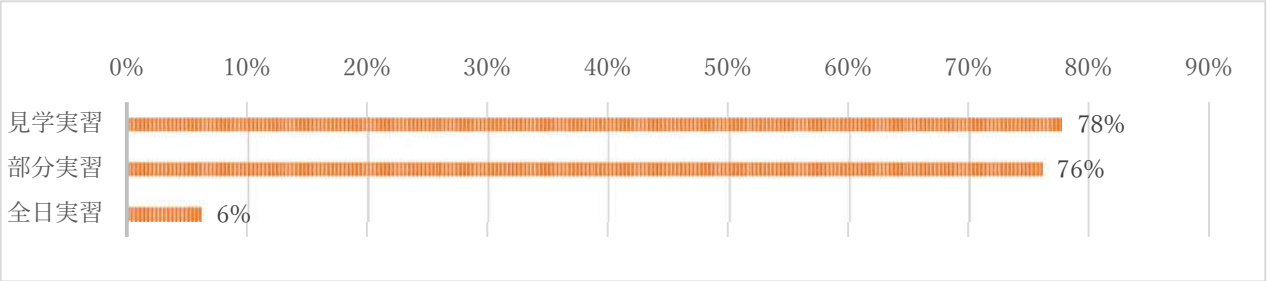
★「いいえ」（合っていないと思った場合）の理由
・分けることは現実的に難しい。
・実習日誌など、特にⅠとⅡに違いはないように感じる。
・各実習で何をポイントに指導すればよいかが明確ではないから。

★「どちらとも言えない」の理由
・園の行事や通常の保育等の兼ね合いで、内容に従うことができない時がある。
・指導内容と現場との調整が難しく感じることもある。
・新設園につき、教職員の共有の体制ができていない面もある。
・指導内容は保育士本人に任せている部分が多い。
・指導はそれぞれ実習生を受け入れた担任に任せている。（主任による内容確認は有）
・個々の資質、意欲に差が大きいから。
・観察実習（実習Ⅰ）であっても、実習Ⅱのようにすすんで実習をしている学生もいます。観察実習なのでそこまでしなくてもいいよと意欲的に行動している学生をとめることはしません。（実習Ⅰで半日・全日実習をしてもらうことはありません。）
・指導内容を意識はしているが、実習生本人の意欲に合わせているところもある。
・その時々の実習生の実習にのぞむ姿勢が違うため。

・実習生により積極的な方もいれば自己を出さずに「園に従います」と言ったりするので、個人個人に合わせて指導しているつもりです。
・実習生によるので、どちらもといえない。
・指導内容はⅠ・Ⅱだけで決まらず、人（生徒）にも合わせるため。
・個人差があるから、個々に合わせています。
・実習生の様子に合わせながら行っている。
・その子に応じた指導をしているので、ゆっくりな人・テキパキできる人に合わせています。
・心持ちは違っているが実際になると保育を進めるのは同じリズムになる。実習生自身が課題的に上のものへと移行していると思え、それに合わせてはいるつもり。
・学校からどこまでするのか聞いたり、本人の希望を聞きながらしている。
・Ⅰよりもう少し深く関わって実習するが、受け身な部分もあって学生の希望する実習の仕方に近いかたちで私達も指導している。
・実習生個々によって指導できる内容が変わる。Ⅱでは設定保育の実習を必ず入れるようにはしている。
・見学といえども、状況により経験をしてもらっているから。
・学校の指導内容にお任せしたり、実習生に聞いてやっている。
・実習生の資質に左右される事の方が多い為。
・大学によって異なる。
・保育実習Ⅰは乳児クラスに入った際の保育への関わりが難しい。（どこまでを観察とするかが）
・Ⅰ、Ⅱの違いがイマイチわかりづらい。
・施設側としては実践できる内容を伝えていくので、Ⅰ、Ⅱとも同じような実習内容としている。
・指導にあたる担当の職員の経験も様々で、それぞれに合った内容というもの自体がはっきりと理解できていない場合もあると感じる。
・大学により評価表 etc. が多少異なり、どのくらいの内容でよいか学生に尋ねて進めている。
・ⅠとⅡの違いが具体的に分からないので同じような指導になっているかもしれない。
・保育実習Ⅱで見学実習のような保育をする学生がいるが、学校に合わせているのでそこまで指導していない。
・ⅠとⅡの違いが養成校によって異なっていると思うから。
・ⅠとⅡの内容の違いがあまりないように感じる。
・職員間では話し合っているが保育実践の時間や日数が多くなっているだけで保育内容が充実していないように感じることがある。
・ほとんどが実習Ⅱでの来園になっているため。
・養成校によって実習記録用紙が違うことから指導する側も難しい。
・現場で“見学”と言われても、そうも行かず実習してもらっている。
・連続で実習を行った場合はⅡで部分・半日・全日等の課題が行いやすいが、Ⅰ・Ⅱを別に来るとⅡでまたあらたに慣れるところから始まる為。

12. 保育実習Ⅰでは実習生にどのような内容をさせていますか？（複数回答可）
具体的な内容やさせている範囲を教えてください。

回答欄	件数	%
見学実習	227	77.74%
部分実習	222	76.03%
全日実習	18	6.16%



★具体的な内容

・見+部：各年齢に入っていただき、クラスの保育を見学し、簡単な手遊びや絵本を読むなど、希望があればしていただいています。
・見+部：順番にすべての年齢のクラスを回りながら、保育士の保育を見て、子どもと接し、簡単な手遊びや絵本、紙芝居、歌などそれぞれの年齢で行う。
・実習生にやってみたいこと等を聞く中で、無理のない範囲で実習をしてもらっている。経験したい見たいこと等。絵本の読み聞かせ、手遊び等をしてもらうことも多いです。
・簡単な手遊び、絵本や紙芝居を読む。子どもとのふれ合い。
・保育の実際を最初は観察、育児の各部分の担当を決めていく。
・設定の部分か自由遊び、給食等
・保育士のかかわりや一日の流れを知ったり、絵本の読み聞かせ等の部分的な実習。
・子どもと一緒に遊び、設定の中で絵本の読み聞かせを体験してもらう。
・絵本の読み聞かせ。
・絵本、紙芝居の読み聞かせ。
・見学、観察実習。部分は紙芝居、手遊びなど。
・絵本の読み聞かせ等。
・0～2 歳児約 30 分の部分実習（0、1 歳児は手づくりおもちゃを用意してもらう）3～5 歳児は約 1 時間の部分（内容は実習生に合わせている）
・子どもと関わって遊ぶ
・子どもとあそぶ担任の設定保育の見学、補助、絵本の読み聞かせ、手あそび
・絵本を読む、手あそびをする
・絵本、手遊び、制作等。
・絵本の読み聞かせ、歌の指導
・指導者のクラスを中心にして、それ以外のクラスへも入り見学する。
・部分実習・・・絵本の読み聞かせ、手遊びをしてもらったりしている
・保育の補助的なこと（ほぼ観察だが、担任と一緒にできることをしてもらう。排泄や給

食の補助など）
・0～5 歳クラスを 1 日ずつ見学実習したあと残りを 1 つのクラスに入り絵本の読み聞かせなど部分実習をしてもらっています。
・当園の保育内容を見てもらうために、全クラスを観察してもらっています。（2 日ずつ程度）
・各年齢毎に見学、担任と相談し、手遊び、絵本の読み聞かせ等の部分実習。
・まずは子どもの実態を把握し、年齢の育ち、生活の流れ、先生の関わりを見て学ぶ。実際、子どもに関わる機会をもつ。（読み聞かせ等）
・まず全年齢のクラスに入り、子どもたちの発達状況、育ちを感じとってもらう。入ったクラスで出来ること（絵本の読み聞かせ）等をしてもらったり、保育士の手伝いながら子どもと一緒に遊んでもらう等をしている。
・見+部：見学実習をしながら、園児との距離を短くする為、絵本の読み聞かせ、手遊び等をしてもらいます。
・見+部：絵本や手遊び等
・見+部：2 週間で各年齢を回り、主に観察（見学）実習をしてもらっている。
・見：読み聞かせ、手遊び、ピアノ等を見学実習中に行うこともある。
・見+部：実習生の希望による。
・見+部：絵本の読み聞かせ、着替え、昼食準備、自由遊びのかかわり。
・部：設定保育を実習体験をしてもらいます。
・見：保育を観察し、絵本の読み聞かせなどを時々してもらっている。簡単な掃除。
・見+部：0 歳児から 5 歳児まで、どの年齢のクラスにも入り、違いを実感してもらう。絵本の読み聞かせなど積極的に参加してもらう。
・見+部：絵本等の読み聞かせ
・見+部：保育補助、絵本の読み聞かせ、朝、帰りの歌のピアノなどの部分保育。
・見+部：絵本の読み聞かせ、配膳の準備等保育教諭の補助。
・見+部：絵本の読み聞かせ、保育士の補助。
・見+部：全組見学、一部実習と振り替り。
・部：降園前に手遊びや絵本を読む。クラスでの活動時に年齢に応じて指導する。（指導案の提出有）
・見+部：まず一日の流れや子どものふれあい、緊張感をほぐし行える部分に実習を組み入れている。
・見+部：保育者の手伝い、絵本の読み聞かせ・手遊び・弾き歌い。
・見+部：朝の保育の開き時間や降園時に絵本を読んだり、手遊びをしてもらう。
・見+部：運動遊び、製作、集団遊び、絵本の読み聞かせ。
・見+部：見学実習と部分実習は絵本を読んだり手遊びをしてもらう。
・見+部：手遊び、絵本、紙芝居。食事や着替え等の援助等。
・部：絵本の読み聞かせ、ピアノ、設定保育。
・見+部：見学（観察）絵本、歌、など
・部：最初は見学実習を主として慣れた頃に絵本を読んだり簡単な実習をさせる。
・部：部分実習 2～3 回。
・部：手遊び、絵本の読み聞かせなどや 30～50 分の部分実習。

・部：保育実習Ⅱでこられる実習生が多いので。
・見+部：絵本、手遊び、ピアノ
・部：絵本の読み聞かせや手遊び。
・部：絵本を読む、手作りおもちゃの持参。
・見+部：絵本だけを読んでもらう。
・見+部：学校に応じた実習内容や本人から希望を聞いて予定する。
・見：読み聞かせ、手遊び、一緒に活動しながら保育者や子どもの観察。
・見+部：子どもとの関わり、保育の準備、掃除、手遊び、絵本の読み聞かせ、製作の準備など。
・見+部：見学実習では、メモをとり記録する。部分実習では、絵本の読み聞かせ、手遊び、歌などを園児の前で行う。
・見+部：部分実習では、絵本の読み聞かせ、手遊び、折り紙など。
・見+部：絵本の読み聞かせや手遊びなど。生活の場面では給食準備など。
・見+部：手遊び、絵本紙芝居、ゲームなど。
・見+部：保育補助が中心。
・見+部：設定保育1日、部分実習（うた、絵本など）3～4日。
・部：子ども達とたくさんの関わりを持てるよう設定し、部分的に手遊びや絵本の読み聞かせができる機会を設けている。
・見+部：絵本や紙芝居の読み聞かせ
・見：主に観察を中心としたもの。本人の申し出により、部分実習も可能としている。
・見+部：いろいろな年齢の部屋に入ってもらい、1日1回は何かを経験してもらっている。
・見：メモをとりながら保育見学、自由遊び中などは保育補助。
・見+部：絵本の読み聞かせや歌など。
・見+部：絵本・紙芝居の読み、給食配膳・片付け、制作時の手伝いなど。
・見+部：保育士の手伝いや、絵本・手遊びなどは毎日。他に30分程度のねらいを持った活動を部分実習として実施する。
・見+部：一日目は見学ですが、二日目より手遊び＋絵本で、毎日絵本の読み聞かせを行ってもらっている。
・見+部：観察実習を十分に行い、絵本の読み聞かせやピアノ弾き、ペープサートの披露。
・見+部：初めは5歳～0歳全クラスを見学。残りの実習日についてはⅡの時にやってみたいクラスに入ることで子ども達と仲良くなるようにしている。
・見+部：手遊びや絵本。
・部：読み聞かせ、手遊びなど、体験できることはできる限り多く。
・見+部：絵本の読み聞かせ、指導案を立てた保育。
・見+部：全クラスの見学。
・見：クラスの雰囲気や一日の日課に慣れる。
・見+部：見学実習と紙芝居や絵本の読み聞かせ、給食指導など部分的な実習。
・見+部：基本的なところから始め（着替えや片付け等）、部分実習（30分程度）をしてもらっている。
・部：参加実習および設定保育の短い時間でできるものの部分実習や絵本・うたなど得意なもの。

・部：30 分の設定保育。
・見+部：自由遊びの保育士の関わり方を共に体験。絵本の読み聞かせや、わらべ歌などの部分実習。
・見+部：子どもの現在の姿を知る。絵本や手遊びを実践してみる。
・見+部：掃除、洗濯、片付け、行事に向けての制作などあれば、手伝ってもらう。子どもとの遊び、絵本を読む、給食介助など保育全般。
・見+部：手遊び、絵本の読み聞かせ、簡単（短時間）な部分実習。
・部：絵本、手遊び等
・見+部：保育全般に参加し、保育技術を習得する。保育の一日の流れを理解し参加する。生活や遊びなどの一部を担当する事によって学ぶ。
・見+部：紙芝居の読み聞かせ、終わりの会の伴奏など。
・見+部：部分は活動と活動との合間の絵本の読み聞かせ、手遊び。
・見+部：保育士の動きや一日の流れ、活動の観察を主に、絵本や手遊び等を子どもの前で行っています。子どもを知るということでたくさん関わって遊んでもらっています。
・見：0 歳児クラスから 6 クラスあり、1～2 ずつしか入れないので実質見学実習となるが、その場で保育士の手伝いをしてもらって、また実習生の希望により絵本を読んだり手遊び等の簡単な部分実習を行っている。
・見+部：子どもの様子など観察、クラス担任の動きなど観察、手遊び・読み聞かせなど実習
・見+部：絵本の読み聞かせ、観察、手遊び等
・見：保育士の関わり方
・見+部：クラスの月案に基づいた絵本の読み聞かせ。
・見+部：手遊び+絵本等、10～15 分程度の部分実習。
・見+部：朝の受け入れ、導入（絵本の読み聞かせや手遊び）など。
・見+部：子どもたちと一緒に一日を過ごす。保育士の補助をする。手遊びや絵本の読み聞かせ。
・部+全：学生の要望を取り入れている。
・部+全：年齢に合わせた時間を設定した中で、実習生が立案した活動を行う保育実習。一日の生活の流れを想定した保育（計画も含め）。
・見+部：手遊びや絵本などを読んでもらっている。
・見+部：部分実習では手遊び・絵本の読み聞かせ。
・見+部：手遊び、絵本の読み聞かせ、歌を歌う（ピアノ伴奏）
・見+部：保育の援助をして頂くと共に絵本の読み聞かせ等の部分実習。
・見+部：担任が子どもたちとどう接しているか、又一日の流れを観察してもらい、その後絵本の読み聞かせや手遊び、時折ピアノなどを弾いてもらっている。
・見+部：部分実習は絵本読みや、手遊び等
・見+部：指導する保育士や状況によって違いますが、絵本の読み聞かせ・手遊び等。
・見：全年齢に入り、クラスの流れ、子どもの様子を見学する。
・見+部：園での見学及び一日のうちクラス活動など部分的な内容（絵本の読み聞かせ、手遊び等）
・見+部：手遊び、絵本、歌唱指導など。

・見：各年齢クラスを経験
・見+部：一日目は保育士の活動の様子を見て、徐々に部分実習に入っていくようにしている。実習の後半で全日実習にも取り組んでいる。
・見+部：手遊び、絵本の読み聞かせ
・見+部：保育サポートとして見学したり絵本を読んだりする。
・部：絵本の読み聞かせ
・見：色々な年齢を見て体験できるようにしています。
・見+部：全クラスに入る。絵本の読み聞かせ、早番、遅番を経験する。
・部：クラスでの 20 分～30 分程の時間を使った実習。
・見：見学実習で各年齢（クラス）を回るようにしている。絵本の読み聞かせ。
・見：主に乳児クラスに入ってもらい、子どもや大人の援助の観察をしてもらっている。
・見+部：2 歳児から順番に 5 歳児まで各クラスに入って見学実習をしてもらい、絵本の読み聞かせをできるだけしてもらっています。
・見+部：絵本、紙芝居の読み聞かせ、手遊びなど
・見：一日の様子を観察し、手遊び、絵本などは、数日は読む。清掃。
・見+部：0 歳児から 5 歳児までの発達の違いを知る。保育者の意図を意識して見学する。部分実習で“ねらい”の大切さと応答的な関わりの大切さに気づいていただく。
・見+部：生活の流れを覚えてもらい、子どもたちの援助などを手伝ってもらう。部分的に手遊びをしてもらったり、絵本を読んでもらったりしている。
・見：各クラスに入って、子どもたちの様子を見てもらい、子どもたちとたくさん触れ合ってもらい、絵本の読み聞かせや手遊びをしてもらう。
・見+部：観察や部分実習（絵本の読み聞かせや手遊びなど)。
・見+部+全：部分で絵本の読み聞かせなど。全日～一日案にそって。
・見+部：絵本の読み聞かせ、歌唱指導。
・見+部：見学実習、部分実習（紙芝居・手遊び・季節の歌など）
・見：子どもと一緒に遊び、危険のないよう見守る。食事の介助、絵本や紙芝居を読む。
・見+部：担任の補助的な活動と 1～2 日間の 1 時間くらいの部分実習、主に見学、補助が多いです。
・見+部：見学・観察・部分実習（手遊び・絵本等短時間）
・見+部：遊びに補助、読み聞かせ、エプロンシアター
・見+部：設定保育（10 分程度）読み聞かせ、手遊び等
・見+部：まず園の流れを知ってもらい、絵本の読み聞かせなどしてもらう。
・見：指導者の様子を見てもらい、保育者としての仕事の補助。
・見+部：一日の流れや保育士の動き等の観察。0～5 歳児クラスの見学、紙芝居、絵本、手遊び等。
・部：絵本の読み聞かせや手遊び等。
・見+部：基本は見学ですが、本人の希望があれば部分もさせています。
・見+部：部分実習 3 回、全日実習 1 回。歌唱指導、制作、集団遊び、絵本、紙芝居の読み聞かせ、ペープサート
・見+部：主に見学、本人の希望があれば部分実習。
・見+部：いろいろなクラスを観察。子どもの前で絵本を読んでもらったり。

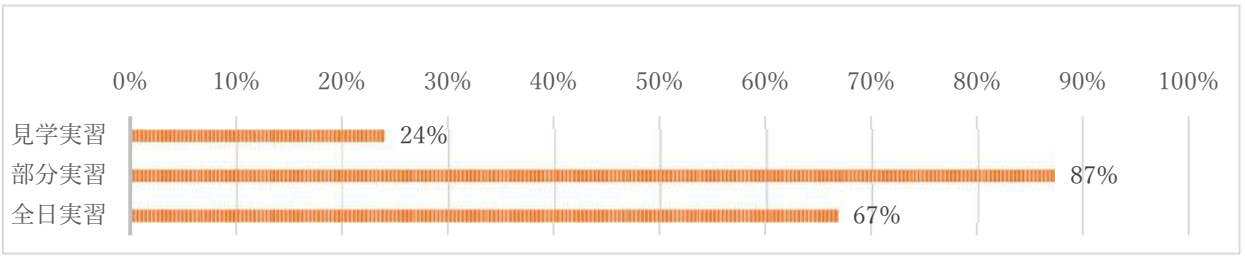
・見+部：保育補助、絵本、手遊び等
・見：実習生さんと相談の上、同じクラスの（年齢）で見学・観察実習する場合と、各年齢を 2 日ずつ観察実習する場合があります。
・見+部:子ども達や保育教諭との関わりの中で少しずつ園の流れを把握してもらいながら、一日のうち時間を決めて、絵本、紙芝居、手遊びなどをしてもらったり、仕事の手助けもしてもらっている。
・見：全クラスに日替わりで発達の変化を知ってもらっている。
・見+部：見学実習を 2～3 日していただき、絵本、手遊びを少しずつお願いし、最終の 2 日間位はゲームやペープサート、やりたい物をお願いしています。
・見+部：絵本の読み聞かせ、手遊び等。
・見+部：保育士の活動を見る、子どもの観察。子どもの前で絵本読み、遊ぶ。
・見+部：ピアノ伴奏、手遊び、読み聞かせ、食事等の介助
・見+部：見学や子どもとの関わりをとおして子どもへの理解を深めてもらい、入ったクラスの最後に「部分実習をします」といってきた人は計画をたて行ってもらう。
・見+部：学校等によりⅠ・Ⅱの区別があるため、実習生本人にⅠではどういうことをすれば良いのか逆に聞くようにし、その伝えられたことが納まるように内容を考えているため、その時の実習生による。
・見+部：主に見学実習だが手遊びもしくは絵本を読むなどを体験してもらっている。
・見+部：ピアノ、読み聞かせ、手遊び、など
・部：手遊び、絵本読み聞かせ
・見+部：参加型の実習を行っている。本人が出来ることは事前に聞いて実習につなぐ。
・見：乳幼児と直接ふれあいを通して特性を知る。特徴のある施設で生活を通して担当保育士の指示に従い指導・助言を受け観察成果等を記録でまとめるまで。
・見+部：絵本読み聞かせ、行事のサポート、壁面飾りなど。
・見+部：見学実習又は 10 分～30 分程度で絵本読み聞かせなど。
・見+部:観察をしてもらいながら子どもの様子や流れをつかんでもらいたい。後半で部分。
・見学とはいえ保育士の補助的な実習をしてもらいます。
・見+部：保育に参加、部分実習は学生がやりたい実習を実施。（手遊び、絵本等）
・部：絵本の読み聞かせ
・見+部：観察、絵本の読み聞かせや手遊び等。
・見+部：クラスの見学中心
・部：手遊び、絵本、外遊び、歌。
・見+部：絵本読み聞かせ、午睡眠補助、食事前準備。
・見+部：基本的な保育の関わり等を踏まえた見学、参加実習。
・見+部：見学して生活の流れを知る。部分観察（あそび 15 分間、食事、排泄<乳児>）等をして記録をとり、その部分のみまとめてその日の実習記録とする。
・見+部：子どもの様子や保育士の動きを見てもらう（見学)。手遊び、絵本等（部分)。
・見：色々な年齢のクラスに入ってもらい、年齢ごとの子どもの状態を知ってもらう。
・見：実習期間中に希望する年齢もしくは各クラスに入り見学実習を行う。
・見+部：保育見学、絵本の読み聞かせ、ピアノ等。
・見：安全管理、危険のないようにする事、意図する事の内容を伝えています。できるだ

け、子どもと多く関わってもらい絵本や手遊び等の簡単な部分保育をしてもらっています。
・見+部：手遊び、絵本、紙芝居など。
・見+部：担当クラスの子どもに合った遊びの計画と実施。クラスの一日の流れを記録（子ども、保育士に対応、環境）をできるだけ具体的にまとめる。
・見+部：1 週目は各クラスの年齢を知る為に入る。2 週目は 1 つの年齢を連続して入る。
・見+部：部分実習については実習生本人の意志を確認した。
・見+部：週 3～4 回の絵本の読み聞かせを行い、週末に 15～30 分以内の部分実習。ピアノは特にさせていないが、したい学生には時間を作る。
・部：実習生の希望を聞きながら立案。
・見+部+全：ピアノ伴奏、設定保育（幼児）、担当したチームのリーダーとしての動き（乳児）、絵本の読み聞かせ、その他保育者がしている業務の補助的な動き。
・見+部：見学、絵本を読んだり食事指導をしたり。
・部：午睡前の絵本の読み聞かせ。
・見+部：製作遊び、ゲーム、絵本の読み聞かせ等。
・見+部：保育時間が長いので全日実習は殆どありません。主に生活の補助、絵本を読んだりする。
・見+部：毎日の絵本読み聞かせ、30～40 分程度の部分実習。職員の手伝い、指導担当の職員との保育の振り返りを毎日（設定保育の後は園長・主任・担任と一緒に）

・見+部：本人の得意とする事ややってみたい内容を、やってみたい学年で取り組めるようにしている。
・見+部：最終日近くに手遊び、読み聞かせ等の簡単な事をする。
・見+部：まず子どもの中に入ってもらい、接してもらう事を大事にしている。
・部：絵本の読み聞かせなど。
・部：設定保育の年齢のみ園で決定し、内容は実習生が考えて行う。（担当年齢の職員に相談可）
・見+部：部分実習では手遊びや絵本の読み聞かせを実施。
・見+部：保育者との子どもとの関わり方について見て学ぶ。部分実習では絵本の読み聞かせ、手遊び等。
・見+部：部分は 15～30 分程度の設定。
・見+部：手遊び、絵本の読み聞かせ
・見：一日クラスに入ってもらい、実際の保育を観察してもらう。
・見+部：絵本の読み聞かせや手遊び
・見：期間中、低年齢から順を追って発達の過程、それに合った援助を学んでもらっている。
・見+部：絵本の読み聞かせや手遊び等。
・見：子どもとの触れ合い、手伝い等。
・部：絵本の読み聞かせ、食事の介助、排泄介助、午睡介助。

13. 保育実習Ⅱでは実習生にどのような内容をさせていますか？（複数回答可）
具体的な内容やさせている範囲を教えてください。

回答欄	件数	%
見学実習	70	23.97%
部分実習	255	87.33%
全日実習	195	66.78%



★具体的な内容

・部+全：実習生の自主的な学びの場にしてほしいので、申し出を重視しつつ、部分実習・全日実習などは必ず経験していただくようにしている。
・部+全：1 クラスに入り、数日間子どもと遊びながら部分実習を行い、あとは自分で計画し、全日実習をしている。
・ピアノを弾く、毎日子どもの前で何かを 15 分程度する、絵本・手遊び等、カリキュラムの作成。
・保育園のことがよくわかっているので、部分実習から始め、全日実習をする。
・部分実習や、一日を通しての実習（保育案を立てる）
・担任の補助的な役割と設定を計画し、実行する。
・設定保育・全日実習
・設定保育
・全日実習、一日責任実習をする。研究保育。
・半日自習、年齢によっては活動の設定。
・一週目に部分実習、二週目に全日実習をする。内容は実習生に任せている。
・手遊び、絵本の読み聞かせ、簡単なゲームなど
・設定保育をさせる。一日実習をさせる。
・実習期間中の間、最低１日は指導案をたてて実習する日を設けている。
・制作指導、絵本の読み聞かせ、歌の指導等
・部分的に保育をしたり、一日保育をしたりする。
・部分でも半日実習にしたり、全日実習では設定とその日のリーダーとして子どもに指示をだすことをしている。
・その日の設定保育前の手遊びや絵本の読み聞かせ、給食前の歌のピアノを弾いて最終的に設定保育を（30～40 分程度で）してもらう。
・1 つのクラスに入り 1 日は 1 つの部分実習（絵本や手遊び歌など）を入れ最後に全日実習を入れてもらっています。

・Ⅰで経験後、Ⅱでは何歳児に入りたいかを学生さんに聞き、課題をもち取り組んで頂いています。
・部分、半日全日で、クラスの保育の流れ等計画を踏まえ担任と相談し自分がやってみたい内容を含めできる限り経験できるように考えている。
・短い時間の子どもの前へ出ての実習と、指導案を書きそれに基づいた全日（研修保育）実習を行う。

・実習期間中は一定のクラスに入ってもらい、その中で子どもと遊んだり、給食準備の手伝い、設定保育の実習、保育室・トイレの清掃、絵本・紙芝居の読み聞かせ、特技がある時はそれを生かせるように披露の場を催ける。
・部+全：計画を立てて実習している時は、できるだけ口出しせず、見守ることができるよう、前もって計画をたてる時に相談している。
・部：保育所は単教担任のクラスがなく、一人で全日実習はできない。
・部+全：2 週目に全日を後半に。他は部分実習。
・部：絵本の読み聞かせ、手遊び、給食指導。
・部：設定保育を部分実習で行う（本人の希望を聞いて)。半日実習は相談して行う。
・部+全：実習生の希望による。
・部+全：絵本の読み聞かせ、着替え、昼食準備、自由遊びのかかわりにプラス 1 日実習をして園長と担任が事後指導をする。
・部：得意とする部分の提供実習を行う。
・見+部+全：保育の観察、製作やゲームなどの部分実習、全日ではわらべうたや体操をしてもらっている。
・部+全：実習生が希望する年齢の子どものクラスに入り、担当保育士の指導のもと保育する。研究保育を行い、他の保育士にもアドバイスをもらう。
・見+部：設定保育（午前中のみ）
・部：1 時間ぐらいの保育内容を計画、実践、その日の反省会（1 日のみ）
・部+全：実習生が主体となって設定保育に取り組む。研究保育。
・見+部：部分実習指導案等を作成し実施する。後に反省会を開き担当より指導やアドバイスをする。
・部+全：絵本読み聞かせ、実習生自らが考えた指導案による保育の実践
・部：設定保育中心に。ただしその部分のみでなく日によっては食事指導、朝の会など、ほぼ一日を経験していただく。
・部+全：部分実習は降園前に手遊びや絵本を読む。登園時から降園時まで担任にかわり担当クラスの指導をする。(指導案の提出あり)
・部+全：一日の流れに沿ってやってみたい内容を聞き、年齢に合った実習になるようアドバイスしている。一日を実習として任せるようにしチャレンジする機会にしている。
・部+全：90 分設定保育、半日保育を担当する。
・部+全：実習する時間や全日の記録(案)も作成し各年齢で実習できる時間を持つ。
・見+部+全：日案を立てて実際に一人で保育にあたる。
・部：午前一時間程、自分で計画し実習をしてもらう。
・見+部+全：歌の指導（歌を１つ教える)。研究保育（何人かの先生に見てもらう）反省会

をする。
・実習Ⅰと同じ内容だが、より深く具体的に求める。
・部+全：わらび歌、運動あそび、製作など。
・部：午前中の設定実習（指導計画をたてる。→見直し・アドバイス、
設定実習→複数の保育士に見てもらう。→午後ミーティング（アドバイス・反省 etc）
・部分実習 1～2 回、全日（半日）一回参加実習。
・部：部分実習の時間や日数を増やす。
・部：部分実習、設定保育。
・部：絵本、手遊び、ピアノ、設定保育
・部：設定保育、年齢や本人の希望、内容に応じて 30 分～1 時間。
・部：設定時間を設ける。
・部：半日実習などの日案などを書いてもらい、実践を行ってもらう。
・部+全：学校に応じた実習内容や本人から希望を聞いて予定する。
・部+全：指導案の作成をしての実習。
・部+全：子どもの関わり、掃除、手遊び、絵本の読み聞かせ、部分・全日実習の準備、給食の補助など。
・部+全：保育教諭の指導の下、絵本や歌など実習する。登園時から降園時まで指導案を書き、保育実践をする。
・見+部+全：毎日担当している先生と振り返りをしたり、明日の保育の準備を行うようにしている。そして任せられるところを少しずつ増やし、全日実習へと繋げていっている。
・見+部+全：計画案を立て、反省会を行う。
・見+部+全：朝の集まりから設定保育までを 1 日、部分実習は 2～3 日。
・部：１時間弱のプランを立て実践し、反省会を開いている。基本は子ども達と関わりを持てるようにしている。
・見+部+全：製作や集団遊び等の部分実習。希望があり特に行事のない時期は全日実習をした方もある。
・部：絵本の読み聞かせや手遊びなど。
・見+部+全：全日実習に向け、はじめから調整してもらう。
・部：15 分、45 分の部分実習。
・見+部+全：絵本の読み聞かせや歌などに加えて、研究保育を含む全日実習。（主となり保育する）
・見+部：部分実習では、本人の希望する時間帯のカリキュラムを立ててもらっている。その手伝いを担任がする。
・全：毎日の絵本、手遊びなどを継続しながら、全日実習を設定する。
・部+全：絵本の読み聞かせプラス半日実習と段階を踏んで、一日のみ全日実習を行ってもらっている。
・部+全：日々少しの時間、子どもの前に立って部分実習をこなして、最終日に全日実習。
・見+部+全：どんどん自分からやってみたいことを経験してもらいながら、全日に向けて取り組めるようにしている。
・部+全：部分や半日、全日で設定保育。
・部+全：指導案をたてて、主になって保育をすすめる。

・見+部+全：絵本の読み聞かせ、指導案を立てた保育。
・見+部+全：できる限り子どもと接しながら保育活動をさせることを心掛けている。
・部+全：実習生がやってみたい内容で計画を出してもらい、担任と打ち合わせをして部分実習、全日実習を一人でやってみる。（今まで部分実習では主に製作が多かった）
・部+全：部分、全日の指導案を立ててもらい、教材研究をして実習してもらう。
・見+部：クラス全般の手伝いや半日実習をしてもらっている。
・部+全：自分の得意なものを話し合い、内容を決めている（部分実習）部分実習を踏まえた上で、反省会をした後、全日実習を行うようにしている。
・部：30 分の設定保育と朝の会でピアノを弾いたり、絵本の読み聞かせをする。
・部+全：経験を踏まえ、進んで部分実習してもらうことと、指導案を提出する。指導と実践、反省会など。
・部+全：全日実習は一日の流れを知り、絵本も選択し、一日の保育を自ら作ってみる。ただし､実習生自身で部分か全日かを選んでもらっている｡負担になってはいけないので。
・部+全：実習しているクラスでの日案作成、一日保育実習（本人が設定した内容)、掃除、洗濯、片付け等、送迎バスにも添乗（保育士と一緒に)、子どもとの遊び、絵本、食事介助、昼寝等、保育全般。
・部：学びたい実習内容を明確にしている。
・部+：部分的な設定保育。一日の流れを通した全日実習。
・部+全：保育計画指導を理解し、自ら指導計画を立案し、実践する。自分の実践を振り返る。
・部+全：保育指導案を作成し、それに基づく保育園の年間指導計画に基づく保育。
・部+全：実習生の希望に合わせ内容を相談しながら決める。
・見+部+全：観察、部分実習、研究保育、一日実習、など
・部+全：Ⅰで学んできたことを生かし、少しずつ部分実習を増やし全日実習へとつなげています。ピアノを弾いたり、製作や遊びなど活動を行う前に子どもの動きを予想するということも担当保育士と話し合い、実際に子どもの前に立ち保育し、振り返りの時間を設けています。
・部+全：一週間同じクラスに入るため、週末には半日実習、週半ばには部分実習をしてもらっていることが多い。担任が時差勤務をしていることもあり、全日実習は難しいところもある。実習生の希望があれば任せるようにしている。
・全：手遊び、歌指導（ピアノ伴奏含む）読み聞かせ、指導案を作成し一日実習をする。
・部+全：朝の集い、一日の保育を回して頂く（担当制保育なので担当グループを持って頂く）
・部：製作（季節に合ったもの）
・部+全：指導案を作り、全日実習を行っている。
・部+全：設定の計画から実行・反省。
・部+全：手遊びや絵本の読み聞かせ、午前中の保育の計画・実践・反省等。
・部+全：学生の要望を取り入れている。
・部+全:ピアノを弾いてもらったり､実習生に設定保育を主になって進めてもらっている。
・部+全：部分実習では午前中の設定保育、全日実習は受け入れから受け渡しまで。
・部：制作、ゲーム、律動。

・部+全：一日を通してねらいをもった保育を行う。
・部+全：実習期間の中で一日は全日の日案を書いてもらい、保育等のほとんどの事を行ってもらっている。保育としては（ゲーム遊び・制作・運動・わらべ歌遊びなど）実習生に任せている。
・見+部：部分で製作やゲームなどの遊びをしてもらっている。
・見+部+全：絵本の読み聞かせ・手遊びの他に実習生が立案した保育。
・部：自分の希望するクラスに入り部分実習、研究保育をする。
・クラス活動の 30 分位を担当、担当の指導を得て進めていく。
・部+全：最終日近くでは一日、保育士同様の内容でしてもらっている。
・見+部：固定クラスで実習。
・見+部+全：実習Ⅰと同様で部分・全日実習については指導も作ってもらい担任とも検討して取り組んでいる。
・部+全：研究保育
・全：一日の流れを考えてもらい保育を行ってもらう。
・部：半日流れに沿って　部分（設定保育）
・部：絵本、紙芝居の読み聞かせ、朝や帰りの歌（ピアノ）、1～1.5 時間くらいの設定保育
・部+全：主担任と同様の業務を行う。
・部：クラスでの 20 分～30 分程の時間を使った実習。
・部+全：クラスを任せ、部分実習、全日実習をさせ、公開で行う。その後研究会を実施。
・部+全：設定保育ではないが、実際に責任をもって遊びなどの援助、製作などそれに近いこと
・部：設定保育（年齢や活動により 30 分～40 分程度）をしてもらい参加できる職員は見せてもらい反省会で感想や指導点などを話し合っています。内容は本人がしたいものをしてもらっています。
・部+全：制作やゲーム遊びなどの指導など。
・見+部：一日の様子を観察し、手遊び、絵本、ピアノを弾く、設定保育（10:00～10:40）、清掃
・見+部+全：指導計画の添削で、観察する力や配慮事項の重要性を伝え、実習後に努力や実習生自身の魅力を伝えている。
・部+全：部分実習、全日実習共に日程を決めておき、前もって指導案を提出し、指導案に沿った実習をしてもらう。全日実習は朝の受け入れから降園までを任せている。
・部：クラスを決めてもらい、30 分～40 分程の内容で、指導案を考えて保育を担当してもらう。
・見+部+全：観察や部分に加え、全日を最終日に行ってもらっています。
・部+全：部分～製作。全日～日案（主活動を重点に）。
・部+全：歌唱指導、クラス運営、子どもの受け入れ。
・部+全：設定保育と全日実習
・実習Ⅱはまだ実施していない。
・見+部+全：計画から実習を 2 週間の実習中に一度していただく、そのほかは見学、部分実習（紙芝居、うた指導 etc.）が多いです。

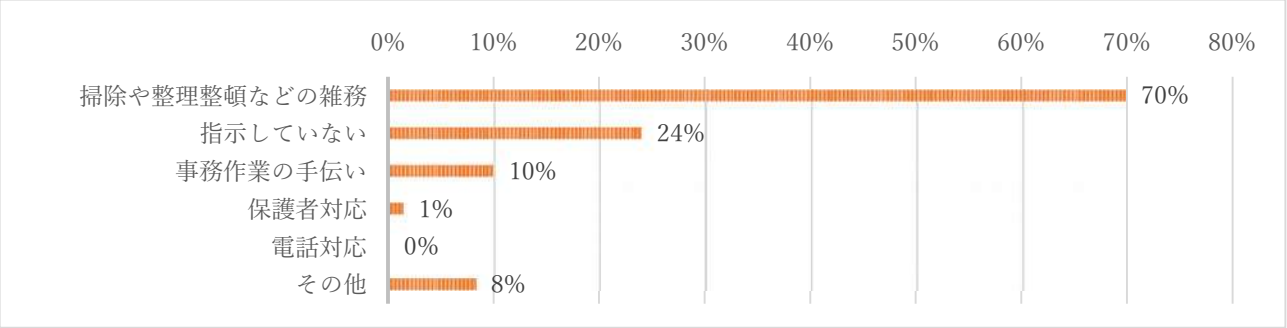
・部：観察・数回の部分実習で後半に 30 分弱の設定実習。
・見+部：お遊戯、歌、パネルシアター
・部+全：設定保育（20 分程度)、制作あそび、運動あそび等
・部+全：全日実習では、一日担任になってもらい保育実践をしてもらいその後研修会。
・部+全：指導案をたて、30 分程～一日の実習。
・部+全：一週目は紙芝居、絵本、手遊び、ピアノ伴奏他、二週目は設定保育、保育士の指導を仰ぎながら全日実習。
・部+全：1 時間～1 時間半で午前中にまかせる内容にしている。
・部+全：本人の希望に沿うように行っています。
・見+部+全：部分実習 3 回、全日実習 1 回、歌唱指導、制作、ゲーム、絵本の読み聞かせ、ペープサート
・部+全：主に数回の部分実習、希望があれば全日実習。
・部+全：子どもの前で手遊びや絵本の読み聞かせ、自分が考えた実習をする。
・指導案作成、一週目部分実習、二週目半日～全日実習
・見+部+全：部分実習では絵本の読み聞かせや実習生が学校で習ったことなどをできるようにしている。全日は実習生さんの希望で、1 日あるいは 2 日（ほとんど 1 日希望）を行っています。
・全：指導計画を事前に作成提出してもらい、一日のうち決められた時間を任せている。
・部+全：自分で保育案を立てて保育実習をしている。
・部+全：初日から部分、最後の 3 日間で 1 日目半日、2 日目半日、3 日目全日
・部+全：絵本の読み聞かせ、手遊び、保育設定。
・見+部：中心的な活動を計画、実践。
・見+部：指導計画の作成、実施指導。
・部+全：子どもとの関わりや保育指導を学んでいただき計画を立てて部分実習や全日実習を行ってもらう。
・部+全：全日実習をしてもらうのも構わないが、どこまでその一日のものを評価できるのか、という事が頭にあるため、責任実習として一日の部分、他は普段の実習姿勢でと考えている。
・部+全：設定保育
・全：ほぼ一回を主になって進めていく。
・手遊び、読み聞かせ、食事指導、設定保育
・部+全：多くの体験を目指している。クラスリーダーや指導者と日々反省会や保育会議を行う。
・部+全：観察実習の理解より保育活動の実践と特定の場で具体的技術及び社会的（地域を含む）役割を学び記録にまとめて評価するなど。
・部+全：1 時間程度の保育、指導案や他の作成、行事の担当（おたのしみ会）をする。
・部：部分実習として、1 時間程度～半日実習。
・部+全：自身が立案した計画を指導者が確認して実践。（一斉保育でない為部分と全日の中間位）
・部：ピアノ、絵本の読み聞かせをして保育を進める。
・部+全：絵本、リズム、製作など、子どもたちの学びに繋がるもの。

・見+部：保育に参加、部分実習は学生がやりたい実習を実施。（設定保育、製作、ゲーム等）
・部+全：全日実習は 1 日～2 日、あとは部分実習。
・見+部+全：クラスの保育内容の中で割り当てている。
・部：半日実習（本人の希望）
・部+全：Ⅰで学んだ事を基に部分的に又は一日指導案を作成し、実習を行う。
・部：半日に必要な内容の観察と記録（食事、排泄、外への出入り等）部分実習の計画、半日実習のみ。
・見+部+全：30 分程度の活動を設定。（半日実習、午前中でする）朝の会～給食前くらいまでで実習することが多いです。
・部+全：まずは部分実習で製作やリトミック等をしてもらい、最終日には全日の実習をしてもらっている。
・部+全：実習に入ったクラス内で部分実習を担任と相談して行う。
・朝の集まりの場面、降園時、絵本等。全日保育は研究保育。
・Ⅰしか今の所、行った事がありません。
・部+全：表現遊び、製作等、自分で設定を考えて実習する。（ペープサート、パネルシアター等）
・部+全：年齢によっては全日実習をしてもらう場合がある。
・見+部+全：部分実習までは必ず、全日については実習クラスの状況に応じて。
・部+全：週 3～4 回の絵本、半日実習を 2 回。ピアノは得意な曲を 1 曲弾くが、指導は担任が多い。無理が無いようにしている。
・全：実習生の希望を聞きながら立案。
・見+部+全：ピアノ伴奏、設定保育（幼児）、担当したチームのリーダーとしての動き（乳児）、絵本の読み聞かせ、その他保育者がしている業務の補助的な動き。
・部+全：部分実習（絵本を読んだり食事指導）と全日実習を両方（一日保育の計画を立てそれに添って保育）
・朝夕の会でのピアノ、絵本の読み聞かせ、設定保育。
・部+全：部分実習の内容+生活指導やクラス運営。
・見+部：Ⅱでも全日実習はしませんが、指導者と一緒に保育案を作成して一人で部分実習をします。
・見+部：毎日の絵本読み聞かせ、30～40 分程度の部分実習。職員の手伝い、指導担当の職員との保育の振り返りを毎日（設定保育の後は園長・主任・担任と一緒に）。得意な学生には歌の時ピアノ。職員の手伝い、全日もしくは半日実習の中で、できる事・やってみたい事はなるべく取り組めるようにしている。
・部+全：本人の希望も聞きながら、続けて入るクラスを決定し子どもの興味、関心、発達にあった内容を担任と相談しながら全日実習へ取り組んでいる。
・見+部：最終日近くに実習生のやってみたい事を相談して決めている。
・全：10 日～2 週間のうちにクラスのリーダーを 2 回は経験してもらう。
・全：部分的に公開保育。
・部：設定保育の年齢のみ園で決定（保育実習Ⅰとは別の年齢）、内容は実習生が考えて行う。（担当年齢の職員に相談可）

・30 分程度の部分実習では制作や運動遊び、歌唱指導等実習生が希望していることに取り組んでもらっています。全日実習は一日の流れの子どもへの声かけをしてもらっています。
・部：部分実習では絵本の読み聞かせ、手遊び等。設定保育を依頼している。
・見+部+全：部分・全日は 30 分～、半日程度の設定。
・部+全：実際に導入から設定までを受け持ってもらう。
・実習生と相談して行っている。
・絵本の読み聞かせ、給食、午睡指導、全日実習ではクラス活動も入れている。
・見学か実習を任せるかではなく、保育士と一緒に関わり手伝いをしたり等としている。
・指導計画を立案。歌・ゲーム・製作など。
・見+部：子どもとの触れ合い+20～30 分程度の保育や誕生会の出し物など。
・部+全：日案に基づいた全日実習。

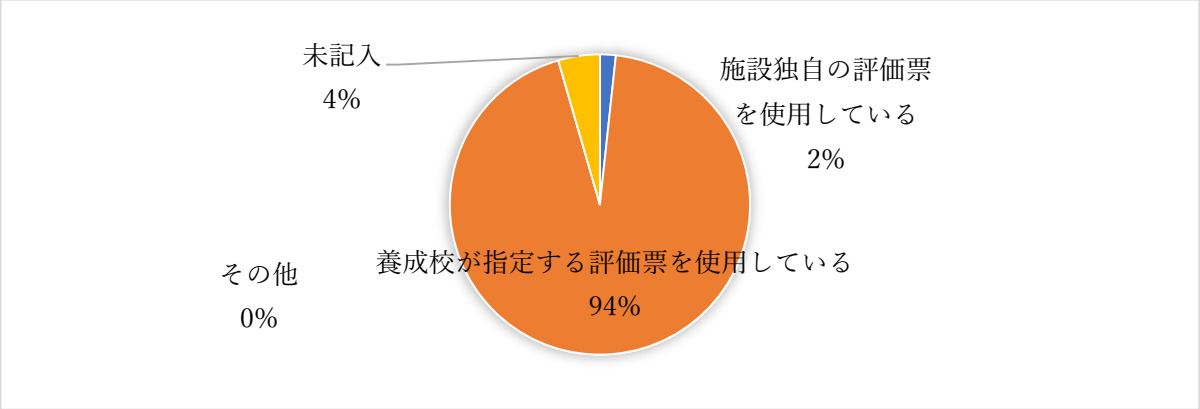
14. 実習生に保育や保育環境の整備以外の業務を指示していますか？（複数回答可）

回答欄	件数	%
掃除や整理整頓などの雑務	204	69.86%
指示していない	70	23.97%
事務作業の手伝い	29	9.93%
保護者対応	4	1.37%
電話対応	0	0.00%
その他	24	8.22%



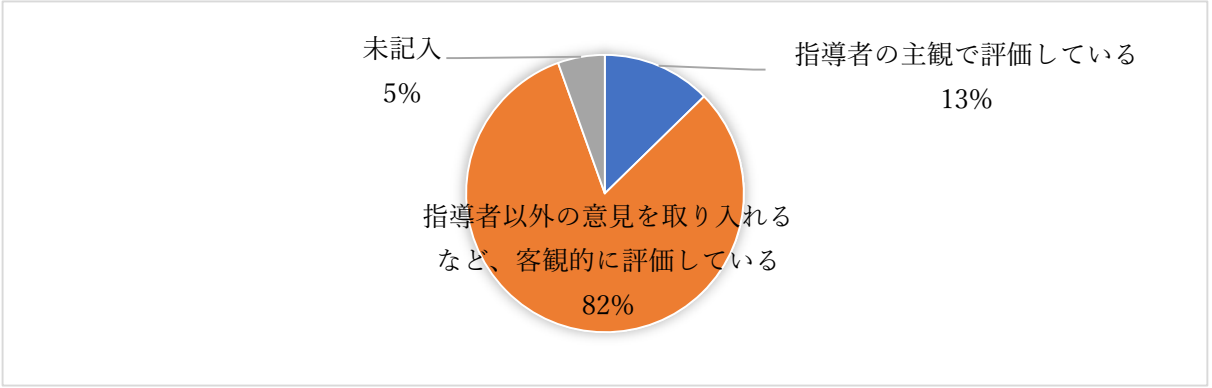
15. 実習生の評価票はどうしていますか？

回答欄	件数	%
養成校が指定する評価票を使用している	274	93.84%
施設独自の評価票を使用している	5	1.71%
その他	0	0.00%
未記入	13	4.45%
合計	292	100.00%



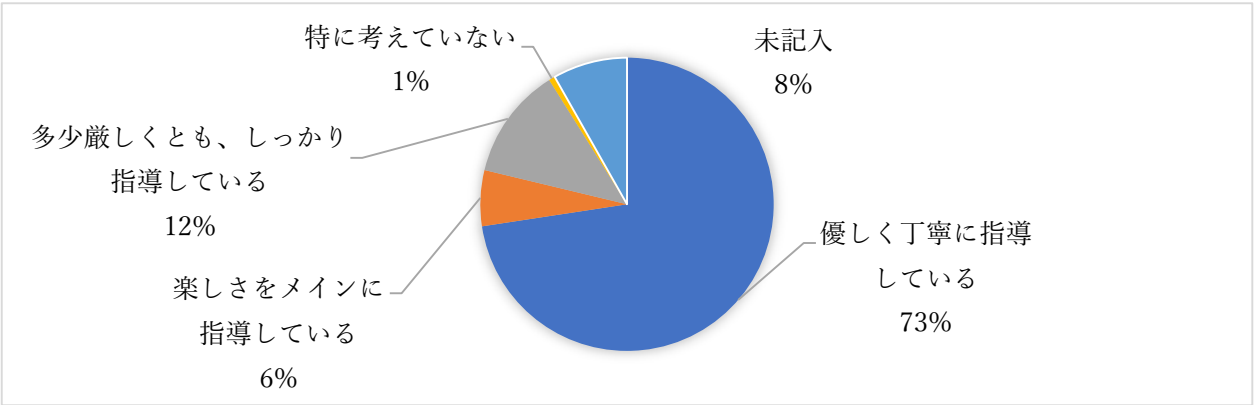
15-2. 上記の評価はどのように評価を決めていますか？

回答欄	件数	%
指導者以外の意見を取り入れるなど、客観的に評価している	239	81.85%
指導者の主観で評価している	37	12.67%
未記入	16	5.48%
合計	292	100.00%



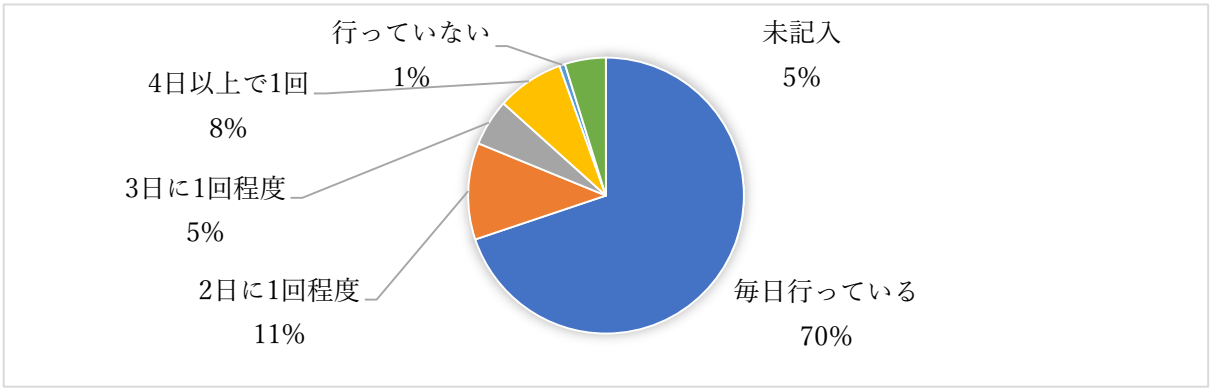
16. 実習生の対応はどのように心がけていますか？
方針に１番近いものを１つ選んでください。

回答欄	件数	%
優しく丁寧に指導している	212	72.60%
多少厳しくとも、しっかり指導している	36	12.33%
楽しさをメインに指導している	18	6.16%
特に考えていない	2	0.68%
未記入	24	8.22%
合計	292	100.00%



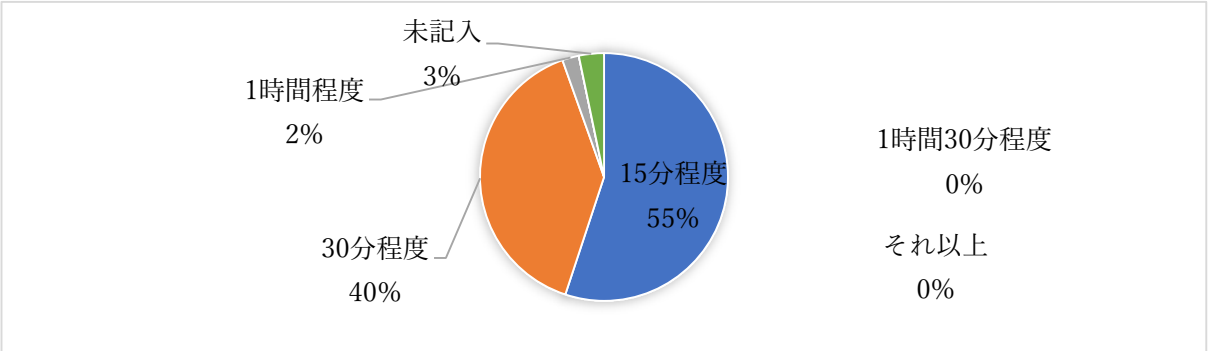
17. 実習の指導者と実習生で振り返りや、指導および協議はどの程度行っていますか？

回答欄	件数	%
毎日行っている	204	69.86%
2 日に 1 回程度	33	11.30%
3 日に 1 回程度	16	5.48%
4 日以上で 1 回程度	23	7.88%
行っていない	2	0.68%
未記入	14	4.79%
合計	292	100.00%



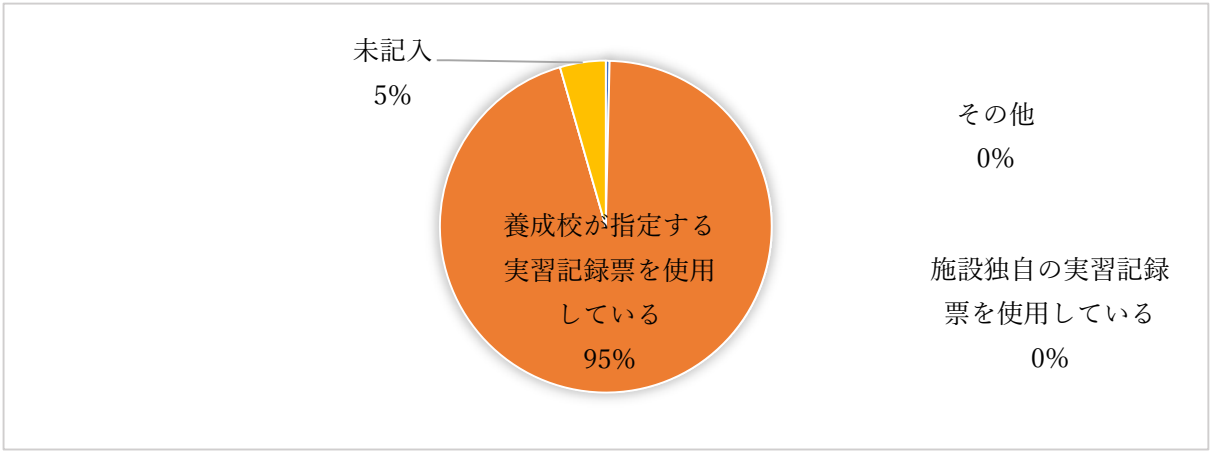
17-2. 振り返りや、指導および協議を行っている場合、1 回でどのくらいの時間を確保していますか？

回答欄	件数	%
15 分程度	152	55.07%
30 分程度	109	39.49%
1 時間程度	6	2.17%
1 時間 30 分程度	0	0.00%
それ以上	0	0.00%
未記入	9	3.26%
合計	276	100.00%



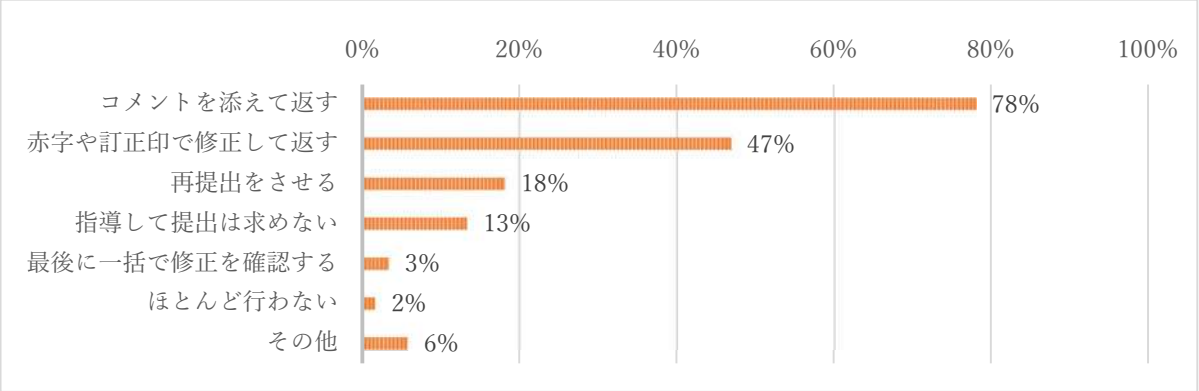
18. 実習生の実習記録はどうしていますか？

回答欄	件数	%
養成校が指定する実習記録票を使用している	278	95.21%
施設独自の実習記録票を使用している	1	0.34%
その他	0	0.00%
未記入	13	4.45%
合計	292	100.00%



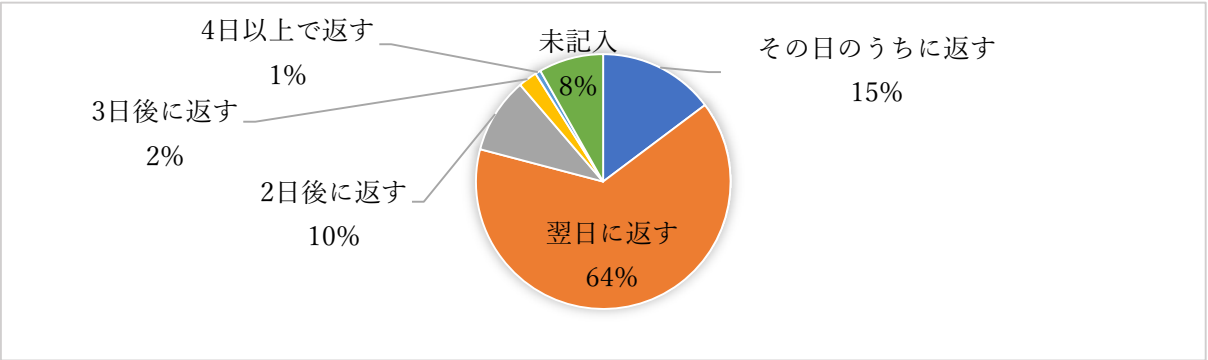
19. 提出される実習記録の修正はどのように指導を行うことが多いですか？（複数回答可）

回答欄	件数	%
コメントを添えて返す	228	78.08%
赤字や訂正印で修正して返す	137	46.92%
再提出をさせる	53	18.15%
指導して提出は求めない	39	13.36%
最後に一括で修正を確認する	10	3.42%
ほとんど行わない	5	1.71%
その他	17	5.82%



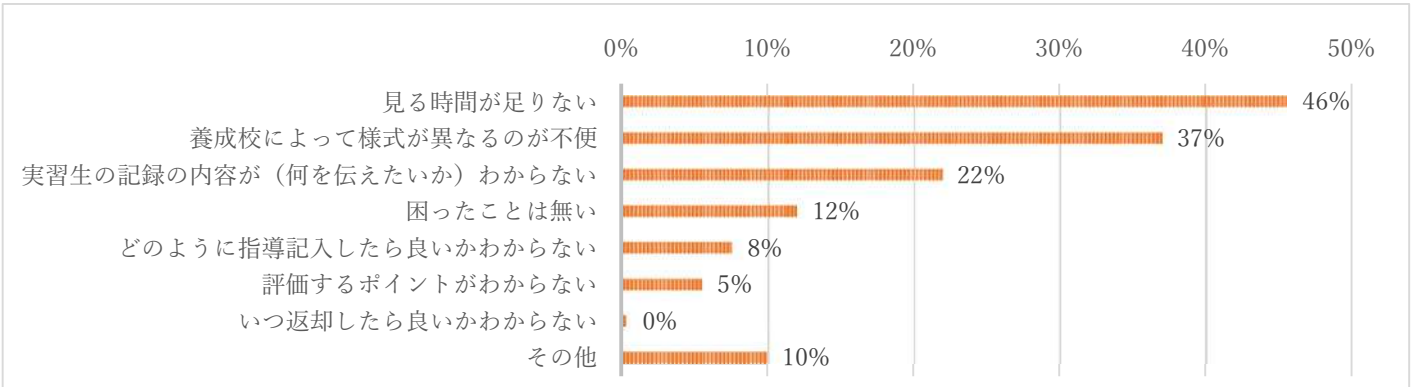
20. 実習記録を返却するまではどのくらいの日数が 1 番多いですか？

回答欄	件数	%
その日のうちに返す	43	14.73%
翌日に返す	188	64.38%
2 日後に返す	28	9.59%
3 日後に返す	7	2.40%
4 日以上で返す	2	0.68%
未記入	24	8.22%
合計	292	100.00%



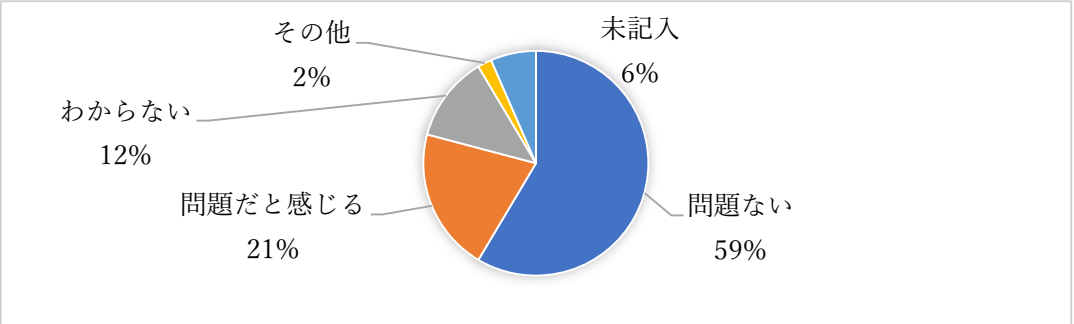
21. 実習記録について、困っていることはなんですか？（複数回答可）

回答欄	件数	%
見る時間が足りない	133	45.55%
養成校によって様式が異なるのが不便	108	36.99%
実習生の記録の内容が（何を伝えたいか）わからない	64	21.92%
困ったことは無い	35	11.99%
どのように指導記入したら良いかわからない	22	7.53%
評価するポイントがわからない	16	5.48%
いつ返却したら良いかわからない	1	0.34%
その他	29	9.93%



22. 実習記録が養成校によって異なることについて、どのように感じますか？

回答欄	件数	%
問題ない	171	58.56%
問題だと感じる	60	20.55%
わからない	36	12.33%
その他	6	2.05%
未記入	19	6.51%
合計	292	100.00%



22-2.「問題だと感じる」と回答した場合、どういった点が問題だと感じていますか？

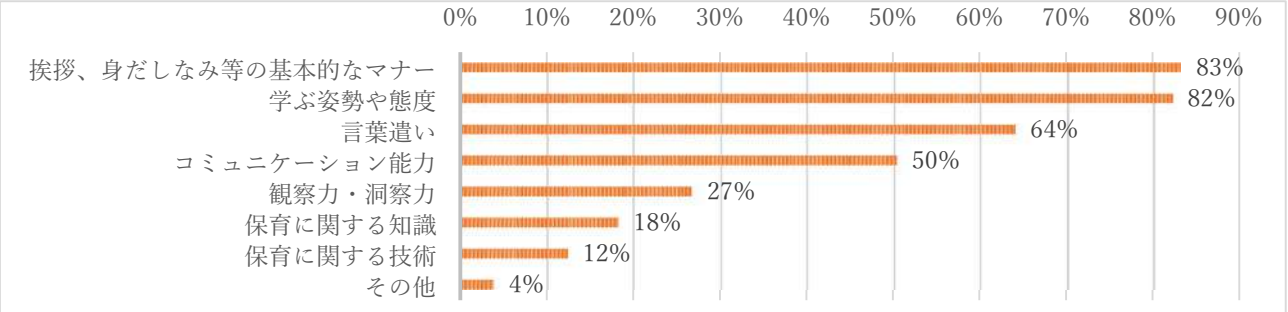
・学校による違いにこちらが合わさなければならないのは学生への確認時間がとられ、時間のない中よりタイトな一日となる。
・時間のない中、様式が同じ方が見やすい。
・時間の無い中の指導で、まずその記録について考えながら 1 日目は見ないといけないから。
・時間が限られているので、同じ様式だと扱いやすい。
・2 校同時に実習に来られた場合、異なるものだと見るのに時間がかかる。一緒だと見やすいと感じる。
・保育所側の確認を統一していただけると記入の時短が出来るかもしれない。
・A3 でどんと 1 枚よりは 1 枚目に日付、ねらい(目的)、記録。2 枚目（裏）に記録がつづき、考察、指導くらいが望ましい。多いと読み手も大変。
・できれば統一してもらえると指導しやすい。
・書式が違う。ねらいと内容に分かれていない。環境構成があったり、なかったりする。感想も学校によって書き方が違う。
・考察の欄がない場合、子どもや保育士が意図しているところまで考えることがなく事実のみの記録になる。
・様式が違うことで指導する方が戸惑う。学生は自分の学校の様式しか知らないのでこちらの「こういう風に書いたらどう」というアドバイスも戸惑うのではないかと感じる。

・環境構成、子どもの活動、保育士の援助、配慮、実習生の活動といった様に課目を統一していただけたら見る方としては楽になります。実習生の気づきとか入れられると混ざってしまって記録を書く方も大変では？
・実習記録の項目が学校によって微妙に違うので、どのように記入すればよいのか分かりにくい。
・同じだと書きやすい
・項目がそれぞれ違うので書きにくい。
・指導方法が異なることがある。
・同じ実習生なのに様式が違うこと。修正もしにくい。統一されればと思う。
・様式がバラバラの為、多少評価の観点が異なってしまう節がある。
・教育・保育の原理原則的でスタンダードでシンプルなものにして欲しいと思うが、様式が異なっていると園側も混乱する。大学なので基礎基本を共通してきちんとおさえて欲しい。
・同じ様式だと一貫した指導ができる。異なると記録の仕方や見方も異なってきて指導側も調べたり等、時間が必要になることもある。
・指導する側としては、その都度説明をかえないとならないため、統一していただけるとありがたい。
・「学校で指導された」と言われると、よりよい指導がそれ以上できない。
・実習生の視点か指導者の視点からなのかが分かりにくい事がある。
・記録の内容をもう少し具体的に養成校で指導してほしい。見たことに対し、感じた内容だけになり、なぜそのような対応になったか子どもの心理はどうだったのかまで、学んでいる内容があるとよい。
・大学と短大で内容に違いがある。育てたい部分や考えてほしい部分は共通していく事が必要だと思う。また最近、実習記録に自分で評価をつけている所があるが、自分で「よく頑張った」ばかりに〇をつけているので実習生は一生懸命頑張るのは当たり前の事で必要あるのかと思う。
・養成校によっては指導方法が違う。
・養成校によって時代に沿った様式になっている所とそうでない学校がある。
・学校により評価の A～D 表記などをどう受け止めればよいのかわかりにくい。
・訂正を示すだけか、書き直して実習生に負担をかけるのか。
・職員間での指導の共通理解がしにくい面がある。
・養成校がどの様な指導をしているのか、わからず、どの程度修正するか迷います。
・時間で細かく、何をしたか？保育者はどんな動きをしていたのか？など観察して記録することが多すぎる。その日の保育のねらいを実践している場面だけを重視し、どうだったか？子どもへの気づきや自分の子どもとの関わりの振返りだけでいいのではと感じる。
・指導者にとっては同じ様式で記入できると、やりやすい。
・記入する側として、まちまちだと記入しにくいという問題点はあるが、実習生にとって書きにくいかどうかは別。
・見たり書いたりするポイントが違っていたりするので繰り返し実習生と話すことになるため。

・様式が異なることは問題ではない。内容や記入事例、学生に要求することが養成校により異なっている為、指導するものが戸惑うことがある。
・養成校で指導してもらっていると思うが、質問しても答えがあやふやな実習生がいるので、もう少ししっかりと養成校での実習記録について指導してほしい。
・学生が記録の記入方法を理解していないことが多く、こちらも分からないことがある。
・実習生自身が記載の仕方が分かっていない。
・目を通しにくい、記入のし難さを感じる。学生の多くが記録をとる意義をあまり理解できていないように感じます。記録をとる目的と何を記録するのか、そこから読み取れる事は何か、何を今後に生かすのかが結びつくような様式で統一されていると見る側も指導しやすいと思います。
・記録の意図が（どう指導されているのか）分かりにくい時がある。
・学校によってというよりは個々によってというところもあるが最後にきちんとすべてをまとめて記録を出す必要があると思うが、日々の記録と最後のまとめを別々に提出する学校がある。全体のものが確認できない。
・養成校に合わせるしかない。
・人によって書き方が違うのに、書式がさらに違うと、実習生も指導者も困ると思います。
・実習生の記入欄が多い学校がある。
・書き方を質問されるが、学校の指導でいいと言うと「学校からは園のやり方でと言われています」と言われる事が多い。
・できれば統一されていれば見やすい。
・書き方や書く内容（フォーマット）が異なる点。又養成校によって記録の指導に違いがある点。
・様式が同じだと助かります。
・様式を統一してもらう方が記入しやすい。
・養成校により、大事にされているところが違うのでしょうか？
・養成校によって違うと差も出てくるので、何を重んじるのかという所は統一されている方がよい。
・保育者の援助と配慮の所が学校によって違う。だから指導する時に困る。環境構成の書き方も疑問。
・様式が様々で細かく数ページにわたる事もあり、実習生に負担だと感じる。実習記録だけでしんどくなる生徒もいる。
・実習生の活動、保育士の活動を記入する学校があり、場合によっては揚げ足取りのような記入の仕方になっている場合があった。
・実習生にとって負担になるような書式がある。
・不便だとは思うが実習生も少ないので、その時々に合わせられる。

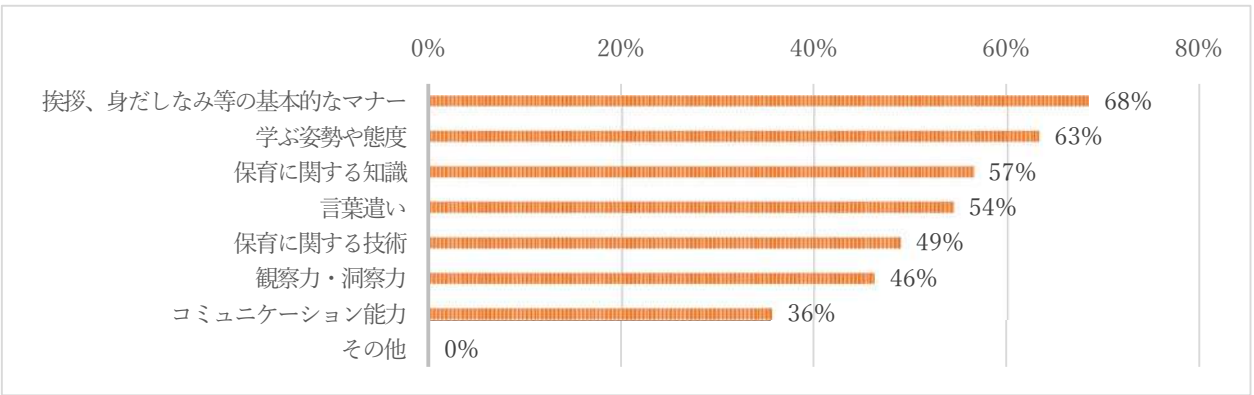
23. 実習生が保育実習前に身に付けていて欲しいことを教えてください。(複数回答可)

回答欄	件数	%
挨拶、身だしなみ等の基本的なマナー	243	83.22%
学ぶ姿勢や態度	240	82.19%
言葉遣い	187	64.04%
コミュニケーション能力	147	50.34%
観察力・洞察力	78	26.71%
保育に関する知識	53	18.15%
保育に関する技術	36	12.33%
その他	11	3.77%



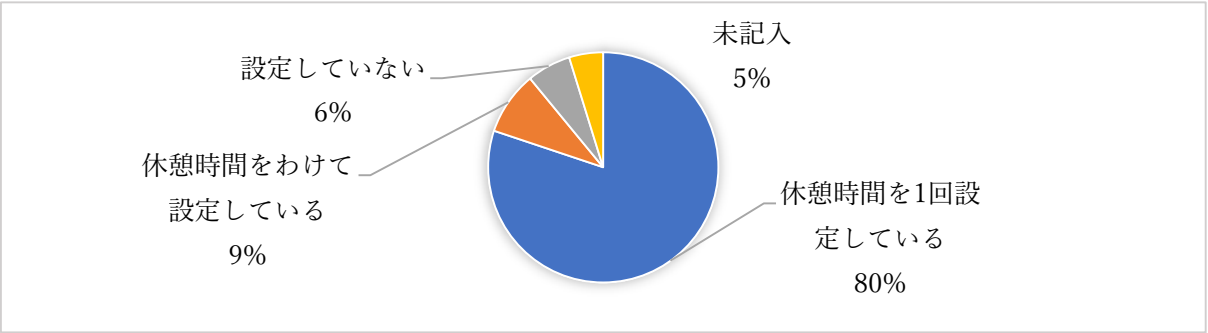
24. 保育実習で指導している内容を教えてください。(複数回答可)

回答欄	件数	%
挨拶、身だしなみ等の基本的なマナー	200	68.49%
学ぶ姿勢や態度	185	63.36%
保育に関する知識	165	56.51%
言葉遣い	159	54.45%
保育に関する技術	143	48.97%
観察力・洞察力	135	46.23%
コミュニケーション能力	104	35.62%
その他	0	0.00%



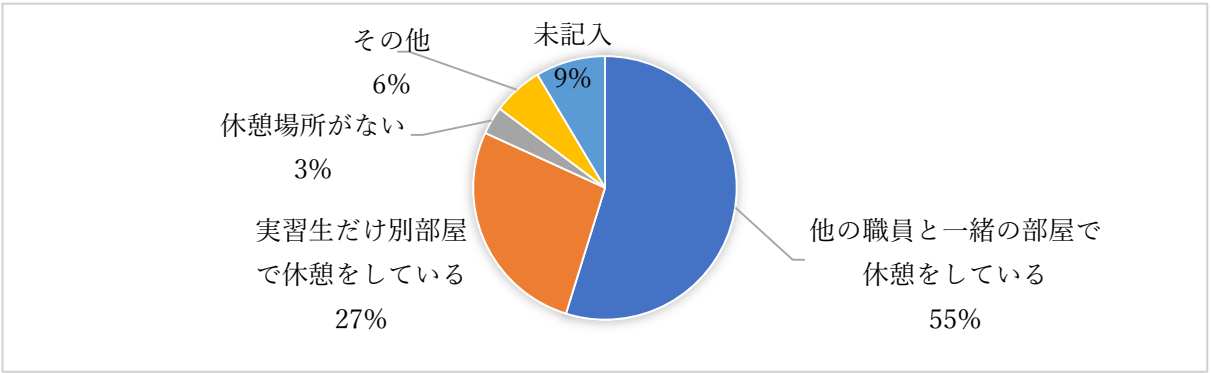
25. 実習生の休憩時間はどのように設定していますか？

回答欄	件数	%
休憩時間を１回設定している	234	80.14%
休憩時間をわけて設定している	26	8.90%
設定していない	18	6.16%
未記入	14	4.79%
合計	292	100.00%



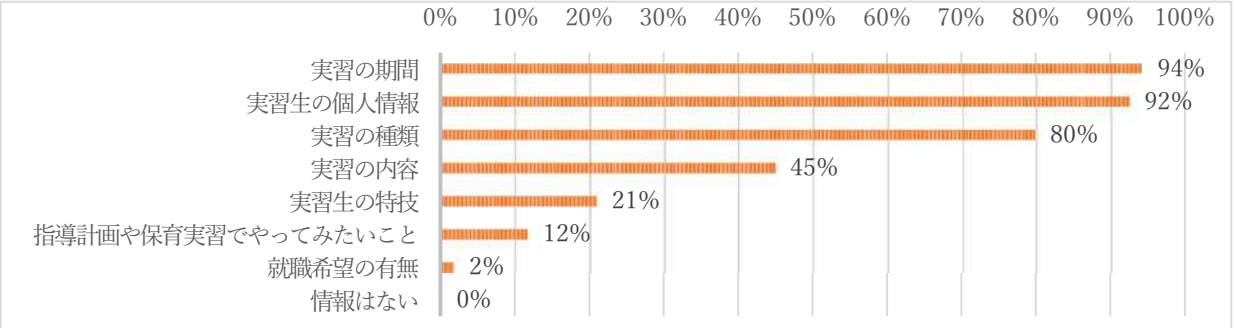
26. 実習生の休憩場所はどうしていますか？

回答欄	件数	%
他の職員と一緒の部屋で休憩をしている	160	54.79%
実習生だけ別部屋で休憩をしている	79	27.05%
休憩場所がない	10	3.42%
その他	18	6.16%
未記入	25	8.56%
合計	292	100.00%



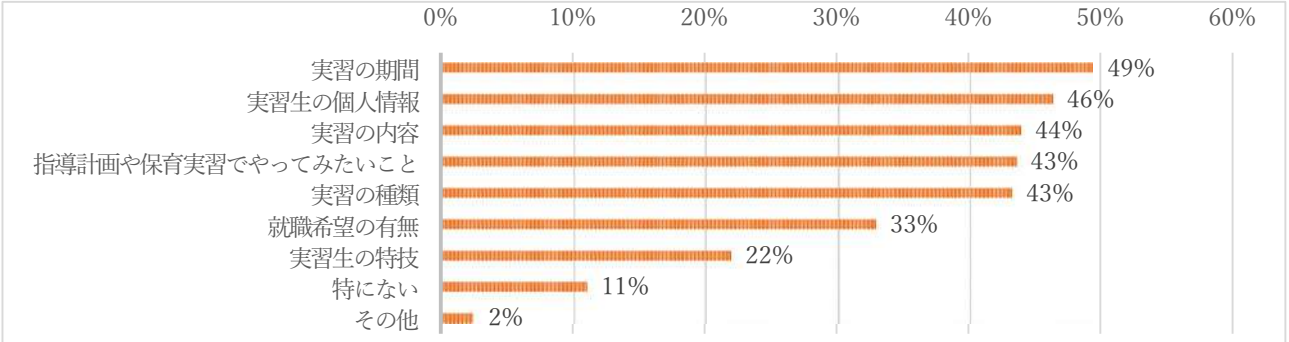
27. 実習前に養成校から実習生について知らされる情報はどのようなことですか？
（複数回答可）

回答欄	件数	%
実習の期間	275	94.18%
実習生の個人情報	270	92.47%
実習の種類	233	79.79%
実習の内容	131	44.86%
実習生の特技	61	20.89%
指導計画や保育実習でやってみたいこと	34	11.64%
就職希望の有無	5	1.71%
情報はない	0	0.00%
その他	0	0.00%



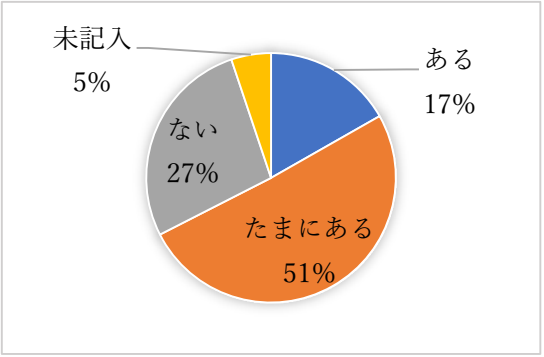
28. 実習前に実習生について教えて欲しい情報はありますか？（複数回答可）

回答欄	件数	%
実習の期間	144	49.32%
実習生の個人情報	135	46.23%
実習の内容	128	43.84%
指導計画や保育実習でやってみたいこと	127	43.49%
実習の種類	126	43.15%
就職希望の有無	96	32.88%
実習生の特技	64	21.92%
特にない	32	10.96%
その他	7	2.40%



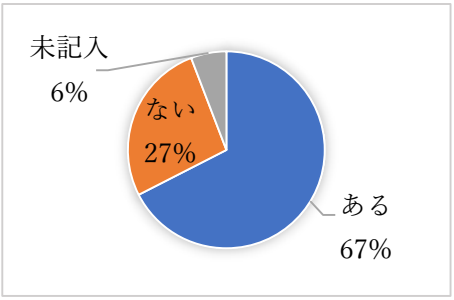
29. 実習生が資格取得だけの実習であるとわかったり、感じたりすることはありますか？

回答欄	件数	%
たまにある	148	50.68%
ない	80	27.40%
ある	49	16.78%
未記入	15	5.14%
合計	292	100.00%



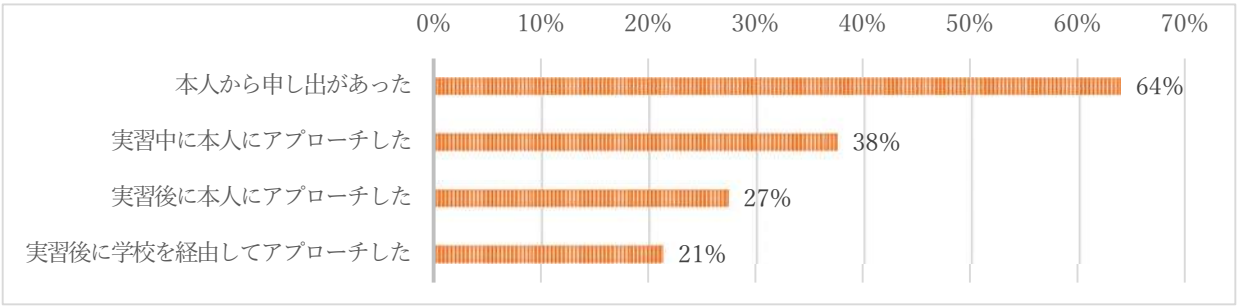
30. 実習生が貴施設の就職につながった場合はありますか？

回答欄	件数	%
ある	197	67.47%
ない	78	26.71%
未記入	17	5.82%
合計	292	100.00%



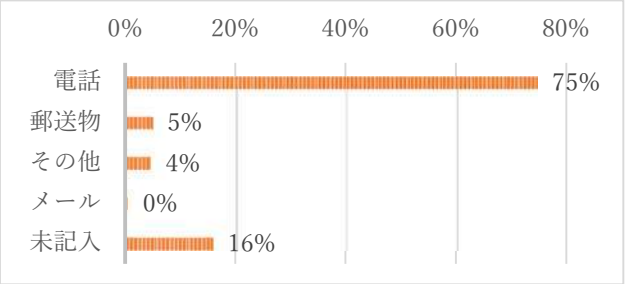
30-2. あると回答した場合、どのようにアプローチしましたか？（複数回答可）

回答欄	件数	%
本人から申し出があった	126	63.96%
実習中に本人にアプローチした	74	37.56%
実習後に本人にアプローチした	54	27.41%
実習後に学校を経由してアプローチした	42	21.32%



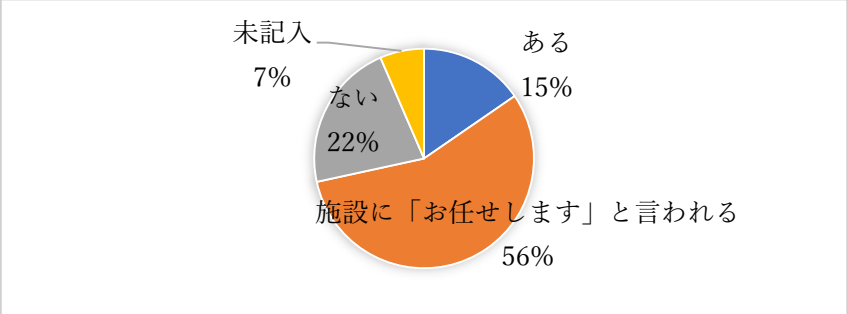
31. 実習で養成校の巡回教員と施設担当者との連絡手段はどうしていますか？

回答欄	件数	%
電話	218	74.66%
郵送物	14	4.79%
メール	1	0.34%
その他	13	4.45%
未記入	46	15.75%
合計	292	100.00%



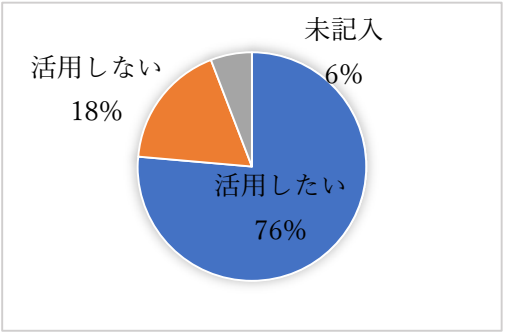
32. 養成校からは実習の種類に応じて、具体的な実習内容の提示や実施の要望がありますか？

回答欄	件数	%
施設に「お任せします」と言われる	164	56.16%
ない	64	21.92%
ある	45	15.41%
未記入	19	6.51%
合計	292	100.00%



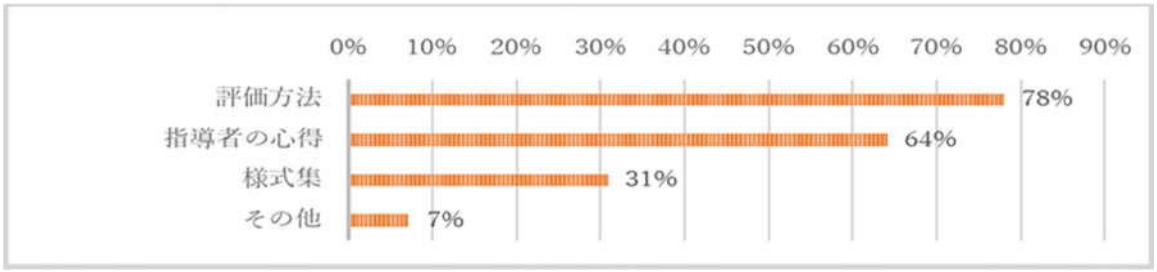
33. 実習生の受け入れについて指導内容や指導方法が具体的に示された「実習のてびき」があると、活用しようと思いますか？

回答欄	件数	%
活用したい	223	76.37%
活用しない	52	17.81%
未記入	17	5.82%
合計	292	100.00%



33-2. 活用したいと回答した場合、実習のてびきの内容にどのような内容を求めますか？

回答欄	件数	%
評価方法	174	78.03%
指導者の心得	143	64.13%
様式集	69	30.94%
その他	16	7.17%



34. 実習生に関して、困ったことや改善してほしいこと、要望があれば教えてください。

・個人情報保護について、伝えておいてほしい。
・あまりにも基本的なマナーや挨拶ができない学生に関しては、実習前に大学での指導を考えてほしい。
・書類の提出期日を守る、挨拶をすることを身に付けてから来てほしい。
・学ぶ姿勢や態度はとっても大切なことだと思います。
・保育の技術などは働きながら習得できることですが、あいさつや目上の人としゃべるマナーなどは実習に来る前にきちんと教えていただきたいです。
・提出物は期日を守り、提出してほしい。
・マナーが悪い、意欲が見えない。
・提出物の期限が守れない。
・日誌など提出期限を守らない。日誌の内容の中で保育者に確認をして記入する欄（ねらい、人数等）を自ら聞かないで記入せず、空白のまま指導者に提出することがある。
・記録が滞ってしまう実習生もおり、指導者側も一度に何日か分の記録を見なくてはならなくなり困る。
・事前訪問の時間を守る。服装（髪の毛の色）、態度など基本的なことは学校で指導してほしい。また検便を提出しなければならない必要性（小さい子どもがいる施設である）を周知してほしい。
・初めての実習でもないのに実習日誌を翌日の朝、提出できていない。指導者が「昨日の日誌は？」と聞くとまだ書けていなかったりする。指導案の提出日にきちんと提出できず、指導者も確認、訂正ができないまま実習本番となったことがある。社会人になるにあたり期限を守るということはきちんと身につけてほしいと思った。基本的なことだと思います。
・あぐらをかく人が多いように思います。行儀が悪い人は困ります。
・挨拶を徹底し、毎日一生懸命取り組んでほしい。失敗を恐れずに何にでも挑戦してほしい。養成校で言葉遣いを学んで実習に臨んでほしい。
・実習記録の取り方が大まかすぎた。環境構成など、何のためにそのようにしているかという意図が配慮にあがってこない。
・あいさつ、身だしなみなど、人として最低限の事は出来ていてほしい。（つめを切る・毛は結ぶ等）
・基本的生活習慣が身についていないこと。箸の持ち方、スリッパを揃える、活動しやすい衣服を身に着ける、食べ方、挨拶、返事など。
・実習記録の提出日に持ってこなかった事がありました。待てど暮らせども連絡もなく、こちらから学生に連絡したが、それ以降も音沙汰がなく結果的に学校に連絡し対応してもらった。
・時間は守る、提出物は遅れない。謙虚な姿勢を忘れない。
・記録の書き方や社会人としてのマナーを指導していました。
・社会的なマナーが身についておらず、子ども達に悪影響を与える事があった。

・基本的な指導案の項目の用語について理解しておいて欲しい。「ねらい」「内容」「配慮」などの意味を分かっておいて欲しい。時間を守って欲しい。一定レベル以上、理論を学んできて欲しい。
・現場で実習することで、将来への目的が明らかになる場合もあると思うので、受け入れ側も意欲がもてるように配慮をしているが、するからにはそれなりの意欲を持ってきて欲しい。
・実習日誌を出さない学生がいた。
・将来の自らの生活設計の手段としてこの職を選ぶのであれば、自らの責任として基本的な社会人としてのマナー、常識などを身につけてから実習を受けて欲しい。
・挨拶のできない実習生が増えてきた。
・根本的なマナーや常識がない実習生がたまにいて、がっかりする。常識はずれの子や学ぶ姿勢が無い人にはそれなりに指導して実習に来させて欲しい。こちらも育てたいと思い受け入れているのに、やる気がない子の指導には疲れと手間だけ生じ意味がないと思える。
・記録の書き方、指導案の書き方が全くわかっていない実習生が多い。基本的な書き方は学校でしっかりと指導してから現場に来て欲しい。
・あからさまに保育園には、就職しないことを言う学生がいるので、指導する立場からすると心構えとしてもう少し謙虚な気持ちで臨んでほしい。
・意欲をもって子どもたちに接していただきたい。
・男子学生に多く見られることとして、園庭で本人が走り回りすぎて他の子どもが危険。公園の木の枝を折る（ふざけてぶらさがる）、子どもたちを盛り上げようと思って、大きな声で歌ったり騒いだりする。過去の困った学生の事例ですが、「実習させてもらっている。」という謙虚な気持ちやマナーを心得てもらいたいと思います。
・学ぶ意欲がない人がくる。事前にしっかり意識を持たせてほしい。
・ほとんどが学ぼうという意欲をもった実習生だが、たまに免許取得だけのために来ているのであろう実習生もいる。それはそれでもかまわないが、それを堂々と言われると指導する側の先生としては残念に思う。SNS 等で実習中の感想をつぶやく実習生がいる。個人情報まではつぶやいてはいないが実習がしんどい、つかれる、などというつぶやきはどうかと思う。
・実習ノートの提出が守れなくて、中身が途中記入のまま提出したりしたこと。（その日の実習中に記入する時間を取ったりして実習ノートの続きを書いてもらった。）
・基本的なマナーや態度を身につけて欲しい。
・ピアノはたどたどしくても、弾けるようにしておいて欲しい。
・実習記録や口答で改善して欲しい点を伝えても、何度もミスを繰り返したり、改善が見られなかったりすることがあるので、こちらが伝えたことは直して欲しいと思う。
・大多数の方は真面目に取り組んでいますが、中には本当に保育士を目指しているのかと疑いたくなる様な学生もいた。指示には従えるが、自ら考えて行動したり、分からないことを積極的に聞こうとする学生が減ってきている様に感じる。
・設定している目標が高いことが多く、何をしても失敗したように感じて自信を失くそう失くそうとしているように感じる。そのことに気を使い腫れ物に触るように接しないといけないような場面がある。

・実習生自身が自信を持てずに不安や心配をかかえて実習にくることがあり、実習そのものよりも、とりあえず学生自身のサポートにまわっていることがある。関わって行くうちに変化を感じ、自信や達成感を得られていくのを見るのは嬉しいが途中で辞めてしまわないかと不安になることがある。病気ではないが常にマスクを使用している子、表情が分かりずらく言葉も伝わりにくいよと指導するがなかなか外せない。
・時々子ども主体でなく自分主体で動いたり話したりする。
・自分から関わることが少なく、園全体で取り組んでいる時もじーっと立っているだけという子もいる。
・意欲・積極性が感じられない。提出物、準備物の期限を守らない。
・指導計画を書いてもらうが内容が簡潔（？）すぎることが多い（日誌も）。繰り返しの文章を並べるばかりで視点が低いと感じることが多い。（その都度指導はしているが）
・実習で学ぶことはたくさんあります。もっと子どもに興味を持ち積極的に関わり、実習の時間を充実したものとなるように意欲的な態度で臨んで欲しい。学ぼうとする意欲があれば質問は多くなるが問いかけや質問があまりにも少ない。
・今の時代、パソコンが主流になり字を書く機会が少なくなっています。変換もパソコンがしてくれるので書類を出されると誤字が多く、そこを注意するのも大変です。また、書いたものを読み返す事も減っているのでその辺を改善して日本語を大切に覚えていって欲しいと感じます。
・実習記録で流行り文字や誤字が目立つ。記録のとり方などもう少し学んできて欲しい。社会的マナー（挨拶、言葉使い、姿勢など）は最低限身に付けておいて欲しいです。
・この頃の実習生は、新しい手遊びや日案の書き方などあまり知らないので驚いています。もっと大学などで勉強して欲しいものです。
・実習に来るということで、ある程度保育準備をしてもらいたい。例えば「手遊び」「うた」や年齢に応じての絵本えらびなど。全日実習につなげていくために自分の考えをしっかりと持ってのぞんでもらえたらと思う。毎日していることで（最初は説明してからやってもらうが）言われなくても自分から気づいて動いてもらいたい。いつも声をかけないとしてくれないことが多い。（例　食事の準備、食後の掃除など）
・実習日誌や指導案を丁寧に記入してほしい。教材研究をしてほしい。
・見学観察実習の認識が違うのか、メモを持って１日観察しようとする実習生があり、学校の指導がどのようなものか知りたいと思ったことがあった。また、保育士は子どもと接することだけが仕事ではないので、掃除などの環境整備などにも目を向けてほしい。
・実習記録の書き方については、もっと養成校で学んでおいてほしい。
・もう少し、各年齢の発達を学んでから実習してほしい。指導案を立てた時に全く目の前にいる園児の発達でないものを立てる実習生がいる。
・実習に二日酔いで来た男の子がいましたが、次の日から来てもらわない様に学校に伝えて頂きました。
・実習記録や指導案の書き方がよく分かっていないようで、環境構成や援助等どう書けばよいのか養成校でしっかり勉強してから実習に来てもらいたい。
・指示待ちが多い。積極的に行動して欲しい。
・“子どもが好き”と思ってもらえるよう受け入れ指導をしていますが、本人のやる気が全く感じないと指導する意味を考えてしまいます。

・「実習の手引き」はあってもそれを一読していない。また実習記録に何を書くのかを理解できていない人がいる。「たばこ」の臭いをプンプンさせて来る人がいた。
・意欲というか受身ではなく、自ら行動や考えたり発想したりして欲しい。
・実習の準備をして欲しい。（手遊びを覚える、季節の歌、遊びを知る）（実習のノートの書き方、本を購入する・学校の本など目を通す）など。
・友達と二人で来る時に、緊張感があまりないようで真剣味がない時があるので、実習生にしっかり話をして欲しいです。また実習記録（実習終了後）をできるだけ早く取りに来て欲しいです。
・実習記録をいろんな保育士は時間がない中、丁寧に見て訂正したりアドバイスを書いたりするので、せめて訂正された所等、次の日から気をつけて直してきて欲しい。
・どの学生も研究心が無い。実習が受身な学生が多い。学校でも実習に行く前にそういったことはオリエンテーションしていると思いますが、そんな学生が増えている。時代が変わったのでしょうと思うようにしているが、養成校の先生が今の現場状況を知っていない指導をしている様に感じる。
・実習記録が書けない学生がいる。（養成校により）
・学習意欲が無い。
・実習生によりますが指示を待つのではなく、積極的に取り組む姿勢が欲しい。
・個人差もあるが言われたことはやるが、自らといった積極性に欠ける生徒が多い。
・学びたいという意欲が薄い学生さんが増えてきているように思う。
・園側の指示に従わない。（例）ウィルス性の病気の疑いがあるのに病院に行かず、休みを与え受診を促しても自己判断で行かず次の日に出勤した。
・「こども園では仕事したくない。幼稚園がいいです」とはっきり言った学生もいましたが、最低限思っていても口に出さない指導をお願いします。自分の気持ちも黙っておけないのであれば守秘義務の仕事に就く事は大丈夫なのか？と考えてしまいます。「もう、就職が決まっているので」等も同様。
・園に実習に来られる学生さんは一生懸命学ぼうとする姿が見られる方が殆どです。個人によりますが、自分で考える前に職員に意見を聞く方がいました。その方は実習にのぞむ姿も気になり、直接声をかけさせて頂きました。
・実習記録で訂正や指導があった箇所についてはその後の実習記録に反映して頂きたいと思います。
・実習するうえでの視点や何を観察するかといった事が分からない。あまり考えていない実習生もいるので、そういった事は事前に養成校で学んできて欲しい。
・指示しないと動けない。床にベタッと座って、動かない学生がいた。
・実習中は園の方針を理解し、積極的に学ぶ態度が必要。実習に来た学生が自分は保育士にはならないと言った時は指導するにも力が入らなくなるし、時間や場所を提供しても徒労に終わってしまう。
・保育士を目指していない実習生、やる気のない実習生を受け入れても指導する気持ちになれない。時間が無駄になる。
・こころざしをもって実習に臨んでほしい。
・態度等で困ったことはありません。素直な子が多いです。が、向上心に欠ける方が多いと感じます。その点がもう少し改善できればと思います。

・提出される文書の書き方が指導できていないので、基本的なことからの指導に困ったことがある。
・実習生それぞれ、性格等は違うが、挨拶や返事、子ども達や保護者に対しての態度など、丁寧で声も大きいと安心できます。指示したことが分からなかった時など、自分で判断して行うことなく、何度でもたずねてもらえると嬉しいし、実習生も職員にとっても良い経験となると感じる。
・実技面では子どもたちに披露できるような手遊び等、学校で教えて欲しい。ピアノも実用的なものを勉強してきて欲しい。指導案や記録の書き方をしっかり勉強してから来てほしい。
・やる気のある実習生は大丈夫ですが、全くやる気のない考えない実習生が来た時の対応に困る。
・具体的な目的を持ち、積極的に実習に臨んでほしい。保育実習Ⅱでは部分実習・全日実習があるので、内容も含めていくつか案を持ち、実習に入る。また指導案の書き方の基本的指導は、大学でして欲しい。実習記録等で書き方を学生に尋ねても、大学から指導を受けていない様に答えることがあった。
・実際に子どもの前に立って実践することはとても勉強になると思いますので、実習に来るにあたって手遊び、絵本の読み聞かせ等、簡単なものを準備してきていただけたら、こちらは出来るだけ時間を取って行っていただくようにします。有意義な実習期間にしていただきたいと思います。
・スマホに頼らず、字や文章を書くことを日常の中で積み重ねて欲しいと思います。計画書や報告書などはもちろん、保護者とのやり取りや関係機関とのやり取り等、社会に出れば一個人ではなくなるという事を心に留め、丁寧に分かり易く、次に繋がるように書くことを心掛けて欲しいと思います。特に実習記録、保育実践の計画は自分のために生かして欲しいです。
・前向きな姿勢だけは持って頂きたい。義務で来られると指導も聞いていただけず、担当者の負担が大きい。
・80 時間にこだわり、実習時間の計算ばかりして実習の内容より時間の方を大事に捉えている人がいて困った。巡回してこられる先生が保育所の事を理解されていなくて「80 時間に足りなかったら日曜日に実習させていただいてもいいです」と言われ、「日曜日は保育所はお休みなんですが…」と回答した。少しあきれるようなことを言われて、先生ももっと学んでいただきたいと感じた。
・養成校からのできるだけ詳しい内容で、どのように指導させて頂いたら良いかと提示して頂けるとありがたい。養成校側もこちらに気を使って下さり、園のやりやすい方法で！と言われることがあるが、決まっている方がそのように出来るので具体的な実習内容を決めて頂きたいと思う。
・特になしですが、笑顔があればよいと思います。
・実習の期間によっては行事前等で部分実習や全日実習の時間が作れないことがあり、評価にも困る。
・実習記録の環境や援助・配慮の内容が薄いため、学校でも指導して頂きたい。例）何のためにこのような配慮や援助をしているのか分かっていない。

・来てもらっているだけで嬉しいです。実習生による園評価もフィードバックしてもらえたら嬉しいです。
・現場に来て初めて自分の就職について考えるといった感じが多くて、大学で就職への意識を持って実習に参加する気持ちを高めていただけると、もっと積極的に周りを見ようとしたり、自分から職員に質問したりといった姿が見られるのではないかと思う。
・実習生から学ぶこと、反省すること、課題が見つかることが多いですね。
・最近はメンタルの弱い学生、知識はあるが実際現場に入ると知識と一緒にならない為、保育・教育が展開できない学生が少し増えているように感じる。その為、声をかけると泣いてしまったり、子どもの目線になって一緒に遊んだりする事ができなかったりする姿があり、対応・指導の仕方に困る事がある。失敗しても良いのでチャレンジ精神を持って実習に臨み有意義な実習期間を送って欲しいと思う。
・記録、計画等の考え方を養成校でもう少し指導していただけたらと思います。
・指導案の書き方の指導は徹底して欲しい。
・実習以外でボランティア活動にも積極的に参加して欲しい。実習期間に行事が多くあまりにも受け入れが厳しい…。もう少し期間を長くして欲しい。
・記録の書き方がこれで良いのか判断がつきにくいのでマニュアル等があれば助かります。
・個々によって色々だと思いますが、園はその都度どうするか対応するしかないのかなと思っています。学校も個別対応には限界があると思います。今の学生の状況に合った実習の目的や内容とはどういうことなのか、ふと考えてしまいます。
・保育士になりたいと思い実習に来ている子が殆どだと思うので、実際に現場で子どもを目の前にして保育は上手くいかない事が多いとは思いますが、大変さが分かり更に勉強しようとする意欲につなげ、より保育士になりたいという夢に向かっていくよう、送り出したいと思って指導しています。養成施設と連携し就職に繋げていってもらうと嬉しいです。
・実習生によって色々ですが、初めての実習の時のノート（記録の書き方）については、しっかりと指導しておいて欲しい。
・意欲的に取り組んでいただければ大歓迎です。

35. 養成施設に関して、直接言えないような困ったことや改善してほしいこと、要望があれば教えてください。

・最低限のマナー（あいさつや身だしなみ）は伝えておいていただき、ノートは必ず次の日に提出してもらいたいです。こちらも時間を作ってノートを見ているため、まとめて提出されると大変である。
・最低限の言葉づかいや挨拶、マナーについては、大学からも学生に指導していただけたらと思う。
・突然電話をしてきて「いつ実習受け入れが可能ですか？」といきなり聞いて来る事があった。突然電話で言われてもすぐに答えられる訳でもなく、もう少し依頼の仕方もあるのでは？と思えることもある。「園長は今少し手が話せなくて申し訳ないが後日、もう一度お電話いただけますか？」と答えたところ、後日になっても電話が無かった。ではあの依頼は何だったのかと思う。
・挨拶は恥ずかしがる方が多く、はっきりと言えない方が多いので基本姿勢として指導をお願いしたい。
・保育士としてはもちろん、人としての人間力を育ててもらいたいです。
・挨拶、言葉遣いなど基本的なマナーを社会人としてしっかり身に着けて、実習に臨んでほしいと思う。
・実習前に施設でどのような態度で臨むのがふさわしいのか、きちんと指導して欲しい。適性もやる気もない人を受け入れた際は、現場や子どもたちに乱れだけが起こり実習生の育成以前の問題と思える。何のためにきてるの？？と。
・挨拶はもちろんの事、人としての気遣いが出来ない子が今多いのではないでしょうか。気遣いは子どもへの気遣いに繋がっていると思います。また、自信を持っている事は良いのですが謙虚さが無い子も多いように思います。そのあたりの指導・改善をしていただきたいです。
・将来の自らの生活設計の手段としてこの職を選ぶのであれば、自らの責任として基本的な社会人としてのマナー、常識などを身につけてから実習を受けて欲しい。全体的に養成校での教育の充実を望む。教科書だけの教育ではなく、現場の事を想定した学生への指導を願いたい。特に４年生と短大のレベルが違いすぎる。
・実習生が就職につながったことがないのですが、就職１年目の職員に服装、言葉遣い、提出物の期限、出勤時間を守るなど、社会人としてのマナーを指導しなければならない。面接では適切な受け答えが出来るのに実際は違う。実習と面接の攻略方法だけを教える、では困る。“優”の学生だけでなく“可”の学生にまで指導をしていただきたい。
・授業態度が悪い、極端にコミュニケーション能力がない、実習で迷惑をかけるであろうことが分かっている、等。学校内で実習に送ることに不安を持っている生徒の場合は園に預けないでほしい。実習生を受け入れるということは、園としてはしっかり指導し、いい先生になるために期待して接している。指導日誌等も忙しい中きちんと見て指導を行っている。気持ちとしても後輩を育てたい。という気持ちで時間を作り指導に当たっている。養成施設側もそんな園でどう実習を行い、学んでいるかをきびしく指導してもらいたいと思う。過去にあったのは、実習ノートを出さずに実習を終えてしまった。遅刻が多い。ハデな車で園の門の前まで送迎。大学から来られた先生の前で「勉強してい

ないから実習ノート書けない」等と堂々と言うことがあった。これらの場合でもその子の将来を考え最低限の点数は与えてきた。保育士不足といっても全ての学生に免許や資格を与えるのはどうかと思う。
・実習前に養成施設から「本人が学校を辞めたがっているが実習に行けば変わると思うので受け入れてほしい」と電話があり受け入れました。結局実習 3 日目で来なくなりました。1 日目、2 日目と一生懸命指導して記録を記入した職員の時間を思うと、学生さんを大切に思う気持ちも分かりますが、園の事も考えて頂きたいです。
・挨拶のできない実習生が増えてきた。
・実習に参加する学生は保育について学びたいだろうと理解しているので、担当保育士は精一杯対応するが、学生も保育の事を学ぶのだと心構えを持ってきてほしい。
・全て園に任せるのではなく、せめて実習生が希望する内容や、やってみたい事を 1 つ、2 つは出してほしい。
・積極的な子は何をしてもやる気が見える。保育士のいる所でだけ動く子もいる。実習の反省会をしたら指導しているだけなのに泣く子がいる。評価しにくいが、落とすわけにいかないので困る。
・ピアノの授業は 2 年間しっかりとしてほしい。
・保育者不足なので、「実習生さまさま」状態。その意識が実習生の態度姿勢に現れ「実習してやっている」感の実習生もいます。
・就職する気のない実習生でも、地元の園で実習することを進めているが、まったく気持ちの変わらない実習生に対しては養成校の園で実習させてほしい。
・あらかじめ実習生の特性を教えて頂きたいです。トライやるウィークの様な自己紹介カード。
・実習の準備をして欲しい。実習ノートの書き方のレベルに個々で大きな差があるので同じくらい書けるようにして欲しい。実習中の勉強する学び所としてどういった所をみていくか、保育士の関わり、保育の流れ、準備の仕方、環境構成など保育士の意図配慮に目を向けるようにして欲しい。
・実習の目的をしっかり理解できる指導をまずはお願いしたい。
・養成施設を卒業したら誰でも保育士になれるイメージがあるようです。しっかりと教育をして頂き、保育士の質向上の基盤を底上げできるようにお願いします。
・カリキュラムの書き方などの指導を事前にきちんとして欲しい。年々、知識が薄くなっていると感じる。
・実習記録で流行り文字や誤字が目立つ。記録のとり方などもう少し学んできて欲しい。社会的マナー（挨拶、言葉使い、姿勢など）は最低限身に付けておいて欲しいです。学校で指導して欲しいです。
・記録の書き方、指導案の書き方が全くわかっていない実習生が多い。基本的な書き方は学校でしっかりと指導してから現場に来て欲しい。
・実習生が育つ為の学校側のねらいや要望をはっきり示して欲しい。園側に任せると言われても学校で学んだ記録のとり方が園の指導と異なると実習生が困惑する。授業で実習記録の取り方や文章の作成のコツ、保育のねらいや活動の重要な視点を十分に学んでおくと、実習生は精神的、時間的にも楽になると思う。毎日 5 時間を要し毎日修正され、後半はフラフラで気の毒です。

・実習記録の書き方については、もっと養成校で学んでおいてほしい。
・具体的な目的を持ち、積極的に実習に臨んでほしい。保育実習Ⅱでは部分実習・全日実習があるので、内容も含めていくつか案を持ち、実習に入る。また指導案の書き方の基本的指導は、大学でして欲しい。実習記録等で書き方を学生に尋ねても、大学から指導を受けていない様に答えることがあった。
・実習記録の統一をして欲しい。
・評価表で毎日の実習記録のコメントの他に保育実習の担当保育Ⅰから実習生に対する総評のような事を書かせる学校があります。時間の無い中評価表コメンで、学生に向けてのコメントは実習記録だけにして欲しいです。
・実習記録の書き方を指導して欲しい。
・実習生も受け入れの指導者も一番大変なところは実習記録です。予め授業で学ぶ機会があればこちらも負担無く指導することができます。授業で具体的にご指導いただければ嬉しく思います。
・実習記録の書き方の指導が不十分な養成校がある。
・実習記録は大切ではあるが、朝・夕など同じ活動になっているので、設定（午前中の保育）時間を重視して記入してもらっています。時系列で記入することよりも、一日の振返りをして気づいたことや、子どもとの関わりについて記録を付けてもらうことで就職しても役立つような記録の書き方にしてもらえればと思います。指導案は勤めても記入するので、部分実習や半日実習の際に必要だとは思います。
・記録の再提出は過度でなければ必要なのではないかと思うことがある。
・評価しにくい項目があったり、点数にできないことがあったりで難しく感じることがある。本当に保育を学びたい人に来ていただきたい。
・書き方を大学の方でもう少し教えて欲しい。（どの子も良く似た文章である）
・評価票は各養成校の様式で評価しているが、点数の配分が様々だったり、つけ難かったりするところがある。5段階くらいがつけやすいように思う。
・実習日誌の書き方や指導案の書き方を教えておいてほしい！養成校ごとの様式があるとは思うが、書く内容は同じだと思う。
・実習ノートを手書きで記入するのは当然のことのように行われており、それも実習する上では必要なことかもしれませんが、指導案（保育日案）については、今は現場は全てパソコンで作成しているので、できればパソコンで作成する方法も指導しておいてもらえたらと思います。
・実技に関し、絵本の読み聞かせ方、いつでも子どもが集中するきっかけとなる手遊び、歌などは信頼のきっかけにもなるので勉強してもらえた方がよいと思います。実習ノートの簡略化を希望します。実習生担当の職員も負担になっています。
・実習ノートの記入の仕方で困っている実習生さんが多いので、もう少し具体的な指導をしていただけるとありがたいです。
・実習時期を学校が決めて日を申し込んでくる。受けるしかないので、時期を選ぶか、いつ頃が都合がいいか園に尋ねて欲しいと思う。
・学校によって、実習費の要不要を問われることがあるので困惑する。保育士になるつもりはないと公言する実習生の対応に困る。
・実習生が園に向かう途中で事故にあったことがあり、そのことを養成施設にこちらから

伝えたが、「怪我がなくて良かった」というコメントだけで正直驚いた。事故の現場を聞くと最初に聞いている住所ではないところからの道であったこともあり、余計に心配で不安な気持ちになった。学生さんの実習にのぞむ心得など指導していただきたい。
・もう少しカリキュラムなどの知識をしっかりと教育されたい。
・実習内容について、いろいろな指示があるとやりやすい。
・どこの施設もそうだと思うが、保育以外に行こうと思っているのであれば実習のあり方も考えてほしい。一生懸命指導をしてもつながらないのはあまりにも業務の負担になってしまう。実習費が学校によって違うのはなぜなのでしょうか。
・個人差がありますが、コミュニケーション能力が低い生徒については関わり方や指導（具体的）を事前に知らせてほしいです。また、残念ですが保育士に向かない生徒に対しての指導がないこと、その趣旨を伝えたところ学校側は運営のことや卒業させることだけしかなかったことに残念でした。やはり資質を見極めることも大事だと思います。
・大学側より、実習前に実習生の妊娠が分かり、体調は悪くないので実習を受けてもらえないかとの問い合わせがあったが、園は受け入れを断った。
・やる気のない学生を実習させること。職員は熱心に指導しても保育実習Ⅱには来なかったりする。それぞれ事情があると思うが受け入れ側の気持ち（職員）も考慮して欲しい。
・養成校によって評価表の項目、基準が違うこと。巡回にきた時に学生に対する指導が短い方がいる。実習生の気持ちなど少し伝えてくれると学生とコミュニケーションが取りやすく思う。実習依頼の電話連絡で、学生がマニュアル通りに話すのは良いが、融通がきかずこちらも戸惑う。
・実習は運動会前とかの行事前が多いのですが、その時期はやめてほしいなあと思う。
・夏に実習が重なって、10 人以上になってしまうので、他の実習等がある事も分かるが、すべてのことに支障がでてくるので時期を他大学と連携して決めてほしい。ロッカー、休憩室の準備、オリエンテーションの対応、書類などを見て指導するのも混乱します。大学も３か所ぐらいの重なり程度にして欲しい。
・巡回に来られる際、時間を一応指定しているのだが、最も忙しい食事や午睡の時間に来られるのは困る。すでに保育に自信を持てなくなった実習生がいるので養成校に「自信を持たせてあげて下さい」という旨のお話をしたら、次回の実習が変更になった。
・行事前に実習に来られることが多く、実習生にゆっくり指導できない事があるので、実習期間を園と相談して決めていただけたらいいのですが。
・子ども「主体」や「プロジェット型保育」について養成校の授業内容に取り入れられている学校もあるが、聞いたことがない学生の方が多い。園では個を大切にした保育を行っている為、学生が思い描いている保育とイメージが違い、戸惑いがあるのではないかと感じる。
・実習Ⅰの部分（設定）実習は参加をどこまでしてもらうといいのか、わからない。養成施設から預かった書類内容と実習生の意見が違うため。例：学校「設定、絵本、ピアノをしてもらってもよい」実習生「実習施設でまかせると言われた」など受け取り方が違うので設定をするならすると生徒にも伝えておいてもらえたらありがたい。
・1 月～3 月頃の実習はできれば避けてほしいと思います。
・評価票ですが、不合格と感じる方にもふつう（合格ライン）で評価を提出する。不合格で評価されても問題はないと思うが・・・。

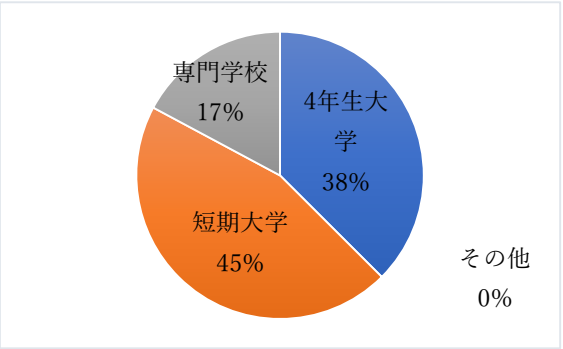
・「学習意欲が無い」を伝えているが、それによって園の事を悪く言われるのであれば心外である。
・学校側での対応も事務的で全く誠意が感じられなかった。
・本当に保育士を目指す方を受け入れたいと思います。
・「単位さえとらせれば良い」というような実習になってはいないでしょうか。生易しい実習はダメだと思います。社会の現実をしっかり体験すべきです。子どもの大事な命を預かっているのです。ギリギリの職員配置の中、学生（ですが）気分で実習に来られ褒めてばかりはおれません。大学でももっとしっかり信念を育ててください。実際、就職してから潰れてしまいます。それとも就職率を上げるために優しい実習をと願っておられるのですか？子どもたちのために「こういう実習をさせてくれ」という大学の思いが伝わるような事前説明が欲しいです。
・メンタル面、身体面で少し障害を思われる生徒さんは事前に知らせていただきたい。他園での困った状況を聞くが、学校側から何の情報も無い。子どもの命を預かっている場なので、情報は共有し受け入れたい。
・評価の方法（実習生の）が分からない。養成校側からも週 40 時間（1 日 8 時間+休憩 1 時間）で実習を行う体制をとって欲しい（80 時間以上実習をしない）
・実習期間中に訪問で様子を見に来られる大学もあるが、初めから遠方なので訪問は出来ない、と連絡がある場合がある。実習担当の先生も配置されていると思うので、それはどうなのかな？と思う。
・実習園についてホームページ等でどんな園なのか、何を大切にしているのか等、事前に調べておき積極的に実習に取り組んで欲しいと思います。学生一人一人ができるだけ明確に目的、目標を持って実習に臨めるようサポートをお願いします。誰でも得手不得手がありますが、支援の必要性を感じる学生さんもおられます。適性と言う点での見極めは大変難しいと思いますが、ご本人の為にもよく話し合っていただければと思います。
・養成校の先生に来て頂ける事は有難いのですが、あまりにも「大丈夫か、大丈夫か」と過保護に心配されているようにお見受けします。(こちらに対して「心配な点があるので、よろしく」であれば分かるのですが）何も無理な事はさせていませんし。本人と「大丈夫か」との連絡が取りたいのであれば個人的に電話をしてはどうでしょうか？園側も行事等多い時期もありますので、「大学の先生の数も少なくなってきて施設を回るのが大変なんです」と言われるのであれば呼んでいる訳ではないので来られなくても良いのではないでしょうか？電話でもできる話かと思いました。
・「保育は楽しく！」と伝えてください。
・実習においてはどこまでの指導が必要なのか、何を基準に評価をすれば良いのかはっきりしないので、園の主観になっている。果たして実習生にとって良いのかどうか、疑問に思う。
・養成施設の方に気になる事があった場合はその都度お伝えできています。

養成校（B）

保育士養成校を対象としたアンケート　結果

1．貴学の種類について教えてください。

回答欄	件数	%
4 年生大学	24	37.50%
短期大学	29	45.31%
専門学校	11	17.19%
その他	0	0.00%
合計	64	100.00%

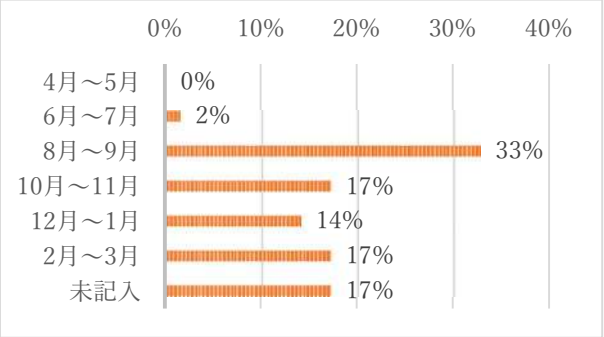


2. 貴学生徒の実習時期は決まっていますか？

回答欄	件数	%
決まっている	64	100.00%
決まっていない	0	0.00%
合計	64	100.00%

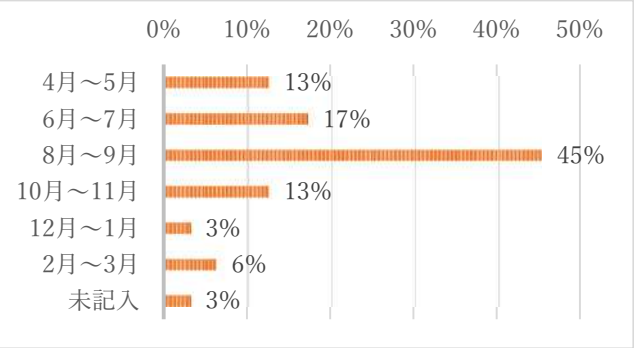
2-2. 決まっていると回答した場合、保育実習Ⅰはどの時期に実習を設定していますか？

回答欄	件数	%
4 月～5 月	0	0.00%
6 月～7 月	1	1.56%
8 月～9 月	21	32.81%
10 月～11 月	11	17.19%
12 月～1 月	9	14.06%
2 月～3 月	11	17.19%
未記入	11	17.19%
合計	64	100.00%



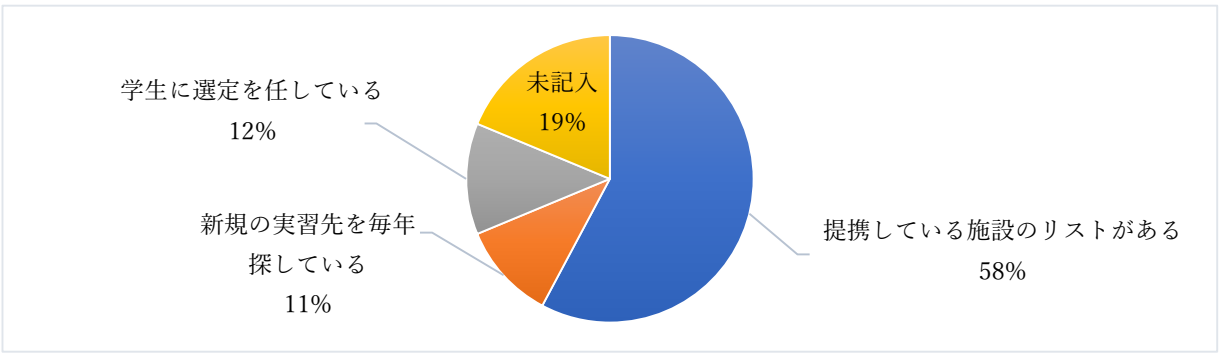
2-3. 決まっていると回答した場合、保育実習Ⅱはどの時期に実習を設定していますか？

回答欄	件数	%
4 月～5 月	8	12.50%
6 月～7 月	11	17.19%
8 月～9 月	29	45.31%
10 月～11 月	8	12.50%
12 月～1 月	2	3.13%
2 月～3 月	4	6.25%
未記入	2	3.13%
合計	64	100.00%



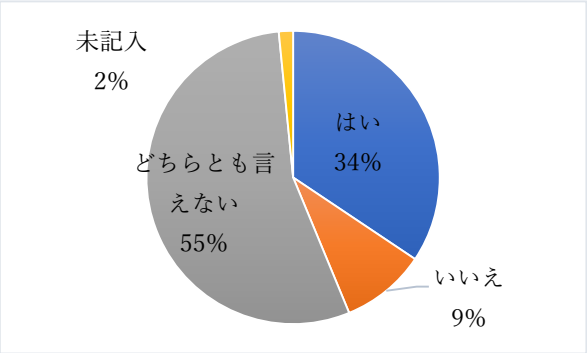
3. 保育実習の施設はどのようにして決定していますか？

回答欄	件数	%
提携している施設のリストがある	37	57.81%
学生に選定を任している	8	12.50%
新規の実習先を毎年探している	7	10.94%
未記入	12	18.75%
合計	64	100.00%



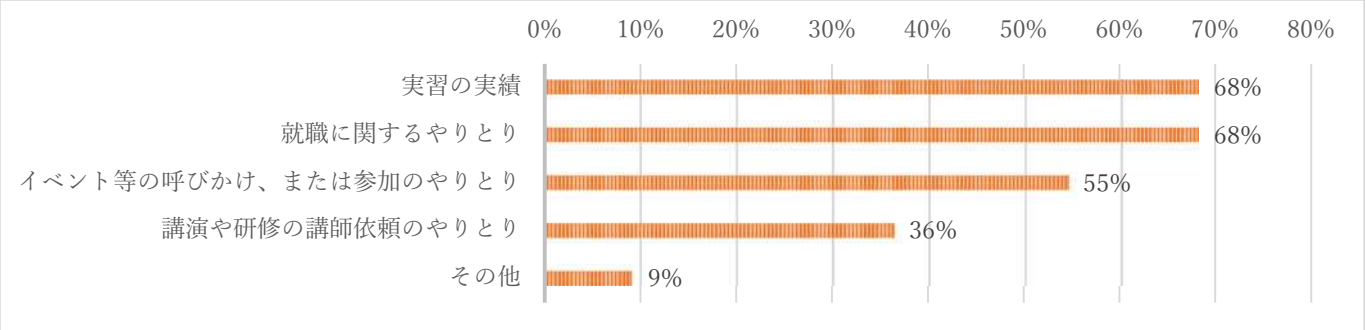
4. 実習先は普段から交流のある施設ですか？

回答欄	件数	%
どちらとも言えない	35	54.69%
はい	22	34.38%
いいえ	6	9.38%
未記入	1	1.56%
合計	64	100.00%



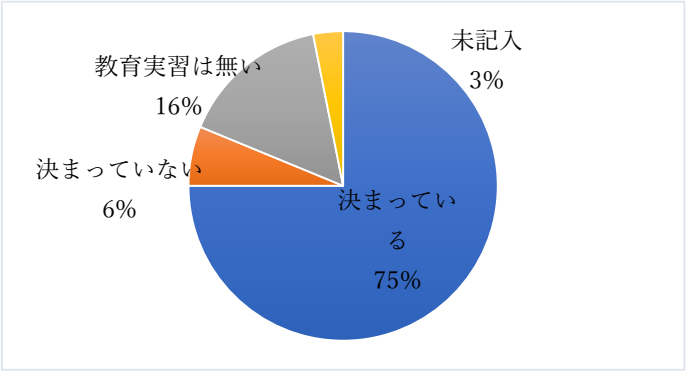
4-2. はいと回答した場合、普段からの交流はどのようなことが多いですか？（複数回答可）

回答欄	件数	%
実習の実績	15	68.18%
就職に関するやりとり	15	68.18%
イベント等の呼びかけ、または参加のやりとり	12	54.55%
講演や研修の講師依頼のやりとり	8	36.36%
その他	2	9.09%



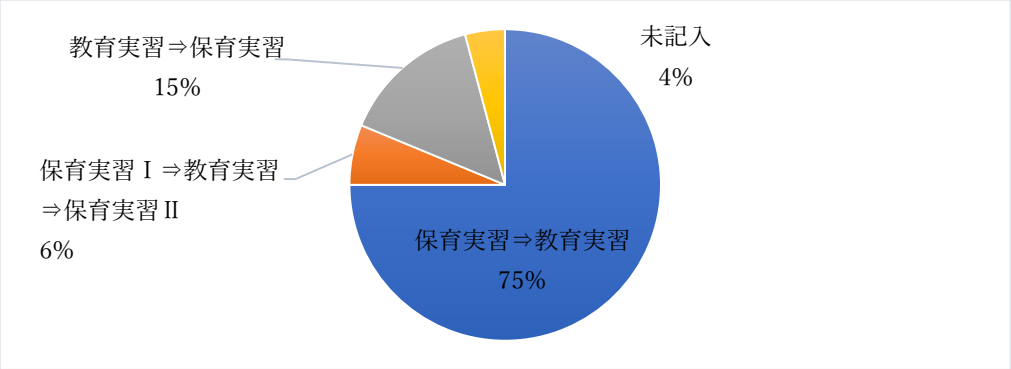
5. 保育実習と教育実習がある場合、実習の実施する順番は決まっていますか？

回答欄	件数	%
決まっている	48	75.00%
教育実習は無い	10	15.63%
決まっていない	4	6.25%
未記入	2	3.13%
合計	64	100.00%



5-2. 決まっていると回答した場合、その順番と理由を教えてください。

回答欄	件数	%
保育実習⇒教育実習	36	75.00%
教育実習⇒保育実習	7	14.58%
保育実習Ⅰ⇒教育実習⇒保育実習Ⅱ	3	6.25%
未記入	2	4.17%
合計	48	100.00%



★「保育実習」⇒「教育実習」と回答の理由

◆カリキュラムの都合・・・12 件

◆発達の過程・・・・・・・４件

◆その他・・・・・・・・・３件

・実習担当者ではないのでわからない。
・保育園のほうが指導が柔軟だ（と思う割合が高い）から。
・学生の負担を減らすため。

★「教育実習」⇒「保育実習」の回答の理由

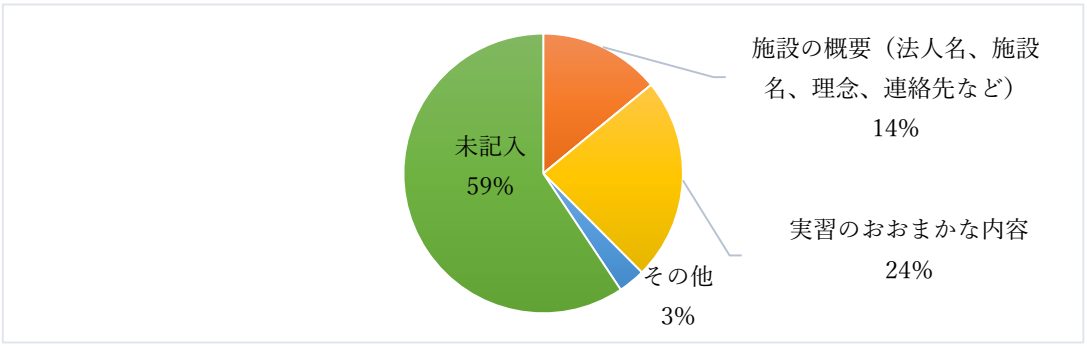
・どちらの実習も毎年時期が決まっているため。
・以前より学校のカリキュラムにおいて決められているので、個人的な理由としては分かりません。
・幼稚園で隔週実習を経験してから保育実習Ⅰに行くようにしている。
・附属幼稚園があるため。
・特に理由は無い。

★「保育実習Ⅰ」⇒「教育実習」⇒「保育実習Ⅱ」

・教育実習は 4 週間なので、その前に 10 日間の実習経験は必要だから。
・教育実習に 4 週間まとめていくまでに保育所実習の経験が必要と考えるから。
・3～5 歳児の実習後に 0～未満児の実習の方がスムーズであるため。

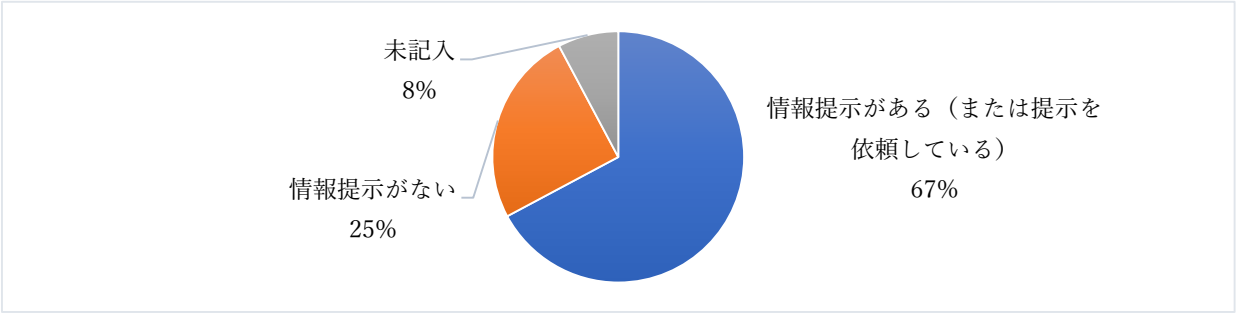
6. 実習前で知っておきたい施設の情報はどのような内容ですか？

回答欄	件数	%
実習のおおまかな内容	15	23.44%
施設の概要（法人名、施設名、理念、連絡先など）	9	14.06%
知りたい情報はない	0	0.00%
実習の担当者名	0	0.00%
その他	2	3.13%
未記入	38	59.38%
合計	64	100.00%



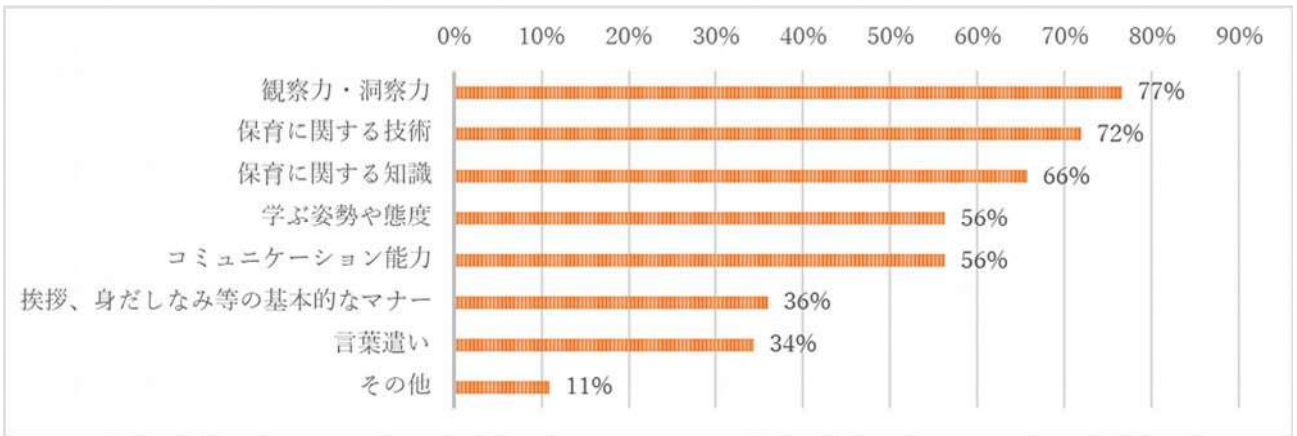
7. その情報は事前に施設から情報の提示がありますか？

回答欄	件数	%
情報提示がある（または提示を依頼している）	43	67.19%
情報提示がない	16	25.00%
未記入	5	7.81%
合計	64	100.00%



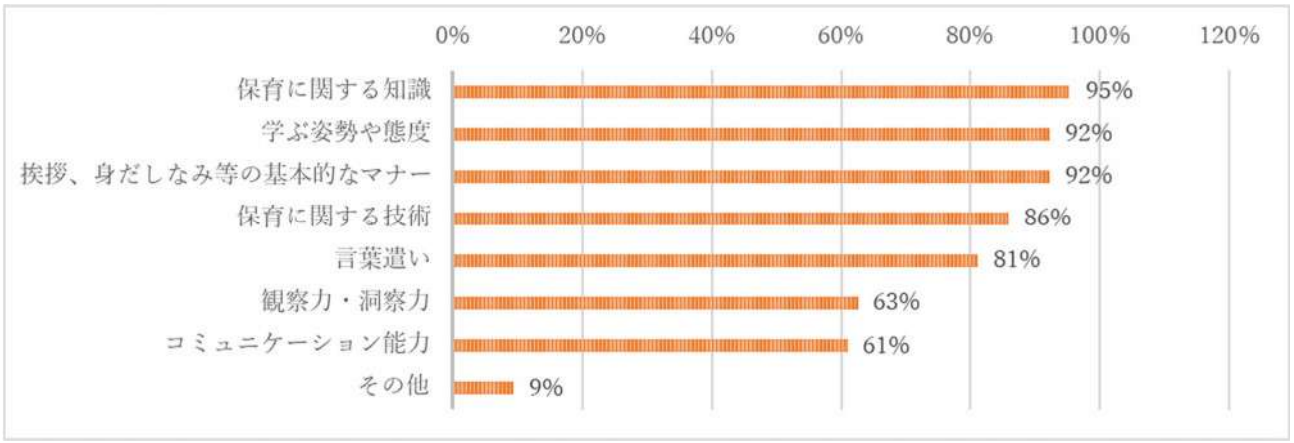
8. 実習生が保育実習後に身に付けていて欲しいことを教えてください。（複数回答可）

回答欄	件数	%
観察力・洞察力	49	76.56%
保育に関する技術	46	71.88%
保育に関する知識	42	65.63%
学ぶ姿勢や態度	36	56.25%
コミュニケーション能力	36	56.25%
挨拶、身だしなみ等の基本的なマナー	23	35.94%
言葉遣い	22	34.38%
その他	7	10.94%



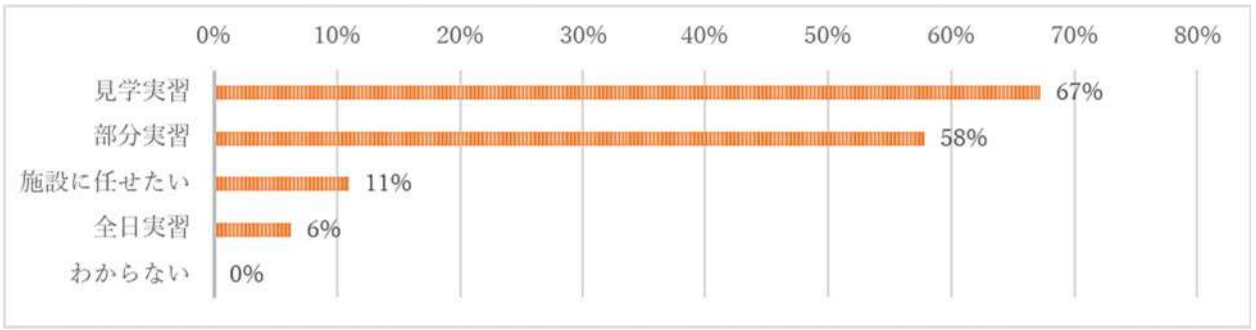
9. 貴学で実習生に指導している内容を教えてください。(複数回答可)

回答欄	件数	%
保育に関する知識	61	95.31%
学ぶ姿勢や態度	59	92.19%
挨拶、身だしなみ等の基本的なマナー	59	92.19%
保育に関する技術	55	85.94%
言葉遣い	52	81.25%
観察力・洞察力	40	62.50%
コミュニケーション能力	39	60.94%
その他	6	9.38%



10. 保育実習Ⅰで指導して欲しい内容を教えてください。具体的な内容があれば教えてください。

回答欄	件数	%
見学実習	43	67.19%
部分実習	37	57.81%
施設に任せたい	7	10.94%
全日実習	4	6.25%



★見学実習の具体的な内容

・参加実習もお願いしたいです。
・主に見学しながら子どもと実際に関わる中での注意事項（その都度でないとわからないこと)。
・手遊び、絵本の読み聞かせなどの部分的な体験。
・保育現場で学生の観察力、洞察力を伸ばしていただきたい。
・子どもの年齢による発達の違いや、保育士の職務内容全般等、保育士として働く上での基本的な事項を体験させていただけるとありがたいです。
・日誌の書き方。
・保Ⅱ（保育所）を経験しないで保Ⅱ（施設）を経験する学生が少数ですがいますので、実習Ⅰでも部分・全日を体験させていただきたいです。
・絵本の読み聞かせ、わらべ歌、手遊びなど。
・指導計画と実践のつながり。
・子ども理解が重要。

★部分実習の具体的な内容

・どうすれば注目を集める保育ができるのか。まだ話すことができない子どもにどういう言葉掛けをすれば良いか。
・子どもとの関わり方、安全面の配慮、環境構成、記録の書き方。
・実際に子どもの前にたち活動を行う機会をたくさんいただけるとありがたいです。
・存生の裁量でまずやってみる経験を保証していただきたい。
・保育者としての姿勢・態度。子どもと関わる楽しさや責任。
・指導計画と実践のつながり。
・部分実習 1～2 回。

★全日実習の場合

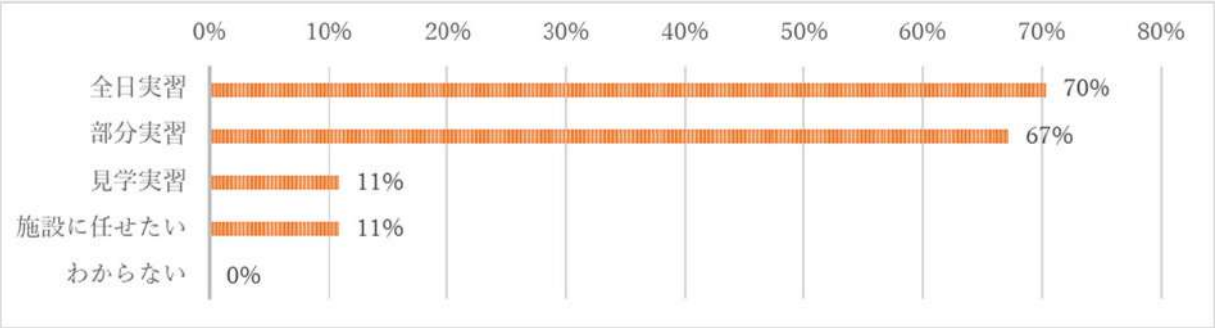
（回答なし）

★その他

・絵本、紙芝居、手遊び等（指導案はまだ学んでいない)。
・可能であれば絵本や手遊びわらべうた、簡単なピアノなど。
・保育士になってからの生活など、体験談。
・1 時間程度の部分実習。
・1 日の流れや子ども達への具体的な関わり方、話し方。実習記録の書き方。
・主に見学実習になると思うが、学生の状況によっては様々なことを経験させてやっていただきたい。
・見+部：子どもの理解、子どもと関わる喜び、保育の面白さ、奥深さ。

11. 保育実習Ⅱで指導して欲しい内容を教えてください。具体的な内容があれば教えてください。

回答欄	件数	%
全日実習	45	70.31%
部分実習	43	67.19%
見学実習	7	10.94%
施設に任せたい	7	10.94%



★部分実習の具体的な内容

・部分実習 1～2 回。
・保育現場で学生の知識、技術を伸ばしていただきたい。
・必ず責任実習をさせていただきたい。

★全日実習の具体的な内容

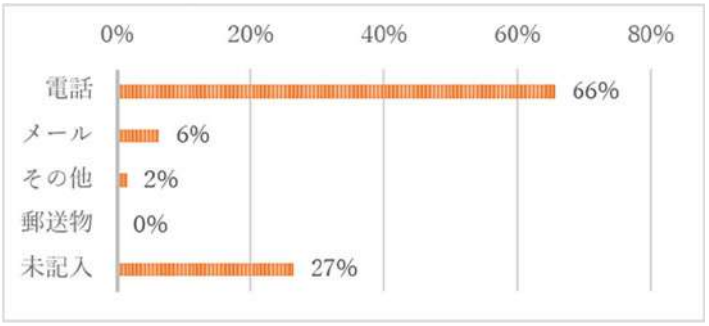
・全日実習 1～2 回。
・「気になる子」への適切な対応の仕方。絶対にしてはいけないこと。(NG の言葉、NG の行動)
・子どもの実態と保育課程を踏まえて計画、実践、評価することの大切さを指導いただきたい。
・指導案を書いての責任実習。

★その他の具体的な内容

・導入方法、肯定的な言葉遣い、子どもの人権人格の大切さ。
・子どもへの援助の方法、記録・指導案の書き方。
・指導案の立て方、準備の仕方、部分保育・設定保育の進め方、・子ども主体の活動への視点や言葉のかけ方。
・部+全：保育者としての責任感と保育の面白さ、奥深さ。

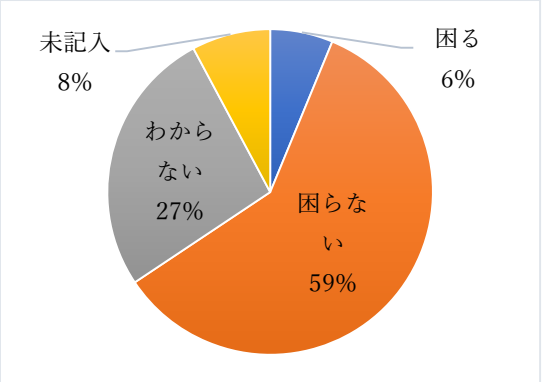
12. 実習で貴学巡回教員と施設担当者の連絡手段はどうしていますか？

回答欄	件数	%
電話	42	65.63%
メール	4	6.25%
その他	1	1.56%
郵送物	0	0.00%
未記入	17	26.56%
合計	64	100.00%



13. 実習記録の様式は指定したものや、統一したもので記入を依頼すると、貴学の指導や評価で困りますか？

回答欄	件数	%
困らない	38	59.38%
わからない	17	26.56%
困る	4	6.25%
未記入	5	7.81%
合計	64	100.00%



14. 実習施設に直接言えないような困ったことがあれば教えてください。

指導者等の対応について	11 件
・実習生の前で職員同士の悪口を言う。 ・実習生の悪口を実習生が聞こえる場所で言うし、職員同士の悪口を実習生の前で言う。 ・実習園で職員の方同士の関係が悪かったり、悪口を言っているのを聞くことが辛いという学生が複数いました。 ・保育者同士の関係が悪い（陰口を学生が聞いて嫌な気持ちになる） ・子どもや学生の前で先生方同士や保護者の悪口を言っておられるということは聞きます。そのような園には、学生たちは一番就職したくないと言ってきます。学生は現場に夢と理想を持っていますので。 ・保育士同士の悪口を実習生の前で言うこと。学生がしんどくなって戻ってきます。 ・実習先の先生方の言葉遣いや子どもに対する態度。 ・教師主体の保育現場を見て学生が就業意欲をなくすケースがある。(例)いつも怒っている。怒鳴り散らしている。高圧的な保育をさせる。命令する保育など。翌年より、実習は遠慮する形で対応している。 ・園長先生から、実習生が「保育士に向いていない」とはっきり言われ、本人の学習意欲が著しく低下してしまった。 ・実習中に園側が就職の勧誘をしてくるため、実習生は実習評価に響くのではないかと心配して対応に困っているという訴えが年々増加している。 ・実習巡回時に就職のことを話されると困る。	
実習生に対する対応について	**11 件**
・実習生を雑用のみに使う。 ・クラスに入るなり、雑用をさせている。 ・評価について、科学的根拠がない表現が見られる。 ・実習生の評価ができない（態度・能力がなかったのだと思う）と実習の評価がチェックされず白紙で返ってきた。すべて「不可」でチェックをされていれば実習のやり直しとして実習生にも伝えられるのだが…。 ・実習評価が極端に悪いときは、実習中に連絡していただき施設側と共通理解のもと指導していくようにしてもらいたい。評価をみてからでは事後指導に十分生かすことができない。 ・能力が低くても人格を否定されるような言動や態度は控えて欲しい。 ・おとなしい性格の学生が自分から責任実習に（部分実習）をさせてくださいと言い出さなかったことがありました。その保育園では「学生さんが自主的にしたいとおっしゃらなかったのであえて部分実習の時間は取りません。実習では積極性が大切です。こちらも忙しい中実習を受けています。やる気の感じられない方に割く時間はありません」と巡回訪問時に言われました。学生にも非があるかもしれませんが、「部分実習してみますか？」と尋ねていただくこともなかったようです。申し訳ありませんが、以後その園には実習をお願いしないことにしました。 ・観察実習の時に各歳児を見学させていただくのは有難いのですが、学生は短期間で担	

当の子どもの名前、発達の違いを覚えることが難しく、気づかいや戸惑いの方が大きく、慣れることに精一杯で印象に残ることが少ないようです。また、実習Ⅱ（本実習）でも同じように各歳児に入る園があり、部分実習、研究保育となった時に子どもとの関係、担任との関係が浅く「コミュニケーションが上手に取れなかった」「保育に自信を無くす」と訴える学生がいます。現場の事情もあるかと思いますが、できるだけクラスの見学数を減らしてじっくり取り組めるようご配慮いただきたいと願います。 ・熱心にご指導頂いている事はよく分かりますが、何枚も記録の下書きをさせ実習終了後にも記録の提出をさせる園があります。授業が始まり、次の実習の準備もありますので記録は実習中に完結させて頂ければと思います。 ・保育実習Ⅰでは、指導案を数枚といってこられた園がありますが、見学実習なので日誌のみとしていただきたい。日誌もしっかりと指導しております。指導案の指導はしておりますが…。 ・保育実習Ⅱの責任実習の日数が多すぎて学生が疲れ切ってしまった。職員室内や保育士同士の会話で学生が不快に思うことが多く、同じ実習先に行きたくないと言い出す学生が出た。（ⅠとⅡは同じ所に行く）
子どもに対する対応について　2 件
・まだ信頼関係ができていないのに、子どもに注意したり、怒ることができなくて困っています。ケンカの時や実習生に対して叩いてきた時など、優しく「やめてね」とは言いますが、伝わっているのでしょうか。 ・子どもの対応が厳しい（子どもにさせる保育、できない子どもを集団から外すなど）そんな場面を学生が見る。
その他　1 件
・学生側と施設側の言い分が食い違ったまま中断、学生も保育職をあきらめたケース。

15. 実習施設に直接言えないような、要望や改善して欲しいことがあれば教えてください。

施設全体に対して	15 件
・実習担当者によって、指導が違い過ぎる。園としての対応の大枠を決めていて欲しい。 ・クラスや職員間で指導の仕方が異なる。指導内容を統一していただきたい。 ・実習に行く前に指導内容を検討し、用意していても、直前になって「それは無理。他の事をして」と言われ、戸惑う。前もって計画案は提出していたのに…。 ・事前に送っている関係書類が「送られてない」との問い合わせを受けた後、「ありました」というやり取りが数件ある。学校としても慎重に対応している内容のため、お気を付けいただきたい。 ・人間関係の悪さが学生に伝わるような雰囲気の改善。 ・先生方同士の保護者のうわさ話や愚痴を学生の前でしないでほしい。 ・学生の中には、休憩時間などに先生方が子どもや保護者、同じ園で働く職員の陰口や批判をされる場面を見聞きしショックを受けるものが少なからずいます。誰にでも仕事上の不満はあるでしょうから先生方が話されるのは仕方ないと思いますが、何とか実習生には聞かれないよう、休憩室を分けるなどご配慮いただけるとうれしい。 ・保育者が他の保育者の悪口（批判）を実習生の面前で話される事がよくあるそうです。これだけはないようにして欲しいです。保育所に就職したい気持ちを萎縮させますので。 ・保育士としての仕事のやりがい、楽しさを伝えてほしい。 ・学生からの聞き取りでは、日誌や指導案を丁寧に添削して下さった園への印象はとても良く、就職先の候補に挙がっています。一方、ハンコのみが押してある場合は学生の評価があまり良くないようです。 ・本校では卒業年度の 3 月までしっかり指導したいと考えていますが、実習先で就職のお声をかけていただくこともあります。お声をかけてくださるのは本当に有難いのですが、学生が今まで認めてもらえたと有頂天になって、指導が入りにくくなることもあります。「4 月までにこんな技術を身につけてきてね」と具体的な課題をいただけるととても有難いです。 ・いつもありがたいと思っています。養成校とみなさんで一緒に学ぶ場があればと思います。 ・保育実習Ⅰでは以上児と未満児の 1 週間ずつと、保育実習Ⅱでは持ち上がりクラスを担当させて頂くと「成長がよくわかった」「子ども達が覚えていてくれて、名前を呼んでくれた」「1 日目から手を引っ張って遊びに誘ってくれた」等、楽しく実習できたことの報告が多かったです。不安や緊張が少ないと実習も積極的に取り組むことが可能なようです。保育が楽しいと感じられる実習方法、システムが統一されれば送り出す方も背中を押しやすいです。現場は大変お忙しく、ご指導も大変でしょうが宜しくお願い致します。 ・評価についての共通認識ができるような機会がほしい。 ・学生にとって学びになる保育の質の保証。	

指導者に対して	18 件

・たまに無表情の先生がおられるのですが、子ども達と接する時以外笑っていないので、もう少し笑ってもらえると顔色をうかがわずに済むので、そうして下さると嬉しいです。
・優しく指導をしてほしい。
・施設側職員の利用者への対応がひどすぎて実習を続けたくないという声がある。
・保護者や子どもの悪口を（午睡時等で）言う。
・学生から「先生同士の悪口を聞き嫌になった」と毎年のように聞きます。学生の前では控えて頂ければと思います。休憩時間がないのに「60 分と書いておいて」と言われる園があります。わずかな時間でも休憩は与えて頂きたいです。
・子どもへの不用意な言葉や振る舞い、態度。（たたいたり腕を引っ張ったりするのを見てしまった）
・実習生（本学生）の前で、通っている子どもたちが泣いてしまうほど大きな声で怒る等の威圧的な態度をとらないで欲しい。施設の先生方のそのような態度を学生に見せないで欲しい。
・実習が就職につながっていることを理解して指導してほしい。
・実習指導が可能な資質能力を有した保育士を実習担当者としてつけていただきたい。言えないことは基本的にございませんが、申し上げても致し方のないこともございます。資質能力に欠ける保育士としてふさわしくないと思われる人物が専任職として勤務されていること。入所児に実害のある発言があった。
・実習園や担当の先生の経験年数、また指導力によって実習日誌や指導案の書き方などの指導に随分差があるように思われます。仕方のないこととは思いますが、中には指導に少し疑問を感じることがあります。忙しい中、受け入れて下さっていることに感謝は致します。学生のご指導、どうぞよろしくお願い致します。
・実習生に対して指導をしていただきありがたいと思いますが、あまりにも要求が高い時には、学生によっては落ち込んでしまうので少々困ることがある。未来の保育者を育てるという意識をしっかり持って指導してもらいたい。
・実習生によって指導がバラバラのため、学生の経験に差が出るように思います。保育士になる人を増やすためでしょうか。この頃とても優しくご指導していただいているように思います。一方で、命を預かる仕事ですので、実習で自分の適切を見極める機会にもなっていると思うので、少し心配です。あまりゆるく実習が終わってしまうと、適性があまりない…という人も保育職を志し採用していただくようになり就職後にご迷惑をおかけしていることがあるように感じています。（要望というよりは申し訳ない気持ちです。）
・学生を差別化しないでほしい。複数で実習に行くとほんの少しのことで１名の学生を攻撃される方もいらっしゃるようです。
・指導案を事前に準備して書いてくるよう指示がある場合、指導案の「子どもの実態」について少しだけでいいので、差しさわりの無い情報を伝えてほしい。指導案を作成する際の基本から指導したいと思っているから。
・記録の添削が全く無く返却されると学生の学びに繋がらず課題が理解できない事がある。口答などの指導もしていただくとありがたいし、次への励みと意欲になる。

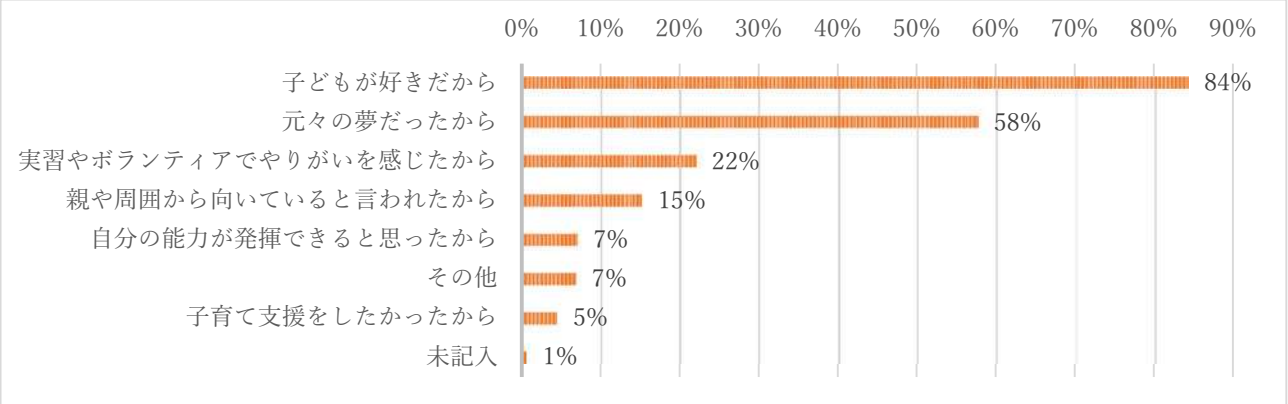
・実習受け入れをしてくれているのに、実習期間中、実習生にほとんど指示やフォローがなく、何をしていいのかわからなかったという声がある。
・実習生はあくまでも実習生なので、学生に任せて保育室から保育士がいなくなる状態が無いようにして頂きたい。度々、学生の話を聞いているとそのようなことが起こっているようである。実習訪問に行った時に、子ども達に午睡を実習生に任せて、職員会議をされている場面を見たこともあるので、子どもの安全や実習生の責任について見直して頂きたい。
・保育実習ⅠなのかⅡなのかも意識せず、即新任かと思うような指導に困惑するケースがある。ステップアップして意欲を高め、学んでいけるような段階的な指導を行っていただけるとありがたい。

C

実習生を対象としたアンケート　結果

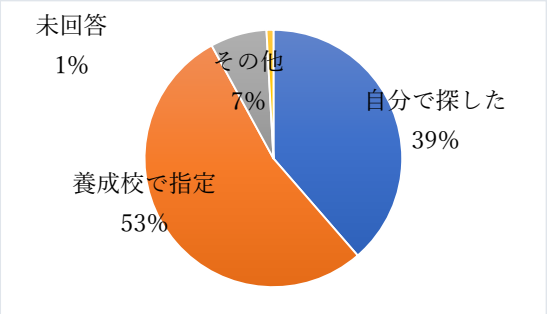
1．保育士や保育教諭になりたいと思った理由を教えてください（複数可）

回答欄	件数	%
子どもが好きだから	393	84.33%
元々の夢だったから	269	57.73%
実習やボランティアでやりがいを感じたから	103	22.10%
親や周囲から向いていると言われたから	71	15.24%
自分の能力が発揮できると思ったから	33	7.08%
その他	32	6.87%
子育て支援をしたかったから	21	4.51%
未記入	3	0.64%



2．実習先の施設はどのように選びましたか？

回答欄	件数	%
養成校で指定	249	53.43%
自分で探した	180	38.63%
その他	33	7.08%
未記入	4	0.86%
合計	466	100.00%



2-2. 自分で探した場合は、どのような基準で実習先を探したのか教えてください。

・地元の園で実習をしたかったから。
・実家から近く、将来働きたいと思っていた所を探した
・家からの距離が近い。
・自宅から近い園を選びました。
・近い所で選びました。
・自分の自宅から近い所
・実家から近い園
・家からの近さ。基本理念
・家から近い園
・実家から近い。母園
・家が近かったから
・家から近くの保育園。保育系態。
・自分の力で通勤できる距離かどうか
・自宅から近いところ。通えるところ
・実家から通える園を考え、調べて電話で連絡を取った。
・自宅から近かったため。
・家から近いから
・家から近くて雰囲気が良さそう
・自宅との距離
・公立の保育園で働きたかったので、公立で近所の実習先を探した。
・自宅から近い所
・実家から近く、地域からの評価が良い所。
・地元の所で探しました。
・丹波市、地元での実習がしたかったから、地元就職を考えていたから。丹波市内の保育所・幼稚園が認定こども園になるのを知り、認定こども園での実習がしたかったから。
・家から近いところ
・実家から近く、通いやすい場所。母園で知っている先生がいたので、保育所に直接電話をし、受け入れてもらうことができた。
・家から近い園
・家から通える距離。
・家から近かったから
・自宅から通える範囲であるか、公立か私立か、ホームページや資料で見た雰囲気等
・自宅から近い点や、園のホームページを見て、方針や目標・理念等を拝見し、気になる所を見つけ、園を１つにしぼっていた。
・家から近いところ
・母園に行ったり、家から近いところを探したりした。
・自宅から通勤しやすい場所
・家から通える範囲にあるか

・家から近いところ
・園の雰囲気、通いやすさ、給料、園の規模
・家から近い
・自分の地元だから
・自宅から通勤しやすいところ
・地元で実家から近いところ
・家からの近さ。
・自宅から近かったため。
・家からの距離
・自宅から近い所、また母園に当たるところ
・自宅から通える範囲で私立の園の様子を知りたいと思ったから
・自宅から通えるか
・地元で通勤しやすい所を選びました。
・家から、かよえるのか？
・家から近い所にしました。
・家から通える範囲内
・家から近いから。
・自宅との距離
・家から近い園。母園。
・市内の子ども園を比較。先生方の印象と園の雰囲気。自宅からの距離。
・家から近い所
・保育実習は養成校が指定した大規模な園だったため、幼稚園実習では小規模で、家から近い園で探した。
・地元で就職したかったので家から近い園を探した。
・自分の母園と近くにある別のこども園を選択。
・家から近い（通いやすい）。大きい
・自分の地元や母園。
・家に近い場所や母園
・家から近いところ
・家から近い所
・自宅の近い場所
・地元から近く、ホームページで自分の思う方針をしているところ
・家から近かったから。
・家から近く
・家から通いやすい保育園を探した。
・家から通勤できるか。
・実習先が家の近くだったから
・実家の近くだった。
・自宅から通える距離であるか。
・住んでいるとこから近い

・地元にしぼり、母校で行いたかった為。
・下宿先からの距離。幼稚園（公立）
・自宅からの距離、通いやすさ
・家から近い
・場所が近くのところ。
・「自宅から通勤可能な場所であるか。」ということ。
・自宅から近いところ
・家から近い
・当時住んでいた家から近かったから。
・自宅から近い施設
・実家から近い保育所
・家から近い
・自宅から自転車で通えるかどうか
・学校から指定された条件の家から 1 時間以内かつ 15 分以上の場所、公立希望以外の場合はできるだけ私立の園にするという条件に当てはまる園。
・地元で探した。
・仕事（実習）とプライベート（家庭）の両立が出来るかどうか？自宅から近いかどうか？
・家の近く
・家の近く。
・生まれ育った市内の保育所、母園の幼稚園で学びたいと考えていた。
・自宅から近い所。
・通いやすさ。自分の通っていたところ。
・家から近いから。母園だったため。
・家からなるべく近いところ
・自宅から近い場所。自分の目指す保育方針に近い場所
・家から近いから
・家から通えるところを基準に探した。
・家から近い保育園を探した
・家から通いやすいところを基準に探した。
・自宅から近さや母園など
・自分が住んでいる所から通える範囲内
・家からの通いやすさ
・家からの距離が近い所、子どもの人数
・家から通える距離だったから
・自宅からできるだけ近い場所
・自宅から通いやすい場所
・家から通えるから。
・実家から通いやすい場所
・家の近くで通いやすいし、自分が知っている園
・徒歩・自転車で自宅から 1 時間以内で、自分で見に行き雰囲気が良さそうな所を 3 つ選

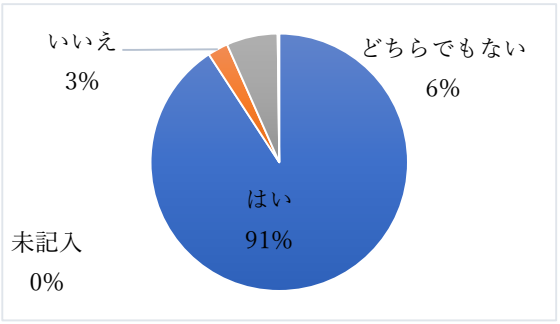
び、あとは学校側が決めました。
・家から近く。地元にある園。
・家から近くかよいやすい場所
・家から近いところ。
・地元で近い園
・地元だったから
・家の近くの保育園
・家から近い所
・家から近い
・家からの近さ、園の雰囲気、これまでの実習人数
・自宅から通いやすく、将来働いてみたいと思ったところ
・家から近場の所を探しました。
・近かった。高校の時インターンシップで行ったので、実習生視点で見たかった。
・地元から通える場所を探した。
・家から近かったから。
・自宅から近いから
・家から近い所で探した。
・慣れた環境、地元で働きたかったから。母園だった為
・自分が公立の保育所出身で自宅から近くの園が公立ということで希望しました。
・母園
・自分が通っていた所
・母園
・卒園した園だったので、行きたいと思った。
・母園の保育園に行った
・出身園であり、雰囲気や保育が良いと聞いたため
・母園だった為、家から近かった為
・幼稚園実習は自分の母園を選び、保育実習ではトライヤルウィークへ行った経験や家からの近さを理由に選んだ。
・母園。
・母園を選びました。
・私自身が行っていた園で実習がしたいと思ったから。
・自分の母園や、家から行ける園で探した。
・自分が通っていた所
・母園だった為
・母園
・自分が幼稚園の時に通っていた幼稚園、地域で「ここはいいよ」と言われた認定こども園
・母園であるか、就職しようと思っている地域
・母園だったから
・母園にした。（幼稚園）自宅から近い所（保育園）

・自分が卒園した園で実習をしました。
・母園の環境が好きだったから。
・母園。実家の近く
・母園や自宅より近い園
・自身の母園で実習を行いたかった
・母園や自宅からの距離
・母園だったから
・自分の出身の母園だった
・出身園
・母園系列として
・自分が小さい時に行っていた保育園だから
・お世話になった園の中から探した。
・昔通った園。トライヤルウィークでお世話になったところ
・先輩方からも保育園の評判をきいたりしました。
・園のホームページを見て、雰囲気が自分に合っているか
・本の紹介で選びました。
・姉が実習に行ったことがあり、とっても良い園だよと教えてもらった。
・大学で卒業生が就職した園や実習園が書かれた資料が配られ、その中から探しました。
・友人の実習先で、良い所だったと聞いた為
・保育園のＨＰや保育士募集要項を見て気になっていたから
・職場の先輩が行った実習先であったため。
・ＨＰで調べて興味のある保育をしているか
・ホームページ等を見て、保育理念や日々の保育生活が自分に合っているかどうか。
・保育園→高校の授業で行った園の印象が良かったから　幼稚園→保母園のため
・小規模だったり、担当制があったりというような自分の希望を探しました。
・保育方針
・保育の方針等を基準に考えました。
・教育方針
・自分の理想の保育理念・保育方針にできるだけ近い施設
・人間関係を重視し、子どもとの関わりはどのようなものかを学びながらえらんだ。
・働きやすそうな職場。見学に行った時にこの園で働きたいと思ったから。
・卒園した幼稚園と同じ施設長が経営している保育園で学びたいと思ったから。
・自分が行ってみたいと思った園だから。
・知り合いの先生がいる園にお願いした。
・求人があるか確認し、実際に施設を見学させて頂き、判断する。
・公立園で働きたかったので、公立で実習をしたいと考えた。
・就職したい園
・小規模
・自分に合う園を探したかったから。
・施設の方の種類は選びました。

・自分自身が働きたいと思った種別
・行ったことのない施設種別。
・学校の附属だったから。

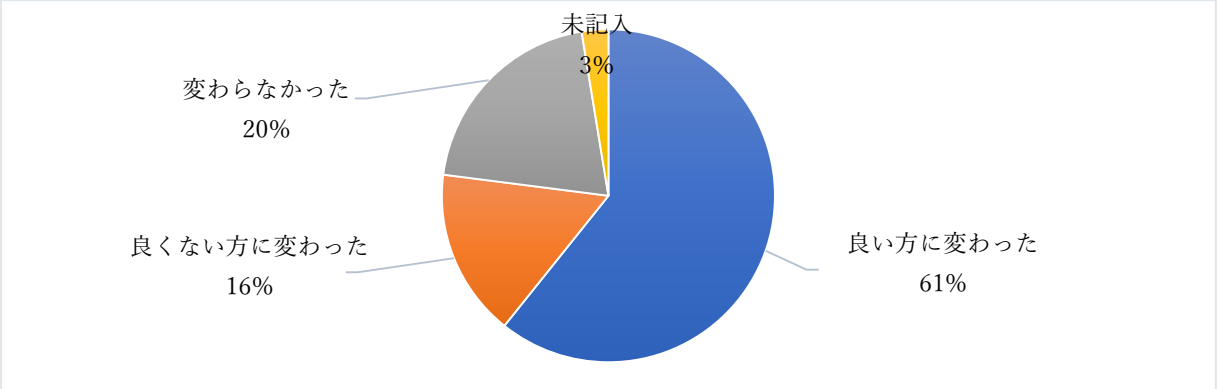
3. 将来は保育士や保育教諭として働きたいと思って実習を受けましたか？

回答欄	件数	%
はい	423	90.77%
どちらでもない	30	6.44%
いいえ	12	2.58%
未回答	1	0.21%
合計	466	100.00%



4. 実習前と実習後で気持ちは変化しましたか？
その理由も具体的に教えてください。

回答欄	件数	%
合計	467	100.21%
良い方に変わった	283	60.73%
変わらなかった	95	20.39%
良くない方に変わった	76	16.31%
未回答	12	2.58%



★良い方に変わった理由
・自分でも気付けなかった長所を教えてもらい短所の指摘と対応のアドバイス、知らなかった保育方法を知り、保育の幅を広げることが出来た為、より保育士への気持ちを強めることができた。

・子どもがよりかわいいと思ったのと、職員のかかわり方がすごく優しく伸び伸びできるのではないかと思ったから。
・良くない方に変わった実習もあったが、こんな保育士に自分の子どもを見てほしいな、と思える園に出会えた
・園内の状態がよかったため
・実際に子どもの成長を見れることや、子どもと保育教諭の関係を見て、私も先生方みたいになりたい、頑張ろうと思った。
・子ども達と関わることがとても楽しく、私自身も子ども達と様々な保育をしてみたいと思ったから。
・保育士の仕事の楽しい部分と辛い部分の両方知ることができ、辛いけれどやりがいのある仕事だと思ったから
・子どもとのかかわりや、保育士さんの姿を見ていちだんと保育士になりたい気持ちが強くなった。
・実習の中で子どもたち、保育士との関わりの中で部分実習から実践につなげ不安から自信につながったこと。
・自信がなかった部分も褒めて頂き、自信につながったから。
・働いている保育士さんと子どもの様子を見て私も働きたいという気持ちが大きくなった。
・先生方がやさしく指導してくれて、やりがいを感じられた。
・先生方の保育への思いを教えて頂いたり、子どもと関わる姿を見て、私もそんな保育者になりたいと思ったから
・尊敬できる先生に出会い、そんな先生になりたいと思ったから。
・保育者の子どもに対しての強い思いを感じることができたから。
・先生方に丁寧に指導していただいたり、実際に子どもたちと関わったりして、やりがいを感じた為。
・保育士の大変さを感じ、頑張らないといけないと感じた。
・具体的な仕事内容を知れ、子どもたちとの関わりも実際に見ることが出来、私もこんな保育教諭になりたいと思ったから。
・私も先生方と一緒のように保育士として働きたいとより一層思うことができた。
・職員の仕事内容も知って大変さがわかった。
・実習担当の保育教諭に丁寧に指導してもらい、できないことばかり気にする私の得意を見つけて自信をつけてくれた。
・普段、自分が子どもを保育園へ預けて学校に行っているので、先生方の大変さや働く側としての保育園を新たに感じることができ良かった。
・保育士の方を実際に見て、子どものために働きたいと強く思った。
・改めて保育士の大変さを学び、それと子どもと関わる楽しさを知れたから。
・保育教諭はただ子どもと一緒に過ごすことだけが仕事ではなく、書類や担当行事などたくさんの仕事があることを知れた。
・具体的な保育者像ができたから
・大変だと感じることもあったが、適切なアドバイスを頂き、頑張ろうと思えたから。
・担当の職員の方が、いきいきと子どもと関わっておられる姿を見て、素敵だと感じたか

ら。
・実習前は、不安でしたが、いろいろな先生方に指導を頂き、少し自分のできることを見つけられたから。
・実習で実際の保育の様子を見ることができたから
・子どもとたくさん関わる中で楽しいと思える瞬間があり、保育者の方達の様子を見て、自分もなりたいと思ったから。
・子どもとの接し方や自分の目指す保育士像が明確になった。
・先生にいろいろ話をきいたから
・実習前はやっていけるかなという不安がすごく大きかったのですが、いざ実習をするとあたたかい先生たちで安心しました。
・担当の先生にアドバイス等を頂き身に付いたりし自信につながった
・園の先生方がとても優しく、連携がとれた働き方をしていたから。
・とても尊敬のできる保育者の方に出会うことができた。
・実習先の先生の子どもに対する関わり（大きな声を出す、子どもの想いを聞かない…）を見て、逆にこうならないと思い自分の目指す保育士像が明確になって、気持ちが奮い立った。
・実習Ⅰの時は少し男性の保育士の口調で落ち込み、やる気失せましたが、最後は充実しました。
・実習前は不安なこともあったが、経験することで理解ができた為不安なことも前向きに考えられるようになった。
・現場での子どもの姿や保育士の関わり方など、現場でしか気づけないこともあり、さらに保育士として働きたいと思った。
・机上では学べない、体験ができた
・子どもに対する思いや、保育を行う責任感の大切さが変化した。
・実際に自分で経験することでとてもやりがいを感じたため。
・記録等は大変だったが、やりがいを感じた（責任実習等で）
・大変なこともあったが、より、保育士になりたいと思った。
・自分の課題点が見つかったり、得意なことを見つけたりすることができたから。
・やりがいを感じたから。もっと子どもと関わろうと思った。
・授業で習うということと現場に立たせてもらうのではイメージが変わった。子どもと実際にふれ合うことで、仕事のやりがいをより大きく感じた。
・日々の生活に充実感を得られたため。
・実際にしてみてやりがいを感じたからです。
・より具体的に保育士の仕事について考えることができた
・保育の現場で実習させてもらい、実際に子どもと関わる中で、保育士・保育教諭の役割の大切さややりがいを感じることができた
・楽しいだけでなく辛いこともありましたが、少しの期間に成長を見せてもらえ、やりがいを感じたから
・自分もできるのかと不安になるが、実習を通してやりがいを実感できた。
・大変さも感じたが、それ以上にやりがいを感じた。

・自分が保育をする中で、子どもたちが楽しそうにしていたり、喜んだりしている姿を見ると、嬉しかったし、やりがいを感じた。
・この職へ就くことへの不安が多くあったが、実際に子どもと関わったり、保育者を見たりしたことで、憧れがより高まった。
・大変さが分かり、やりがいを感じた
・実際に子どもと関わったり、保育士の仕事内容を知ったりして保育士のやりがいを感じることができたから。
・実習を通して沢山のことを経験し学び、保育士として働きたい意欲が強くなったから。
・大変だと改めて思ったけどやりがいも感じた
・やりがいを感じ、改めて保育士を目指す気持ちが強くなった。
・知らないことを多く知って良いこともそうでないことも知れた
・実習はとても大変だったが、自分に向いていると感じることができたため。
・とても大変そうだったけれどとてもやりがいがあるなと思いました。
・実習をすることで、やりがいを感じられ、早く働きたいと思った
・子どもとの関わりは大変だったが、やりがいを感じられる仕事だと思った。
・働きたいという思いは強くなり、実際に実習に行くことで短大では学べない子どもの心理や関わり方について学べた。
・やりがいを感じた
・やりがいを感じた。
・子ども達の姿や、保育者の様子を見てイメージが膨らみ、夢が更に広がったから。
・実際に経験してやりがいを感じた。
・保育の仕事にやりがいを感じた
・実際に子どもや保護者と関わり、楽しいことや少し辛い経験も含め、どれもやりがいを感じたから。
・実際に経験することで、やりがいもしんどさも感じ、より覚悟が強くなったから
・学校で学んだ知識を実践するために実習させて頂きましたが、子どもと関わる事で自分の新たな課題が見つかったり、実習を通して新たな知識を学べたり実習を通して保育士として働きたいという気持ちが強くなりました。
・実習をしたことにより、さらに保育士になりたいという思いが強くなった。
・保育士のしんどさや辛さを実感したが、子どもの可愛さを感じ小さい頃からだった夢を叶えるためにもっと頑張ろうと思った。
・実習前は不安でしかなかったが、実習後には子どもたちのことが分かるようになり、もっと関わりたいと思った。
・やりがいを感じた。
・実際に保育士と子どもが関わる姿を見て、改めてやりがいを感じた。
・実践力が身についた
・もっと子どもたちのために何ができるかを考えるようになった。
・大変だったが、短い期間でも、子どもの成長を感じることができ、やりがいを感じたから
・実習記録はしんどかったけど、実際に長い期間子どもたちと関わる事で楽しさもあり自

分のクラスをもってみたいと感じた。
・責任を持って命を預かっているという自覚を持てた。
・やりがいを感じたから
・自信がついたから。
・保育士のやりがいを感じた為。
・少し自信がついた
・やりがいを感じた。
・実際現場に入ってみることで､知らなかったことや大変さなどたくさんのことが学べた。
・しんどいこともあるが、子どもの成長をみたいと思った
・大変さもあったが、さらに保育士になりたいと思うようになった。子どもと深くかかわれてよかった。
・大変だったけど、その分やりがいを感じられたから。
・積極的になった
・実際に実習に行ってやりがいを感じたから。
・保育者の仕事も良いなと思うようになりました。責任実習を通しやりがいを感じた
・子どもとの関わりは一人ひとり違い、難しかったが、その分やりがいを感じました。
・自分の課題とする部分が明確に分かったことで、次の実習に活かせたり、改善点が分かったりした。
・部分実習等をとおして、子ども達が興味を示し一緒になって楽しむことができた喜びを味わい仕事にしたいと思った。
・知らないことを知れたり、分からないことが解決したり、達成感を味わえたから。
・大変なこともあったけどやりがいを感じたから。
・実習することで自信を持てた。
・自分の将来についてより深く考えることができたから。
・子どもと関わる中で、楽しさや難しさを学ぶことができたため。
・男性でもしっかりと子どもと向き合っていけると感じられたから。
・迷っていたけれど保育士にもやりがいを感じたから
・自分の保育観ができた
・大変だけれどやりがいのかんじられる仕事と思った。
・実際に子どもたちと関わっていく中で、言葉掛けの大切さがわかり、子どもたちがやろうと思える気持ちになるような言葉掛けができるようになりたいと思った。
・大変さも感じたが、子どもたちの反応がおもしろかったり、予想していたものと違ったり、楽しんでくれて、やりがいを感じたから。
・子どものことをもっと知り、関わっていきたいと思った。
・より子どもがかわいいと思い、やりがいを感じた。
・実際に子どもとふれあい、やりがいを感じたから
・アレルギー対応の子どもと関わることが楽しいと思えたり、子どもたちが声を掛けてくれることで嬉しさを感じたりしてさらに保育教諭になりたいと思った。
・子ども達とより関わって過ごしたい、働きたいと感じた
・子どもの成長に関わる喜びを感じたから。

・ピアノの実践や指導案など難しい面もあったが、それでも実習を通して園児が笑顔で楽しんでくれて、強いやりがいを感じた。
・実習後は、もっと子どものことが好きになり、絶対に保育士を目指したいと思ったから。
・子どもの発達を間近で見られることにやりがいを感じた。
・子どもの歌や、子どもの成長を間近で感じ感動した。保育の職に就きたい気持ちが強くなった。
・実際に子どもの成長を感じ、やりがいを感じられたから。
・成長を近くで見守れる魅力に気づけたから
・実習の時よりも忙しかったり、しんどいことも多いけれど、長く子どもと関わることができるので、子どもの成長を間近で見られるのは素晴らしいと思う。
・子どもと関わるとやっぱり好きだなと思うし、実習していて新たに見つけられることがあると、成長を感じられるから。
・子どもとふれ合い、部分保育ができたから
・接し方がわかった
・子どもと毎日関わる中でよりなりたいと思った。
・子どもと関わる楽しさを知ったから。
・子どもの成長を間近で感じられたから。
・子ども達と関わることの楽しさをより深く知ることが出来た。
・実際に子どもたちと関わることでより保育士になりたいという気持ちが強くなった。
・実際に保育現場で子どもとふれ合い、さらに子どもと関わりを持ちたいと思ったから。
・子どもたちと、常に一緒にいたいと思うようになった。
・今までも保育士になりたいと思っていたが、実際に実習をしてみて、子どもと関わったり、自分の考えた保育をしたりする中で、よりいっそう保育士の仕事をしたいと思いました。
・子どもと生活を共にする中で、より子どもの普段の姿が見られたから。
・実習で実際に子どもたちと関わることでより明確に保育士の仕事が分かったため
・設定や全日保育をして、子どもと関わる楽しさを感じたから
・子どもたちと毎日会い、短い時間だが、少しずつの成長を知る事が出来る為。
・日を重ねる毎に子どもの特性を知ることができ、子どもが好きな気持ちが強くなったから。
・もっと子どもを理解したいと思った
・子ども達の成長を近くで一緒に見届けたいなと思った。
・子どもとの関わりなど、漠然としていたのが、“どのようにしたら子どもと楽しめるのか”を考えるようになった
・かわいい子どもたちと一緒にすごし、さらに保育士になりたいと思った。
・子どもと関わる中で、子どもの成長にふれることができたから。
・実際に子どもと関わって、子どもの成長を感じたり、発言や行動で自分自身が楽しいと感じることが出来た。それと同時に大変さと責任を感じた。
・保育士と子どもの距離が近く感じた。
・楽しいことばかりではないが、子どもたちと一緒にいると元気になる、楽しい。

・もっと子どもと関わりたいと思った。
・子どもとの関わりがとても楽しかった
・子どもの成長を見守ることができる職業だと感じ、やりがいを感じたから
・純粋に子どもがかわいい。笑顔が輝いて見えた。
・子どもとの関わりや楽しさを感じられたから。
・子どもともっと深く関わりたいと思ったから。
・もっと前向きに保育士という夢について考えられるようになりました
・大変さや悩みもたくさんあったが、子どもの元気や笑顔、少しの変化に嬉しく思い、そばで見ていきたい、関わっていきたいと思った
・子どもたちの成長を見ていけることが嬉しく感じた。
・子どもが可愛い、もっと接したいと思った。
・大変なこともあったが、ますます子どもが可愛く思い、子どものために頑張りたいと思えた。
・子どもと実際に関わることが楽しかった。なので、より強くなりたいと思った。
・実際に子どもたちと関わる様子を見て、自分も挑戦してみたいと感じた。
・子どもたちと関わり、その中で声掛け等を学んで楽しかったから。
・未満児から以上児、全ての年齢の子どもと関わり、もっと深く子どもについて学びたいと思ったから。
・実際に子ども達と触れ合い教科書では学べなかったことを体験し、面白いと思ったから。
・子どもと関わることの楽しさを知れたから
・おもっていたより子どもと関わる機会があった。
・保育を実際に行い、子どもとの関わりの楽しさを実感出来たから。
・最初は不安でしたが、子どもたちが部分保育で楽しんでもらえたから。
・子どもたちと一緒にゲームをした時に「楽しかった」と笑顔で言ってくれたから。
・やっぱり子どもは可愛いなと思った。
・子どもたちと関わる中で保育教諭（士）になりたいという気持ちが強くなった。
・子どもが好きだと改めて感じたから
・辛い事も多かったけど、子どもと関わると心から楽しいと思えたから。
・子どもと関わるという事に初めは緊張もあり不安でしかたがなかったけれど、実習を通して子ども達が私に「遊ぼ！」と自分から関わりに来てくれて、嬉しく感じました。
・実際に現場に出ると、「せんせい！！きてきて」「みてみて」と子ども達から目を輝せて走って寄ってきてくれたり、一緒に思いきり遊ぶ楽しさを感じ、毎日子ども達と会いたいと思った。
・大変だったが、子どもたちとかかわる素晴らしさを知り、さらに保育士になりたいと感じた。
・実際に現場に出て難しさと同時に子どもと関わる楽しさを知ったから。
・子どもと長く関わり、成長を見届けたいと思った。
・子どもの優しい言葉にやりがいを感じた。
・子どもがかわいい、やりがいがあると感じた。
・実際に子どもと関わり楽しかった。

・子どもといる時間って楽しいな、と改めて思い、保育士も少ないことから、もっとなりたくなった
・やはり子どもと関わるのは楽しいと思ったから
・実習中は大変でつらい時もあったけど子ども達の笑顔をみるとがんばろうとおもいました。
・先生と子どもの関わり方や子どもの「先生」と呼ばれて保育教諭として働きたい気持ちが大きくなった。
・子どもたちの成長を身近に見れることができ、良かったから。
・子どもとのかかわり方を学べた為
・実際の子どもたちがいる中で過ごして、講義ではあまりピンとこなかったことが分かったり、保育園の生活の流れが分かったりしたことです。
・実際に子どもとふれ合えてやりがいを感じた。反面、書類におわれる大変さがイヤだった。
・子どもと関わることにより気持ちが強くなった
・実際に実習をさせていただく事で、子どもたちとの関わり方、保育士としての仕事の内容を深く知る事ができた。
・もっと子どもに関わっていきたいと思った。
・子どもたちとのふれあいが楽しかった。
・子どもと関わり、より保育教諭になりたいと思った。
・大変ではありましたが、子ども達と関われることが嬉しかったです。
・自分が設定した保育をして子どもが楽しんでくれて、色々覚えてくれたり、そういう変化が見えるので、より保育士になりたい気持ちが増した。
・様々な年齢の子どもたちと関わり親しみがもてたことで早く現場で働きたいと思った。
・子どもと関わってより楽しさを実感し、よりこの職業に魅力を感じた。
・色々な子どもがいて、実習中は大変だと思ったけど、いざ最終日になるととても悲しくて、やっぱり子どもと関わる仕事がしたいと思った。
・色々な所が見られて、頑張ろうと思えた。
・保育所、園につとめたいという思いが増した。
・実際の現場で大変なことも、楽しいことも両方知れたから
・（実習を終えて）将来の自分をより明確に想像できるようになった。
・仕事内容を具体的に知ることが出来た。
・子どもの思いを尊重できる保育に出会えた
・実習で経験した事を実際に現場で活かしたいと感じたから。
・実際に園で実習してみて子どもに関わりさらに保育教諭になりたいと感じた。
・実習を経験し大学の学びだけでは分からなかった子どもの関わり方や記録の書き方を実際に学び、関わっていただいた保育者のすばらしさを感じ、自分もあのような先生になりたい！と目標とする保育者が出来たことで、保育者になる意欲も増した。しかし、その反面、あのような保育者になれるのか不安も増え、自信もなくなった。
・現場の様子を知れたから
・実習園がとても良く、ここで保育士として働きたいと思うようになった。

・様々なことを勉強できた。
・よりこの仕事に魅力を感じた
・大変なこともたくさん経験して嫌になったこともありますが、やりがいのある仕事だなと感じた。
・実際に働いてみて、楽しかったから。
・自分の持っている力を発揮できる職業だと感じ、就いてみたいと思ったから。
・実際に保育の現場に入り、環境の大切さを知り、よりかかわっていきたくなりました。
・保育士の仕事内容を再確認できた
・教えるムズかしさをよく知ることができた。
・勉強だけでは学べないことを、現場を通して学ぶことができました。また、改めて子どもが好きになりました。
・1 人 1 人のケースについて会議していることを知り興味をもった。
・もっと勉強しようという気持ちが強くなったから。
・実態が分かったため
・色々な関わり方を知れたから
・よりいっそう保育士として働こうと感じた
・実習を通して保育士になろうと思えた。
・設定保育の難しさを感じた。
・実習をきっかけに保育士になりたい気持ちが強くなった
・知らなかったことを学べたり新たな課題がみつかったため
・保育士の免許で保育園だけでなく色んなところで働けるから気持ちが楽
・保育現場で働きたいとより思うようになった。
・保育士になりたいと思う気持ちが強くなった。
・実際に保育現場を見る事で子どもとの関わり等を見る事ができた。
・保育者の方の声掛けの仕方や子どもとの関わり方を学べたから。
・もうやるしかない
・どんな所に就職したいかを考えるようになったから
・より強く保育士になりたいと思った。
・実習をして、より保育者になりたいという気持ちが強くなりました。
・保育士に対する憧れが強くなった
・楽しかったから
・現場でしか分からないことを学べてとても充実した実習だったから。
・子ども達の成長をもっとみてみたいと思った。
・実際に子どもと関わり、自分も保育士としてより一層働きたいと思った。
・もっと保育士について学びたいと思った。
・設定保育で認められたため。
・より保育士として働きたい気持ちが高くなった
・さらに保育職の魅力を感じたから
・保育教諭になりたい気持ちが高まった
・現場を知ることでよりがんばろうと思えたから。

・より保育園での仕事内容や子どもの姿を見ることができたから
・行く前はぼんやりと幼稚園に就職したいと思っていたが、実習に行ってみて、保育園で働きたいと思うことができた。
・より、保育者になりたいと強く思えたから。
・保育士になろうか迷っていましたが実習を通してなりたいと思う気持ちが強くなったからです。
・もっとたくさんのことを学んで、少しでも多くの知識を持ちたいと思った。
・実際に保育を見て、興味が深まった。
・より深く学ぶことができ、より一層なりたいと思えたから
・大変だったけど将来子どもと絶対関わる仕事に就きたいと強く思えた。
・実際に子どもと関わることができ、保育の楽しさを感じられたから。
・もっと勉強したいと思ったから。
・元々の夢であったが、実習後思いはさらに強くなった。
・保育士になりたいと思った。
・子どもと関わるだけでなく、環境の工夫や整備など、過ごしやすい場をつくることを知った。
・子どもの成長を共に見ていきたいと思ったから。
・保育士の方々と子どもの関わりを近くで見て学び、とてもやりがいのある仕事だと思ったから。
・より保育士になりたい気持ちが強くなった
・保育士になる気持ちが強くなった
・現場で学ぶことができ、さらに学びたいという意欲が強くなった。
・具体的な就職の方向が決まった

★良くない方に変わった理由
・実際に働いている保育士の方々の姿を見て、自分は本当に向いているのかと考えてしまったから。
・実習先は実習生に対しての対応の仕方が冷たく実習期間中にどんどん保育士になりたくない気持ちが増えていった
・人間関係が怖く、向いていないと思うことが多かった
・職員関係が悪く、先生の顔を伺いながら保育をしていたから。
・保育教諭同士の関わりが難しいため。理不尽なことが多いため
・人間関係が怖い
・人間関係があまりよくなかった。実習生に対してのあつかいが、雑。
・その園でイジメのような場面を見てしまった時に良くない方に変わってしまった時もありました。
・保育者同士の人間関係を上手く築けるのか不安になったから。
・職員同士の噂話や悪口が子どもの午睡中に多くあった。
・女同士のぎすぎすがすごく伝わってきた（実習生の前で他の先生の悪口を言う）
・先生が厳しかった。記録がしんどかった。

・保育者の性格が厳しくて辛い思いをしたから
・人間関係が良くない所を見てしまったから。
・職員関係
・担当の保育士の方から、自分の保育の仕方を根本から否定されたり、自分の描いていた保育士の仕事よりも、はるかに仕事量が多く、自分には向いていないのではないかと思った。
・設定保育が無い、先生がきつい
・保育園の方が大変そうだったから
・覚えること、考えること、やることが多過ぎて、子どものことよりも忙しいという気持ちばかりが残った。
・実際実習をする中で不安になることがあったから
・保育者に向いていないかもしれないと強く思った。
・現実の保育の仕事内容を見てしまったから
・自分が思っていた以上にしんどく、責任感も重いと思ったから
・子どもは好きだけど、他（ピアノ、手遊び、1 日保育など）で、実習を重ねるごとに自分は向いていないと思うようになった。
・実習を通して自分自身が本当に保育士という仕事に向いていないかもと感じたため。不安が大きくなってしまった。
・実際の現場を見て、自分自身で経験したことによって自信をなくしてしまったから。
・保育を進める難しさを実感した
・保育の大変さを感じ、自分の能力の低さに不安が高まった為。
・現実の大変さを知った。
・実際に現場を見て、実習をしてみて、分かった事があったが、その分、自分ができるかどうか不安になった。
・思っていたよりしんどい仕事で自分にもこの仕事ができるのだろうかと不安に思った
・自分の想像とは、かなり違い、戸惑いが大きかった。
・規則が厳しく仕事内容がとてもハードだった。
・保育士になりたい気持ちは変わらなかったが、書類や「実習生だから…。」と与えられる仕事量が多く、勤められるか不安になった。
・実習を通して、「子どもが好き」だけじゃこの仕事はやっていけないことがひしひしと伝わった。
・実習を通して設定保育の難しさだったり、保育士の姿を見て、自分には保育士の職業は向いてないと思ったから。
・幼稚園での実習が厳しく、つらかった。向いていないと感じた。
・しんどかったから、向いているのかなと思った。
・現実を知り、自分には向いていないのではないかと思ったから。
・子どもが好きという気持ちだけでは務まる仕事ではなかったため。
・現場の大変さ（体力面・精神面）
・大変さが分かったから
・仕事の大変さに気付いた

・実習を終えて大変だとその時に思ったので、働きだしたらそれ以上のしんどさを味わうようになるのかと思う不安やしんどさ、怖さがあった。
・設定など大変だった
・実際に保育現場で働く大変さが分かったから。
・向いていないと思うようになったから
・実習をしんどく感じた
・保育を進める上で難しいこと、気にかけることが思っていた以上に多く、やっていけるか不安になった。
・仕事量の多さに驚いた。
・自信がなくなったから
・責任が重いと思ったから
・子ども達の命を預かるという責任や保護者との関わりに対して、自分が本当に出来るのかという不安が強くなってしまった。
・自分に向いているのだろうかと思うようになった。なかなか上手くいかないことが多かったため。
・子どもたちと関わる楽しさもあるが、現場を実際に見て大変さを改めて感じ、自分にできるのかという不安もあったから
・自分には向いていないのではないかと思った
・自分の未熟さに気付き、本当に保育者に向いているのか不安になったから。
・自分にできるのか不安になった。
・自分が、保育士、保育教諭として、責任を持って仕事が努めることができるのか不安に思ったから。
・向いているか不安になった
・“子どもが好き”という気持ちだけではできない仕事だと感じた為。
・子どもをまとめる事がうまくいかなかったから。
・自分が保育教諭になれるのか不安になったから。
・毎日の記録や計画が大変で、生活リズムが乱れ体調を崩しやすくなったから。
・記録業務の多さと自分が本当にこの仕事が向いているのかわからなくなった。
・実習を終えて家に帰り、実習記録を書くのがしんどく寝不足になったから。
・記録が思ったより大変だった
・実習の日誌や計画案をどのように書いたら良いか分からず、とても時間がかかり大変だったり、半日自分が主になってしたときに上手くいかず難しいし、しんどいと思ったから。
・保育日誌、指導案を自宅に帰ってから記入するので、睡眠がなかなかとれなかった。
・ベテランの先生方が多く、気をつかってしまい、話しづらかった。
・記録や指導案、人間関係のしんどさを感じたから。
・書き仕事が沢山ある事を知った為。
・保育実習をして、0 才児に入り、給食の味や、仕事に向いてなかった。
・公立はやめようと思った。自分には向いてなかった。
・ほとんどが自由遊びで保育士と子どもの関わりを見る事がごくわずかだった。

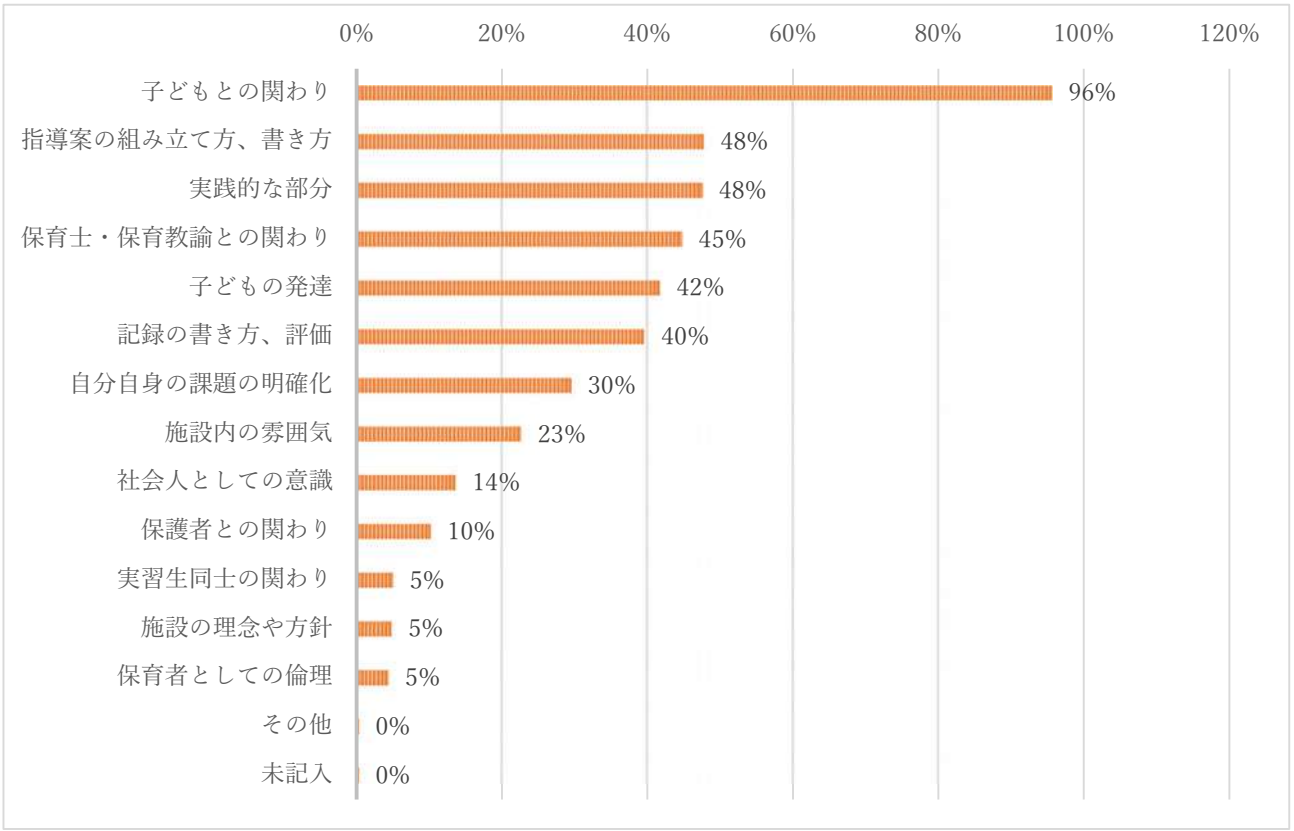
・園の保育方針が合わなかった
・楽しさややりがいをあまり感じることができなかったから。

★変わらなかった理由
・子どもが好きなこと、保育者になりたい気持ちは変わらずであった。
・実習前も実習後も保育士になりたいという気持ちは変わらなかったから。
・採用試験を受けようと思っていた所へ行き、気持ちは変わらなかった。
・実習先で子どもたちと関わり、より保育士になりたいと思ったから。
・子どもの発達や子どもとの関わり方が、くわしく分かり、保育士として働きたい気持ちに変化はなかった。
・もともと働きたいと思っていたから。
・より保育士への憧れが強くなりました。
・保育士になりたい気持ちはそのまま変わらなかったので。
・より保育教諭になりたいと思った。実習先が良い園だったからだと思う。
・子どもはやっぱりかわいいから
・楽しい、子どもがかわいいだけでなく、大変な事も知る事が出来た。
・保育の楽しさを実感したと共に保育以外の業務もくわしく知った為。
・保育教諭として働きたいと実習を行い、実習後もその思いは変わらなかった。
・変わらず保育関係の仕事をしたいと思ったから。
・保育士になりたいという気持ちがあったから。
・子どもがいきいきしている姿を見て、保育士として働こうという意志は変化しなかったため。
・子どもの成長に寄り添えることにやはり魅力を感じたため。
・実習で実際に自分が保育をする立場を経験させてもらい、大変さや不安を感じたが、保育士として働きたいという気持ちに変わりはなかった。
・やっぱり保育士になりたいと思ったので気持ちは変わらなかった。
・特に何も変わらない
・実際大変なのは想像していたが想像を大きくはずすことはなかった。
・良い面も気になるところもあったため
・やりがいも大変さも感じることができて現実を知った、という感覚だった。
・仕事の大変さは知っていたから。
・自分の想像通りで気持ちに変化はなかった。
・楽しいことのみではなく、難しいこともあることを事前に分かったうえで実習に行ったため。
・元々、母の仕事の様子を見て、大変さややりがい等、分かっていたから。あまり変わらなかった。
・思っていた通りだった為
・予め、ただ子どもを見ているだけの職業ではないこと、指導案・記録・保育の準備・事務作業が大変であることを知った上で臨み、実習先の先生に、「実習はしんどいけど、働き始めると周りの先生とも仕事を分け合って、相談しながら働いているから、気持ちは

楽にいても良いと思う。」と言われた為。
・実習前から保育の現場は厳しいものだと思っていたから。
・嫌な事もあるだろうと最初から思っていたから。
・実習が大変なのも理解していたし、指導してくれた先生も優しく嫌にはならなかったから
・実習として夏の活動や子どもとの関わりは2度目で同じような感じだった
・元々想像していた仕事と同じだった。
・実習をする前は緊張と不安がありできるか心配だったし、実習後は、楽しかったが、いざ担任を自分でもつと思うと不安になったから。
・書類や作業など大変な事がいっぱいだったけれど、日々の子どもの姿、成長を見る事ができる楽しさもあったため。
・しんどさも楽しさも感じられたから。
・大変さも感じたがやりがいも感じられたので
・実習中、少し向いていないと悩むことがあったががんばろうと思った。
・楽しさもあり、大変なところもあった。
・記録や指導案が大変であったが、同時に楽しさややりがいも感じたので、特に変わらなかった。
・日誌が大変だったが、子どもの笑顔に励まされていたから。
・仕事内容は思ったより大変なものだったが、その分やりがいを感じた。
・やりがいのある仕事だなと感じたから
・思っていた通り記録は大変だったし、でも子どもたちは可愛いので良いも大変も半分で変わらなかった。
・やりがいも少し感じ、頑張ろうと思えた。
・資格があるのに働かないのはもったいないと思っていた。
・保育士は大変な仕事だし、命をあずかるので気をつけないといけないと思った。
・やりたいことをさせてもらっているから
・実習だけでは、決められませんでした。
・職場の雰囲気や活動を知って勉強になったのは良かった。
・まだ迷っている
・実習をしてみてさらに自分にできるかどうかわからなくなった
・忙しくて考える時間がなかった。
・良い思い出ができたから
・園によって違うので変化はあまり変わらなかった。
・実習に行く前は、楽しさが強かったけど実習に行った後は、保育士（先生方）の大変さや命をあずかる等の深く考える部分が多く、感心や将来に活かしていくことのできる経験をさせてもらったと感謝の気持ちが多かった。
・まだ終わってない

5. 実習を振り返って、勉強になったこと、楽しかったこと、よかったことなど、上位４つを教えてください。

回答欄	件数	%
子どもとの関わり	446	95.71%
指導案の組み立て方、書き方	223	47.85%
実践的な部分	222	47.64%
保育士・保育教諭との関わり	209	44.85%
子どもの発達	195	41.85%
記録の書き方、評価	185	39.70%
自分自身の課題の明確化	138	29.61%
施設内の雰囲気	106	22.75%
社会人としての意識	64	13.73%
保護者との関わり	48	10.30%
実習生同士の関わり	24	5.15%
施設の理念や方針	23	4.94%
保育者としての倫理	21	4.51%
その他	2	0.43%
未記入	2	0.43%



5-2. 上記設問に対して、具体的な内容や感想、そう感じたエピソードがあれば教えてください。

・子どもとのかかわりは年齢ごとに違うことを学び、保育者一人一人の良し悪しを見て自分もこんなかかわりをしようと思うことができた。
・短大で勉強している時は実際に小さい子ども達と関わる機会がほとんどなかったので、実習で小さな子ども達とたくさん関われて楽しかった。
・実習中に、まだハイハイだった子が立ち上がって歩き出す瞬間を目にした時、子どもの成長を感じた。
・子どもに対しての呼び掛け方や言葉遣いなどたくさんの事を学びました。
・1 歳児は特に発達段階が様々なため、実際に関わってみて 1 人ひとりを学ぶことができました。
・子どもの動きや活動が分かった
・子どもと関わって遊んでいる時間はいつも楽しかった。
・初めは子ども達も実習生に対し、懐かなかったが、時間と日にちが経つにつれて関わりが増え、懐いてくれたこと。
・実際に子どもと関わると、思っていたよりも難しいことだなと感じた。
・子どもたちが“先生”と呼んでくれたこと
・障がいの子どももいて、接し方について学べたから。
・最終日に子どもたちからプレゼントをもらってより嬉しかった。
・子どもと実際に関われて、好きな遊びや実際の子どもの姿が見られたこと。
・子どもとの関わりや言葉使いを一番学べました。
・子どもとの関わりでは、1 人ひとりの個性や特性に合わせた関わり方の大切さや難しさ、やりがいを感じた。
・実習させていただいたクラスは 10 名という少人数でしたが、個性があふれており 20 日間一緒に遊んだり食事をしてとてもなついてくれて嬉しかった。
・実習後の評価を聞いて子どもとの関わり以外も大事だと思いました。
・子どもはかわいかったです。
・短い期間ではあったが、信頼関係を子どもと感じられることが出来たこと。(例えば、トイレトレーニングを嫌がる子どもが言葉を掛けると一緒に頑張ろうとしたことなど)
・子どもたちの日々の成長する姿に感動した。保育者の仕事する姿を見て保育士のやりがいを感じる事ができた。
・年齢が小さい子どもたちは毎日成長していくので、目に見えて分かったのでよかったです。
・学校では、子どもと関わることが少なく、実習を通して保育者から実際に学んだり、子どもと関わることで、子どもとの関わり方を学ぶことができたから。
・子どもとの接し方、言葉掛けはもちろん、保育士自身が楽しんで子どもと同じ目線に立つことの大切さを学んだ。
・子どもの「ありがとう」の言葉が嬉しかった
・子どもと接すると色々な目線で見れた。

・子どもたちとの関わりについて、まずは子どもの話や気持ちを受け止めたり、積極的に声をかけていくことで、子どもから声をかけられることが増え、少しずつの積み重ねの大切さを学びました。実際に子どもたちの前に立つ、緊張感や自分の一言で子どもたちのその後の行動に大きく関わる責任や、その楽しさを知ることができました。
・実習の中で、0～5 歳の子ども達と関わり、年齢に応じた発達の段階を見ることができ良かったです。担当の先生方に指導案の組み立て方など教えて頂き、学びの機会となりました。
・実際に子どもと関わることで、授業では学べなかった具体的なことも学べた。
・実際に子どもと関わる事で一人ひとりの事をしっかりと理解する事が大切だと思った。
・オムツ替えや食事の介助など色々なことが実践できた。
・子どもたちの方から寄ってきてくれるのが嬉しかった。
・子ども達との様々な活動を楽しみながら取り組めた
・掃除をしていると、子ども達から「ありがとう」と言ってくれたことから、保育者のあいさつをする姿勢が大切なのだなと勉強になった
・子どもの成長によって関わり方を変える
・日に日に子どもたちが覚えてくれたり、話しをしてくれるようになった時は保育士を目指して良かったと思いました。
・毎日可愛い子ども達に癒されながら仕事ができているから。
・子どもと関わったり、実習をしてみて、よく分かった事がたくさんあり、教科書だけでは分からない事もよく学ぶことができた。
・実際に子どもとかかわったり、子どもと保育者とのかかわりを見たりすることができたのでとても勉強になった。
・授業では子どもとの関わり方を学んだが実際関わってみると全く違った。
・日数を重ねていくなかで、子どものほうから話しかけてくれることが増えた。
・教科書からは学べない、実際の子どもたちのやり取りやケンカを両方から聞き出し、どのような気持ちが伝えきれなかったかということの難しさを感じながらも話をすることが楽しく学びになった
・授業では子どもの発達について学んでいたものの、実際に子どもと関わる中で、より月齢によっての発達の違い等見て学ぶことができた。
・子どもの天真爛漫な姿を実習中に見ることができました。できなかった竹馬ができるようになったことからそう感じました。
・子どもと関わっていく中で、発達・成長を感じる事ができた。
・子どもには、1 人ひとり個性があることを知り、場面や時に応じてかかわる大切さを学んだ。また、子どもや保護者との信頼関係を築いている方が、理解を得られやすく、子どものことも話しやすいと知った。
・勉強だけじゃわからなかった事を見たり聞いたりする事が出来たから
・子どもとのかかわりで、1 人ひとりの子どもの様子が見れて、全員の子どもとかかわれたこと。
・自分の保育で子ども達が話を聞いてくれたり、設定で楽しんだりしてくれたのが楽しかった

・1ヶ月間同じ子どもと関わることで、子どもたちの成長を感じられた。
・子どもとの関わりでは、子ども一人ひとりの個人差を理解し、その子の良さを認め、寄り添って保育されている姿が見られたから。
・フェルトとタオルで作った羊のぬいぐるみを4歳の園児がままごとに使っていて、目がはずれてしまった時、「おうちに連れて帰っていい？」と聞くと「ダメ。僕が連れて帰る。」と言っていて、可愛いなと感じた。
・入園式後の初登園から10日間実習したなかで、たった10日間で子どもたちの成長を感じました。
・いろいろな年齢の子どもたちと触れあい、子ども達の発達を身近で感じることができた。
・〇〇ができないと泣いていた子どもが〇〇ができたよと笑顔でおしえてくれたこと。
・子どもにとって分かりやすい言葉が何なのかなど、子どもの反応を見ることができ、分かりやすかった。
・実習大変だなと思っている時でも、子どもが笑顔で話しかけてくれたり明るい表情を見ているととてもやりがいのある仕事だと思った。
・子どもとたくさん遊び関わって子どもたちと信頼関係を築けたから。
・大学では実際に子どもと関わる事は少ないので、実習で子どもと関わった時、予想外の行動をする事が多く、とても勉強になった。
・文字や教科書だけでは分からない部分が実習を通して経験することができた。関わってみないと分からない子どもの関わり方や保育の難しさを感じることができ、とても勉強になった。
・大学で大人相手に保育を実践することは多かったが、実際に子どもを相手に保育を実践し、改めて難しさやおもしろさを感じた。
・子ども一人一人に対しての関わり方や、保育を進めていくにあたっての指導案等の書き方や、言葉の使い方を学ぶ事ができた。
・子ども同士がけんかしていた時、怒るだけでなく、「どうすれば良かったかな？」と声掛けをし、子ども同士が考えられるようにしていて、勉強になりました。
・学校の授業では教科書や先生のお話から子どもたちの発達や関わり方を学びますが、実際に子どもと関わることで知らなかったことを多く学べたからです。
・子どもとのかかわり方…喧嘩やトラブルになったときの、かかわり方や仲立ちの仕方、各年齢一人ひとり個人によって、食事・排泄面での補助・援助する内容の違いなど勉強になった。
・先生大好き！って言ってもらえたこと
・鉄棒が出来なかった子どもが、出来たしゅんかんを見れた時。
・乳児クラスに入らせてもらった時に、乳児さんとの関わりを学べた。
・実際に子どもと関わる中で、子どもの呟きや行動から、子どもらしさをたくさん学ぶことができ、今まで知っている知識の幅を子どもと関わることによって深く学べたと思ったからです。
・実際に子どもと関わることにより、どのように関わると良いのかや保育者の方が援助されている所を学ばせていただきました。

・2 週間の実習で日に日に子どもとの信頼関係を築けていることに気づき子どもとの向き合い方や関わり方を学んだから。
・様々な年齢の子どもと関わることができて、それぞれの年齢の子どもの様子が分かったから。
・10 日間同じクラスだったので子ども達と仲良くなれた。
・一緒に苦手なサッカーや、折り紙など伝え方を工夫したり、出来た時の達成感を味わえたから…
・子どもたちが「〇〇先生～！」と来てくれたのが可愛いくて嬉しかった。
・子どもと実際に関わることが出来、私の想像以上のものが見られた。
・実習生という立場ではあったが、配属クラスの子どもたちと遊びを通して関わることがとても楽しく辛いことがあっても、その時間は良い時間だった。
・私の名前を覚えてくれて、一緒に遊ぼうと子どもの方から誘ってくれたこと。
・子どもとの関わり方が、一般的な事しか知らなかった。実習をする中でより分かった。
・子どもと直接関わることでしか得ることができないことを実習を通して学び、今まで知らなかったことを知ることができました。
・子どもが活動したくなるような言葉かけを工夫することができたから
・行事は先生として改めて参加した時に、子どもの時とは思いが全く違ったり、子どもとの関わりでは、たくさんの子ども達から感謝と愛を頂きました。先生方とも仲良くさせて頂き、とてもいい経験をさせて頂きました。
・子どもに合わせて声かけを変えてみると、前まで聞いてくれなかった子どもが話を聞いてくれた。
・子どもの発達を関わることで深く学べた。
・実習前は、子どもとの関わりについて
・子どもができなかったことが少しの間でできるように成長していたり、子どもと関わることで一人一人の個性を理解できて良かった。
・子どもとの距離が近く、教科書では知ることのできない体験がたくさんできた。実践も多く、自分の力のなさを実感した。
・子どもと何か一緒にするにあたって、事前準備の大切さを感じた。
・乳児クラスに入らせていただいた際に、最初は人見知りをしてなかなか距離を縮めることができなかった子が、笑顔で関わりを求めるような姿を見ることができた時に嬉しさを感じた。
・実際に子どもと関わってみないと、子どもの様子もわからなかったし、ケンカになった時の対応も実際におこってみないとわからなかったので勉強になった。
・保育者が子どもと関わっている様子を間近で見られたことが良かった
・実習させていただいた園によって、保育の仕方や子どもとの関わり方、指導案の書き方、記録の書き方などさまざまで、色々な関わり方、書き方を学ぶことができ、働いてから、必要になった知識をたくさん持っているので、必要な時に応じて自分で考え、この園にはこのやり方が合っていると考えることができるようになった。

・子どもと実際に関わり私が思っていた“子ども”とはまったく違い、泣いている子どもに声をかけてもなかなか泣きやまなかったり、実際に子どもと関わらないと分からなかったことが多くあったから。
・0 才児は、何を話しても言葉が返って来ないので、自分から何度も話かける事が大切だと思った。
・それぞれの年齢への関わり方が少し分かった。
・「一緒にあそぼう」や「昨日したやつおもしろかった！」など言われた時に、とても嬉しかったから　・指導して下さった先生に、「こういう接し方、良かったよ」と声を掛けられたこと
・子どもたちが「〇〇先生」と自分の名前を先生と呼んでくれたことが、嬉しかったです。
・特に、子どもとの関わりは、保育者の言葉掛けひとつで、子どもの気持ちは変わるのだと学んだ。
・子どもとの関わりの中で実際に保育をしたり、ピアノを弾いたりして、過ごす難しさと楽しさを知りました。
・子どもとの関わり方や育児を一体としていて、遊びや玩具なども幅広く置いてあり、環境がとても良かった。
・子どもとの距離が少しずつ縮まり、大きな声で「～先生！」と呼んでくれたり、かけ寄って来て、素敵な笑顔で見上げてくれたり、話が尽きない程、大勢の子が話をしてくれたりしてくれました。
・朝、保育室に入った時に「先生ー！」と声を掛けてくれる子どもがいたから。
・短期間の内に名前を覚えてくれて呼んでくれたり、子ども達からたくさんの愛情をもらい自分も子ども達以上に愛情をあげたいから
・まだはいはいしかできなかった子どもが立って歩いた。
・たった 3 週間でコマ回しができなかった子ができるようになったりなど、短期間の間で子どもが成長していくこと。
・1 歳大きくなれば、多くのことを出来るようになり、日々成長し続けているんだな、と改めて感じました。
・子どもとの関わり方は、子どもがいてこそ学べることだったので勉強になった。
・3 歳、4 歳と、実習をして、1 年でこれだけも発達やできることが違うんだと学べた。
・子どもに対する関わり方や声の掛け方等、おだやかに感情的にならず関わっておられた点。
・実習中分からない事や悩んでいる時に施設の先生方が優しく分かりやすいように教えてくれて嬉しかった。
・良い所はとても褒めていただき、悪い所は「こうした方が子どもは喜ぶよ」と子どもの目線で教えてくださったので、子どもの気持ちをくみ取ろうとできた。
・指導案では、担当の先生に一つ一つ丁寧に教えてもらうことで書き方や言葉選びを知ることができた
・怖い先生もいたが、優しい先生もいて、その先生のことを子どもたちがすごく好きで自分もそんな先生になりたいと思った。
・先生同士、歳が離れていてもお互いを高め合って楽しく保育をされていた。

・消極的であった私に、保育士の先生はよく話かけてくださり、緊張もほぐれ、相談や質問がしやすかった
・献立作成などの時に保育士さんとのコミュニケーションが大事だと思いました。
・保育士、保育教諭との関わり方から職員同士の声かけや連携から子どもたちが安全に過ごせるということが分かり勉強になった。
・幼稚園実習の際、報告、連絡、相談する場面をよく見かけ、保育における大人の連携をとる事の大切さを感じました。
・実習先の保育教諭の方からのアドバイスをきき、実践でするとうまくすることができた。
・保育者の方が気にかけて優しい言葉がけをしてくれたり、責任実習で困った時に手をさしのべてくれたこと。また子どもが素直で可愛い
・毎日、実習先の先生から助言をいただき、自分が感じ取ったこととは違った視点から様々なことを教えていただき、とても勉強になった。また、実践的な部分で、子ども達と関わったり、先生方の姿を見たりできたのは良かったと思う。
・保育者と方とより深くまでお話を聞くことが出来た。
・子ども同士のトラブルがあった時には、最初から保育者が仲介するのではなく、まずは見守り、必要に応じて間を取り持つようにするというようにかかわっておられた。
・子ども一人ひとりの個性や発達に合わせた、寄り添った支援が行われており、保護者へも丁寧に関わる保育士の姿からこのような保育がしたいと感じた。
・その子どもに応じた対応をされていた為
・現場で働いている保育士の方々の熱心な気持ちや子どもを一番に考えて保育されてるのを見たり聞いたりして、私もそうなりたいと思った。
・実習先で目標とする保育者を見つけることができたから。また、自分に足りない部分を責任実習を通して知ることができたから。
・子どもとの関わりはもちろん楽しかった。指導案の書き方や組み立て方はたくさん教えていただき、勉強になった。
・指導案の組み立て方、書き方が難しかったが、具体的に書くことによりよい保育につながると学べた。
・指導案では、子どもの姿をできる限り予想することで実際に保育をし、対応できた。
・実際の現場で働く先生方に自分の指導案や実習日誌を見て頂き、アドバイスを頂けたのは貴重な経験だったなと思います。
・記録、日誌は保育で大切にしていること、保育者の働きかけを見て、援助を自分で感じて書く、ということを教わりました
・指導案や記録の書き方など、子ども達をよく見ておかないと具体的なことがなにも書けないなと感じた。
・指導案の組み立て方、書き方について担任の先生が相談にのってくださり、実習生の立場で案を一緒に考えながら実践にうつすことが出来勉強になりました。
・指導案の書き方において、言葉の表現の仕方や援助・配慮の意味をきちんと理解する等こと細かに教えていただきました。
・毎日、記録を丁寧に直して頂き、身についたと感じる。

・指導案を書くにあたって、どのような援助が必要か、また予想される子どもの姿を考えるのがむずかしくたくさん相談した。
・記録の「環境構成」の欄に分かりやすいように簡単なイラストを描いたら園長先生が「分かりやすいです。得意な所を伸ばして下さい」と書いて下さったこと。
・指導案の書き方として、すべての内容に意味があり、すごく考えられて書かれている物だと、幼稚園実習を通して学んだ。子どもの姿をしっかりと見ていないとねらいや内容は書けない事も分かった。子どもの主体性を大切に保育をしていく事が重要であると学んだ。
・指導案や反省を、実習担当の先生が細かくチェックし、アドバイスをくださったり褒めてくださったりしたのがすごく励みになった。
・部分実習をさせて頂いて、指導案を準備したのですが、私は子どもたちを指導案通りに進めようとしていましたが、担任の先生から、「指導案はあくまで指示であって子どもの反応を見て、色々変えていい」と教えて下さいました。その言葉が今でも残っています。
・指導案をたくさん添削してもらいました。
・実習記録の訂正を書き直しを何度も経験したため身についた、勉強になった。
・記録や指導案を細かく見ていただけたので、とても勉強になった。
・記録の書き方など学校で学んだ事と現場ではやはり違っていて、その場その場で、書類の書き方や社会のルールを学ぶ事ができた。
・指導案や日誌など丁寧に見ていただき、何度も直していったことで、ふさわしい言葉や、文章など身につけることができた。
・働きだしてから、毎日細かく書いていたことが活かされていると感じたため。
・指導案や記録の書き方を添削して教えて下さった。
・記録を丁寧に赤ペンで添削してくださり、この表現は違うと細かく指導をしてくださった。
・日誌の書き方は毎日具体的に指導いただいたおかげで、しっかりと書けるようになった
・指導案や、記録を丁寧に添削してもらい、自分に足りなかったことや、さまざまな配慮を改めて気づくことができ、とても勉強になったから。
・具体的に記録を書こうと指導され、書きやすくなった。
・どういう声かけをすれば、子ども達も分かりやすいか１日１日学ぶことが出来た。指導案の書き方も何度も書くことによって少しずつスムーズに書けるようになった。
・言葉遣いなど（日誌、指導案）
・記録の添削をしてもらったときに、保育士の行動には、１人１人の子どもに対する配慮があることを学んだ。
・記録、指導案の書き方について、実習先の保育教諭から何度も指導して頂いた。
・指導案を記入する際に、親身に相談にのって下さった。
・担当したクラスの先生に指導案の改善点や書き方を教えていただいて、すごく勉強になった。
・参加型の実習で一日保育をするときに指導案を細かく指導して頂いたおかげでスムーズに進めることができた。指導案があることで自分自身が安心して保育を体験できたので重要だと肌で感じた。

・記録の書き方では、毎回の記録を同じように書かないという事を学びました。たとえ同じような内容だとしても、より具体的に書くことで、保育士になってもう一度見直した時に場面を思い出したり、自分の保育とてらし合わせる材料となるということを教えていただきました。
・指導案を組み立てるのが難しかったが、書き方のコツなどを丁寧に教えてくださったのでとても勉強になった。
・実習記録を担当の先生がすごく丁寧に見て指導して下さり大切な宝物になった。
・園によって指導案の書き方等が違い、子どもに合わせて書いていくことが難しく感じた。
・指導案を立てる際、子どもに何をしてもらいたいのか、考える事で立てると、やりやすいと勉強になりました。
・記録の書き方は、細かく訂正やアドバイスを頂き、それまでの意識が変わったから。実践的な部分では、部分実習等を通して、「この人数なら（ペープサートの）サイズは小さい」や色のつけ方（鮮やかさ）を丁寧に教えて頂いたから。
・毎日の日誌を先生方が丁寧に添削して下さり、書き方や指導案の立て方が勉強になった。
・日誌の言葉遣いや、保育中の関西弁の指摘を通して
・研究保育に向けて指導案を作成しました。実際に研究保育をしてみて、事前準前する物や予想される子どもの活動をもっと時間をかけて考えるべきだったと思ったので、勉強になりました。
・指導案の書き方を「こっちにしたらいいよ」など優しく教えてくださったから。
・その時は、日誌や指導案にたくさん付せんや赤ペンで訂正されていることが悲しかったが、今となってはそのおかげで書類が書けるようになった。
・指導案を作成する際に子どもの姿を予想して書くことがとても勉強になった。
・記録の書き方や、保育の中での疑問についてしっかり答えてくださった。
・指導案の書き方や内容が難しく何度も直された。子どもも 0〜5 才に入り発達成長を実感した。
・指導案を書いていく内に慣れてきた。
・記録や計画を紙に書くことで、何を気をつけなければならないのか深く考えながら、保育実習に臨むことができた。
・実習ノートの書き方がわからない時に丁寧に教えてくれたこと。
・記録の書き方では細かな所まで添削して頂き、言葉ではなく文章にするという難しさを知り、実践での個人案や書類他の書きものに活かすことが出来ると思った。
・子どもへの声かけや、指導案の書き方を教えて頂きとても勉強になった。
・記録の書き方をどうすればいいのか具体的に指導してもらい、実際の先生が実習に行った時のノートを見せてもらってとても勉強になった。
・色んな年齢のクラスに入らせてもらったので、年齢に応じた保育が学べた。
・部分実習で子どもが楽しんでくれたり、先生方に助言をいただけたから
・実践的な部分では、書くのとやってみるとでは大きな差を感じました
・子どもの性格や発達を見て対応の仕方や、午睡から起こす順番まで工夫していることに気付いた時。

・子どもたちと毎日十分に関わることができ、個性を認めたり、一人一人に合った対応をすることを学ぶことができました。そして、設定保育をさせてもらい、自分の考えた保育を子どもたちと一緒にし、喜んでもらえた時に本当にやりがいを感じました。
・〔勉強になったこと〕実習記録を書く中で、自分が感じた先生の援助の意図と本当の意図とにズレがあったこと。自分の観察力不足を感じた。
・子ども同士のトラブル場面で、すぐに介入するのではなく、子ども同士のやり取りを見守り、気持ちの整理がつくのを待っていた。気持ちを言葉で伝える機会をあえて作るという関わりが素敵だと思った。
・設定保育など学校では学べない実践的な部分を多く学べました。
・部分実習（絵本の読み聞かせ）がほぼ毎日あり、園長先生が見てくださり、振り返りをしたりする中で、読み方や題材の選び方等を学べた。子どもとの関わりの中で、様々な遊びをし、年齢によった遊び方や、一人ひとりの特性への理解を深められた。
・子どものけんかの際に、保育士の言葉掛けが子どもの学びにつながっていた。そのような言葉掛け等が自分の中でも学びになった。
・子ども同士がトラブルとなった際、解決しようと試みたが難しく、担当の先生に、両者の意見を聞き、納得できるような関わり方を教えて頂いた。
・子どもと関わることで、どう接すればよいか等分からないことが多かったが保育士に直接教えて頂き勉強になりました。
・1 時間設定保育をさせて頂き、子どもたちとの関わりや指導案の書き方を教えて頂き勉強になった。
・子ども一人一人と丁寧に向き合っていて、良いなと感じ、勉強になった。保育者同士が連携しているのが見え、部分実習も行いやすかった。
・運動会という大きな行事をつくり上げていく過程の中での子どもの成長を見れた。
・子ども達と始めて関わったときに、褒め方、してはいけないことの伝え方、食事、服の着脱の援助の仕方等たくさん勉強になり学ばせていただいた。そして、子ども達の可愛いらしさ、できるようになったことの喜びも感じられたため。
・保育士の方が子どもに対してする声掛け、促しの言葉を聞いて、ただ言うだけでなく楽しく聞こうと思えるような工夫が見え、勉強になった。
・子どもの関わりについては、先生方が子どもに話す時や関わりを見てたくさん学ぶことができたと感じる。
・実習をすることによって、このような言葉掛けをしたら～と返ってくるなど具体的なことを知ることができた。
・実際に現場に立ち、保育を知ることで指導案上だけでは分からないこと、新たに知ったこと、学んだことが多くあった。
・学校の座学では理解していても、子どもがその通りに動くとは限らないので部分実習を通して子どもへの言葉がけ、進め方（保育）を知った。
・同じ年齢のクラスばかりじゃなく色々な年齢クラスに入らせてもらえたこと
・半日実習の制作で（幼稚園、年長クラス）私が考えた制作を楽しんで取り組んでくれたこと

・実習の終わりに、毎日ふり返りをしてくださり、その時に、「あの時はこういう意図で、こうやったよ」ということを教えて頂き、とても勉強になった。
・乳幼児との関わりが難しかったけど、楽しいし、やりがいを感じた
・運動会という行事を通して、子どもの成長を実感できたり、他の保育教諭との関わりの機会をたくさん持てた。
・授業だけでなく現場で実践すると、もっとできると思えたことや改善が必要だと思えた場面がたくさんあったから。
・実際の現場で先生達の子どもとの関わりをみることができた。
・発達に合った、個別の関わりが難しいと感じた。(促し方等)
・部分、1日と言った自分で考えたカリキュラムをためすことが出来るから
・3歳児クラスに入り、まだ2歳の園児もいて設定保育で考えることが多かった。
・部分実習など、実践的にやらせていただき言葉がけや保育内容をどう構成していくか子ども達の姿を見て考えることができた。
・子どもの気付きを大切にする保育をされている姿を見て、「こうやって言葉掛けをすれば良いのか」と学ぶことができた。なるべく否定的な言葉掛けはしないでおこうと思えた。
・様々な学年のクラスに入り、子どもの発達を実際に見て、知ることができた為。
・子どもに注意する時に、子どもが納得できるような声かけをしていて、勉強になった。
・2歳児のクラスに入らせてもらい、一人ひとりに合った声掛けや対応の様子が勉強になりました。
・部分保育の指導案では、実習担当者と相談しながら練習を重ねたりしました。絵本や手遊びでも助言をいただき、次の日の部分保育では落ち着いて実践できました。
・部分実習や研究保育を実際にして、指導案で書いた子どもの動きと実際の子どもの動きが違い焦ったが、予測してどんな時でも対応できなければならないと学んだ。予測したことを実際に経験することでは全く違うと思った。
・子どもの発達も具体的に教えてもらったり関わり方に対して教えて頂きました。
・大学で学んだことより、現場で実際に子どもや先生方を見て関わる方が学ぶことが多かった。
・部分実習を行ったとき、終了後、子どもの人数と活動に必要なスペースを考えることや、注目を集めるために小道具で音を鳴らすことなど、具体的なアドバイスをいただいた。
・最初の実習では3歳児クラスで実習させていただき、2回目は2歳児クラスで実習させていただいた時に子どもの発達を感じることができた。
・絵本読み聞かせの指導案を考え、その日中によかったことや改善点を教えて頂いたこと。ピアノ指導ではピアノはよく練習することや、歌声を褒めて頂いたことなど。
・実際に思い描いてる保育をその通りにできる事はないと、経験になった。
・実習園は運動（特に器械体操）、読み書き、計算などに力を入れており、そのメリット・デメリットについてたくさんの気づきがあった。
・子どもの発達に応じた関わりを考えることができました。また子どもだけでなく、保育者など大人の方への接し方を学ぶことができました。
・実際に現場に入ることで、見たり聞いたりして、いろんなことを知ることができた。

・どういう風に子どもと関わると、信頼関係が築けるのか、そういったことを、保育が終わった後に教えて下さった。
・3 歳未満児の子どもに対し、ついつい手を出してしまいがちだったが、自分でやろうとしている姿を見守ることや、“できた”と思えるようなさりげない援助が大切だと実際にかかわって学ばせてもらった。日誌や指導案も丁寧に分かりやすく指導して下さった。
・実習が多い学校に通っており、色々な園で様々な子どもと関わり、障がいのもった子どもと関わる機会があった時にどう接していくかなど学ぶことができた。
・0 歳児クラスから順に観察させていただいたことで発達が分かりやすかった。
・実践をさせてもらって、指導案どおりにするのではなく、そのときの子どもの様子に合わせて保育をすすめていくと知ることができた。
・実践的な声かけ、指導の仕方が分かった。自分の思っていた内容と実際の子どもの動き方のギャップ
・講義よりも実践的に子どもたちと関わったりすることで、実習先の保育士の方よりアドバイスを頂き、客観的に自分の姿を見ることができる
・子どもに対してほめてのばす保育をされていて、子どものびのびとすごしていたため、素敵だなと思い、勉強になりました。
・トラブルに対しての対処の仕方や子どもにあった声かけなどのついて丁寧に、担当の先生に教えていただきました。
・自分が設定した、設定保育が子どもたちに喜んでもらえ、先生たちからも褒めていただき、自信に繋がったと思う。
・実践的な面は現場に出てからこそ学べたことだと思う。また、毎日子どもと関わって、大変だったけど楽しいと思えることが多かった。
・先生が言う時と私が言う時の伝わり方の差。
・一人一人発達のスピードが違うので、それに合った援助等を見れたこと。
・座学だけでは分からない実践的な部分について、実際の保育現場で学ぶことができた。年齢によっての関わり方の違いや援助の方法について、保育士の方と実際に同じ部屋で保育することで学ぶことができた。
・実習中運動会の練習でダンスをしていて全く踊れていなかったのに実習後の本番をみにいくと上手にできていた子どもたちをみて感動した。
・実習を通して、保育士と子どもとの関わり方を学びたかったので、実習で学ぶことができた良かった。また、保育士同士の関わり方も学ぶことができた。
・なかなか見れない子どもの姿や、保育士の活動を見ることが出来て勉強になりました。
・10 日間の実習の中で 0～5 歳児全てのクラスに入らせてもらったので“この年代の子はこんなことができるんだ”ということを感じられた。
・大学で学んだことを実際に現場に出て子どもたちと関わることができたのでより勉強になった。
・自分の気になる学年をもたせてもらえたので、色んな年齢の子と関われた。
・Y保育園の方針が一斉保育では無く、担当制の保育であり、一人一人の日課に合わせて保育を行っていること。
・子どもの発達を間近でみられ、年齢別の差も感じた。

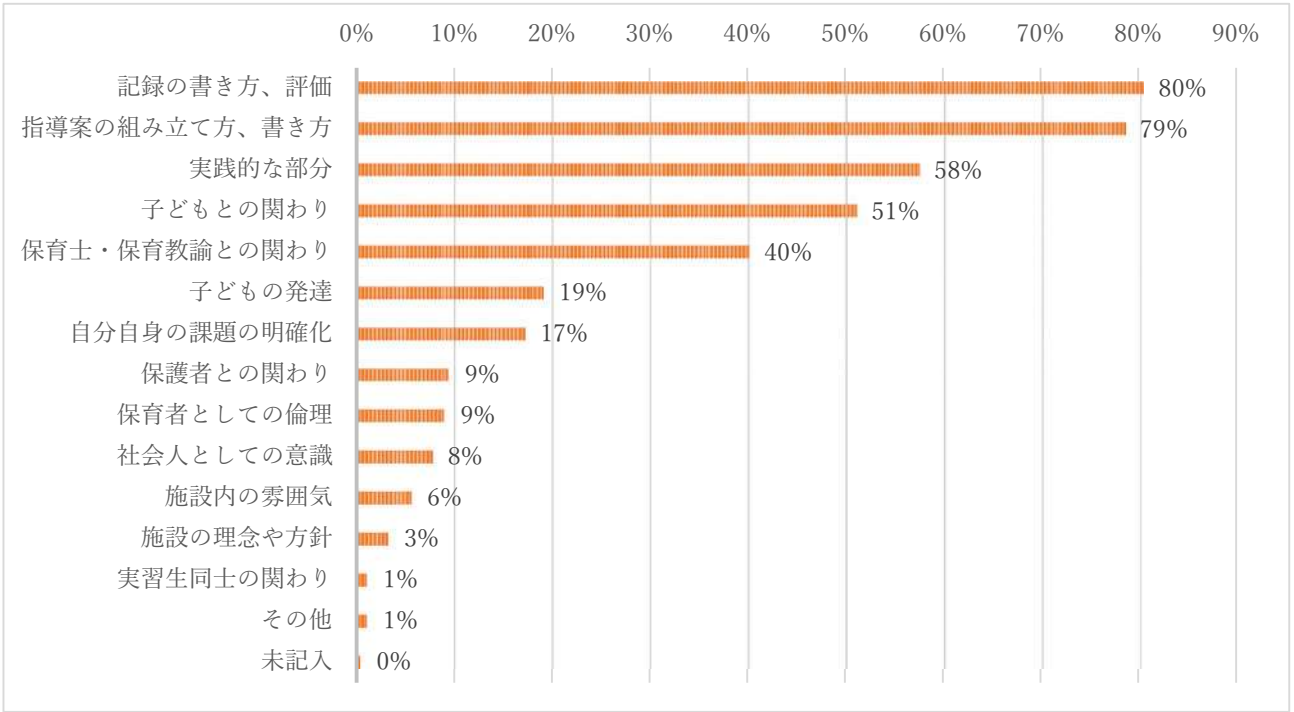
・授業だけではわかりにくい事も実習を通してわかった事があったから。
・他の先生方を見て、子どもに向けての話し方や伝え方を身につけることが出来た。また、保育をしていく上で前もって準備することの大切さも知った。
・0～5 歳児のそれぞれ年齢に応じた保育を学ぶことができた。お楽しみのペープサートで子どもたちと一緒に楽しむことができた。
・実践して、反応を良くするためのペープサートを考えて勉強になった。
・オムツの替え方、ミルクのあげ方など知る事が出来た。
・1 人の保育者として責任をもって行動する事の大切さを学びました。保育者が立つ、座る位置によって子どもを見る範囲が変わったり、環境構成もとても大切だと感じました。研究保育をさせて頂き子ども 1 人 1 人の個性を大切にし、子どもと関わる事の楽しさ、自分の課題を見つける事が出来たので良かったと思います。
・4 才児の部分保育
・働く上で職場の雰囲気はとても大切だと思ったから。指導案を実際に立ててみて、思い通りに事が進まないことを学んだから。
・人によってやり方が違うがそれぞれで上手くいくよう考えられていた。
・施設内の雰囲気や人間関係は子ども達にも影響することを学ぶことが出来た。
・子どもも、先生も伸び伸びと過ごしていた。
・保育者同士でとても柔らかい雰囲気が感じられて、職場内の人間関係が良さそうだと思った。
・毎日、保育所・幼稚園に来ることを楽しみにしている様子の子どもたちを目にしたから。
・人間関係が良かった
・朝やお迎え時の挨拶の大切さ
・実際に、子どもとかかわってみて、自分の課題がよく分かった。
・実際に子どもの前に立って保育するということは、とても勉強になりました。
・冬の実習だったので体調管理が難しかったが、働き始めると常に体調管理が大事になるので、社会人は大変だなと思った。
・保育者として、子どもの発達に合わせた日々の保育をどう進めていくか、どんな考えで保育をするか教えてもらえた。
・子どものことを何も知らなかったことを実感できた。声かけから様々なやり方を学び難しさを感じた。
・子どもと一緒に遊ぶだけでなく、考えてほしい場面や教育面でも保育士がどう関わるかで育ちが変わってくることが勉強になった。
・子どもと接する時も、ただ一緒になって遊ぶだけではなく、いけない事は伝えたり、子どもの気持ちに寄り添ったりしていくことの大切さを教えていただいた。
・実習を通して多くのことを学んだ。
・実践的なことをたくさんさせて頂く機会が多く場面に応じた関わりを学ぶことができたから。
・学校での授業とは違って実践的に学ぶことができたので良かった。保育士の方の子どもたちとの関わり方や声かけの仕方など様々なことを実際に自分の目で見て勉強することができた。

・自分自身の苦手なこと、できていないことがわかった。雰囲気が分かった。
・自分の視野の狭さに気付けたこと
・保育者が子どもとどのように関わったらよいのかを学ぶことができた。
・自分に何が足りていないか認識したから
・実習最終日に、保護者が感謝を伝えてくれて、人のために何かをすることに喜びを感じた。
・部分実習などで改善点など教えていただき分かったから
・保護者や、同じ園の先生方と関わっていく中で、報告・連絡・相談が大切であり、礼儀もしっかりしていないといけない。そのためには社会人として必要なことを身につけたり、子どもとの関係性もきちんとしていないといけないと感じた。
・実習を経験することで、机上では学べない子どもの反応等を体験することができ、自身の課題に気付くことができることが一番の学びだと感じる。
・子どもと関わるのは、やっぱり楽しいと思えた。人前で話したり、案通り以外で動くのが苦手だと改めて感じて、それを克服するにはどうすれば良いか考えるようになった。
・部分実習を通して全体を見る視野の広さが必要だと感じた。よって、自分自身の課題の明確化ができた。
・“子どもとの関わり”に関しては、実習で実際に関わらないとイメージも湧きにくいため、自分からたくさん関わりに行くように意識した。実習での経験から自分自身の課題が何なのかがはっきりと分かった。
・大学 2 年生の頃に入った実習先の子ども達と関わった後、大学 3 年生の頃の 2 回目の実習の際に成長している部分が大きく見られた。
・実習に行くまで子どもと一日という長い時間関わることがなかったため、将来につながるいい経験だったと感じたから。
・実習を通し、子どもを叱るというのが中々できず、自分自身の課題が見つかった。
・実習を通して分かったことや理解できたことがあったこと。
・実習期間という短い時間でも子どもの成長を感じたり、研究保育や 1 日保育などを経験させていただいたのでたくさんのことを学べた
・1 日実習をさせていただくことで自分の課題が見つかり良い経験になった。
・各年齢の実習に入るたび、関わり方が違ったり、できることが違ったりしたため、子どもの関わりや発達はとても勉強になった。
・自分の考えた活動で最後まで遊び込み、後日も活動の話を楽しそうに話してくれたこと。保護者の方からも子どもが楽しんでいたという話を聞いた時。
・子どもと関わることで自分の気付きが増えました
・自分で仕事を見つける、子どもの見通しを持って環境を考えて動く等、人任せでなく、自分で考えて動くのが社会人だと感じた。各年齢において、平均的にどのくらいできるか等も学べた。
・実践的なことをたくさん経験させて頂けたので、自分が何ができないかをしっかりと考えることができました。また、子どもたちの発達も近くでよく見させて頂けたので、とっても勉強になりました。

・実践的な部分で、保育ではマニュアル通りにとはいかず、子どもの毎日の様子や状況が変化していく中で、その場面に合った援助が必要なのだと学んだ。
・実際に関わってみて、大変なことも楽しいことも分かったと思う。
・保育の実践をとおして今までの自分が生きてきた中の欠点や課題が見つかった。改めて知らされた。
・毎日の実習の振り返りなどで、質問などをすることで自分では気付けなかったことに沢山気付くことができ、学びが深められた。
・保育実習Ⅰの時の保育士が1週目一緒で“前回より保育に余裕が見えていい”と褒めてくださった事、年齢に応じた子どもとの関わりの難しさを学んだから。
・4つの中の「実習生同士の関わり」では、実習を経験した上で自分とは違う子どもや保育に対しての考え方を知ることができたので学びになった。
・部分実習で製作活動をさせてもらい、事前準備から完成までをやりとげた後に、達成感を感じた。反省点ばかりだったけど、子どもたちの笑顔が見られたのが嬉しかった。
・学校で同じ生徒を相手に手遊びやペープサート等をするのとは違い、実際に現場で子どもを前にすると、自分に注目させることや展開の仕方に戸惑い上手くいかなかった。
・様々な施設があることを知れたこと
・色々ありすぎて覚えていません。
・保護者対応の必要性、大切さを学んだ
・実習期間後に運動会の手伝いに行かせていただいた時に、子どもの成長を実感できたのが、良かった。
・保護者の方から頑張ってねとお言葉を頂いた。
・施設によっての違いを感じられた
・現場で役に立っている。
・同じ実習生がいることで相談できてよかった。

6. 実習を振り返って、大変だったこと、苦労したこと、つらかったことなど、上位 4 つを教えてください。

回答欄	件数	%
記録の書き方、評価	375	80.47%
指導案の組み立て方、書き方	366	78.54%
実践的な部分	268	57.51%
子どもとの関わり	238	51.07%
保育士・保育教諭との関わり	187	40.13%
子どもの発達	89	19.10%
自分自身の課題の明確化	80	17.17%
保護者との関わり	44	9.44%
保育者としての倫理	42	9.01%
社会人としての意識	36	7.73%
施設内の雰囲気	26	5.58%
施設の理念や方針	15	3.22%
実習生同士の関わり	5	1.07%
その他	5	1.07%
未記入	2	0.43%



6-2. 上記設問に対して、具体的な内容や感想、そう感じたエピソードがあれば教えてください。

・子ども一人一人違うので、声掛けが難しかったです。
・子どもと関わる際にトラブルが起きた時の対応や声掛けの仕方。
・はじめて子どもと関わった時、どのような声かけをするといいのか戸惑った
・初めて子どもたちの前で保育をすることが不安だったし、指導案も組み立てるのが難しいなと感じた。
・子どもとの関わりの難しさや実践的な部分として活動の内容、進め方、時間配分、声かけ及び援助、配慮についてイメージしていた通りには行かないことが多く、臨機応変に動くことができなかったこと。担当の保育士さんに声をかけるタイミングがつかめなかったり、何をどう相談すればいいのかが分からず悩んだ。記録が中々書くことができず夜中まで書いていたため中々睡眠時間が取れなかった。
・子どもとの関わりは楽しいと感じた反面、けんかの仲裁や言葉がけで困ったことがあった。また、職員同士の関わり（連携）方も大変だと感じた。
・どう注意を子どもにすればいいのか分からず、困りました。
・子ども達と関わることが楽しかった反面、子ども達が困っている時など声掛けをどのようにしたら良いのか難しかった。
・子どもの発達に合わせた声のかけ方や関わり方は、実践経験が少なかった分苦労した。
・子どもとの関わりは楽しいが、トラブルの対応などが大変だった
・個人差が大きく、一人では上手く対応できない部分もあったため、子どもの発達についてもっと知識を深めないといけないと思った。
・子どもとの信頼関係ができていない為うまくいかないことが多くつらかった。「イヤイヤ期」もあり、言葉かけが難しかった。
・実習生と認識していて話しを聞いてくれない時もあった。
・一人ひとりの姿を理解した上での声かけや援助をすることが難しかった。保育者の関わり方を真似ながら子ども達と関わることを意識した。
・実習初日から、発達特性のある子の行動を見るように言われ、関わり方がわからず大変だった。
・子ども一人ひとりに応じて言葉のかけ方がとても難しかった。いろんなことを試行錯誤しながら関わったが 10 日間では短く答えは見つけられなかった。
・子どもの発達や、一人一人への言葉がけが難しかった。
・子どもとの関わりは、その子の家庭環境や性格など知らない状態だったので、難しい部分もあったように思う。本実習では後半の一週間、保育を任せてもらい、大変な面も多かったが、やりがいのある実習になった。
・子ども一人一人への関わり方がとっても難しく、どう声かけをしてあげたら良いのか分からず大変でした。また、実践的な部分では思っている以上になかなか子ども達が楽しめるように保育ができなかったりしたので、どうして良いか分からず苦労しました。
・子ども同士で言い合いや物の取り合いをしている際にどのように声掛けをすると良いのか分からず、大変でした。また、記録を書く際の言葉の使い方が難しかったです。

・実習をさせていただく中で、子ども達への伝え方などが、とても苦労しました。子どもの姿は、その日その日で違ってくるので、その変化に対応していくのが、難しいなと日々感じていました。
・子どもへの説明が難しかった
・一人一人子どもの発達はまったく違うので、一人一人に応じた対応がなかなか分からなかった。
・2 才児と初めてかかわったのですが、すごく思っていたのと違い、まだまだ距離があるなと思いました。
・子どもとの関わり。月齢や年齢以外にも、その子自身の発達状況に応じて大人側の援助方法を変えないといけないところが難しかった。
・やはり、子ども同士のトラブルなどの解決や援助が難しかった。
・保護者との関わりがあまりなかったので、学ぶことは少なかった。でも、実習最終日につれて、お迎え時、保護者から、「うちの子〇〇先生の大好きみたいで…！」「お世話になりました。」など声を掛けて頂いた。
・子ども一人一人ちがうので、その子にあった関わりをするのが大変だった。
・4 つの中の「子どもとの関わり」では、ありがたいことに大勢の子がたくさん来てくれました。ですが、その経過、保育者との関わりをあまり見ることができませんでした。
・実際に子どもたちと関わる事で分からなかった事がたくさん分かり勉強になった。
・保育者の援助、配慮の所がとても難しいと感じた
・子ども間で起きたけんかなどのトラブル時、うまく双方の思いを代弁し納得できるように導いてあげることができなかった
・実習生と担当の先生の関わりは、働くか働きたくないに大きく響くと思いました
・その子どもはどんな子なのかわからないため、接し方に困ることがあった。質問をしたいけれど、保育者はいつも忙しそうでできなかった。
・お忙しそうにしている職員にきくタイミングとどの職員にきけばよいのかが分からなかった
・指導者がこわい
・とにかく厳しく字のクセまで言われた。
・直接、実習生に注意や指導するのではなく、他の保育者同士で実習生に対する意見を影で言っていることがあった。また、他クラスに入っていた実習生は責任実習で使う保育教材を貸してもらっていたが、私はのりやクレパスも全て用意しなければならなかった。
・子ども見守る中で保育士の連携・情報交換は大切なことなんだと思いました。
・忙しそうな先生方に上手く話しかけられず、書類を提出できなかったり質問できなかったりした。
・人との関わりが多いので、そこが難しいと感じた。何もわからない中で質問をしてもわからないこともあり、何度も聞くのは失礼かと思い聞けなかった。
・良い先生もたくさんいましたが、子どもに対してとても厳しい先生や他の保育士を悪いと言っている方もいて、驚きました。
・先輩保育士達に気を使って仕事をするのが苦労。

・上司に対し、分からないことを相談しにくい環境、雰囲気があると感じる。上司の目が気になり、うまくいかないと、とても不安に感じる。陰口が多く、自分も言われているのではないかと思う。
・保育士の方からの指導はとても役に立ったのですが教え方が厳しく少しつらかった。記録の書き方がまだ理解していなくて、何度も書き直しをしたこと。最終日には保育士の方の指導のおかげで書けるようになった。
・保育士も様々で優しい方から厳しい方までいたので、実習生としての気遣いが大変だった。
・保育士の方々の言うことが違ったこと。
・人見知りというのもあり職員方とうまく話すことができなかった。今と違いからの中にとじこもっていたから
・担当の保育者が淡々としている方だったため合わなくてすごくしんどかった。
・指導して下さる先生が厳しくて、怖くて関わるのが辛かった。
・実習先の先生の子どもとの関わり方や､実習生に対する発言がとても辛いものであった。記録の書き方についても、ほめられる事は一切なく話す言葉に矛盾点が多いなど、とても大変だった。
・園長から雑務を指示され､「おそい」「さっさと進める」等の言葉を言われた。罵声のような言葉。実習生に対する扱い方が、とても雑であった。
・職員同士の暴言、子どもへの態度が怖かった。
・慣れるまでの職員に対しての気疲れが半端ないです。また、それで疲れているのに、記録や指導案などやる事が多い。保育の準備など
・保育士の先生に気をつかうのが大変でした。
・質問があってもなかなか途中で聞けなかったり、忙しそうにされていて声を掛けづらかったりした
・保育士の中には実習生をきらう人や、一部の公立保育士がえらそうに言ってきて実習もイヤになった。人間関係が一番しんどかった。
・どこまで先生に相談・質問していいのかわからなかった。
・担当の先生に何も指示されないことが多く戸惑いばかりだった。毎日のように子どもをどなりつける声がそれぞれのクラスできこえ、子どもたちがかわいそうだった。
・子どもと関わりながら、実習記録のためのメモを取るのが大変だった。
・記録の量がとても多く、毎日 3 時まで書類を書いており、体力的に大変でした。
・実習（10 日間）だけでは子どもの興味や生活の流れを掴みにくく指導案が難しかった。
・他の実習生の指導案も一緒に考えることがあった。
・夜遅くまでかかって書いてきた記録をズバズバと否定され、全て書き直してと求められた時。職員間の悪口を耳にした時。
・子ども同士のトラブルや、指導案のように上手くいかないことがあった。
・指導案、記録に時間がかかった。
・記録を書くのが大変。

・記録の書き直しがあり、言葉づかいが難しいと感じた。子ども同士のトラブルの時も、どのように対応して良いか分からなかった。1 日経営・部分実習の際には、分からない、難しいことばかりだった。
・書き物がもともと苦手なので書類関係は苦労します。
・保育士が○○くんに△△をした。とかくと、どういう意図があってそのように保育士は援助したのかなど考えていくことはとても自分のためになりました。
・日誌の書き方が難しかった。
・実習をしてから家での記録や指導案をするのは体力的にも精神的にもしんどかったです。あと、活動の動きが分からず動けないことが多かった。
・毎日の記録が大変だった。記録を書いて、指導案を書いて、準備をして…と家に帰ってからが大変で時間が足りなかった。
・記録が多く、疲れて帰っても書類に追われ、眠る時間がとても短かったこと。
・指導案や日誌の書き方が難しく、何度も確認してもらった。
・指導案を組むのが大変だった
・子どもの発達に合わせた指導案や計画の立て方が難しかった。
・毎日実習が終わり家で記録を書くことが少し大変だった。指導案での子どもの動きを考えるのが難しかった。
・記録の書き方など、仕事を初めてからも役に立った
・雰囲気に耐えられない。指導案や記録がうまく書けず、苦労した。子どもとの関わり方も難しかった。遊べるお姉さんではいられないから。
・日案など、書き方が分からなく苦労した。
・指導案を考えるのが難しかった。授業で習った感じのように簡単じゃない。
・風邪で体調面が大変だった。記録の量が多く、眠れる時間が少なかった。
・実習でいつも以上に疲れた後に実習簿の記録はとてもしんどかった。園によっては実習簿の書き方が違うから、学校で教えてもらった書き方だけでは評価のやり方がかわってくる。
・毎日の記録がとても大変でした。実習中にメモがとれないので、一日の活動全ての環境構成、子どもの姿、保育者の援助が大変
・日々の指導案、日誌がとても大変でした。そして、設定保育では、その子たちに合った保育を考えるのに苦労しました。
・部分実習の際に指導案に苦戦した
・17 時半頃に終わり、記録を取るのは大変でした。
・記録を書くときに上手く言葉にできなかったり、子どもを観察する時にどのような視点で見たら良いか分からなかった
・毎日の指導案、記録が大変でした。
・記録や設定保育など初めてのことで戸惑いや不安もあったが、そこでの経験が今の保育・教育につながっています。
・記録の書き方では分からないことや難しいことが多く、大変だと感じた。

・ほぼ毎日の部分実習、一日の半日実習一日の全日実習等をし、帰ってからの記録＋指導案を書くのは、ほぼ寝られず大変だった。しかし、実践が多くできたので、勉強になった。
・記録の書き方が実習担当の先生の求められる質が高くてとても苦労した。
・初めての実習では、養成校でも指導は受けていたが、記録の書き方が難しく、初日の記録を提出した際に配慮の書き方や注目する点について教えて頂いた。
・記録は正しい書き方が分かっておらず、書くのに時間がかかり大変でした。
・記録の書き方の際に、保育者の援助・配慮欄から自分が思っていたことと反してなぜ保育者はその配慮をしているのか言葉に表し書くことに苦労していた。
・イメージ通りに実践できないこと。時間に追われ記録が負担に感じること。
・毎日書く記録の多さ・書き方にとても苦労した。
・記録は毎回するので、書く内容がかぶらないように書くのが大変だった。
・学校でも、実習簿や、指導案の書き方は、練習していたけど、実習先から指定があり、書き方に苦労をした。
・指導案の書き方や、記録の書き方には沢山涙した。自分の一日見たもの、感じたことなどを思うように文章に出来なかったり、表現に困る事が多くしんどかった。また、それにともない、睡眠も十分にとれず、体力的にもしんどかった。
・指導案の書き方を大学で深く学べていなかったので、何度もやり直して提出した。
・記録、指導案など自宅での持ち帰りが辛かったが勉強にもなったと思う。
・記録・指導案の書き方が保育士によって変わるのが難しい。
・指導案を立てて実際にするのが大変だった
・自分の中である程度想像して指導案をたて、部分実習をしたが、予想外の行動だったり思ったほど楽しくなかったりしたことがあった。活動へのもっていき方やつながりを意識して、楽しくできるようにするのが難しかった。
・指導案を考えるときに、子どもの発達段階が分からず、どのようにしたら子どもたちに楽しく分かりやすく伝わるのかを考えることが大変だった。
・はじめの指導案は何を書けばいいのかもわからず、訂正がたくさんあってとても大変でした。
・実際に子ども達の前で私が考えた指導案で保育をしたときが苦労しました。ゲームの説明や始めるときに、全体に通るような声掛けがあまり出来なく苦労した場面がありました。
・指導案の書き方や記録の書き方はその園の書式で書くため、園によって全く違うので少し戸惑いがあった。実践的に部分、全日保育を行い、自分自身の課題がたくさん見つかり少し辛かった。
・記録は量も多く大変だった。
・初めて日誌を書いて、とても難しさを感じた。半日、設定保育をして、計画通りにならないことの方が多くて大変だった。
・記録を見て頂く先生によって指導の仕方が違い大変だった。
・毎日の記録や指導案など、考えて文にすることが難しかった

・年齢に合った遊びや、子どもの発達を配慮を考え、指導案をたてる事が難しかった。保育教諭との関わりがしんどい実習もあった。
・毎日の実習記録は、慣れないということ、一日の疲れなどから、大変だった。
・日誌の書き方がなかなかわからず時間がかかった。家に帰ってから日誌を書くのが大変だった。
・一斉活動をした経験がなかったため、指導案を書く際子どもの様子を予想して必要な援助を考えることが難しかった。
・実習で体力をつかい、家に帰ると疲れきっていたが、そこから指導案や記録を毎日書くことが大変だった。
・記録の書き方が園によって異なっていたこと。
・記録の書き方が長くかかりすぎて徹夜したことがあります。
・指導案や記録の書き方が分からず、何時間もかけて書いて寝不足になった。
・接して間もない子どもたちの発達段階等をふまえて指導案を作成し、実践するのが難しかった。
・指導案を書くとき、制作物を試作で作ったが、子どもの目線で考えられず、難しい物になってしまった。
・初日は、日誌などがとても大変で不安も多く大変でした。
・頭で考えたこととは違う動きになるので、指導案を書いても、実践では焦ってしまう
・記録、指導案両方の日は徹夜で実習に行っていた。
・子どもたちの発達に応じた遊びを考え、それを文字にして、わかりやすいように書くことが大変だった。
・毎日夜中までかかって記録を書いていたため、日中の保育に集中できなかった。
・記録の書き方は完璧になることがなく、更に指導案も考えて書くことで、時間が足りませんでした。
・園によって方針や保育のやり方が違うので指導案などを書くのが難しかった
・指導案を書く上で、子どもの行動を予想して書くことが難しかった。
・保育のつながりや指導する上での準備物等がとても難しく、案や記録も書き、言葉・援助と環境構成の違いが明確ではなかったため、とても苦労をした。
・日案、週案など計画的に立案することの難しさを知った。30 分ほどの設定保育だったが何度も考え直し書き直した。
・予想できない子どもの姿を考えながら指導案を組み立てることが難しかった。
・毎日の記録の環境構成を記入する部分で、さまざまな配慮がされているにも関わらず、自分がそれに気づけず書けないことが多かったから。また、指導案も授業であまり書く回数が少なかったので、自分でイメージしながら書き進めていくことに苦労したから。
・記録の書き方が厳しかった。
・何度も指導案を直されたこと。
・記録は慣れるまで時間がかかり、遅い時間まですることがあった。
・指導案や記録の書き方にとても苦労しました。学校で学ぶ機会は何度かありましたが、実際に 1 から書くとなるとどう書くべきなのかとても悩みました。先生方のご指導のもと書いていくうちに書くことが出来るようになりました。

・指導案は学校で習った通りに書けることがほとんどなくて、その実習先の園の子どもに合わせた指導案を書くのに苦労した。
・記録することが多く、毎日の睡眠時間がいつもより短かったため大変だった。
・指導案が難しかったです。
・実習記録を家に帰ってから書くのが、時間がかかって大変だった。また、保育者が保育者の悪口を言っている施設があり、苦痛だった。
・記録については、細かい部分も書くので、時間がかかり大変だった。保育教諭との関わりについては、言葉遣いを気をつけるようにしていたが、直すことが大変だった。
・記録の書き方が園によって違い、前回は良かった所も今回はだめということがあった。
・書き方は、言葉遣いが難しかった。
・実際にしてみると自分が思っていた以上に子どもに通じなかったり、収集がつかなくなってしまったから。(指導案)
・一度書いた記録を先生方に指導して頂いた後、再度書き直さなければならず、しんどかった。
・実践的な部分で、指導案で計画していたことを、実際にやってみると思った通りにいかず苦労した。
・指導案を作るのが初めてだったので難しかったです。
・文章を指定されたり、書き直しが多かったから
・記録にかなり時間がかかったことで十分な睡眠がとれず、保育に集中できないこともあった
・指導案の組み立て方や書き方が一番大変でした。その年齢に合った言葉掛けや活動がとくに難しかったです。
・記録を書くのが難しく、言葉を見つけるのも大変だったので、すごく苦労しました。
・指導案は学校で何度か練習していたものの、その園によって書き方が違ったので大変だった。そして、それを子ども達の前で保育をするとなると、緊張もありましたし、配慮など事前に細かいところまで考えておかなければいけないので難しかった。
・指導案では、予想される活動内容を考え、細かく書くのが大変だった。
・子ども一人一人に合った・楽しめるような指導案を立てるのが難しかったが、担当の先生にご指導頂き、乗り越えることができた。
・記録を書くのに時間がかかって夜ねるのが遅くなり、体調を崩してしまった
・記録は毎日夜中までかかっており、心身共につらかった。
・指導案の組み立て方で、指導案をきっちり書けていても時間が早くなったり、次の活動に移るときにギリギリになってしまったりと間が難しいと思っていました。
・実習日誌・記録・指導案の記入、訂正後の書き直しが大変だった。
・指導案が上手くいかなかった、書き方もよくわからなかった。
・指導案や記録の書き方が難しく感じ、大変だと思うことが多かった。
・子どもの発達に応じて指導案を考える所が大変でした。特に、乳児は月齢によって変わるのでできることなどを考えることが苦労しました。
・指導案を組み立てていても予想していなかった子どもの動きがあったときに臨機応変に対応するのが難しかったから。

・指導案等、園によっての方法やルール、先生によってのルールがあると感じた。
・部分実習や1日実習を多くさせて頂いたが、指導案や記録、準備に時間がかかりすぎて、睡眠時間があまり取れなかったから。
・指導案の書き方、ピアノ（実践）
・指導案を書いても実践の部分で違う子どもの姿が出てきたり、子どもに興味をもたせたり継続的に楽しめるようにする事…
・毎日記録や指導案におわれてしまっていたから。
・記録や指導案を毎日考えて書くことに苦労しました。“丁寧な言葉づかい”というのはどのようなものであるか、それを上手く使いこなすにはどうしたらいいのかをよく言われていたので、観察していた。記録は毎日3枚ぐらい書いていたので、睡眠時間が思ったよりとれなかった。
・指導案の組み立てはとても悩みました。
・指導案をつくっても思いどおりにいかない時がある。
・長時間考えて書いた記録だったが、見落としや工夫に気付けないことがあり、直すことにも大変だった。
・炎天下で遊んだり、草抜きをして疲れた体で、夜に家で記録を書かなければならないこと。
・対象年齢の発達やできること等を分かりきっていない中での指導案が、中々思いつかなかったり、体調を崩しながらの部分実習があったりで、大変だった。
・毎日、記録をかく。
・記録が全く書けなくて悩んだ。自分が出来なさすぎて泣いた。保育士の先輩との接し方も分からなかった。
・勉強不足ということもあり記録の書き方に苦戦した。支援の必要な子の関わり方
・子どもの活動を予想して指導案を書くのが難しかった
・様々な視点から、指導案を立てるのが難しかった
・記録を何度もやり直したこと。
・記録は何回やっても全くわからず、これでいいのかと悩みながら書く日々でした。学校でもしっかりと指導して頂けなかったからです。実習生は自分より年下になってしまうと、何を話して良いかわからず最初のうちはコミュニケーションがしにくかったです。
・保育園にいる時はあまり疲れを感じていなかったが、家に帰ると記録を書くことに時間がかかり大変に感じた。
・指導案を書くことが難しかった
・指導案を何度も書き直した。なぜ書き直さなければならないのか詳しく教えてもらえず苦労した。あまり優しい保育士・教諭がおらず、心が折れそうだった。
・文章表限が得意ではないので、記録や指導案が大変だった。
・記録ではメモをとれなかったので動きなど全然思い出せず時間がかかってしまったから。
・毎日の記録が大変でした。優しい先生もいれば少し威圧的な先生もいて話かけにくかった事があります。
・日誌の書き方や、指導案の書き方に苦労しました。子ども達の前で何か実践を行う時、何を目的としねらいを定めるのか考えて行うことが大変でした。

・書き方がわからなくて寝られなかった。
・毎日家に帰ってからの記録が大変だった。睡魔との戦い。
・大勢の子どもの姿を考えて、「この子ならこうするだろう」と予想をしてそれを踏まえて指導案を書くことが難しかった。
・記録の書き方がどう書けばいいかわからず毎日本を見ながら書いたりしていたからです。
・記録や指導案は時間をかけた部分だし、指導案は何度も書き直したりしても保育が上手く出来なかったりしたから。
・一日の流れをどのように書いたら良いか分からなかった。(0 才児は、限られているので)
・記録を書くのに 2〜3 時間かかることもあり大変だった。
・記録が夜遅くまでかかったり、指導案を書くのが難しかったので大変だった。
・子どもにとってより良い指導案を考えることが難しく、時間がかかってしまったので。
・援助や配慮の書き方が難しかった。子どもの発達や年齢に会った遊びを考えることが難しかった。
・毎日の記録と指導案の作成があったため（指導案は毎日ではなかったが）家に帰っても休める時間が少なかった。
・毎日家に帰ってから記録を書くのは、体力的にとてもつらかったです。
・初めて指導案をかいたのでどう書いたら良いか分からず苦戦した。
・記録や日誌の書き方での言葉の使い方が大変でした。
・記録をまとめて書くのが難しかった。人見知りをしている子どもとの関わりに苦戦した。
・指導案では、どうすればより子どもに興味を持ってもらえるかが経験もなかったので、むずかしかった。
・指導案の書き直しを何回もした。
・苦手だから、長く時間をとってしまう。
・記録の書き方では、保育者がどのような思いで、その言葉掛けや手立てをしているのかを考えるのが難しかった。
・記録を書くのに時間がかかり、前の分の記録の書き直しもあり、大変だった。
・学校でやってきた指導案との違いに戸惑った
・日誌の量が大学ごとにちがうので大変でした。
・実践は、実習前に案を立てて保育者に見せて行っていた。普段、集団遊びをしていない子ども達に部分実習などの計画性のある遊びをするのは難しかった。
・実際子どもを前にするとどのように関わればいいのか分からなくなった。
・実際に部分実習や責任実習をした際、指導案通りにしか考えがなかったため違う場面がでてくるとパニックになってしまった。
・子ども一人ひとりの特性を理解し、その子どもに合った保育を行う事が難しかった
・その子に応じた対応をしなければいけないが、その判断が難しいと思った。
・実践的な部分で、思うように上手くいかず、難しいところが多かった。
・こういう時、どうしたらいいんだろうと日々感じて、聞いていた
・実際に保育士になってみるとピアノがたいへんで苦労することがある。
・実際に、子どもたちとゲームをしたりすると予想していた動きと違うことになると対応が難しかった

・想像とは違うことが多かったため、話し方や考え方に苦労していた。
・部分実習の前日やピアノを弾く時、慣れないことなので不安な気持ちになった。
・イヤイヤ期の子どもに対して、どうしたらいいのか対応が分からず大変でした。
・一度に大人数を見るという経験がなかったので、みんなを集めることの大変さを身にしみました。
・全日実習を行った際に設定保育の進め方が難しかった
・短い期間しか関わっていないクラスでの部分保育や全日保育は、気を付けることや配慮事項が把握出来ず、難しかった。
・一人一人に個性があって、発達に合った保育の仕方やトラブル時の対処の仕方など難しいなと感じた。
・実際に自分でイメージしていた事とその時々での子どもの行動でのギャップがあった時の対応など。
・実際にやってみるのとでは違うことを痛感した。
・さまざまな子がいる中で、一人ひとりとどう関われればよいのか考えながら実習に取り組むよう心がけたが、関係が少しでき始めた頃に実習が終わってしまう。
・部分実習で4歳に対して保育を行った時にやっぱり指導案通りに行くことが出来ず、大変だと思った。
・研究保育の内容やどのようにしたら子ども達に伝わるかの言葉がけがむずかしかった。
・実際に現場に立ち、保育を知ることで指導案上だけでは分からないこと、新たに知ったこと、学んだことが多くあった。
・クラスをまとめる大変さがわかった。
・学校で習った通りにしても、園のやり方があり、そのやり方を覚えるまでが苦労しました。
・保護者の方々に質問されたことがあまり分からないことだったので、先生に聞いて解決したけど、こんなこともあるんだと思った。
・臨機応変に行動することが難しかった
・部分保育での導入の仕方が難しく、どのような内容でどう声を掛けながら興味関心を引こうか悩んだ。
・たったの何週間で、子どもの心をつかむのは難しいと感じたこともあれば、指導案を丁寧に考えることで、子どもの心を少しでもつかめることが分かった経験をしたため。
・部分実習の立案がうまくできず、大変だった。
・人見知りの頃の子どものクラスで、着脱の手伝いを嫌がられ、信頼されるまでの大変さを感じた。
・頭や紙で考えていても、いざ実践となると思い通りにならないことがあった。
・幼児クラスから乳児クラスへの移動でギャップに最初は戸惑った。
・事前に部分保育や、設定保育の準備をきちんとしておくべきだった。
・子どもたちの前でピアノをいつものようにひけなかった
・部分実習などにかなり苦戦したが、やりがいがみつかりよい経験になった。
・部分実習が自分の予想していないことが起こり、うまくできなかった
・年齢にあわせた味つけ、大きさ、量を調節するのは難しかった。

・導入から設定へのつなぎが難しく、どう声をかけて良いのかわからなくなった
・保育の引き出しが少なく、子ども達が注目できるような手遊びなどに苦労した。
・子どもの姿に合った保育を考えることが難しかったから
・初めはどう関わったらよいのか分からず話しかけることで精一杯でしたが、認めてあげたりすることが大切だと学びました。
・自分が思っていたようにならなかった。
・実習生でどう保護者と関わったらいいか、その日の出来事を伝えたりはしたが難しかった。
・子どもが楽しめる指導の仕方に悩んだ
・その子その子に応じた発達による関わり方（衣服の着脱を手伝うか、叱り方もどこまで理解できているのか）に悩むことが多かった。
・子どもの発達に合わせた声かけが難しかった。
・学んだ事をいくら覚えていてもいざ子どもたちを目の前にすると一人一人の姿が違って同じようにではなく一人一人の関わりの大切さを身にしみて感じた。
・設定保育をして、子ども達のペースに個人差があり、進め方が難しかった。
・実習期間の中で部分実習でする遊びや流れを考えることが時間がかかって、しんどかった。
・実習記録の言葉遣い等に悩んでしまい時間がかかってしまったことが実習中で大変だったことです。
・半日実習などでは、活動の展開や子どもたちへの言葉遣いを考えることが難しかったです。
・保育実習が 2 週間あり、その 2 週目の月曜日から声をまったく出せない状況の中実習をしていました。金曜日に公開保育がありましたが、少しだけ声が出せる状況で歌唱指導を行いました。保育者の方が一緒に歌って下さったり、子ども達も実習生の歌声に耳をすませながら聞いて下さったのでなんとかのりこえることができました。
・部分実習を考えてと言われたのが最終日の 2 日前で大変だった。
・年長児同士のトラブルの際、一方の子の話ばかりを聞き、もう一方の子の話を曖昧に聞いてしまっていて、話を聞いていた子が「やられた」となっていたが、教師が再度じっくり話を聞くと、「やられた」と思っていた子に原因があった。トラブルの対応が難しいと感じた。
・子どもが話を聞くことが少なく、ザワザワしている中で設定保育をしたのですが、静まるどころか、更に騒がしくなり上手くいかなかった。
・上司からのアドバイスをたくさんもらって頭が混乱した。今の職場はたくさんではなく、気づいたときなので辛くはない。
・自分が予想していなかったことが起こった時に、どう対応すればよいか戸惑ったり、指導案通りの時間で進めることが難しかったです。
・知らなかったからたいへんだった。難しかった。
・年齢に応じて援助すること見守ることを考え判断することが苦労しました。
・ただ子どもと話すだけではなく、その子の発達や性格などを理解することが実習の期間では苦労した。

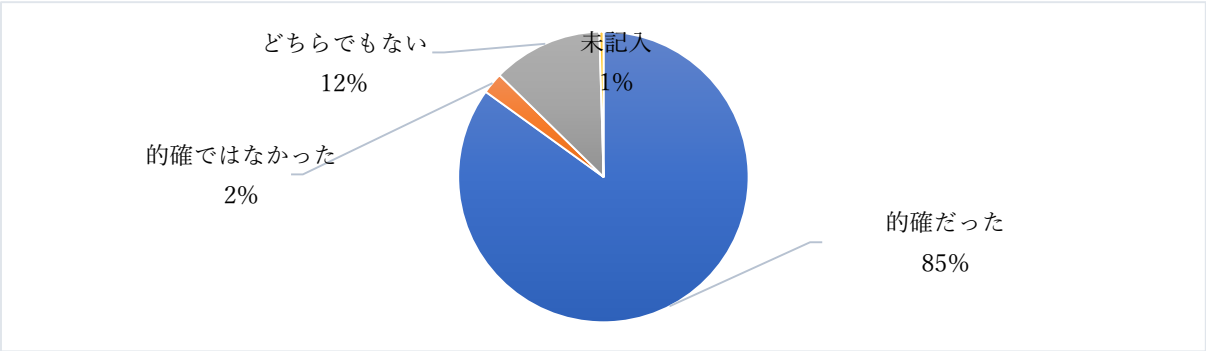
・子ども達がケンカをしている時にどう声かけをすれば良いのか。
・場面によって、どう子どもに接したらよいか、対応したらいいのか、困ったことがあり、トラブルが起きた際の声かけは難しいと思った。
・ピアノが苦手で、毎日指導案や記録を書きながらも何曲も練習しなければならず苦労した。
・保育を実践することの難しさを感じた。準備・声掛け・指導方法など
・部分実習でしっかりと文字にして予想をたてているが、実際にはなかなか上手くいかず、難しさを感じた。
・11 月に行った実習では子どもがどんな子で何ができ、何が苦手か分からず、どう関わり、援助していけばいいのか分からないこともあったが、先輩保育士さんの関わり方を学び実践していくことで大変だったことをのり越えることができた。
・子どもからの要望にどう答えたらいいのか。
・まだまだ発達の違いを知れていないので対応の仕方がわからなかったこと。
・子ども同士のトラブルの解決が難しかった。
・自分が考えた指導案通りに実践できなかった。
・実習生として、どこまでの事をしたらよいのか、子どもたちの関わり、言葉かけをしたら良いのかが分からないことがあった。
・自分の想像していた保育と、実際に子どもがいての保育が違いすぎてとまどったこと。
・子どもの発達を見て指導案を考え、実践する際に指導案を立てる際に考えていた通りできず、関わり方が難しかった。
・部分指導などで何かいいのか良い所があまり伝えられなかった。
・柔軟性が必要でイメージで頭にあっても実践すると思っていた以上に違った反応が返ってくる所。一人と関わる時と多数で関わる時の振る舞いの違い。自分の中での遊びの幅を広げたいが明確にすることが出来ずどうすれば良いか考えていた所。
・月齢に応じて人見知りをする子どもや援助の仕方など、考えなければならないことがあった。
・全ての年齢のクラスを経験させていただいたため、クラスが変わる度、子どものできることとできないことを判断することに難しさを感じた。
・実際にやってみると案とは違って対応ができなかったから。
・年齢によって出来ることが違ったり、援助も違うからどこまで援助しても良いのかが分からず、大変だった。
・子どもが“やってみたい”と自らあそべることのできる環境をつくって、それに寄り添った支援、言葉がけが行われていた。1 対 1 の関わりも大切にされていて、子どもと向き合う様子が印象的だった。
・1 日の活動の決まっている中で、どのように先生方の役に立つ動きができるのか、また、子どもの名前が覚えられていない中で援助することが大変でした。
・どういう言葉がけをしたら良いかを悩んだ
・保育所実習が 1 番最後の実習だったため、乳児とのかかわり方が分からず、戸惑うことが多かった。

・〔子どもの発達〕実習では 0～2 歳児クラスを担当した。0 歳→1 歳、1 歳→2 歳の発達過程を見てみると、1 年という間での発達のスピードに驚いた。また、0～2 歳児は個人差も大きく、食事（アレルギーの有無、食事の形態等）や運動（座る、歩く、手先の発達）、トイレトレーニングの進め方にわたり、一人一人に合わせた支援の大切さを学んだ。
・子どもの発達段階を理解してかかわりをもつという事に対し自分はまだまだだと感じた。
・初めて主となって保育をさせていただいたときに、子ども達への伝え方、次どうするのか分かりやすくするにはどうしたら良いかなど難しく感じ、現場の先生方の大変さや、普段保育しておられる先生方のすごさを感じた。また、分からないことを質問しにくい雰囲気も感じた。
・部分実習で 1 人で子どもの前にたち、食いついてはくれるもののまとめるのが難しく、その場、その時に応じた対応の難しさを感じた。
・活動をするにあたり、子どもにルールや、活動についての説明をするのが苦手で、当日戸惑うことがあった。
・子どもの気持ちを理解しようとしても、中々分かってあげられなかったり、怪我を目の前でした時には、守れなかった時
・子ども一人ひとり、できること・できないことも違い、それを理解した上で、どこまで見守り援助するのかが難しく感じた。
・毎日させていただいた絵本の読み聞かせやピアノなど、自分の思った通りに行かなかったり、子どもたちに伝える難しさを色んな場面で伝えた。
・子ども達の前でのふるまい方、関わり方など初めてのことが多く大変でしたが、良い学びとなった。
・子どもとの関わりも楽しいだけでなくトラブルが起きたときの仲介が難しかった。実習に行った期間が運動会練習真っ只中だったため、普段の保育が見られず残念だった。
・子どもの能力の差異が見られたときに指導案を書くときや部分実習で前に立ったときなどどうすればよいのか難しかった。
・初めての 15 分の部分実習でクラスが崩れたから
・施設内の雰囲気は、外からでは分からないので人間関係に難しさを感じました。
・園長とその他での意見の食い違いがあったようだが、そのいざこざに巻きこまれ、実習時間が終わっても帰れないことがあった。
・自分の想像よりも、大人だけの場面は冷たい空気のことが多かったように感じた。
・明らかに特定の先生を他の周りの先生が悪く言ったり、若い先生達が上の先生の言うことに反対できずに一緒になって特定の先生にだけ態度が違ったりしていた。
・休憩をいただいた時、1 人で職員室の端で飲み物飲んで過ごすのが少し怖かった。本気で子どもが好きで、覚悟はしていたけど、保育の道をあきらめようと感じた。責任実習の物品を基本用意するのは分かるが、実習費も払って、保育でも買ってというのが…。机を拭くシートも貸してくれず、時間がかかる新聞作成があった。
・自分が人見知りの性格なので、初めて関わるたくさんの保育士の方とコミュニケーションをとるのが大変だった。
・勉強になった分、課題も見つかりどうしていいか分からないところがあったから。

・研究保育の時に、整理して保育に望んだつもりなのに、早口言葉になってしまったり、同じ声掛けを繰り返したりと、課題が多く見つかったから。子どもの命を預かるということを実際に経験し、信頼関係を築かなければいけないと改めて実感した。
・人前に立つことが苦手なので、話をしている時も頭が真っ白になったり、本当に話したいことが話せなかった。
・自分自身がコミュニケーションをとることが苦手だった為、実習先の保育士の方に話し掛けることがなかなか出来なかった。
・高校時代まで培ってきた人格や考えが社会では通じない事に気付かされた。指導案の書き方を自分から当時の現役の先生に聞けず、上手く書けない、実践はボロボロという体験がつらかった。
・今これをすべきなのか、してはいけないのか、社会人としてのマナーを学ばずに実習へ行ってしまい、自分の情けなさに気づいたからです。
・理解するのに時間がかかったり、未熟な部分を感じたため。
・個々の発達を短期間で捉えることが難しかった。淡々と過ぎていく実習の中で、日々の自分の課題を見つけるのが難しい。
・自分自身の課題として、ピアノが苦手だったこともあり、歌の時間など、上手く弾けずもっと弾けるようにならないと大変だった。
・実習生まだ学生というところではあるが子ども相手に保育をさせていただいというところでの自分自身の意識の低さを痛感した。
・仕事量が多い中で、丁寧にすることだけでなく、時間や優先順位を決めて仕事をすることが社会人として大切なのだと学びました。(睡眠時間をうまく確保できなかったので)
・自身の課題が明確になるにつれ、できないことやできていないことを知り、どのように改善すれば良いか分からなくなったこと。
・自分が足でまといなので、とても申し訳ない。
・実際に部分実習をして、思っていた子どもたちの反応でなかったり環境構成が足りていなかったりで反省点が見つかった。
・一人実習生だったので、色々と不安だった。
・実習生という立場で園の保育にどこまでふみ込んでいいのかすごく迷いました。
・5 歳児が描いた自分の絵を見て「髪の毛そんなに長くないでしょ。」と言いながら、描いた絵（髪の毛の部分）を勝手に消していた。
・保護者対応も少し経験させてもらったが、何も分からず…。話す内容や話し方など、難しかった。
・保護者の方に発達の相談をされた時にどのように話しをしたらよいのか困った。

7. 実習中の指導者からの指導内容は的確だったと感じましたか？
その理由も具体的に教えてください。

回答欄	件数	%
的確だった	396	84.98%
どちらでもない	57	12.23%
的確ではなかった	11	2.36%
未記入	2	0.43%
合計	466	100.00%



★的確だったと思う理由

・実習を通して、良かったことや改善すべき点など伝えてもらえたから。
・こまかく丁寧な指導だったと感じている。
・実際に保育をしているところを見てもらい、細かく指導して下さったから。
・細かく教えてくださったから。
・制作で細かいところまで教えていただけたから
・丁寧に明確にアドバイスも書いてくれていた
・子どもの様子を自分が見れていなかった部分を教えて下さったり、指導案の内容も何度も訂正をして下さった。
・全体の把握をしている所や、子どもに対しての援助など全てが勉強になりました。
・指導が「なるほど」と納得できるものばかりで、勉強になったから。
・日誌、指導案など丁寧になんでも直して下さったから。
・困ったときなどに、聞きに行くと、すぐに教えてくれた。部分実習をしたときは、反省会をしてくれた。
・「この子は～な性格だから～」と対応の仕方を時間をみつけて伝えてもらった。
・一つ一つ分からない質問に対して答えて下さった
・指導で上手くいかなかった時、様々な方法を提案して下さった。
・実践で、難しいと感じた部分には、改善策を教えていただいた。
・細かく記録の書き方を教えてくださったり、子どもの成長などをいつもミーティングの時に教えてくださっていた。
・子ども一人一人の理解において、日々共に過ごしているからこそ、子どもの行動の意味

を十分に把握できているから。私は、その瞬間での子ども理解しかできていなかった。
・小さなことでも分かりやすく教えてくれたり、こうした方がいいなど様々なアイデアを頂いた
・記録、指導案の書き方、子どもへの言葉がけなど、詳しく教えてくださったから。
・細かく教えていただいた。
・細かい部分まで具体的に伝えてくれました。
・日誌の書き方や子どもに対する接し方を丁寧に教えてくれました。
・改善点を具体的に教えてくださった。
・自分の課題や疑問に思ったことをたずねると、丁寧に教えてくださりました。
・年齢や、1 人ひとりの様子を教えてもらい、関わり方や教育のすすめ方についてもアドバイスをいただくことができたから。
・熱心に教えてもらった。実習園によって違う実習内容で、自分の経験は濃かった分、大変だったが、一つ一つ教えてもらい、勉強になった。
・詳しく指導していただいたので記録の書き方が良くなった。
・場面での声掛け、接し方のアドバイスや、指導案を丁寧に添削してくださったりしてくれたから。
・どのような活動も、まず指導者の方が手本となり見せてくださり、後日同じような活動をさせて頂き、アドバイスもして頂いたので的確だと感じる。
・細かく書かれていて、勉強になった為
・分からないことがあり、質問するといつも丁寧にアドバイスを下さった。
・私が不安な部分やわからない所をしっかり教えて下さったり、楽しむことなどを大切なことを教えてもらうことができたから。
・お忙しい業務の中、実習生のこともしっかりと見てくれ、その都度細かく指導して下さり、子どもが帰った後などにその日の活動のポイントなどもくわしく教えて下さってとても勉強になりました
・指導案や記録を丁寧に見てもらうことができた。子どもへのかかわり方も勉強になった。
・幼稚園実習では、子どもとの関わり方や記録・指導案の書き方などすごく手厚く丁寧に見て下さった。また、子どものあるべき姿など学校での学びと同様、またはそれ以上にすごい保育をされていたので、的確だと感じた。しかし、保育実習では特に指導が入らなかったため、的確とも言えない。
・言われないと気付けなかったことが多くあったから。(子どもの発達、自分の保育の仕方など)
・自分の気付かなかった所を訂正してもらえたから
・子どもを上手くまとめていたから。子どものひきつけ方・言葉掛け、スムーズに保育を行うよう準備・環境構成がされていたから。
・具体的に教えてくださったから
・指摘だけではなく、どのようにしたら良いかも指導していただいたから。
・親身になって、私の立場に立って色々教えて下さったから。
・子どもへの関わり方、月齢や個々に合わせた配慮の仕方等丁寧に教えて下さった実習先が多かったため。

・わかりやすく的確なアドバイスをしていただきました。
・わからない所など丁寧に教えてもらえた。
・自分に足りない部分など細かく丁寧に指導してくださった。
・丁寧に見てくださり、分からないことはないか気にかけてくださる保育者の方がいた。
・食事の介助の仕方や子どもとの関わり方の指導の仕方が丁寧であった。
・丁寧にご指導頂き、学びが沢山あったから。
・こうしてみたらどうか、自分はこうしているということを分かりやすく教えて頂いた。
・自分にはない視点からの考えをたくさん学ぶことができた。
・記録の書き方や保育の仕方等、くわしく教えてくださったから。また、分かりやすかった。
・優しくわからない所を教えて頂いた。
・指導案など、どう改善すれば子どもも楽しめ、スムーズに活動を進めることができるか、子どものレベルに合った保育についてたくさん教えていただき成長できたため。
・あいまいな部分を覚えてくれたり、その場で、できていない事を教えてくれたからです。
・分からない事を丁寧に教えてくださったり、できてない事をしっかり伝えてくださった。
・毎日、疑問に思ったことは質問すると答えてくれ、足りなかった部分やもっとこうすれば良い部分をしっかり伝えてくれた。
・「何も知らない」ということを仮定して、説明することが大事だと教わりました。1つ1つ丁寧に細かく伝えることが大切だと学びました。
・自分に足りていない所を的確に教えて下さいました。また、どのようにすれば良かったかをお手本として見せて下さる先生もおられました。
・子どもとの接し方や気をつけていることなどを細かく丁寧に教えて頂いたため。
・日誌や指導案の書き方を丁寧に指導して頂いた。
・質問をすると、丁寧に答えてくださり、とても尊敬していたため。
・部分実習など細かいことまで教えて下さったこと。
・丁寧に指導してくださり、分かりやすかった。
・丁寧にこまかく指導して下さった。
・分かりやすく、丁寧に教えて頂いているので安心して仕事ができます。
・設定保育での反省をわかりやすく丁寧にしてくださった。
・優しく丁寧に接してくださり指導から学ぶことも多かったから。
・質問も丁寧に答えてくれた。
・わからないことを相談すると細かなところまで教えてくださった。また、些細なことでも、できたこと良かったところはほめてもらえた。
・具体的に説明してもらえたから。
・親切に教えてくださったり、聞きやすい環境だったから。
・親身になって、具体的に指導して下さった為。
・ダメな所やこうしたらもっといい所を的確に教えてくれた。
・私ができていること、良い所をきちんと見て認めて下さりながらできていないことや工夫が必要なことはその都度指導して下さった。
・実習生の行動をよく見ていてくれたので、くわしくたくさん教えてくださいました。

・実習ノートも丁寧に教えて頂いたし、1 番に、子どもと関わるうえでの注意点もたくさん教えてもらいました。
・的確な指導をしようと一生懸命な先生達でした。また、1 人の先生だけでなく、他クラスのベテランの先生、主任先生、園長先生、みなさんがどうしたらもっとよくなるか考え、伝えて下さいました。
・日誌や指導案では、赤ペンで「こういう風に書いてみたら？」や「こうすればもっといいよ」など具体的に教えてくださった。質問に対し、的確に答えてくださり、保育をする中で意図をもってしておられるんだなと改めて感じた。
・反省や、記録の書き方等を教えていただいた。
・日誌の書き方や保育者の立場など、細かくご指導頂きました。
・細かく丁寧に指導して下さったから。
・指導案の書き方から子どもの関わり方まで丁寧に指導して頂いたから。
・子どもとの関わり方で、保育をするときに子どもにとって理解しにくい言葉を使ってしまい、子どもが「どうするの？」「こう？」「あってる？」とガサガサしてしまい、「どうしよう！」と思っていたら、「こういうことだよ」とすぐにフォローして下さった。
・遊びの説明をする際に子どもたちは座っているのに私は立っていると子どもたちは少し見にくいと教えていただいた。
・分からない事があるとすぐに教えてくれた。
・毎日こうしたほうがいいということを具体的に教えてくださったり、手本として実践してくださったから。
・実践の部分は保育でのポイントなど詳しく教えてもらえたから。
・分からないことや、できていないことは、何でもとっても丁寧に指導して下さったり、実習日誌なども、どんな言葉で書く方が良いのかなども教えて下さったので、とっても分かりやすく、日誌も書くことができました。
・子どもとの関わり方などに困った時は、解決方法などを細かく教えてくれた。
・こちらが理解できるまで丁寧に教えてくださった。
・私が出来なかった一つ一つのことをどうすればよかったかおしえて下さった。
・指導案、日誌の書き方からその日の振り返りまで分からないこと、疑問に思ったことなど一つ一つ丁寧に指導してくださったため。
・分からない箇所や困っていた箇所を、答えを教えきらずに指導して下さったり、日誌や指導案も納得のいく訂正や助言が多かったと思う。
・日々の反省や、記録もしっかりと見てくれ、アドバイスも丁寧にして頂いた。
・わかりやすく指導をいただきました。子どもの関わり方、指導案の書き方など、丁寧に指導いただき、役立ちました。
・細かいところまで指導して頂きました。また、こちらが質問した際も、丁寧に答えて頂きました。
・子どもの気持ち、思い、表現だけではなく、実習生の思いもきいて丁寧な対応だったから。
・「こういう時はこうした方がこうなるよ」など、具体的に教えてくれたので学ぶことができました。

・質問をすると優しく丁寧に応えて下さったから。具体的に教えて下さり、改善点があればどうすれば上手くいくかなど工夫点も１つの考え方として教えて下さったから
・日誌をかく時の注意点や、何を手本として書けばいいのか的確に丁寧に教えていただいたことでスムーズにかきだすことができました。
・一日の終わりの時に具体的に「～の時はこうしたら良いと思うよ」とか分かりやすく丁寧に伝えてくださったので分かりやすかった。
・疑問に思ったことなどに対する返答がとても詳しかったから。
・実際の子どもの姿を想像してのアドバイスや私の課題となるところを明確に教えてくださったからです。
・指導案や記録であれば細かく教えて頂いた。
・わからないこと等を質問すると、1～5 個くらい対応の仕方を教えていただけたこと。
・わかりやすく教えてくれました。
・自分の足りていないことを言い当てたり、細かくきっちり指導をして下さった。
・自分ができていなかったことや、困っている時に、アドバイスをたくさんしてくれて、そのアドバイスの通りにしたら、できたことも多かったから。
・自分が困っている時にさっと的確なアドバイスを頂いたので。
・自分では気付けなかったことを気付くことが出来たから。
・分からないことを聞けば、わかりやすく教えてくれたから。
・質問したことに対して分かりやすく教えてくださったから。
・困っていることに対して細やかなアドバイスや声かけをしていただいて、すごくよい経験になった。
・動きや立ち位置も教えてくれた。質問にも丁寧に答えてくれた。
・疑問に思ったことを的確に返答があった
・しっかり指導してくれたことは自分でも当たっていると思ったから
・質問などに丁寧に答えて下さった。部分実習後や実習最終日に反省会があり、数人の指導者から指導を受けることができた。
・質問した内容を的確かつ分かりやすく丁寧に教えて下さった。
・正論だから、タメになる
・分からない事をきくと一つ一つしっかりおしえてくれた。
・ノートの書き方やアドバイスをしっかりと伝えてくれたこと。
・丁寧に教えてくださった
・いつも私を気づかってくださり、分からないことでも丁寧に教えていただけたから。
・保育の中で方法などをこうした方がいいのでは？とアドバイスを何通りも一緒に考えて下さった。
・記録も細かな所まで訂正をして頂き、書き方の練習になったり、アドバイスや良くなってきたところなど程良く指導して頂けた。
・しっかり教えてくれた。子どもが変わった
・子どもとの関わり方を１つ１つ教えてくれたから。
・分からないことがあれば丁寧に教えて頂き、実践の場も与えて下さったのでとても勉強できた。

・ダメだった所をこうするといいよとしっかり教えてくれたから。
・分からないことや、聞いたことはとても丁寧に教えてもらえたから。
・丁寧に教えてくれた。
・分かりやすく丁寧に教えてくださった
・絵本の読み聞かせや、部分実習の際、わかりやすくアドバイスしてくださった。
・長所や短所を肯定し、アドバイスをしてくれるので耳に入りやすかった。失敗したこともそこから得られることや次に失敗しないようにアドバイスや提案をしてくれた。
・自分では気付かなかった部分や改善点を指導してもらったことで次にいかすことができたため。
・アドバイスを参考に次の保育にいかすと変わっていったりする部分があったので。
・分からないことを質問し、指導して頂いたことを実践すると子どもの反応が変わったからです。
・様々なアドバイスを頂けたり、どうすれば良いのかを自分で考えさせるよう指導をしてくれた。
・礼儀から教えていただけた
・子どもとの関わり方を優しく教えてくれた。
・自分で気付けない部分を教えて頂いて客観的な視点で見れて気付くことができた。
・子どもがまとまらず困っているときに助け舟を出して下さった。そのあとにアドバイスをいただいた
・毎日、私にあわせた言葉掛けで、アドバイスを頂けた。
・自分では気がつかない部分まで指導してくださり納得したから。
・場面に合わせて、指導をして下さったから。
・困った時たくさんアドバイスをしてくれた
・自分が悩んでいたことを教えて頂いた
・子ども一人ひとりのことについて詳しく教えてくれ、子どもに合わせた援助ができるようにしてくれた。
・保育者も忙しいので、同じことを繰り返したり私がしたことじゃないけど注意されることもありましたが、忙しい中で精いっぱい配慮等を教えて頂きました。
・アドバイス（指導）を頂いた事を実践すると、上手くいくことも多々あった。
・客観的に見て指導して下さっているので、気づかなかった部分に気づき、とても勉強になる。
・1つの事に対して、いくつものパターンの解決方法や考え方を教えていただき、視野を広くもつ意識をもてるようになったから。
・記録を丁寧に見て下さった。的確なアドバイスを伝えて下さいました。
・部分保育の反省会でアドバイスをいただけたから。
・子どもとの関わり方で悩んでいた際、指導者の方の助言や実際の動きを参考にさせてもらうと、関わり方で悩んでいた子どもとも上手く関わることができるようになったから。
・その場で指導してくださったので、分かりやすく、その日のうちになおすことができたので良かった。
・記録の具体的な書き方など口頭で言ってくれたり、話し合いの中でどうすればもっと保

育がよくなるかを教わることが出来たから。
・自分がわからなかったことについて教えてくれた。
・アドバイスをしていただき、実践したらうまくいったから。
・毎日しっかりかいてくれた
・自分が出来ていなかったことや、こうしたらもっと良くなる等のアドバイスがあったから。
・子どもがトラブルになった時、子ども同士の間に入って仲介してましたが、保育者の方に見守ることも大切だと聞いて勉強になりました。
・記録について、自分が子どもに対して関わったことについて、どんな反応が返ってきたか、どういった態度に変わったか等を入れると、今後の自分のためになると教わり、より良い記録になった。
・実習生一人ひとりを見てそれぞれに合ったアドバイスをされていたから。
・実際、前に出て保育をした時の指導に納得することが多かった。
・子どもに対する声かけをしっかりできるように教えて頂けた。
・どうしたら、優しく余裕をもった、保育が出来るかを見て聞いて学ばせて頂いた
・できなくて、ここが悔しい…と思っていることに対してアドバイスを頂くことが多かった。
・自分が間違っていることを個々に教えて下さるのでわかりやすく前向きになれると思った。
・トラブルが起きた際2人の子どもが納得いくように話をすると、教えていただき、今でも、トラブルが起きた際に声掛けをすると、納得いく姿が見られた。
・関わり方についてアドバイスをくださったから。
・子どもの姿と実習生の姿をよく見てアドバイスを下さりました。
・学校だけでは学べないことを学べた
・指導案の書き方についてアドバイスをもらった。
・自分自身では気づかなかった言動を指導頂き、今後につなげていくことができたから。
・言われたことを参考にしたら子どもが活動しやすそうだった
・自分が感じた事を指導者が的確に指的したから。
・もし、働くようになったら…と実習中だけではないことも教えてくださった。
・自分の弱い部分、子どもに対して見えていない部分を教わった
・日誌に、分かりやすく赤で書いてくれていた
・保育士は子ども一人一人のことをよく理解していて、その子に合った対応の仕方、声かけ等を教えてくださった。
・自分には気づかなかった反省点を知ることができたから。
・後からふり返りをし、たくさんのアドバイスをいただくことができたから。
・自分が気付いていないところまで、見てくださっていたり、上手くいかず、悩んでいたときも、アドバイスをくださったりと、とても勉強になった。
・肯定＋アドバイス
・子どもに対する接し方や言葉掛けの仕方、けんかの際の対処法がとても勉強になりました。

・子どもとの関わりで悩んでいる時、どのように関わったら良いかなど一つ一つに指導してくださり、その指導してくださったことを実践するとうまくいったから。
・記録の書き方に不安があったが、指導して頂き自信へとつながった。
・私と子どもたちとの関わりで、よりこうしたら良いなどの改善点を言っていただき学ぶことができました。
・自分自身の足りないところはもちろん、出来ている部分はしっかりほめてくれた。
・部分指導の時にはアドバイスなど教えてもらった
・研究保育後の評価や、子どもの関わり方のアドバイスもなるほど、次からそうしよう等思える事が多かった。
・「こうする方がもっと良くなる」や子どもへの声の掛け方など自信につながるような話をして頂いたから。
・自分自身でも気付けていなかった所や環境構成で足りていなかった所を教わることができた。
・どうしてこの援助や配慮をするのか丁寧に教えて下さった。
・分かるまで説明してくれた
・なぜそのような行動になるのかをしっかり教えてくれた。
・忙しい中、なぜこうするのかということを丁寧に教えてくださる実習先だったため。
・良い所と悪い所を指導して下さったから。
・問いかけに対して、理由等を具体的に教えてくれたから
・日々、何気なく子どもと関わっていることでも実はこういう意味があるんだよ、と教えていただいた。指導者の子どもと接する姿をみて、改めて保育士になりたいと感じました。
・「もっと具体的にこうしたら良いよ」など工夫したら良いポイントを教えてもらったり、良かったところは褒めてくれたこと。
・1日を振り返り、その中の反省点に対しての具体的なアドバイスを下さった為
・職員がやりやすい環境が大切だと思っていたけれど、“子どもたちにとってどうか”を考えなければならないと教えてくださったから。
・ダメなことはダメときちんと教えることができていた。
・「こうした方がいいかな？と思うねんけど先生の思いも大事にしてほしいから参考程度に！」と私の意見や思いも大切にしてくれて、なおかつアドバイスはして下さったので本当によかったです。
・自分が間違っていたら注意して頂けたり、間違ってなかったら“良かったよ”と声を掛けて頂いた。
・子どもの関わりで困っていることがあればアドバイスをしてくれた。良い面も改善すべき面もどちらも教えてもらえたので、自信につながるところももっと良くできるところも自分自身で知ることができた。
・製作をする前の導入をせずに進め、「いい加減ではいけない。子どものことを考えて保育をしなさい」と言われ、的確だと感じた。
・間違っている事は違うとご指摘頂けた。
・行動や指示に対する意図を教えて下さった為。

・学んだ事をそのまま行っても良いとは限らない事が多く、こういう時はこうした方が良いと現場で働いている方から聞く事が出来たから。
・部分実習などで自分がダメだと思った所のアドバイスをして下さったから。
・出来ているところ、出来ていないところ両方くわしくていねいに教えてくださったので指導内容は的確だと思ったから。
・自分が積極的に動けていないことを注意されたことをすごく覚えていて、今振り返っても「社会人としての行動」をとても教えて下さっていたと感じたから。
・子ども一人一人の特性や関わり方を親身に教えて頂いた。
・実習生の気持ちもくみとりながら、具体的な例を出して指導して下さったため。
・環境構成が大切だからしっかり考えることを教わった。
・自分のよかった所、もう少しこうすればよかったことなど指導してくれた。
・言葉掛けや援助の仕方など実際に子どもに関わるうえで、より子ども一人ひとりに合った関わり方を学ぶことができたと思うため。
・保育士としての立ち振るまいや思い、考えなど分かりやすく指導して頂いた。
・反省で質問をした際は、対処の仕方や私だったらこうするという例を出しながら答えて下さった。
・子どもと関わるときや、全体に通る声掛けの仕方など沢山のアドバイスを下さったからです。
・良いこと、違っていること、はっきり分かりやすく伝えてくれた。
・自分では、見えていない点や異なる観点でお話して頂けた為
・部分実習をさせていただいた時や、色々な場面で、どこがだめだった、こうした方がよい。などアドバイスをたくさん頂いた。
・「質問はありますか？」ではなく「分からないことはありますか？」などと簡単な言葉に直して子どもにとって分かりやすく、伝わりやすい言葉を選択して話さなければならないと指導して下さった。
・できていることは褒めて頂き、たりていない所は指導して頂きました。例えば、笑顔が良かったや、部分実習での反省会で用具が足りていなかったなどです。
・指導案を作成する際、自分では気付かなかったこと、子どもを一番に考えた多角的な指導をしていただきました。
・活動に精一杯で全体的なところまで見れていなかったので、そこを指導していただいたから。
・子どもや書類でどういう配慮がたりていないのか、丁寧に指導していただいた。
・分かりやすく具体的に例などを出して教えてもらえたから。考えられそうな部分は考えさせてくださったから。
・分からないことがあったり間違ったことをしたりしたら的確に教えてくれた。
・「こうしたらいいよ」という形で指導していただいたので、すぐに実践でき、その場で「なるほど！」と納得できた。
・悪い所、改善的も言われたが、それ以上に褒めてくれ、自信につながった
・自分の考えを受け止めて下さり、その上でアドバイスを伝えて下さいました。否定されることはなかった。

・自分の伸ばすべきところ、課題を詳しく言ってくれたから。
・子どもへの言葉掛けの仕方や意味、案の書き方や何故書くことが大事なのかを丁寧に教えて頂いたから。
・悪い所だけでなく良い所も見つけてくださり、的確なアドバイスをしてくださった。
・しなければいけないことを指示してくれた。
・初めての環境にとても緊張して思うように出来なかったり積極的に行動できない事がありました。指導して頂いた先生はその時にきちんとどのような意図があって保育をしている、どうしたら良いか考える時間を頂きました。反省をしつつ、アドバイスもとても的確であったので次へと活かす事ができました。
・自分では分からない欠点を知れたから。
・自分の足りなかったこと、準備不足だったことを明確に伝えてくれたから。
・出来ていなかったことは、詳しく明確に出来ていないと知らせられたことによって、直すことが出来た。
・言い変える所など具体的に直してくれた。
・どこがダメだったのかを具体的に指導して頂き、親身になって、相談にのってくれたため。
・何の為に〇〇をするのか、そのねらいや内容が明確で思いが伝わってきた。
・良いところと課題が明確にされていた。
・良い点、悪い点、共にしっかりと知らせていただいた。
・部分実習等、実践をさせて頂いた後には振り返りで必ず良かった点と改善点を伝えてくれたから。
・自分では気づかない所までしっかり見ていてくださり、どうすれば改善できるのか指導していただけたから。
・子どもとどのように関わればいいのか具体的に教えてくれた
・部分実習や全日実習の指導案をしっかり見て下さって、実際にやってみて、こうした方が子どもは動きやすかった、などアドバイスを頂いたこと。
・記録や指導案を書く上で、言葉の選び方や簡潔に書くことが大切だと学んだため。
「次これするからこれしてくれる？」みたいな感じで分かりやすく教えてくださった。
・自分ができている所はほめてくれて、できていない所は教えてくれた。
・指導者が子どもを注意し子どもが泣いて自分の所へ逃げてきた時にかばってしまった。指導者が一対一で関わっているから今逃げ場を作ってしまうと、指導者が悪者になってしまうし、子どもが反省しないと注意された。
・自分ができないことを伝えてもらったから。
・自分の保育を見て、どうすれば良かったのか、具体的な例をあげたり、悩んでいることに対してアドバイスをくれたりしたから。
・自分の出来たことを認めつつも、アドバイスをしてくださる方もいたので素直に指導を聞くことができた。
・根拠をしっかり述べてくださった
・自分の中でできていないけど、どうすれば良かったのか考えても分からない時に「こういうやり方もしてみたら？」と言われ、「あ、そういう風にしてみたら良いのか」と思っ

たことがあったから。
・〇〇ではなく、〇〇と言った方が良いよと、具体的に言ってくださった。
・何がいけなかったのか、どうすればよいかを教えて下さったので、すぐに実践することができた。
・保育の進め方で迷っていた時、こうすれば子どもたちは興味をもてるなど具体的にアドバイスをくれた。
・何をねらいとしているのか、この援助で足りているかなどを助言頂いた。
・子どもが今どういった考えをもっているかそのためにどう援助しているか。
・今は何をすれば良いかを常に教えてくださった。食事のときの後片づけやトイレなどの掃除の仕方も丁寧に教えてくださった。
・保育者が毎日、どこに配慮しながら子どもと関わっているのかを細かくおしえて頂きました。
・実習記録での反省を具体的に指導していただいた
・何のためにこの援助をしているのかを教えていただいたり、子ども達へのかかわり方を丁寧に教えてくださったから。
・準備の大切さなど
“なるほど”と思うことばかりだったから
・製作する際、1色の折り紙を用意していたが子どもが自由に選択できるように複数種類を用意しておけば良かったというアドバイスを頂いた時に勉強になったから。
・納得する事が多く、勉強になった。
・絵本の内容、大きさをより教えていただいた。
・子どもの食事の援助では、時々見本を見せながら助言をしていました。
・私の疑問や子どものことについて教えてくださった。
・分かりやすかった
・納得することばかりだった。
・実習中のねらいや、援助についてどう組み立てていくか迷っていた時少し話をする機会を作っていただけた。
・何を聞いた時もすぐ答えてくれたから。
・質問に対して１つ１つ丁寧に答えてもらったから。
・保育後に丁寧に教えてくださったり、保育中も動き方など声をかけてくださった。
・質問にも丁寧に答えてくださり、分からないことがあれば聞くと分かりやすく返してもらえたため。
・分からないことを聞くと優しく教えて下さった。
・丁寧に教えて頂いたので分からないことが聞きやすかったです。
・どんどん聞いていくと、エピソードも交えて説明してくれたため。
・実習中に話し合いの場を設けて下さり疑問に思った事や直した方が良い所を教えてくれたから。
・やさしく指導して下さったから。
・わからないことを質問し、解決できているから。
・わからない所はしっかりと教えてもらったため

・話を聞いて全部に納得していたから。
・私にあわせた指導やわからない事があれば聞くとすぐに対応してくれた。
・毎回アドバイスをくださるので、それを次に活かすことができました。
・指摘された点が納得のいくものだった。また、悩んだり迷ったりしていると相談にのってくださったり、頑張りを認めてくださったりし、私もこんな保育者になりたいと思った。
・困っていることを全て解決できました。
・2歳児クラスに入ったとき、記録が書きやすいようにと参考資料を頂いたり、一緒に指導案を考えてくれたりした。
・書き方が分からず困った表現等も分かりやすく指導していただけたから。
・悩んでいたことが解決したり、自分のためになった。
・相談しやすい雰囲気で、保育中にわからないことでも的確に指導して頂いた。
・優しく丁寧に指導していただけたし、何でも聞きやすい雰囲気だった。
・寄りそった指導をして下さったから
・午睡中や昼食中など空き時間に何か分からないことある？などと聞いてくださり相談に乗ってくれたから。
・実習中に困ったことを伝えると、そのことに対して、こういう風にすれば良かったのではないかと助言をくれたから。
・わからないこと・どうしたらいいのかと迷った時は一緒に考えてくださりアドバイスをいただいたから
・毎日、ミーティングの時間を設けてもらい、質問もしやすかった。また、私の子どもに対する言動について的確にアドバイスしてもらった。
・担当クラスの担任はとても優しく、質問にも的確に答えて頂き、沢山ほめて頂いた。ひとつの案として、沢山の案を出してもらい一緒に考える等、実習生に寄り添ってもらった。
・私の子どもとの関わりのなかで良い所をたくさんほめてくださり、また、その良い所をさらに伸ばしていけるようなアドバイスをしていただいた。
・私が迷った瞬間からアドバイスをくださったり、指示してくださったりと、とても助かったからです。
・計画→実践の相談も親身にのってくれた。
・質問をしたら、しっかりと答えていただいたため
・聞く事全てが勉強になり、今も生かされているから
・できていない所だけではなく、できている所も伝えてくださって、強みや伸ばすことができた。
・保育中に疑問に思った事を尋ねる事で学ぶ事が多く視野が広がったように感じた。
・自分ができなかったと感じることに気づいてくださり、指導をしてくださったから。また疑問に答えてくれたから。
・毎日反省会を開いてくださったから
・困ったこと、など毎日話す時間をあたえてくれ、相談にものってくれた。
・聞いたらすぐおしえてくれました。

・責任実習や全日実習を実際する中で、自分が疑問に思ったことを質問すると教えていただけた。
・実際に保育士になってから、教えてもらった事が役に立っているから。
・子どもの発達がはっきり分かっていなかった
・保育者として、今でも思い出して使える知識や言葉がけがある。
・的確かは分からないが、自分の出来ていないところや、改善点を指導していただき、自分でも納得できる答えだったから。
・今も意識できていると感じられるから。
・疑問だった部分を質問したところ、的確で幅広い視野をもっていることを感じたから。
・実際に子どもたちとの関わり方で活動に遅れている子どもに目がいき全体として見ることが出来ず保育者から視点を変えて見るよう指導をうけ実践にうつすことにより前の活動に入ることが出来た。
・とても良かった。
・実習をかさねるごとに子どもたちとの関わり方がわかるようになった。
・自分の視野のせまさに気づくことができました。
・保育者として、目標となる先生ができたため。
・実際に働いてみて、実習を振り返ったときに改めて指導されたことを振り返ると当てはまった為。
・子どもの目線になってかかわるなど、当たり前のことでも実践していないことがあったので指導してもらって改めて大切さに気付いた。
・きびしかったけれど自分のために言ってくれていた。
・実習生として色々な事を学べました。
・子どもたち一人ひとりの発達を一番に理解していて設定保育の内容を親身になって考えてくださった。
・とても勉強になったから
・とても勉強になった。
・学びにつながったから
・先生方の指導を受け、工夫してみると、以前より子どもが話を聞いてくれるようになった。
・指導してもらったことをすぐに取り組んでみると、困っていた状況がスムーズに流れるようになった。
・設定保育をし、具体的にすべきことを学べた。
・協議の時に、自分では気付くことのできなかったことを指導していただいたから
・保育をするにあたり、何気ない先生方の行動や言葉かけに意味があることを特に意識して実習することを学んだ。
・自分の課題や反省がわかったから。
・実習後も教えて下さったから
・指導者の言葉ひとつひとつに新しい学びやなるほどと思うことが多く、指導者のようになりたいと強く思う場面が多かったから。
・運動会の時は忙しい中でも実習生に気をくばってテントの中に入るように言って下さい

ました。
・指導案の書き方が勉強になったから。
・働いてみて、指導して下さったことは“これか！”と思うことがある。
・授業では教えてもらえないような現場でのことを教えていただいたから。
・私に足りていないところなど自分で当てはまることができたから
・自分のチャレンジしてみたいことを積極的に経験させて頂き、そこで得ることのできた反省点は自分にとって、とても学びとなった。

★的確ではなかったと思う理由
・指導という指導はあまりなく、1 日が過ぎ、1 日の終わりの反省会で、1 日の自分の行動を聞かれて答え、それに対してつよくビシビシと指導された。
・悪いところばかりを指摘され、こうすれば良くなる等は、指導してもらえず残念だった。
・反省など振り返りがなく、次にどうしたらいいか分からなかった。
・あまり指導して下さらない施設があった。質問しても曖昧。
・実習先によっては的確だった所もありますが、きちんと指示をしてくれない所もあった。
・園長の言う事が日により変わった為。
・保育中に会話する事や質問等をしても、「他の先生にきいてみて」と嫌そうな顔をされて、悲しかった。
・てんぱってしまう。
・宗教の教えを大事にしている園で、子どもの想いや子どもを大切にしているという園の理念とは程遠い保育の仕方であったと感じた。実習担当者と他の先生の考えや子どもへの接し方にちがいが多く、指導して頂く内容に疑問が多く、的確ではないと感じた。
・「～して下さい」と指示はあるが、何を使う、どのようにする、などの詳細がなく苦労しました。また 1 人の先生から指示を受け、とりかかろうとする時に、他に先生から指示が入り困惑しました。

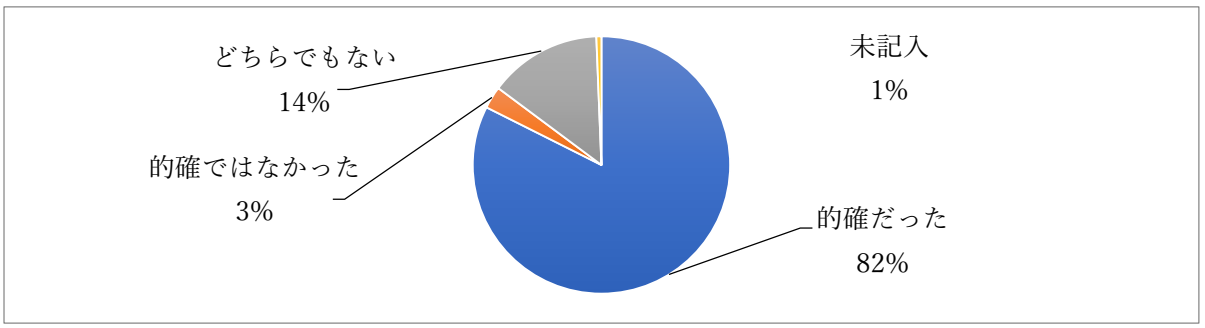
★どちらでもないという理由
・園による（指導のレベルが）
・保育者の感情で叱られたりすることもあった。
・人により違うから
・良い人もいれば悪い人もいた。
・実習先によっては、保育士によって意見が違った。
・指導していただいた先生によって全然違う。厳しいようで、的確なことを言ってくださる先生と、厳しいだけの先生。見た目や人を見て、態度が違う。
・しっかり指導してくれる園もあれば、何も言われない園もあったから。
・的確に指導してくださる先生もいれば、あまり指導してくださらない先生もいらっしゃって、園や先生によってバラバラだったから。
・園によったが、何もわからない私にたくさん教えてくださって質問しやすい雰囲気をつくってくださる人もいれば、できるのが当たり前だという感じであまり教えてくれない人もいた。

・的確だった指導者の方もいたけれど、的確ではなかった指導者の方もいた。
・自分とタイプが違いすぎる保育教諭が担当であったため、思いとは外れたことも言われたが、間違ってはいなかったと思う。
・先生同士で意見が違って戸惑うことがあった
・人によって言うことが異なっていたため。
・園長と担当で考え方が違っていて反対の事を言われたことがあった為。
・子どもへの関わり方など、保育士により様々だったから
・記録の書き方が人それぞれで難しかった。
・理解出来る所もあったが、少し難しい部分もあった為。
・ここはこうすれば良いと言われたりしたが、経験を多く重ねないと不可能なものも多かった。
・清掃等でクラスから離れている時の記録も書かないといけなかった時は、見てもいないのに、ウソをついて書いていいの？と感じた
・答えにならない答えであったことが多々あったように感じる。
・的確であったかは、分からないから
・分かりやすく伝えてくれる時もあるが、あまり具体的ではなく抽象的だった時もあったため。
・指導していただく時はそうだなと思ってしっかり聞いていたけど、先生も私と同じことをしていたところを見てしまったこと
・園の考えが濃く反映されていて、納得できない所もあった。
・部分部分では正直疑問符が浮かぶことがありました。
・何にでも決めつけがあり、それに基づいての指導をされていたように感じたため。
・言っていることはたくさんあるが、先生自身が全くできていないから
・的確な部分もあったが、作業の指導において疑問に思うことがあったから。
・傷つくようなことを言われたり、指示に対してその通りに動けないと、しつこく言われることがあった。よく分からないので質問するも、的確な答えをもらえないことも。現場は忙しいので実習生にていねいに関われないのも仕方ないとも思う。
・衣服の着脱など周りの子から遅れていると、すぐに介助するよう指導を受けた。忙しない時間で、次の活動のこともあるので仕方ない部分もあるとは思うが、毎回急かせるのではなく、子どもが頑張っている姿を認め、待つことも大切ではないかと感じた。
・疑問に思った出来事等を質問しても教えてもらえなかった。手本にしたいと思える保育者に出会えなかった。
・今後に活かせる指導内容もあったが、口調が良くなかった。
・どうすれば良かったなどのアドバイスはなかった。
・協議では質問には的確に答えて下さっていたが、先生方からの指導はあまりなく、直接的な指導は少なかった。
・実習中にあまり言われなかった。
・つらくて泣いていると、「私の時も泣かされていたから」と言われた
・製作の指導案、内容を考えたときに、アドバイスをいただいたが、うまく理解できずそのままの流れで行った。終わった後、具体的にもう一度教えてもらい、その時に理解で

きた。
・反省会を開いていただき、数人の保育士からアドバイスを聞ける機会があり自分の課題や反省について見直すことができたため。
・子どもに対しての保育が厳しかった。
・何が良い教え方が分からないので、どちらでもない。
・『自分のことを「〇〇先生」と呼ばせるのは違う、あなたは実習生でしょ？お姉さんでいい！』と注意されたことがあった。
・毎日が必死だったのであまり覚えていない。

8. 実習中の指導者からの指導案・記録の添削は的確だったと感じましたか？
その理由も具体的に教えてください。

回答欄	件数	%
的確だった	384	82.40%
どちらでもない	66	14.16%
的確ではなかった	13	2.79%
未記入	3	0.64%
合計	466	100.00%



★的確だったと思う理由
・添削が丁寧な人もいたので良かった
・赤ペンでたくさん直して下さり勉強になった。
・細かいところまで見てくださったから
・私の意見も認めながら、丁寧に教えて下さったから。
・細かいところまで見ていただいて添削していただいた。
・書き足りないところは、ペンでこのように書いた方が良いということを的確に書いてくれていたこと。
・一枚一枚、丁寧に見て下さり、細かい言葉の表現の仕方も知ることができたから。
・赤ペンでていねいに教えて下さったから。
・とても丁寧に見て下さり、その都度優しく「こんな感じで書いたらいいよ」と教えてく

れた。
・活動内容に対しての、先生の援助を記録していた為、私が意図していると考えた援助と別の意図だった場合、後日詳しく指導して頂いたから。
・書き方のアドバイスや指導案のチェックが早くて準備がしやすかった。
・子どもが反応することなどポイントもふくめてこまかい所まで教えてくださった。
・書き方についても教えてもらい、以後の参考になった。
・分かりやすく説明も書いてくれていた。
・毎日の記録に対し細かく添削して下さっていた。
・下書きから清書まで丁寧にしてくださっていた
・学校で教えてもらわなかったこまかい書き方まで教えて下さったから。
・赤字で「〇〇をくわしく」や「～だから」なども書いてくださり、わかりやすく感じたから。
・保育者の配慮などで気付けていないところを細かく書いて下さっていたのでとても分かりやすかったです。
・細かくなおしてくださっていた。
・学校での学びに近い、またはそれ以上だったから。担当保育者が指導要領をしっかり見ながら、添削して下さっていたから。
・忙しい中、丁寧にコメントを書いてくださったり、添削してくださったりしてやる気が出た。
・細かく添削して頂き、また励ましの言葉も頂けたことで力となった。
・簡単で短く、分かりやすかったから。
・漢字の間違いや言葉の言い回し方など的確に添削していただきました。
・誤字の１つ１つまで丁寧に教えてもらえたから。
・赤ペンで添削し、担任の先生はこう書くよと例もつけて返却してくれたり、指導案、記録を見ながら直接話をしてくれてとても分かりやすく、身についたため。
・自分が実際に保育を行って感じた反省点やそれに対する改善点を的確に指導して頂いた。
・記録の添削の中でどこがだめだったのか丁寧に教えて頂いた。
・先生にもよるが詳しく教えて頂いた。
・言葉の間違いなど、丁寧に直して頂いたからです。
・細かく見ていただいたので、とても勉強になった。
・わかりやすく丁寧になおして下さっていた
・分かりやすかったから。
・視点と言葉選びについて丁寧に指導いただきました。
・言葉の選び方など具体的に見ていただいたから。
・必要のない言葉など、細かい部分まで見ていただけていた。
・細かく見てくださり書き方も指導して下さいました。
・子どもの目線で書くところや、保育教諭の目線で書くところの例や、１つ１つの文章を書き正してくださった。
・環境構成図や文章の書き方など細かく添削してくださったため。
・分かりやすく、丁寧に指摘されたため。

・人によって違いはあったが、的確に細かく指導があった。
・自分では気付かないような細かい部分まで見て下さっていたため。
・出来てない所、十分な所をしっかりと見てくださっていたからです。
・言葉づかいや、ねらい・内容など、全然書けていなかったので、指導してもらって「なるほど…」と良い学びになった。
・添削で、良い所はほめ、直した方が良い所は、丁寧にしてくださり、口頭でより詳しく指導していただいた
・文章の書き方を伝えてもらいアドバイス等も指導案の時に細かく教えて頂いた。
・教えていただいたことでポイントを押さえて書くことができるようになった。
・赤ペンで細かく添削してくれたから。
・細かい配慮等にも教えていただいたから。
・どのように書いたらいいのかなど細かく書いてくれた
・丁寧に添削して下さったので良い勉強になった。
・丁寧に添削して下さいました。
・たくさん時間をかけて直して頂いた
・記録に対して保育者側の意図（ねらい）まで細かく教えて下さった。
・自分に足りない所をたくさん指導頂けた。
・細かく添削して下さり、ご指導も分かりやすいと思う。
・言葉など一つ一つ丁寧に教えてくださったから。
・とても細かく指摘していただいた。
・細かく見てくださり、気づくことができた。
・1 日の主な活動を多めに書くように添削されていて、コメントもたくさん書いて下さっていたから。
・1 つひとつ指導するところを丁寧に口答で教えてくださり、どのように改善すればよいのかが明確で分かりやすかったから。
・とても丁寧に教えて下さったから。
・すみずみまで添削していただいてあった。
・下書きをし、訂正して頂いた後に本書きをすることで後から実習ノートを見ても分かりやすかった。
・お忙しい中とても丁寧に見て下さった。
・毎日しっかりと見てくださって、細かく丁寧に添削や書き方を教えてくださった。
・保育をする前は考えていなかったことも、実践してみて感じたこと、気づいたことが、しっかりと丁寧に添削されていたから。
・担当の先生によってバラバラではあるけど的確だと思った。
・事細く書いてくれ分かりやすかった。
・丁寧に指導して下さり、自分の書き方の良くなかった部分を知ることができ、今に生かされている為。
・細かい所までチェックして下さったから
・指導案、記録を書く事に苦手意識をもっていたため、思うように書けずにとても苦労しました。ですが、丁寧に細かく添削・アドバイスを頂いたおかげで、少しずつ思うよう

に書く事が出来ました。
・忙しい中、丁寧に見て下さり、言葉の表現の仕方などを教えて下さった。
・赤線など引いて分かりやすくしてくれていた。
・細部まで見て下さり、詳しく添削いただいた。
・簡潔に言いたいことがまとめられていると感じた。
・誤字などはもちろん、どういう所が違っているか添削されていたため。
・実践するにあたり、子どもの行動や配慮を細かく指導していただいたから。
・言葉使い一つ一つを丁寧に教えてくれた
・誤字脱字を丁寧に見てくれ、改善した方が良い文章は例文を用意してくれたり、保育教諭の援助を追加して書き出してくれるなど、忙しい中十分に指導いただいた。
・誤字、脱字の添削を赤ペンでしてくれ、修正箇所がよく分かった。
・欄に出るぐらいとても丁寧にくわしく添削してくださいました。
・細かい部分まで指導して下さった。
・具体例もまじえて教えていただけた。
・添削（赤ペン）部分は、分かりやすく、次書く時に指摘されたところを気をつけて書くことができた。書き直しは辛かった。
・表現の方法など、自分では書くことが難しかった点を適切に書いてもらえたから。
・自分が記録を書く上で具体的に書くことを難しいと感じていました。指導者は、私の苦手なところをしっかり改善できるように丁寧に教えて下さったからです。
・誤字、脱字や、表現、表記間違いをえんぴつで書き、なぜこの部分が間違いなのかを丁寧に指導して下さいました。
・添削されるたび、なるほどと思ったから。
・分かりやすかった
・細かいところまで見て下さったり、子どもの活動や環境構成、配慮の書き方を訂正して下さったから。
・わかりやすい。又、
・毎度細かく添削してもらえたから。
・とっても細かいところまで、添削して下さり、未満児にはこの書き方で以上児にはこの書き方の方が良いなどの指導もして下さってとても嬉しかったです。
・書き方を丁寧に教えて下さった。
・添削してもらうことで正しい言葉遣いを知ることができた。
・言葉の書き方、捉え方が勉強になった
・とても細かく添削して下さいました。
・初めの方にたくさんの添削をしていただいたおかげで回数を重ねるにつれ、添削が少なくなっていった。
・不足している部分を細かく添削していただいたから。
・適切な書き方等を分かりやすく書いて下さっていた。
・わかりやすい指導を行ってくれました。指導案に書きこみ＋振り返りでも直接指導いただき、丁寧にしてもらいました。
・まちがっているところ、などわかりやすくていねいに教えてくれた。

・とても苦手だが、細かいところまで見て下さった。
・実習によって違いますが、して頂いた先生はとても丁寧にして頂き、自分も指導する立場の時はそうしたいと思いました。また、して頂けなかった先生はコメントを書いて頂けましたが、添削をして頂きたかったなとも思いました。
・細かく、言葉の言いまわしも教えてくださった。
・少しニュアンスの違うところまで詳しく伝えてくださった
・多面的視点で教えてくださったから。
・疑問に思ったことや、どうしたらいいのかわからなかったことなどに対し、丁寧に答えてくださっていた。
・毎日赤ペンで添削してもらい、様々な助言を頂けたから。
・見返したときに見て分から（思い出す）指導案となるよう添削してくれた
・細かい所まで見て下さったから。
・間違えて表記していれば、丁寧にかいて下さったり、自分が表現しづらい言葉があったり。
・添削だけでなく、口頭でも教えて下さった。
・言葉のつかいかたなど分かりやすく伝えてくれた
・その後の実習や仕事で生かすことが出来た。
・間違っていたところを一つひとつ教えてくださり、的確なアドバイスをくださったからです。
・文の書き方や表し方を丁寧に直してくださった。
・先生だったらどうするかを教えて頂いた。
・提出したものを赤字で直していただき学ぶことができた。
・どこに視点を起き保育していくべきかよく分かった。
・修正など赤でしっかり書いて下さっていたから。
・1つ1つ説明しながら表現の仕方を伝えてくれたため。
・説明が分かりやすかった
・より細かいアドバイスや記録の書き方を教えていただいた。
・子ども主体の書き方だったり、話し言葉を書き言葉に変えて下さったりした。
・しっかりまちがっている所を直してくれたから
・丁寧に細かなところまで見て書き込みや付箋で添削して下さった。
・誤字脱字を正しく訂正してくださった。
・分かりやすく直して下さったので的確だった。
・納得できたから
・言葉づかいなどしっかり直してくれた。
・細かく指導して下さったので分かりやすかった。
・言葉の使い方を教えていただき、勉強になりました。
・話し言葉と書き言葉の違いを丁寧に教えていただいたから。
・言葉遣いや、どういった意味での保育をしていたのか丁寧につけ加えをして下さった。
・違っている所に付箋を貼ってコメントを書いていただき、漢字や玩具の名称の違っている所も細かく確認してくださった。

・簡潔に教えてもらい、ありがたかったです
・言葉の遣い方や書き方も丁寧に教えてくれたから。
・言葉の遣い方や適切な文章を教えて頂けた。
・忙しいにも関わらず、助言をして下さり、実習に活かすことができた。丁寧に間違いも訂正してくださった。
・丁寧に教えてくれた。
・細かく修正してくださった
・表現の仕方を指導して下さったから。
・私自身が感じたことに共感をして下さったり、子どもの育ってほしい姿にもつなげて書いて下さったため。
・間違っていたり、文の正しい書き方を訂正してくれた。
・こう言う書きかたをした方が良いと一つ一つ丁寧に教えてくれたから。
・どのように書いたら良いかなどくわしく教えていただいた。
・書き方の良くない部分を分かりやすく教えてもらった。
・書き方など詳しく教えてもらえた。
・よい所はほめてくれた
・訂正部分を添削し、どうすればいいのか口頭でも伝えてくれたため
・書き方など詳しく書かれていた。次書く時に思い出し勉強になった。
・1つ1つの活動に対して、教師がどのようなねらいを持ちどのように援助したのかをふまえて添削してもらいました。
・素早く添削してもらい、なぜそう書いたかも聞いてもらいながら、丁寧に教えてもらった。
・アドバイスを参考に書き方を変えると、書きやすくなったので。
・実習先によって違ったが、「こういった書き方のが良いよ」とメモ帳に書いてくださったり、赤ペンで添削してくださったりと丁寧にしてくださった。
・毎日、記録の書き方に不明な点があると赤で直して頂き、口頭でもアドバイスをしてくださった。
・言葉づかいとかがまだまだな私に的確な指導をしてくれたから。
・言葉の言い回しや漢字まちがえ等が多く、勉強になりました。
・経験をふまえた意図も教えて頂いた為。
・正しい書き方や、子どもの様子や発達がよりわかるよう書いて下さったから。
・改善点を具体的に指導して下さったから
・配慮の仕方、考察の書き方等、的確に直してもらったため。
・言葉の選び方や書き方など添削してくれていた。
・例えをあげてくれたので分かりやすかったです。
・指導者が、子どもへの関わり、考え方を加えてあり、分かりやすかった。
・～のため、～できるように、など1つひとつチェックをしてくださり分かりやすかった。
・もっとよくなるように、とアドバイスをしてくださった。
・言葉の使い方や保育でのねらい等、理解できていない所をきちんと添削していただいたため、正しい理解に繋がった。

・園に合った書き方や言葉づかいなどを訂正して下さった。
・指導案では、1度自分で書いたのを見て下さったときに、良くなるようにアドバイスを下さったり、記録の添削も的確だったからです。
・具体的な書き方等を教えていただき、2回目の実習の際に活かすことが出来た。
・しっかりと直すところを記入してくれて勉強になった。
・言葉づかい、書き方を指導してもらえた。
・言葉で表現する難しさ、環境構成など足りない部分を知れた。
・書き間違えた所や分からなかった所を赤ペンやふせんを使って書いてくださっていたから。
・絶対にこうしなさいではなく、先生の一案として助言してくださった。
・使用すると良い表現を知れた。気づくと良い点を知れた。
・いつもコメントで間違いやできている事を書いてくれていた。
・赤ペン添削だけでなく説明もしてくれた。
・添削してもらい、口答でも説明があるので分かりやすい。
・文章の書き方などしっかりと教えていただいた。
・添削後、口頭で説明もしてもらったからわかりやすかった。
・実習日誌では子どもへの援助を具体的に書くようにと助言をいただきました。
・内容を具体的に書くことによって１つ１つの動きが明確になった。
・言葉不足だった部分を書かれたことによって、書き方が分かった。
・良かった所、悪かった所、大事にしていることなど、具体的にコメントしてくれていたから。
・言葉の使い方や、見逃していた事等を付け足しで教えていただいた。
・マイナスに書くのではなく、プラスになるように書けるよう書き直して下さっていたから。
・何を書けば良いのか具体的に教えてもらったから。
・誤字脱字や書き方をわかりやすく指導してくれたから。
・話し言葉と書き言葉をきちんと使い分けられていない部分があり指摘していただき気をつけることができた。
・文の書きかたなど、例を見せながら分かりやすく教えてくれた。
・書けていない所をこのように書くと良いなどアドバイスをもらえて学びになりました。
・保育の配慮などをたくさん書いていただいた。
・わかりやすくまとめて、状況に応じて指導の仕方を教わったから。
・関わり方の配慮など具体的に文字に書きかえて下さったり、文章もしっかり訂正してくれた。
・段取りを考え、わかりやすい説明をしてくれた。
・どのように書き直せばいいのかも付箋などに書いて添えてくださったのでわかりやすかった。
・そのクラス（年齢）に応じての記録が正しく書かれていて驚きました。
・具体的な訂正の方法まで教えてくださった。
・話し言葉で書く事が多かったのですが、実習で教えていただき、自分で気づく事が出来

ました。
・わかりやすくしていただき、口頭でも具体的に伝えて下さりました。
・書き方や注意すべき点などを学べた
・書き方が違う所も詳しく教えて下さった。
・指導案・記録においてどのように書くと適切かを知ることができ今後書く際の参考になったから。
・子どもの予想と、それに対する援助が不十分な部分を教えて下さった。
・どのようになおすのか教えてくれた
・記録で「危なくないように…」などと書いている時があったけど、危なくない、という表現ではなく「安全に遊べるように…」と教えていただいた。
・言葉の使い方や書き方を知れたから
・環境構成と指導上の留意点の書き方の違いを教えて下さったため。
・保育の言いまわしをしっかり教えて下さった。
・短大では学べていないこともあり、現場の先生方だからこそ、分かる援助のねらいなども教えてもらえた。
・保育者の援助法や配慮点を具体的に理解できるように指導していただき、記録に反映させることができた。
・具体例記載
・もっと良くなる方法や、こうかくとわかりやすいなど、丁寧に教えていただくことで次の記録などはかきやすかったです。
・赤ペンで文章をなおしてくださるだけでなく、こういう書き方もあるよと別紙に例を書いてくださったりしてとても丁寧だった。
・添削された所（コメント）を見ると、納得できるような言葉で書いてあったので勉強になった。
・今までの子どもたちの姿や出来ることを踏まえてのアドバイスを詳しくもらえたから。
・赤しるしで線を引き、具体的に教えていただきました。
・書かれている内容が自分で納得いくものだったから。
・言い方や表し方を直して頂き、分かりやすかった。
・援助・配慮面で足りてないことが多く人が見て分かりやすい文章に直して下さった。
・細かく書けていなかった所や間違った書き方をしている所を正しく直して下さったから。
・専門用語や抜けている部分を補って下さったから、分かりやすかったから。
・直したところをどうちがうか教えてくれた。
・表現の仕方が違うと鉛筆やふせんで的確に添削してくれたこと。
・言葉づかい等
・言いまわしや書き方など覚えることができた。
・言葉づかいを保育にあったものにして頂いたから。
・細かく言葉の選び方や言いまわし、表現の仕方を教わることができた。
・私のこういう所は良かったと、一言書いて下さる先生が居られ、安心感が得られました。記録の言葉の使い方を訂正されており勉強になりました。
・自分が見きれていなかった部分を教えていただいた

・その行動や言葉掛けをした時の保育者の思いが書けていなかったので、ていねいに教えてくれた。
・アドバイスなどわかりやすく教えてくれたから
・言葉づかいや、保育者の考えに一貫性があり、的確だったと思ったから。
・分かりやすく添削してもらえた。
・保育者の援助に入るのか環境構成に文章が入るのか分からないところも教えて頂いた
・言葉選びや、子どもとの大事な関わりへの理解を深めることができた。
・子どもの姿など、これから現場に立ち、役立つよう添削していただいたから。
・何度も直しをしてもらい教えてくれました。
・文字の誤字、脱字が多く指摘していただいたのですぐに直せました。
・「○○している様子を見守る」という内容ばかりで自分自身の行動を全く書けていなかった。
・添削により自身が思っていたことと違い意味の捉え方や何を視点において援助しているのか考えることが出来た。
・しっかりと赤ペンでわかりやすく書いてくれていた。
・分かりやすい指導だったのでよかった。
・言葉の言い回しが勉強になった。
・毎日添削して頂けた。
・間違えた部分は直しが入っていた。
・言葉の添削や内容の添削をしっかりして下さったから。
・担任が見た上で、更に主任が確認していた。
・添削を元に私自身も知らせている所があるから
・1つひとつの言葉の選び方だったり、大学では学べなかった事もたくさん教えてもらいました。
・自分では気付けないことを毎回書き直して頂いていたから。
・自分の為に訂正して頂いたと考えるとありがとうございますと感じます。
・1つずつ説明して頂き、とても勉強になった。
・納得出来る添削内容で、次の実習にとても役立ったからです。
・指導者の視点等、保育士として必要なことが理解できた。
・文の書き方1つでも分からないことだらけだったので勉強になった。
・何故そういった援助をしたかの詳しい理由があり、とても分かりやすかった。
・何故そう考えるのかというところまで掘り下げて考えることができた。意識することができた。
・なぜこのように書くのかなどの理由を詳しく教えて下さった。
・援助の的確な理由を教えて頂いたから。
・なぜ、まちがえているのか、も教えて頂いた。
・「○○をする」ではなく、なぜそうするのかという保育者の意図も一緒に記すようにすると添削を受けた。
・主に指導案で、「～をする。」だけではなく「することで～。」など援助するにも理由やねらいがあることを知り、書き方だけでなく自分の行動にも繋がった為。

・細い文章の添削でも、説明しながら教えて頂いたのでわかりやすかった。
・私が書いていたのを「これこういう意味で活動してた」などと指導案や記録の添削だけではなく言葉で教えてくださった。
・どうすれば、よりよい保育が出来るのか理由を加えて添削してくれたから。
・もっとこう書いた方がわかりやすいということを理由や例をつけて教えてくれた。
・添削している理由も教えて下さり、自分自身が納得できた。
・何がダメでどう書くべきかも丁寧に書いてくださっていたから。
・直しがある所は“なぜなのか”まで理由を説明して教えて頂いた。
・文章で書くときの難しさなど、一緒に考えて頂き、時間をさいて頂き、わかりやすかった。なぜそう書くのか、細かな所まで教えて頂いた。
・なぜこの書き方がいけなかったのか１つ１つ丁寧に教えていただき分かりやすかった。直ったところを褒めてくださったので、自信へつながった。
・根拠があった為
・自分の気持ちを書いてみて、言葉の直し方を一緒に考えて下さった。
・なやんでいたことなどを教えていただき、指導案にうまく取り入れられた。
・毎日の反省実習を通して、一緒に考えてくださったり、文章表現などを教えてくださったから。
・実習の終わりにアドバイスを頂いた。
「どういう意味か？」と分からない際には、直接聞くと、アドバイスをくださり、全てしっかり読んでいただけているなと強く感じた。
・添削内容は勉強になったが、指導者によって言葉遣いの違いもあるので戸惑った。
・毎日添削が帰りや次の日には返ってくることが多かった。
・書き方をたくさん学べた。
・まちがいが多かった脱字など
・毎日子どもたちと関わっている保育士の方に実際の子どもたちの動きなどを添削してもらうことで指導案が書きやすかった。
・わからないことだらけで、言われるとおりに直すことしかできない。
・下書きをして、清書をしてと大変でしたが、言いまわしなどを理解することができた。
・具体性がなかったので、相手に伝わりにくかった。
・指導案の立て方が分かると保育をするまでのシミュレーションが少しずつ出来るようになったから。
・それを実践で活かし、うまくいったことがあるから
・実習を重ねるごとに添削が減ったからとても良かった。
・自分の考えの狭さや未熟な点をご指導頂けた為
・学校で習ったことがそのまま言われたこと
・自分のたりていない部分に気づくことができました。
・始めは分からなくて、上手く書けなかったけど、添削してもらうにつれて、書けるようになった。
・文章の作成法がそれぞれで異なることがあると知りました。
・添削をすることによって自分自身の課題を知ることができた

・保育者の援助の部分では意図も書いていただき、学びを深めることができた。
・指導のおかげで、日誌をしっかりと書くことができるようになったから
・学びにつながったから
・自分では分からない欠点を知れたから。
・分かりやすかった
・実際に読みやすくなっていた。
・自分なりにきちんと書けたものに対してよく添削して頂けたが、書けなかったものに関しては添削してもらえないので、しょうがないと思った。
・園によって違いはあったが色んな保育を知れてよかった。
・子どもたちがスムーズに動くことができるように、しっかりと導線を考えることが大切だと学びました。
・スムーズに書くことが出来た。
・公的な文章、保育での書き方を学ぶことができた。
・早く返せるようにと、実習生が日々を振り返り記録を見ていけるようにすばやく添削して頂いた。
・保育で使う言葉を知ることができた。
・何度も書き直したが自分のためになった。
・言葉の使い方がおかしかった。
・言葉づかいがダメだった。
・やり直しは大変だったが、あの時何度も書いたおかげで、学んだことは多くあった。
・援助をどういったことでやっているか。
・園によって様々だったので分からないが、今に役立つことがたくさんある。

★的確ではなかったと思う理由

・とにかく厳しく字のクセまで言われた。悪いところばかりを指摘され、こうすれば良くなる等は、指導してもらえず残念だった。
・指導日（実践の日）前に出した日案が、指導日になっても添削されなかった…。
・添削がなかった。
・直されていないときもあったから。
・特に添削もなく見て返却されただけだから。
・あまりしっかり見てもらえなかった
・保育者によって書き方が様々で正しいと言われて書いたものを、別の保育者には、反対されたり、書き直されて、どうしたらよいのか、混乱し、困った。
・園により全然ちがう
・添削を終えての指導に矛盾点が多く、訂正して再度提出しても再び返される等が多かった。
・添削がたくさんあったので、毎日寝不足が生じ実習に全力でのぞむことができなかった。
・提出指導案がなかなか返ってこなかった。
・指導者の方も記録の書き方があいまいだった。
・訂正部分について、意味が分からないことがあった

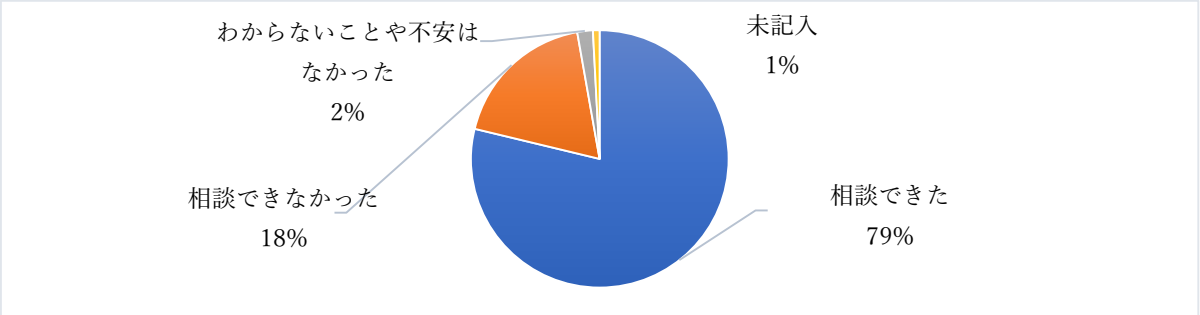
★どちらでもないという理由

・記録の正しい書き方や子どもへの接し方を教えていただき学びになった。ただ、各園や各先生によって記録の書き方や教え方が違うので少しとまどった。
・しっかり指導してくれる園もあれば、何も言われない園もあったから。
・実習先の先生によってちがうから。
・とりあえず少しの間違いだけでも見つけて書かれたこともあった。（今までは、これで直しはなかったのに…などという言葉の直し）
・1 つ 1 つ丁寧に教えて下さる方がいた一方で、何も添削されずどこがダメだったのか理由を言ってくれない方もいたから。
・してくださる人によったが、ボロボロな指導案を 1 つ 1 つ添削してくださった。
・人それぞれやり方がある。自分のやり方は直されるから。
・実習の中で全年齢の保育に入ったこともあったため、先生の添削が一人一人違い、どれが正解か分からなかったから。
・的確、不的確どちらともいた。
・指導者自身も間違えている部分もあり、上の方に教えて頂いた。
・先生によって違ったので、的確な所と的確でない所があると感じました。
・園によって書き方が様々だった為
・実習ごとに書き方がちがったので、どう書いて良いか分からなくなった。
・実習先により表現の仕方が異なり難しかったりすることがあった。
・園によって的確な時もあったが的確でない時があったから。
・人によって変わるため。
・園や先生によってのルールがあり、何が正解かわからない。
・担当の先生によって全然違っていたため。
・見てくださる先生によって違った。
・指導者によって様々だった。
・保育者側が考えたねらい・内容も添削されておりどうしたら良いか分からなかった。
・的確な部分と、他の園ではない細かな所まで書くことがあった
・ほとんど否定がなかった。それが正しいのか今の自分ではまだわかりません。
・添削が多すぎて訂正するのがしんどかった
・矛盾していることが多かった。
・指導案はほぼ書き直しであった。（全て）半日実習の指導案は返却されるのが遅かったため、実習前日に内容を変更し、全て書き直しということもあった。
・先生がした行動をそのまま書いて記録したが、「この時間帯にこの活動をするのはどうか」と書いてあったから
・書き直しがある事はいいと思うが、漢字ミスでも 1 つあれば、1 からやり直しで多い日は 9 枚くらい書いていた。
・書かれていない日もあったから
・書く量だけでなく、意図に反した援助への考察がないか、そしてそれはどういった意図だったのか教えてほしかったから。

・誤字脱字の添削のみだった
・的確な添削をしてくれる先生もいましたが、赤のボールペンで何を見てきたのみたいな事を書かれたこともある
・“書いて提出すること”を重視されていたので添削はあまりなかった。
・あまり訂正された記憶がないので。
・ほとんど添削されることなく返ってきたため。
・あまり覚えていないが、先生方からのコメントがはげみになった。添削をされることがあまりなかった。
・特に何も書かれなかった。
・添削が少なく、不安になることが多かった。
・指導案も記録も特に添削して下さらない施設があった。
・指導案の添削してもらえなかった。
・添削はほとんどなかった
・とくに添削がなかった
・ほとんど指摘された箇所がなく、自分自身これで本当に良いのか、と悩んだ。他の先生に助言を求めたこともあったが、「大丈夫」とだけ言われ、自信を持てなかった。
・記録も指導案もよく見てくれていたと思うが、あまり直したりすることが無かったので、直しが無くて本当に良かったのかどうかと思うことがあった。
・特に添削がなかったから。
・あまり直されることがなかったので、正しいかどうか分からなかった。
・覚えていない。
・就職してからはこまかく教えてもらっているが、事前の実習ではフリーだったので書いていない。
・少し難しい部分があった為。
・とても勉強になるコメントがたくさんあった
・マニュアルに添ったような感じだった。

9. 実習中でわからないと思ったことを聞いたり、不安なことを相談したりすることはできましたか？その理由も具体的に教えてください。

回答欄	件数	%
相談できた	367	78.76%
相談できなかった	86	18.45%
わからないことや不安はなかった	9	1.93%
未記入	4	0.86%
合計	466	100.00%



★相談できたと思う理由

・先生方が優しく対応して下さったから。
・声をよくかけて頂けたので、私自身からも相談しやすかった。
・毎日、「質問はある？」と聞かれるので質問や相談事を考えるようにしていた。
・「分からんことある？」と聞いて下さり、言いやすい環境でした。
・相談しやすい先生だった
・相談しやすい雰囲気だった。
・気さくに担当保育者が日頃から話をしてくれていた為
・保育士の方がとても優しく声を掛けて下さったため
・一日ずつ、わからないこと、疑問に思ったことを尋ねてくださり、気さくに話してくださったことで、私も思うことを話せました。
・話やすい保育士さんだったため。
・優しく丁寧に教えてくれたりアドバイスなどをしてくれたり相談しやすかったため。
・聞きやすい環境だったから。
・先生方は優しく、何でもアドバイスを頂いた。
・話しやすい雰囲気だったから。
・分からない部分には、どのようにしたら良いのか聞くことができた。
・実習担当の先生がやさしい方で、聞きやすい、相談しやすい雰囲気をつくってくださった。
・元々、何かあれば聞いて、わからない状態が嫌なので、聞けた
・分からないことなど詳しく教えて下さった。
・普段からとても優しく声かけをして下さり、相談しやすい雰囲気を作ってくれていたの

で、指導案や設定保育で悩んだ時にとても相談しやすかったです。
・いつもやさしく、小さなことでも聞ける雰囲気だったため
・聞きやすい雰囲気、人間関係
・何でも教えて頂ける聞きやすい方だった。
・気さくに話をしてくれたので、相談しやすい雰囲気だったから。
・分からないことある？と聞かれ、相談し、一緒に考えてくださったから。
・わからないままにしておくと、不安になる為、担当の保育士の方に聞き質問をした。
・フレンドリーに話を聞いてくれたので分からない事を言いやすかったです。
・先生がとても話しやすかったから
・「今日、困ったことや疑問に思ったことはあった？」と、毎日たずねてくださり相談しやすい雰囲気でした。
・よく声をかけてもらったり、心身に話を聞いてもらったから。
・分からないことはすぐ聞くことはできたが、不安なことは相談できない状況だった。
・子どもの行動やわからないことを聞いてくださったので相談しやすかった
・保育士さんが優しく接してくれ、聞きやすかった。
・なんでもきいてきてという雰囲気がすごくあったから。
・保育士が親身になって話をきいて下さったからです。
・話しやすい先生だったのでいろいろと聞きやすかった。
・よく気にかけて下さった為
・相談のしやすい環境が整っていた。
・実習生がわからない事も相談しやすい環境・雰囲気だった。
・いろんな先生方が話掛けて下さり、聞くことができたから。
・困ったことがあればすぐ聞いてくれていいよと何回も言われていたのでよかった。
・担当の先生が優しく、話しやすい雰囲気だったため。
・先生方が「大丈夫？」や「困っていることない？」と優しく声をかけて下さったから。
・相談しやすい雰囲気だったから
・相談しやすい雰囲気だった
・分からないことがあればすぐに聞いてね、と言われていたため。
・先生が忙しそうで相談するタイミングが分からないときもあったが、疑問に思ったことや気になることは相談することができた。
・実習担当の先生が良い人だったから
・先生方が相談しやすい雰囲気を作ってくださった。
・実習の中で分からないことがあると、担当の先生に質問したり聞いたりすることができたから。
・実習の中で「一週間の流れのある活動」をするという課題があり、すごく悩んだが、親身に話を聞いてもらえたため成功したから。
・担当してくださった先生は困ったことがないかときいてくれた。
・先生方が、丁寧に答えて下さったから
・次何したら良いかを聞くことが出来た。
・優しく教えて頂きました。

・とてもフレンドリーで優しい先生だったので相談しやすかったです。
・質問しやすい環境を作ってくれた。
・仲の良い先輩ができ、分からない事は聞くようにした。
・分からないことは聞くことができた。聞きやすい環境だった。
・部分保育や設定保育でしたいと思っていることを相談し、アドバイスを頂いた。
・部分実習と１日実習の違いや内容について相談しました。
・親しく接していただき、雰囲気も良く、すぐに聞く事ができた。
・分からないことをその都度教えて頂いた。
・親身になって、相談をする時間を作って下さったため。
・相談しやすい雰囲気を作ってくれる人だったから。
・先生達から声を掛けて下さることが多かった為。
・話しかけやすい雰囲気で接して下さったからです
・聞かないと、できなかったり困ったりすることばかりだったので質問することができた。
・優しく、ささいなことでも、丁寧に教えてくれた。
・一つの質問に丁寧に教えてくれて不安なことも相談すると心身に受け返してくれた。
・「わからないことがわからなくて当たり前だから、少しでも疑問に思ったら、何でも聞いて」と言っていただき、いろんなことを質問させていただけた。
・話しやすかったから
・聞きやすい雰囲気だったから。
・学びだと考え、いろいろと質問ができた。
・質問や不安なことに忙しい中で真剣に聞いて頂き、心が楽になりました。
・たくさん声を掛けて下さった。
・保育のことだけでなく、進路のことなども相談に乗ってくださり、不安なことをその日のうちに解決することができた。
・とても丁寧に教えてくださった。
・分からないことがあれば聞いて欲しいとおっしゃってくださっていたので相談しやすかったから。
・先生方がとても優しく、相談しやすかったから
・保育士の方から分からない所があれば質問してほしいと言ってくれた。
・保育士の方が優しく聞いて下さった。
・自分の話をよく聞いてくださり、優しく何でも受け入れてくれるような温かな雰囲気だったから。
・親身になって話を聞いてもらえたから。
・話しやすく、一緒に親身になり考えてくださった。
・「わからないことない？」と先生から聞いてくれたから聞きやすかった。
・気さくで優しい先生だったので実習中や休憩中などいつでも相談できた。「わからないことはある？」と先生方から聞いて下さったり、自分で質問をした際も親身になって指導して下さった為。
・クラスの子どもについて知る時に、１人１人の様子を伝えて下さったおかげで、その子の性格や、子ども同士のトラブルの対応等相談する事が出来た。相談する際に何か質問

があるか等といった声掛けが私にとってとてもありがたく丁寧に返答して頂けたので沢山の事を学べました。
・「分からないことがあったら何でも聞いてね」と言われたので、相談しやすかった。
・たくさんのことを聞いて下さったり、私が質問しやすい雰囲気をつくって下さったから。
・園によって違ったが、質問などに対して丁寧に返答してくれたから。
・親身になって聞いてくれた。
・母園に行った為、小さい頃から知っている職員もいた為、話や相談することができた。
・相談することによって自分で身につけることができるから。
・指導者が快く聞いて下さったので、聞きやすかった。たくさん話しかけてくれたから。
・先生がこちらに聞いて下さったり、優しい雰囲気のある施設では聞きやすかった。
・分からないことがあったら何でも相談してね。とおっしゃってくださったから。しかし、相談出来ないこともあった。
・保育所実習では、母園でもあった為、人間関係も良く、聞きやすかった。
・クラスの先生が優しく対応してくださりました。
・相談できる雰囲気を作って下さった
・先生方がいつも笑顔で優しく接してくれていたため。
・相談しやすい雰囲気があったため
・保育士の先生方から「聞きたいこととかある？」と尋ねていただいたので、相談することができたから。
・優しく毎回しっかり答えてくれるから。
・話しやすい雰囲気をつくってくださった。
・優しい保育士さんがいて、気軽に相談できた。
・指導案についてとてもたくさん相談するといつも的確に答えてくださいました。
・接しやすい先生だったので相談がしやすかった。
・相談しやすい先生方が多く、困っていたら、何度も声をかけて頂いたのですごく良かったです。
・分からないままでは勉強にならないので疑問に思ったことは質問をした。指導をしてくださった方も「何か質問ある？」など声をかけてくださり、相談しやすい雰囲気だった。
・分からないことはその場で、すぐ聞ける環境だった。
・相談しやすい環境だったから
・毎日「分からないことなかった？」と聞いてくれていた。
・困ったことある？などと聞いてくださったから。
・わからないことや困ったことがあれば、すぐ保育士に聞くよう心掛けたから。
・不安を解消することはできなかったが、わからないことは質問できた。
・話しやすく、相談しやすい雰囲気でいて下さっていたから。
・聞きやすい雰囲気だったから。
・「分からないことない？」と先生方がたずねてくださったから。
・疑問に思ったこと等聞くと丁寧に教えていただき勉強になりました。
・時間を見はからって、分からないことはすぐにきいてねと事前に伝えて下さっていたのできがるに聞くことができました。

・優しい先生方ばかりだったから相談しやすい。
・先生が優しかったから
・話しやすく、親身になってくれた。
・先生方から、いろいろと聞いて下さったりして、相談などもしやすい環境を作って下さっていました。
・相談しやすい雰囲気があり、いつでも聞いてと優しく丁寧に相談に乗ってくれたから。
・初めは、緊張して聞きづらかったが、困っていることなどに気づいたら声をかけて下さったので段々と聞けるようになった。
・就職が決まり、社会人、保育者になるという不安を打ち明けたところ、体験談を話してくれたり、はげましてもらったりしてもらえたから。
・話しやすい雰囲気だった。
・今までだとわからないことをそのままにしていることが多かった。今の職場ではその場で聞けるので嬉しいです。
・やさしく、具体的に答えて下さることで、聞きやすかった。
・とても話しやすかったから。
・先生方がとても優しく相談しやすい雰囲気だったため。
・実習協議で常に聞いて頂いた。言いやすい雰囲気をつくって頂いた。
・話しやすい先生がいた。
・実習園の先生方から、毎日の振り返り中、困ったことはないかいつも聞いてくれたので、相談しやすかったです。
・話しやすい職員だったから
・相談しやすい雰囲気・関係づくりをして頂き、また経験が少ない自分にとって何でも聞いていくことが今後のためだと思ったから
・部分実習をふり返り、アドバイスをもらった
・優しい雰囲気だったから
・園やクラスの雰囲気が良く、いつも気にかけて頂きました。
・入ったクラスに聞ける人がもし、いなくても他のクラスに話せるような人がいたので相談できた。
・親身になって話を聞いてくださる先生だった
・「わからないところや聞きたいことある？」と声をかけてくださったので、言うことができた。
・色々なことを聞いて下さったから
・先生から聞いてくれたから
・担当の先生が丁寧に接してくださったから。
・相談しやすい雰囲気だったから。
・実践的な部分では、初めてのことだらけだったので、分からないことや不安なこと、状況に応じて相談できた。
・話しかけやすい先生には声がかけれた
・話掛けてくれたので話やすかった。
・設定保育で何をしようかどうすればよいかわからなかった時、親身に応えて下さったか

ら。
・聞いて下さり、質問や相談をすることができた。
・どう？とかよくきいてくれた
・聞きやすい雰囲気、優しそうな方たちだったからとても相談しやすかった。
・声をかけやすかった。
・先生方の雰囲気がよく、聞きやすかった。
・優しく聞いて下さる先生がいた園では何でも聞くことができた。
・親身になって話を聞いてくださったので話しかけやすかった
・保育士の方から、「何か分からないことある？」などと声をかけて下さったので、質問がしやすかった。
・話やすく、聞きやすかったし、聞いたこと（質問）に対しては的確なことを言って下さったから。
・やさしく対応してくれた
・分からないことや質問したことに関して、その場で分かりやすく教えていただいたから。
・保育者の方が親切に声を掛けて下さったり、アドバイスをしていただいた。
・聞きやすい雰囲気があった
・しっかり毎日私のことを見てくれ何でも教えてくれたから
・先生方から、聞いて下さり、自分からも話しやすかったです。
・保育者が聞いてくれた。また、明るい雰囲気であったから。
・優しく笑顔で「不安なことはない？」と聞いて下さったので相談がしやすかった。
・毎日指導者の方から励ましの言葉があり、その都度話を聞いて下さった。
・指導してくれる方から、聞いてくださったので相談しやすかった。
・話しやすかった
・先生方の雰囲気も良くて、聞きやすかった。
・先生方から声をかけて下さり、話をさせて頂きやすかった。
・先生方から聞いてくださったりしたので相談しやすかった。
・相談しやすい雰囲気を作ってもらえていた。
・やさしい雰囲気だったから。
・話しやすい雰囲気だったから。
・分からないことがあったかの確認をして下さったのでたくさん質問ができた。
・先生方がとても親切であったため聞きやすかった。
・とても親身になって聞いて下さいました。
・何でも聞いてと言って頂き、聞きやすい雰囲気だった。
・気さくに話しかけて下さったり、話しやすい雰囲気だった。
・わからないことや疑問に思ったことはその場でメモしてきくことができた。
・いつでもきいてねととてもやさしかったから。
・先生方が優しかった。
・声かけや動きの分からない所をきけた
・担当の先生が聞いて下さいねと言葉を掛けてくれたので安心しました。
・保育者の方から優しく聞きやすい雰囲気だったし、聞いてくれた

・とても丁寧に指導していただいた
・製作活動をする前の準備を、どこまでしたら良いのかを聞くと、ていねいに教えてくださった。
・親しく接していただき、相談する時間も作ってくれた。
・「質問はないか？」と問いかけてくださり、質問できる時間を用意してくださったから。
・空いた時間に分からなかったことをきけたり、日誌の反省などに書くと返して頂けたりした。
・毎日、実習が終わると、反省会を設けてくださった。
・反省の時間があったから
・反省会の時やそうじの時に担任の先生と話す機会が多かったので相談しやすかった。
・忙しくて、その場では聞けなくても、後から時間を作ってくださり、聞くことができた。
・休み時間や午すい中にわからなかったことがないか聞いてくれたり、思ったことを伝えてもらったりした。
・指導案の書き方を時間を作り、分かるまで教えてくれたから。
・一日の反省の時に相談や疑問に思ったことを聞いてくださっていた。
・子どもが午睡している時間を利用して、質問する時間を設けて頂いたから。また、気さくに「いつでも聞いてね」と声を掛けて頂けたので、わからないことがあればその場でも聞くことができたから。
・休憩中に質疑応答があったため
・毎日、先生としっかり話をする時間があった。
・振り返りの時間を取ってもらい、質問することができた。
・相談をする時間を設けてくれていたから。
・1 日終えるごとに、「今日の中で聞きたいことや相談したいことある？」と聞いてくださり、ありがたかった。
・毎日、実習終了後に、質問したり、相談する時間を設けて頂いた。
・その都度わからないことは聞くようにしたが実際保育者との時間もとれず 1 日の実習の終わりにまとめて活動内容で疑問に思ったことを相談すると丁寧に教えてくださりねらいを通しての保育を考えることが出来た。
・毎日質問をする時間を設けて下さったり、世間話もし、緊張をほぐして下さった為、色々な事をきくことができた。
・反省会で相談できた。
・昼休みにそういう相談する時間を設けて下さったから。
・1 日の終わりに反省会がありそのときに相談ができたから。
・毎日、お話をさせてもらえる時間を作って下さり、疑問に答えて下さった。
・忙しそうで難しい時はあったが、相談できる時間を作って下さったりしたから。
・毎日相談する時間をとってもらえたから
・反省会の時に 1 日の反省を伝え、不安なこと分からないことを相談すると丁寧に教えてくださった。
・実習が終わった後質問する時間をとって下さった。
・実習の中で、保育士の先生とゆっくり話をする機会を頂き、その中で不安や疑問を聞い

て頂いた。
・1 日の終わりにある反省会の時に、分からないことを聞くことができた。
・しっかりと時間をとって下さったり、迷いを感じている時、気づいて聞いて下さった為
・実習時間後に、話をしたりできる時間を頂いていた。
・1 日の中の反省会のときに困っていることなどないか聞いて下さった
・毎日、反省会の時間を作ってくださっていました。
・反省会などで聞けた。
・毎日反省会をしていただいたので質問しやすかった
・ふり返りで毎日悩みの解消をして頂けた。
・毎日決まった時間に 1 日の反省時間があり担当の先生と話ができた。
・毎日反省会を設けて下さり話す機会をいただけたからです。
・毎日振り返りの時間を設けてくれ、その日の反省や疑問を話す場があったため。
・毎日、質問や反省を言える時間をつくって下さったため。
・毎日反省をしてくださり、優しく質問してくださったため。何でも相談してとおっしゃってくださっていたため。
・毎日、終わると話しを聞いて下った。
・1 日に 1 回担当の先生と話す時間があった為、毎日疑問に思ったことを相談することができた。
・相談できる時間があり、たくさん聞いてもらい教えて頂けた
・協議の時間で、一日通してわからないことがなかったか聞いてくれたので、聞きやすかった。
・振り返りの反省の中で、話す時間を持つ事が出来たから
・子どもたちの午睡の際話す機会を与えてくださった。
・忙しい中で、相談をする時間を作って下さったから。
・質問の時間をとってくださったから。
・1 日の終わりに、相談する時間を作ってもらうことができたので、実習中は、とても勉強になった。
・子どもを送り出した後、質問をとる時間を設けてくれたから。
・毎日保育後そのような時間を設けて下さったから
・毎日反省会をしてもらい相談できたから。
・1 日のおわりに反省会があったため聞きやすかった。
・なんで？と思った事を反省会で相談する事で力になっていったと感じる。
・反省をしてくださった。
・反省会等をして下さり、忙しくて聞けなかったこと等を聞けたから。
・毎日の反省の時に、質問させて頂ける機会があった。
・子どもたちが午睡中に、担任の先生が 2 人で話す時間を作って下さり、分からなかったことや、アドバイスを頂き、毎日の実習を過ごしていました。「こうしてみたら？」とヒントを下さる先生だったので「こういうやり方があるんだ」と気付きがたくさんありました。
・相談する場を設けてくれたから。

・毎日反省会や、振り返りの時間をつくってくれたから。
・日々の反省会でその日のうちに解決できた。
・保育所実習だと先生も忙しそうにされていて、タイミングが難しかったが、子どものお昼寝の時間に聞くことができた。
・毎日、協議の時間を持っていただき、丁寧に指導してくださった。
・毎日、振り返りの時間を取って下さったので、自分の中で分からなかったところを解消することができたから。
・子どもの午睡中に、質問の時間をとって下さっていたので毎日分からないことをきけた。
・子ども達が降園すると個別に反省会をして頂き相談できました。
・反省の時間を設けて下さった。
・実習担当の先生が協議のときによく話をきいてくれた
・指導案や、一日保育のアドバイスがあった。
・アドバイスや指導案の添削もわかりやすく毎日反省やふり返りの時間をもうけてくださったから。
・研究保育後や毎日の子どもの午睡時に相談できる時間を設けて下さったため。
・反省会など実習後に聞いたり、質問などの時間を設けてもらった。
・疑問に思ったことをメモしておき、午睡時間や保育後にくわしく聞くことができた。疑問に思ったことを聞くことができただけでなく質問したこと以上のことを学ぶこともできた。
・質問をする時間や、困っているときはアドバイスをいただいたりなど、話ができる空間をいただきました。
・年齢が近い先生が「分からないことはない？」や質問する時間を用意してくださっていたので、不安をかかえたまま、保育することはなかった。
・聞く機会が設けられていたこと、先生方が非常に話しやすかったから。
・日誌や反省会などで子どものことでわからないことがあれば聞くようにしていたからです。
・1 日の終わりに必ず質問する時間を作ってくれていたので聞きやすかった。
・わからないことや不安なことをとても相談しやすい空間を作ってくださったから。
・実習終わりに教えていただけた。
・反省会を設けてもらい、その時にできた。
・1 日の終わりに協議があり、1 日を振り返ってどうだったか、分からない所を聞く時間があった。
・忙しそうな時は聞きずらいこともあったが、落ち着いている時や休憩時等に聞くことができた。
・質問タイムを設けてくださり聞きやすかった。
・毎日反省会があったのでその都度教えてもらえた。
・分からないと感じたところや、保育について配慮や意図など質問することのできる時間を設けてくれた。
・担当の先生が優しかったから。
・相談できる時間を作ってくださったり、保育者の方から分からないことはないか聞いて

くださったので、相談しやすかった。
・相談できたが担当の先生によっては上手く相談できない実習先もあった
・特別な配慮が必要な子
・疑問点が多かったから。
・しっかりと自分から聞きに行こうという思いを常に持っていた。
・相談できる内容（子どもの姿や今何をすれば良いか）もあったが、出来ない内容（記録・指導案の書き方、表現の仕方について）もあった。
・指導案など子どもとゲームをする内容についてアドバイスをいただいた。
・大まかなことは相談できたが、実習生と現場の温度差を気にしてしまい、どこまで聞いていいのか分からないこともあった。
・聞く前に先生方がわからないところなど説明してくれた。
・解決したかった。
・自分ではできたと感じていたが、後から思うと、あの場面では聞いていた方が良かったかなー？と思うことがある。
・相談して少し喧嘩になりました
・聞かなければ自分のためにならないと思ったから。
・研究保育でどのようなことをすれば良いのかを相談できたこと。
・分からないことは聞けたが、初めてのことが多く、あまり聞けずにいた。
・わからないままにすることが嫌だったから。
・わからないことは聞かないと勉強にならないと思ったから。
・分からないまますするのはいけないと思ったのでその都度きくようにした。
・できるところもあったが、できないところもあった。
・話しやすい先生もいたがそうでない先生もいた
・わからないことは相談できたが不安なことは相談できなかった。
・なぜ、子どもは今泣いているのか分からなかったので聞きました
・不安な事を言えていましたが、実習の疲れが出ているからか、少し落ち込む事もありました。
・やさしく教えてくれた。分かりやすかった。公立でいったところは相談しにくかった。
・題名が分からないわらべうた等を聞いた。
・年齢に応じた絵本選び等について

★相談できなかったと思う理由
・相談をできる雰囲気ではなく、常に怖く、笑顔がない保育者だったので聞けなかった。
・相談できたが担当の先生によっては上手く相談できない実習先もあった
・先生によっては相談できることもあったが、雰囲気に負けて、相談できないこともあった。
・保育者がピリピリしている気がした。自分の気持ちは分かってもらえないと感じた。
・忙しそうにしていたので、話かけづらかった。
・保育者が忙しそうにしていて聞くタイミングがなかった。
・忙しそうで気をつかってなかなかきくことができませんでした。

・話かけても無視されたり、保育士同士のアイコンタクトなど雰囲気が悪かった
・働きはじめた今は、わからなかったら聞けばいいのにと思うが、実習生の頃は先生との関係もできていないし、流れもわからないし、ずっと忙しそうにしているし、いつ相談すれば良いか全くわからずできなかった。
・実習先によって違ったが、相談できなかった所は、分からないことを質問したにもかかわらず「自分で考えて」と、答えてもらえず、それから、質問できなくなった。
・話す時間もないし、相談できる雰囲気でもなかった。
・苦手だった。
・なかなか聞きにくいな、と思ってしまった。
・相談に乗っては頂いたが、常に忙しい現場のため、中々ゆっくりと時間を作って頂くことが難しかった。
・部屋に先生がすぐにいなくなるから。
・恐かった
・あまり聞きやすい雰囲気ではなかったから。
・聞きづらい
・行事が近く、忙しそうだったので話しかけられなかった。
・聞いていいタイミングが分からなかったり、嫌な顔をされた
・相談できない、しにくい雰囲気がある。わからないことを相談するときつく言われてしまうこともあったため、相談しにくい。
・話しかけづらかった。
・話しがしにくかった。
・保育士が忙しそうだったから。実習生側から忙しそうだと声を掛けにくい。
・「忙しい」という雰囲気でなかなか聞けなかった。
・先生（担任）が忙しかったりして声をかけずらかった。
・職員が忙しそうだったので聞けなかった。
・きくタイミングが分からなかった。
・忙しく働いている方に聞くと悪い気がしたり、聞けそうなタイミングを逃してしまったりが多かった。
・忙しそうにしていて聞くのがためらわれた。
・親身になってくれる方ではなかったから。
・保育士の方も延長保育で忙しそうだったので聞くことができなかった。
・忙しそうに保育者がしていたため。
・最小限はできたが、担当の先生も忙しかったので、できなかった。
・実習で教えていただいた先生が怖くてあまりできませんでした。
・相談したり質問をしたりする事がしにくい雰囲気があった。
・反省会を設けていただいたが、振り返るだけで具体的な助言は得られなかった。担当の先生や主任の先生に分からないことは率先して聞くようにしていたが、相談できる雰囲気ではなかった。
・相談できやすい雰囲気の先生が少なかった。
・保育士の先生が忙しそうで、その時はなかなか聞けなかった。

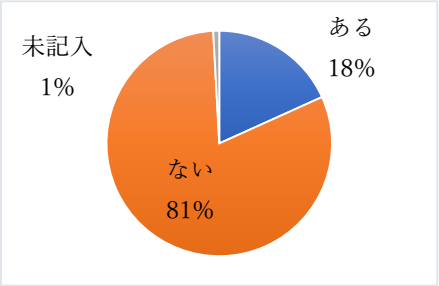
・聞ける雰囲気ではなかった。
・実習担当の方が話しにくい方だった為お話しするのが難しかった。
・周わりの目を気にして聞けなかった。
・忙しそうだったので話かけることができなかった。
・聞きにくい雰囲気だったから。
・相談できたり、できなかったりはありましたが、先生方が手がいっぱいという様子で聞けず不安がつのりました。聞けた時には、大きいくくりとしての子どもとのかかわり方を教わったので、かみくだいて、詳細を知りたい部分もありました。
・忙しそうであまり話す機会がなかった。
・聞く時間がなかった。
・いつ聞けば良いかわからなかった。
・聞くタイミングを伺ったりし、その日のうちに聞くことは少なかった。
・反省会などがなく、聞く時間がなかった。
・5歳児の保育実習でお昼寝もなく、保育教諭に話しかけるタイミングをつかめなかった。負担になるのではと心配して気をつかってしまった。
・いつ聞くのか、今質問していい時なのか分からなくなると相談できませんでした。
・幼稚園では毎日担当教諭との面談があった。
・タイミングがなかった。
・聞くことも少しできたけれど、全部が全部は難しかった。いつ聞いたらよいかタイミングがつかめなかった。
・時間をとってもらうことができないときもあった。
・担任の先生と話をする時間がなかった
・相談しても“自分で考えて”と言われるばかりだった
・初めての人と関わる事に苦手意識があるから。
・自分自身、実習園の先生に相談したり、話す勇気がなかったから。
・分からないことが当たり前だが、きいたことでどう思われているのか怖かった。
・何度も同じ質問をすると聞いていたのかと怒られるのではないか、こんな事を聞いてもよいのかという不安感でいっぱいだったため。聞きづらい。
・自分から発言することは苦手だから
・自分があまり積極的に動けていなかったので相談をしていなかった。
・何が分からないかも分からないことが多かった
・自分から相談したが、タイミングや相談内容をまとめることができず、相談の時間が長くなってしまったり、何を相談したいのか分からなかったが、反省会では必ず相談できるよう取り組みました。
・コミュニケーションが苦手で、聞く前に本当に聞いても大丈夫なのかと色々考えてしまい、相談することが出来なかった。
・緊張して質問をすることができなかった。
・話すタイミングがつかめなかったことと、こんなことも分からないのか、とあきれられてしまうのが怖かったから。
・自分で考えるべきと感じていた。

・話せないので何が分からないのかも分からず、そのままで終わった。
・仕事量が多く、毎日違う事をしていたので不安しかなかった。
・行事の準備などで、担当の先生は忙しいと思い込み、自分から時間を見つけて積極的に質問できなかったから。
・一人実習生だった為、きくことができなかった。
・どう相談すれば良いのかわからなかった。
・聞ける先生と聞きにくい先生がいたため。
・指導案を書く際に、自分の中で整理できず手一杯で相談できなかった。
・こういったことを聞いてもいいのか？と思ってしまっていた。

★わからないことや不安はなかったと思う理由
・先生方が気にかけて下さり、聞いて下さることが多かった。

10. 実習を振り返って、施設や指導担当者に望むことはありますか？

回答欄	件数	%
ない	377	80.90%
ある	85	18.24%
未記入	4	0.86%
合計	466	100.00%



10-2. あると回答した方は、どのようなことなのか具体的に教えてください。

・実習生をたくさん受け入れているところは、実習生慣れをしていて対応が適当になっているので１人１人新鮮な気持ちで受け入れる
・指導の中にも優しさが大切であると思う。正解は１つではないと思うので、全てを否定するのではなく、受け止めながらも別の見方、書き方がある事を、分かりやすく丁寧に伝える。
・話し掛けやすい雰囲気作りをしてほしい
・丁寧に気軽にとまではいきませんが、相談しやすい雰囲気を作ってほしい
・教育者としての自覚を持って欲しい。
・急に「〇〇して」と言われてもすべてできるわけではないから、やめてほしい。
・いけないことを怒らないという優しさはダメだが、邪魔な態度で指導するのはやめてほしい。
・実習を通して“保育士になりたい”と思わせるような希望を持てる指導
・部分実習や責任実習とは別に、「絵本を読んでみる？」と突然声を掛けて頂いたこと。貴重な体験をできた喜びはあるが、事前にもっと絵本を読み込んでいたかった、また、自

分で絵本を探す時間が足りなかったから。
・実習担当や園長先生、クラスの担任の先生等、声をよくかけてもらったので、質問しやすく、気づいたり学べたことも多かった。認めてもらったことで、自信が持てた。
・実習させていただいた園の園長が母の知り合いだったので、実習後に母が話を少し聞いたところ、園長自身、実習生への指導をあまり把握していない状況であった。また、姉妹園もある園だったため、実習中ほとんど園長は外出されていた。
・実習生が動けていなかったり、ミスをしてしまってもわかりやすく保育士同士で悪口を言わないでほしい。直接話をしてくれた方が直せると思う。何年働いてもまちがうことはあるのに数日間でまちがったことをそう言われると保育士になりたくなくなる。
・表情が怖い保育者が多かったため、もっと明るい雰囲気を出してほしかった（保育所実習）
・「何でも相談して」と言ってくれるのならば、そのような時間や雰囲気を作ってほしい。
・実習生には優しくする
・聞きやすさ。
・笑顔で対応して欲しい。
・私は、とてもすてきな先生方で一人の保育者として見て頂けましたが、友人は、雑務がほとんどで、実践的なことができなくて、何をしているか分からなかったと言っていた。
・話しかけやすい雰囲気作り
・もう少し話しやすい、相談しやすい雰囲気ならよかった。
・話をよく聞いてほしいこと。
・日誌をもう少し丁寧に見て何か書いてほしかった。
・頭ごなしに注意するのではなく、どうしてだめなのかを具体的に説明してほしい。
・保育士が子どもと同じように実習生にも寄り添うこと。
・指導案や記録をなるべく早く返してほしい。
・もう少し親身になってほしかった。
・施設内の職員で指導の仕方を統一してもらいたい。
・思っている事があったら言ってほしい。自分で考えて動ける時もあれば、言われないと気付けない事もある。
・設定でよかったときはほめ、だめなところは、次どうするか、具体的にアドバイスをほしい。否定ばかりだと、やる気の低下になってしまう。
・一言でも褒めてくださったり、指導してくださる時に笑顔で言ってくださるだけで、その日頑張ろうと思えます。
・できる限り、心にゆとりがあるように見えると、聞きやすくなると思います。又、簡単な作業でも一緒にして頂けたら、丁寧にする所やコツを教えてもらいたいです。一人でするのはさびしいです。
・指導案や設定保育の内容を指摘するだけでなく、提案するなどヒントを与えてほしい。
・実習生側も真剣に学びにきているので、指導者も真剣に教えてほしい。
・漢字の直しなどを統一してほしい。
・実習生の前で、仕事に対する不満を話してほしくなかった。
・記録を早めに返してほしい。

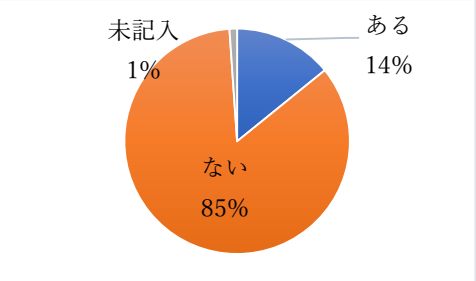
・実習生を放ったらかしにしないでほしい。(なにかすることあるか質問しても放ったらかしにする)
・お忙しいと思いますが、話しかけやすい雰囲気を作ってほしい
・内容を明確に知らせてほしい
・実習生が真似したい保育を見せてくれると、目指すものが分かり、モチベーションにもなる。
・園長の表情が常に無表情で、怖い表情で園そうじの際「ここもしてよ」「もっと早くしなさい」等と命令口調で指示された。保育士ならば、常に笑顔を忘れず、実習生に対しても優しくあることを望む。
・記録の書き方をもっと分かりやすくしてほしかった。
・設定保育の時に困っていても助けてくれない園があった。少しは何か助けてほしいと思った。色んなクラスの先生が一気に見にきてすごくプレッシャーを感じた(公立保育園)
・「実習生さん」と呼ばないでほしい、「～先生」と呼んでほしかった。
・忙しいのは分かるが、日誌の返却は早い方が有難い
・沢山声を掛けてほしかった
・とにかく優しく教えていただきたい。まだ現場に出て1回とか2回目なのにできるわけないのだから、上から叱るような感じで言うのは、その子の意欲も落ちるかもしれないので、やさしく、丁寧に伝えて、あたたかい雰囲気で接してほしい。
・「○○してね。」ではなく、その日の最後でいいのでなぜそうしたのかなど理由を教えてほしい。
・私自身ではないが、励ましの言葉がなく行動全てを責められている思いだった。記録に時間を取られすぎて心に余裕が持てなかった。職員の愚痴を聞かされ辛かったなどの声を聞いたので、実習生が失望しないような対策を考えていただきたい。
・もう少し優しく接してもらえると嬉しい。冷たい態度や対応をされるとその場所に居づらく、仕事をすることに希望がもてない。
・気疲れしないように、たまには会話？良い雰囲気を作ってほしい。メリハリも大切ですが、笑顔などほしい
・質問しやすい雰囲気作り。
・実践的な部分は、本当に分からないことばかりなのでたくさん教えていただきたい。
・忙しくて大変だと思いますが、実習性が話かけやすい雰囲気を作って欲しい。
・具体例を示す。肯定しつつ、アドバイスをする
・理不尽な指導やアドバイスはやめてほしい
・実習生も過ごしやすい様な保育者の関わりをしてほしい
・話しかけても良いか不安なことが多いので、小さなことでも声を掛けて下さったら嬉しいです。
・もっと実習生が学びやすい環境や特に人間関係を何とかしてほしい。性格が悪すぎる人が数名いました。
・夢を与えて欲しい。もちろん、現実的な部分も見て学ばせてほしい。
・優しい雰囲気をつくって下さると相談しやすく、為になる実習になると思います。
・質問したいけれど、質問していいのか分からないことがあったり、勇気が出なかったり

したため、時々質問がないかたずねてほしい。
・赤字がたくさんでもいいので、実習ノートの添削をしていただきたかった。
・指導担当者は全ての先生でした。実習に入るクラスは一クラスにして、一担当者にすると、一貫した指導になったかと思う。一クラスの複数担任が居られ、たくさんの言葉を投げかけられ混乱しました。そうじやおもらしの服の洗う場所、汚れたぞうきんなどの洗う場所、「～して下さい」の言葉だけでなく詳細が欲しいです。施設の使い方、ルールがわからずに実習に伺っているので、とまどう事が多くありました。
・お忙しいとは思いますが、相談・質問しやすい雰囲気を出していただけるとありがたいです。
・2 歳児に対し、食事が進まなければ叩く、ブランコに乗りたくないという気持ちを無視して無理矢理乗せる等、子どもを大切にする子どもの想いに寄り添うという保育士の姿がなく、その姿を見て何を学ぶのか分からなかった。実習先として正しい保育の在り方を、示してもらいたい。
・子どもへの暴力はやめてほしいと感じた。
・定時の時間で必ず退勤出来るような体制づくりや雰囲気づくり。
・遅番や早番の経験は大切だと思いますが、せめて、1 回ずつにしてほしかったです。
・休憩時間中は休憩させてほしい。30 分休憩と言いながら、5 分くらいで終わったり、仕事をまかせてきたりしたから。
・もう少し出勤時間を遅くしてほしいです。
・少しの時間でも保育者と話せる時間が欲しい。
・毎日の実習をするにあたって 1 日 10 分程の時間を使ってその日の実習のことを話す時間があると良いと思った。
・忙しい中でも、実習生と「1 日の反省をする時間」を確保した方がいいと思う。最後の実習の園の先生がとてもいい人でこの時間をとって下さり、反省する点や良かった点を丁寧に教えて下さったおかげで実習に前向きに参加できたので。
・実習を終えてなどのタイミングでどこが良かったか、悪かったかなど反省会を行う時、具体的に色々話をしてもらえると今後自分自身がどうすればいいのかが分かりやすいと思う。
・質問や相談をできる時間を少し設けて頂きたい。
・1 日の最後に相談する
・どういう評価なのか、どこをどう意識すればもっと良くなるのか改善されるのか知りたかった。
・実習中ずっと同じ年齢だったので、違う年齢の子どもとも関わりたかった。
・今は同じ職種の仲間として園をこえて交流や知識の共有教授を頂きたい。
・部分実習など、全員何回かそろえて頂きたいです。
・ネブライザーの使い方は、大学で教えてもらってないので、それを知っておいてほしいです。
・園の情報や保育のやり方、ルールなどを事前に説明してほしい。
・同じクラスに一週間程つづけて入らせていただき子どもの姿をよく見たなかで部分実習等をさせていただきたかった。

・指導案と記録の量を考えると、毎日寝られずに子どもと関わって身体を壊すのはおかしいと思います。記録は考えた方がいいと思います

11. 実習中に施設や指導者から理不尽だと感じる指示や対応を受けたことがありますか？

回答欄	件数	%
ない	395	84.76%
ある	66	14.16%
未記入	5	1.07%
合計	466	100.00%



11-2. あると回答した方は、どのようなことだったのか具体的に教えてください。

・保育中は、特に指導、指示がないのにも関わらず、実習終了前に、たくさんの事をズバズバと言ってくる。
・教えてもらっていないのに理不尽に怒られ、ピアノの楽譜は見てはいけない等
・施設によっては実習中ずっと冷たくされ、なついてくれた子どもに対しても強くあたる人もいたため子どもに接することがかわいそうでできなかったこともあった。
・矛盾したこと、小声で何を言っているか分からない人がいた。
・前と後とで言っていることが違う。どうせできないと思われていると感じる。
・子どもが「くつしたをはかせて」と言ってきたが、できるだけ自分ではけるようにという先生のやり方だったため「自分でやってみて」と言葉を掛けると、担当の先生に「子どもと関わらないで」と言われたこと。
・つらい時に泣いていると「私の時も泣かされたから」と、当たり前のような対応をされた
・先にいた先生にあいさつし、保育に入っている時に、いなかった先生が来て「あいさつは？」と言われたこと。
・指導を受けたときに前回に話されていることと、今回話されたことの食い違いがあったにもかかわらず、そのようなことは言っていないと、否定されたとき。
・保育者によってやり方などが違うため、こうして、と言われてしていても、違う保育者からこうして、と指摘を受けたこと。
・オリエンテーションでは伝えられていなかったことや確認していたことが実習が始まると逆転していて注意されたことなど。
・子どもの前や他の先生との前での態度があきらかに違っていたときがあった。
・あいさつをしてもむしする。
・就職を希望していない実習生には何も教える気はないと園長先生に言われた事です。
・教えてもらっていない事を、できていないと注意されたことがあった。

・朝の挨拶をしても返答がない事があった。
・自分で考えた記録について、この内容が思いつくはずがないとはじめに言われ決めつけられた。
・笑いながら注意されることがあったので不快と感じました。また、直接ではなく陰で悪口をきこえるように言われたことがある。
・複数担任で、一人の指導者に指示されたことを行っていると、別の指導者が、今することではないと言われたこと。
・全日実習なのに、急に入ってきて歌を歌ったり、活動中に違うおもちゃを出してきて子どもが熱中してしまい、私の指示が通らずうまくいかなかったことがあった。
・園長の対応が怖いと感じたことがあった。
・かみの毛が長かったため下の方で団子にしていた時に副園長先生から理由はつげられず1つぐくりにしろと言われた。
・添削後の書類に、「この表現は保育者としてふさわしくない。」と書かれ、実際に言われるより、人格否定された気持ちになった。今でもその書類を見返すことができない。
・「実習だから積極的に動いていいよ」と担任の先生に言われたので自分なりにしたのだが、副担の先生に「何で勝手にするの？聞いてよ」と言われてしまった。全部聞いていてもめいわくだろうし…と分からなくなった。
・指導を受けたことがないことに対して「何でできないの？」「やる気ある？」と言われた。
・積極的な行動があまり見られなかったという点のみで、非常に低い成績をつけられたこと。
・実習の初日に毎日部分実習があると言われ、毎日指導案がいると、実習が始まってから言われたことです。また、その実習に対して何もご指導いただけなかったので少し理不尽だと感じることがありました。
・施設の実習を行った際に実習生が質問しても無視をされたり、挨拶をしてもにらまれたり、てきとうな態度をされたこと。
・人によって様々なやり方が異なるので、それについて注意を受けた。
・実習先の園長先生から「私が学生の時の実習ではもっと自主的に～していた」などやる気がないように言われたこと。
・給食中、手を出さないでと言われたので近くで見守っていると、「何をしてるの？」と言われる（現在の勤務先ではない園）
・クラスの部屋のそうじをしていると、先生が入って来て、「○○先生、人は2日3日たつと手をぬくんだよ」と手で床をさわり、そうじをやり直した事があります。
・実習前のオリエンテーションで、実習とは関係のない内容の園のそうじや資料作りを頼まれ、8：30～16：30まで行った。オリエンテーション自体は、30分もなかった。実習前のオリエンテーションではないと感じた。
・「何で出来ないの？」と1年の初めての実習で言われて“保育士なんか向いてない”って思った。
・自分のことを「○○先生」と呼んでね、と子どもたちに言っていたら、「ちょっと」と呼び出され「あなた先生じゃないでしょ。まだ実習生や。」と叱られた。私はその時、その職につきたくて学びに来ていたから、みんな子どもから見たら先生になると思いそう言

っていたのに、「どっちでもいいやん」と初めは思った。友だちの園では「〇〇先生」と呼んでもらっていたという友だちもいたため、当時はなんで？と思った。
・他の保育士に頼まれたことをして、叱られた。
・子どもとの関わり方で分からないことがあり質問したらなぜ、そんなことも分からないのかと言われた。
・もう 1 人の実習生には良くしているのに対応、接し方が違ったり、最後の評価まで低い点数を自分だけつけられたこと
・実習Ⅰで担当保育士に“ここで記録とかお茶飲んでね”と言われたので書いたりしていたら男性保育士にするどい口調で“どっちかにしたら？”と言われたこと。保育者の手伝いに運動会用品を出していたら、その男性保育士に“じゃま”と言われたり、まったく関係ない先生に言われて傷つきました。
・意図していた事をすべて否定された。
・子どものミスを怒られた。
・今まで知らされず、いきなり給食を担当してほしいと言われ、上手くすることができなかった時「今まで見てきたのにできなかった？」と言われたり他の実習生と比べられたり対応を変えられることがあった。子どもへ声かけをしていると保育士同士で目くばせをして鼻で笑われることがあった。
・責任実習で他の実習生は保育教材を用意してもらっていたが、私だけ全て自分でクレパスなど用意しなければならなかったのは理不尽だと感じた。統一してほしかった。また、絵の具やのり、クレパスを用意していたが、当日園のものを使ってと言われ、買いそろえたのに使うことはなかった。
・言われていなかったのに、急に「明日研究保育をするから指導案や準備をしてきて」と言われた。
・部分実習の日程を最初に言っていた日と違う日に変更になったことをぎりぎりまで伝えてもらえなかったり、園長先生が考えた内容に指導案を書き直すことになった。
・1 日保育の前の 3 日間ほど担当の先生が休みで相談ができなかった。
・支援の必要な子との関わりで、手伝おうとしたら急に声をあげて怒られた。あらかじめ接し方をきいていなかったので、それは理不尽だと感じた。
・記録を全部書き直し
・実習記録で間違っていると書き直しを要求されたので、どのように直したらいいのか聞いたけれど、「今は思いつかないけど、違う」と言われた。また指導案を初日に提出したけれど、1 週間後に返却されて「違うものに変えてほしい」と却下された。
・何度も指導案を書き直させられた
・指導案の添削を 1 回して頂いて、それを提出するとまた添削と繰り返しがあったので、やめてほしいと思った。新しい日案に毎回書くのも時間がかかり、寝る時間もなかった。
・施設、幼稚園実習で結構な時間掃除をしたこと。
・17：00 までの実習だったのに、そこから仕事を言われいつも園を出るのが 20：00 頃だった。
・ないが、他の実習園より実習が多く、大変ではあった。
・園で働いてほしかったのか実習中に小論文やピアノなど就職の試験をさせられた。

・子どもにケガをさせたと言われた事があり、なぜ実習生に全てまかせてしまうのだろうと思った。その場で一緒に見ていたのでは？と感じた。一緒にいた私も悪いがなぜだろうと思うこともあった。
・実習の時間が過ぎているのに中々帰れなかった。＋2 時間ぐらい。新聞作りを完成させないと帰れない雰囲気だった。
・「そこにいて」というイベントごとの時の放置プレイ。
・虐待を受けて施設に入っているのに職員が虐待するのはどうなのかと感じた。
・子どもを抱っこしてはいけないと言われた。乳児院だったので子どもが次々に抱っこして欲しがる為にしないようにとのことだった。
・覚えていません。
・忘れました。
・いろいろありすぎます

12. 保育士や保育教諭として就職しなかったもしくは、就職しないと思っている友達や同級生で、その理由をご存知でしたら教えてください。

・職責と給料が見合っていない
・給料が低い
・給料が安い
・給料が安いから。
・給料が低い割に業務が大変。
・金が少ない
・給与が低いから。
・給料面
・保育園の雰囲気。給料。人間関係。
・給料が安い。定時で帰れと言う割に仕事量が多すぎる。
・持ち帰りの仕事が多く、給料面でもあまり期待できないから。保育士間の人間関係がひどいから。
・仕事内容に給料が合っていない
・子どもがこわくなった
・給料が安い
・お給料など。体力が必要。重労働。
・仕事量と給料が合っていないと感じ、安月給では働くことは難しい
・お金が少ない、労働環境が過酷だから
・給料が安い。体力仕事だから
・給料が安く、労働に見合わない→就職しなかった
・仕事の大変さと給料が見合っていない為
・人間関係、給料が少ない、サービス残業、書類が多い、休みがない
・給料が少ない

・給料の低さ
・給料が安いからと言っていました。
・人間関係。給料が低い。責任が重い。残業が多い。持ち帰りが多い。勤務時間が過ぎても帰れない。
・給料が労働内容に合っていない。労働時間が長い。
・時間外労働が多い。給料の低さ。
・給料の低さ、仕事の多さ、責任の重さ、人間関係
・低賃金、重労働、自分には向いていないと感じた。
・給料、大変、女の世界だから。
・給料が少ない為
・自分自身の年齢、給料の低さと労働のつらさ、公立と私立の待遇の差がありすぎる。
・給料が低い。人間関係。
・給与の低さ。仕事の多さ。人間関係など
・給料が割に合わない
・給料が低い
・給料が低い
・休日が少ない
・仕事量と給料が割に合わなさすぎる　・子どもが可愛いと思えなくなってしまった
・給料が安いこと。他の人が思っているより、実際してみると大変
・給料が安い、休みが少ない。
・給料が見合っていないと感じたから
・仕事の量、責任の重みのわりには給料が安すぎる。残業時間が多すぎるイメージ。保護者がモンスターペアレンツ。書類が多い。
・安い給料なのに重労働である。保護者や保育士間での関係作りが難しい。書類が多く、自分の時間を持ちにくいから。
・給料が安いから
・給料が安く、ブラック企業が多いから。
・仕事のしんどさのわりには給料が良くない。休みが少ない。ブラックなところが多い。などマイナスな面が多いから。
・給料が低い
・給料が安く、休みもとりにくいから。
・仕事内容のわりに給料が安い
・給料が少ない。
・給料が少ない。人間関係。
・仕事内容のわりに給料がひくい
・給料が低い
・給料が少ない
・給料が安い
・給与面が不安だから
・金銭的な理由で子どもは好きだが就職しなかった友達がいた

・仕事内容のわりに給料が安いから
・働く時間・仕事の量の割には合わない給料の安さ。
・給料が低い（手取りが少ない）←決して楽ではない仕事内容の割りに…と言っていました。
・給料が低い。しんどい。
・低賃金だから
・給料が安いわりに大変
・とにかく給料が少ない
・給料が少ない。
・給料が仕事内容に合わず、とっても低いから。保育料無料化はおかしいと思っているから。休憩がない。書類がありすぎる。持ち帰りの仕事が多すぎる。
・仕事内容と給料があっていない
・給料と仕事内容がつりあっていない
・給料の割に安い
・労力と給料が見合わない。
・お給料が少ない
・仕事の難しさ、給料
・業務のわりに給料の低さ
・自立のため一人暮らしをしたいが給料が低くきびしい
・休みの少なさ
・保育士・保育教諭の給与が安いから。
・労働と給料がみあっていない
・給料が低い
・給料がついてこない
・給料が安い。休みがなく大変。女社会でいじめなどある。
・仕事内容が多いから。給料が低いから。
・人間関係がしんどい。給料が低い。残業・持ち帰り仕事が多い。精神的にしんどい。
・お金が安い、記録が面倒くさい、朝早い、親がうるさい
・給料が安い
・給料
・残業手当
・給料が割に合わないと言っていた。命を預かることやモンスターペアレントの対応の大変さを気にしていた。
・給料が安い。残業がある。
・給料が低く、待遇が良くない。
・給料が安い
・給料が低い
・残業時間が長い　等
・残業が多い。給料が少ない。
・休みがない。時間外労働が多い。

・仕事量や時間に迫われているわりにお給料が低く見合っていない
・給料に相応しくない重労働と命のかかわり。要望だけが増幅し、とどまることがない。残業の無手当。持ちかえりの仕事。
・長時間労働
・給料が安いから
・大変だから。給料が少ないから。
・女性社会に馴染めなかったから（男性の大学生）
・人間関係がしんどい
・自分には合わないと思った。保護者や職員とのコミュニケーションが難しい。
・人間関係
・女社会である保育界は人間関係がこわい。いじめが多いと聞く
・少人数での職場内での人間関係や持ち帰りの仕事量の多さ、責任の重さから。
・人間関係がうまくいかない
・人間関係で悩む為
・保育教諭同士の関わり
・人間関係
・女性社会のため
・人間関係が悪かった。
・女性が多い仕事場で悪口をたくさん聞いてしまった
・人間関係が不安だから、ピアノが苦手だから。
・女性が多い職場に抵抗があった
・先輩保育士の理不尽な対応
・上の先生が怖い
・女の世界の怖さを知った
・人間関係の難しさ
・人間関係が悪い。理不尽。休みがない。体力的にきつい。
・子どもとのかかわりではなく、保護者や、保育教諭間での関係作りに不安を感じた
・人間関係の難しさ
・人間関係
・人間関係が怖いから
・子どもが苦手
・人間関係で悩むこと
・保護者の目が怖い
・職員同士の関係（女社会）
・女性が多い職場、人間関係
・人間関係（空気が重い、新人に冷たい等）
・保育教諭同士の関わりが厳しかった
・保護者の対応
・仕事内容がハードだった。人間関係が複雑だった。
・人間関係

・人間関係が良くない
・人間関係
・人間関係が厳しかったり、事務の仕事が多く難しかったから。
・人間関係が怖い。給料が低い。
・保護者対応
・人間関係が不安（イメージで厳しそう）
・人間関係、いじめ、休みがない、子どもと関わるのがしんどい。給料と働きが割に合わない、肉体労働、ブラック。責任をとれない等。持ち帰りの仕事が多い。
・保護者対応が大変。
・保護者対応が自分には無理だと言っていた。でも、子どもは好き。
・保護者との関わり（モンスターペアレント）
・「残業が多そうだから」「自分が保育の職に向いていないと感じたから」と言っていました。
・書類が多く残業もある
・体力的にも精神的にもしんどい
・休みが無い
・持ち帰りの仕事が多い
・給料のわりに休みがない、負担が多い、書類の手書きの意味は何ですか。人が少なすぎる→カツカツ。子どもの人数と保育士ではなかなか対応できない部分が大きい。
・仕事が多く、自宅へ持ち帰っての仕事があるから。
・自分には合っていないと思ったから
・大変
・向いていないと思った
・向いていないから。
・周りで保育士を辞めた子の理由は、仕事内容が多く、持ち帰りもある。夜遅くまで仕事をしている。保育士より事務の方が自分に合っている。一度保育の仕事を離れたい。やりたい時に再就職できると思っている。働き続けている子は同僚との仲が良い。心の余裕がある。
・子どもの命を預かる仕事は責任が重すぎる
・園によっては先輩が帰るまで先に帰れなかったり、持ち帰り作業が多く、定時に帰れることは少ない
・大学で勉強する中で、自分には向いていない、できないと感じたから
・「自分には向いていないと思う」と言っており、やりがいよりも大変だと感じると言っていた。
・まだまだ、古い考え（事務の事で）が残っている→やめた
・残業や持ち帰りが多そう
・書類関係が大変そう
・行事が多く大変
・大変そうで自分には向いていないと感じた
・就職しなかった友達はいないが、就職してやめたいと言っている友達はいる。大体職場

での人間関係や仕事量の多さ、1 人の責任が重たいなどが理由である。実習では分からない職場での雰囲気や仕事など、どうしようもないが、改善されたらな、と思う。
・自分は保育士にむいていないと感じたから
・実際に学んでみたら、思っていたより大変で自分には合っていないと言っている人もいた。
・向いてないと思うという子が、多かった。
・自分に向いていないと思うと言っていた。
・書類の多さ
・仕事量が多そう
・日誌を書くことがしんどかった
・書類が多く、ほとんどが持ち帰りであることを知り、その大変さに圧倒されたと言っていた。
・毎日多くの子どもと関わることをしんどいと感じたため
・大変そう
・忙しそう
・制作や書類で休む間がない
・保育者にむいていない。指導者になれない。保育内容を毎日考えるのがしんどい。保護者が怖い。保育の先輩が怖い。休日の持ち帰りの仕事が多い。
・向いていない
・やりがいがみつからない
・保育士の仕事が大変。給料に見合っていない
・理想と現実のギャップ。女社会の大変さ。実習でのトラウマ、などなどだと思います。
・思っていたものと違った
・保育していける自信がない
・生活感があふれているかんじが好きじゃなかった。幼稚園がよかった。
・ピアノ、造形が苦手である
・仕事内容がきつすぎる
・「大変そう。」の一言で終わります。また、大学では「親が言うから、資格だけとりにきた。」と言う子もいました。元々他にしたい事があったようです。
・体力がいる
・仕事量が多い
・向いていないと思ったから
・大変だから。書類が多い。
・労働条件が過酷
・書類が多い
・持ち帰りが多い（サービス残業の日々）
・仕事の量が多いのに子どもの相手もしないといけない
・周囲から大変な仕事だと聞くので、その時点で自分には向いていないと思ってしまう
・私には合わないと感じたそうです。授業を受ける中でちがう、他にやりたいことがあると思ったそうです。

・書きものが多すぎる
・体力的に無理だと感じた
・保育をすることが向いていないと思ったから
・子どもとの接し方がわからないから
・仕事が多かったり、行事等の製作のことを考えること
・書き仕事が多い
・持ち帰り仕事が多い。ピアノが難しい。
・保育士の給与、仕事の負担量が見合っていない
・向いていないと思った。もっと違う事をしたいと思った。
・仕事量が多い（サービス残業）
・子どもとの関わりの中で自分には向いていないと感じた
・書類が多すぎて毎日の保育においつかない
・自分に合っていなかったり、想像以上に大変な仕事だと感じたりしたこと。
・「向いてないと思ってやめた」と言っていました。
・子どもは好きだけど向いていないと感じたから。
・自分には向いていない。子どもたちの関わり方がわからない等のざせつをしていた。
・仕事内容が想像以上に多かった
・事務作業の多さ
・自分には合わなかったり、大変な仕事だと感じて、別の職種を選んだ。
・子どもと関わるのが嫌になったから
・保育という仕事のイメージがあまり詳しい所までなく想像以上に保育以外の仕事が多くて挫折（やることが多すぎる）
・ピアノができないからやめた
・しんどかった。子どもが苦手になった。むいてないと思った
・保育現場の大変さを身をもって感じたから
・他にやりたいことが見つかった
・子どもとの関わりが楽しく、他の職業で子どもと関わるのも楽しいかも、と思って遊園地で働いている友だちがいます。
・保育だけが保育資格ではないので元々違う職を目指していたから
・他に進みたい進路がある。
・保育士や保育教諭の他に就きたい職業が見つかったから
・給料が少ないから保育士の仕事をしないで別の仕事をしていた。
・他に興味を持つ仕事が見つかったからと就職しなかった友達は言っていました。
・一般企業などで、保育の現場では経験できないことを学んでおきたいと言っていた。それらを生かして、将来は子どもと関わる仕事に就きたいと言っていた。
・周囲が就職活動をしていて、一般企業に興味を持ったから
・バイトを通して、保育教諭より、やりたいことを見つけたから
・一般企業に就職を考えていたから
・小学校教諭になるから（保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の 3 免をとって）
・他にしたいことが見つかったから

・在学中に保育よりも興味をもった仕事や、やりたいことが見つかったため
・別にやりたいことが見つかったから。施設系に就職をしたから。
・別のことに興味を持ち始めたから
・別のしたい事が見つかった、今しかできないことをしたい。
・免許を取得したかっただけで他にやりたいことがあるから
・他にやりたいことが見つかった等です
・小学校教諭の方にやりがいを感じたため
・アパレルに興味があった。教師の方が向いていると言っていた。給料が安い。
・違う仕事がしたくなった。
・公務員になりたいから。給料が低いから。
・他にやりたいことがある
・もともと栄養士を目指していたので就職しなかった。
・留学など
・他に目指すものができたから。
・子どもが好きだったが、他の学科の友人から、一般就職の話を聞いているうちに、そちらのほうに興味をもったから
・もう少し、保育職以外でも考えたい
・保育園より施設の方が楽しかったから。
・他に夢があったから
・他にやりたい職業を見つけたから
・別の仕事に興味を持ちやってみたいと思ったから
・アパレルの仕事
・他にやりたいことを見つけたから
・他にやりたい職業があったり、実習を通して自分に向いていないと感じたから。
・短大卒の時にまだもっと勉強したいと思い、専攻科に行って勉強を続けている子や、他にやりたいことがあるからと言って就職していない子がいる。
・ＯＬへのあこがれ
・他に目指している職業があるから。（小学校教諭、養護教諭、一般企業など）
・他にしたいことある
・他の職業に興味を持った。低賃金の為。
・道が違うことに気付いた。新しくやりたいことを見つけた。
・決まってる業務をこなす方があってるから
・他にやりたい仕事が見つかった
・在学中に他にやってみたいことを見つけ、その為にも少しずつ勉強もしている。現在の保育の勉学にも励みつつ、努力している。
・短大や大学、専門学校へ行き、自分には合わないと感じたと聞いた
・スポーツで就職した。学生時代に子どもが産まれた。
・進学したい
・免許を持っていたら、いつでも保育に行ける。だからこそ、『新卒の一般』に行けるのは今だけ！と思い一般へ行った。

・給料が高くないから。女性同士人間関係がよくないから。実習先であまり良い実習ができなかったから。
・給料が低い。休みがない。人間関係がしんどそう。ピアノが苦手。実習の時点でつまずいたから。
・給料面…。実習で大変さや向いていないと感じた。と言っていた。
・実習に行って現実をみていやになったとか保育士は給料が低いからいやという友達はけっこういました。
・保育士が低賃金で重労働であると分かった上で就職するのが嫌であった、実習を経験して保育士になりたいと思えなくなってしまった、などのことを聞いたことがある。
・実習に行って違うと感じた
・お給料が少なくて…。実習で違うと思って…。
・お給料が少ない。実習に行って、向いていないと思った。
・実習で厳しい先生に当たり、実習中がつらかった。人間関係の面で女性の社会なので嫌な思いをした。給料が安く、仕事内容と合っていない。
・実習先の先生が怖かったから。厳しかったから。後輩にいびるような姿や先輩に良いように見られようとする姿があったから。保育者同士の仲が悪そうだったから。
・実習先の印象が悪く、子どもに対しても好きじゃなくなったため
・実習をして、しんどさを感じたり人間関係が大変そうだったから
・実習先で、先輩保育者とうまくいかなかった
・実際に、実習で子どもだけではなく、保育士や保護者との関係作りが大変だったみたいで、保育の道にはすすまないと言っている人がいました。
・怖い先生が多かった（実習で）
・実習の担当や園の先生が怖すぎた。子どもの前と実習生の前とでは態度が違うと聞いた。
・実習で保育士間の大変さや仕事内容の多さを知り、就職をしなかった友だちがいました。
・実習を通して、嫌になった。（人間関係などの問題、子どもが嫌になった）
・実習がきつくて保育士になることを諦めていた。毎日の実習記録がしんどくて実習をやめる人がいた。理不尽な指導を受けてやめる人がいた。学校の先生の現場の話をきいて、心が折れる人がいた。
・実習が大変だった
・保育士として就職しなかった友達の理由は“実習を経験したうえで保育士が合わないと思ったから”と言われていました。
・実習へ行って、思っていたものと違ったから
・実習での体験が、予想していたよりも大変で、挫折した子がいた。
・実習に行き、思っていた感じと違うので就職しなかった
・行った実習先が厳しく、トラウマになり、就職しなかった
・実習で自分は向いていないと思った
・実習が大変だった
・実習を通して記録や仕事内容が大変だったから
・就職しなかった友だちは「実際に実習に行って大変だと思った」や、「こんなに大変、しんどいとは思わなかった」と言っていた。

・自分に合った職場が見つからなかったり、実習に行って大変さを実感し、夢をあきらめた。
・実習での記録や日案など書きものがたくさんあり、向いていないと思ったから
・子ども可愛いので大好きだが、仕事として責任が大きい職には就けない。今の学生の心（メンタル）の部分が弱くなっていることは確かですが、実習生は 10 日間、20 日間と常に緊張状態で実習に取り組んでおり日々不安です。その中で深夜まで記録や指導案におわれていることを頭のスミにおいて実習の指導をしていただけると楽しい実習を過ごせるかもしれません。ただでさえ、実習はしんどいとマイナスイメージなので、大好な子どもと関わって実習楽しかったと思えるような実習をこれからの学生さんには経験をしてほしいです。
・実習を経験して、保育士の大変さ責任を持つ事の難しさを感じた。
・実習をしてみて自分はこの仕事に向いていないという考えを持ったから
・実習を経験し、自分には向いていないと感じた。あるいはとてもできないと感じた。
・子どもが好きだけでは出来ない仕事だと実習を通して思ったから。給料、働く時間、休日の少なさ
・実習に行った時に自分には向いていないと思ったから。園が自分にあっていなかった、雰囲気がそんなに良くなかった。
・実習で「嫌」になったと聞いたことがある。
・実習での対応がきつかった。実習をあきらめた。自分のしたいことが見つかった。（ピアノ、ダンス）
・指導案の書き方や、日誌の書き方が分からない上に、実習が入ってくるから余計に就職したくなくなった。
・子どもをかわいいと思えなくなったから。実習を経て、保育者の大変さを知った。
・保育士になりたいと思っていた想像と実習での現実のギャップが大きかったため
・実習に行き自分は保育士には向いていないと感じたため
・実習に行き、自分は保育士に向いていないと思ったと聞いた。
・実習を通して現場の大変さを知り、自分にできるのかという不安を抱いたから
・実習に行って思っていたよりも大変な仕事で、責任感もあり、向いていないと感じたため
・実習をして自分にむいていないと感じた為
・実習を終え、自分に向いていないと感じたから
・実習で保育士に向いていないと感じたから
・実習で現場を知り嫌になった
・実習を受けてみて、自分に合わなかった
・実習に行って、「楽しい」よりも「しんどい・大変」が強く感じ、向いてないと感じたため。
・実習で挫折した。元々なる気はないが免許だけとる。他にやりたい仕事が見つかったなど
・実習を乗り越えられなかった
・実習先で向いていないと感じた

・実習に行って、自分には向いていないと思ったから。
・実習をしてみて思うようにはいかず、また大変だと思ったため
・友人で１回目の実習を終えると向いていないことに気づき就職をしなかった。
・実習で自分に合う職でないと感じたから
・保育者に向いてないと思った子が多くいました。他にも、実習に行って、出来ないことがあって、この職に就かない方が良いと感じたと言っていました。
・実習に行って、思っている仕事と異なっていたり、実習先の園であまり良い指導者や園ではなかった。
・実習を経験して自信がないと聞いたことがあります。今は一般就職をして、子育てを終えてから保育士として働くという話も聞いたことがあります。
・実習で自分には合わないと感じた
・実習を重ねるうちに大変さや責任の重さなどを目の当たりにし就職したくなくなったと言っていた。実習先の保育士の方からの指導の仕方が厳しく疲れてしまったという人もいました。
・実際に実習に行って子どもが好きというだけではつとまらないと思った
・実習で保育士の大変さを実感した。
・実習に参加して、自分には向いてないと思ったからだそうです。
・友達は、実習中に保育の仕事の大変さを知り、保育の仕事はしないと言っていた。また、給料面のことで、保育士の給料では一人暮らしができないと言っていた。
・子どもは好きだけど実習中に保育士のしんどさを体験し夢を諦めた。
・実習で大変さを知った
・自分には保育者はむいていないと実習を通して思ったから
・実習で理不尽な指示を受けたから
・実習で理想と違っていた
・実習を通して自分には向いていないと感じた。やっていけないと思った。「お前が保育士になれるわけない。向いてない。」とはっきり施設の人に言われたから。
・実習に行って、向いていないと思ったり、想像しているのと違っていたから。
・実習で大変さを知りやめようと思った
・実習がしんどかった。（記録）保育士に向いていないと思った。（子どもの接し方）
・実習を通して保育士の仕事の大変さを感じ辞める子もいた
・実習での出来事、経験を得て、辛い思い・しんどさを知ってしまったから。（実習内容、記録、職員同士の仲・不仲など）
・実習がつらかったから。
・実習がしんどいから
・一生懸命頑張ったつもりでも、園からの評価を見たときに１や２など低い点数をつけられたこと。
・実習が大変で、むいていないと感じたから
・実習で、自分には向いていないと感じたから
・実習を通して、違うと感じたため
・実習先で理不尽な指導をされた

・実習を経て向いていないと確信した。
・実習だけで疲れているのに、これを仕事にしたら大変だと考えているからでした。
・実習で子どもの前に立って保育をしてみて、自分には子どもたちを引っぱっていく自信がないと言っていた。
・実習が辛く、自分が思っていた保育士という仕事、保育士像とはかけ離れた実習内容が実習を通して感じたことから就職しなかったり、あきらめたりしていた。
・実習へいってみて保育士の仕事の大変さに気づき、自分にはムリだと感じた
・実習が大変だったから。
・実習を通して、保育士、保育教諭の大変さを痛感したから
・実習に行き、指導案の添削をされた際に赤ペンで大きく×印を書かれたり、自分が書いた上から赤で全く書式とは違う書き方をされ、聞いても「自分で考えて」と言われ、精神的にしんどくなって一般企業に就職する子がいます。また、オリエンテーションの電話の際に、「ジャージで来てほしい」と言われ、行ってみるとその子達（他の大学の人です）以外はスーツで、その場できつく怒られ実習期間中にも、指導された通りにしても合格をもらえないことがあり、やりがいを感じなかったそうです。
・子どもの命を預かる責任と待遇が見合っていないから。実習を通して向いていないと感じたから。実習先の職員の人間関係に息が詰まる思いだったから。もっとゆったりと一人ひとりの子どもに関わっていきたかったから。保育士よりもなりたい職業があったから。
・実習に行って、自分は保育士に向いていないと思ったから
・実習を通して、保育士に向いていないと思い、資格だけ取得している子や、担当保育士から理不尽なことを言われたりすることで女性の環境が嫌で就職しなかった子もいます。
・実習に行ったが、自分には向いていないと就職しなかった同級生はいた。
・実習中の書き物が多く寝る時間がなく辞めていった
・実習をして、保育の大変さを知り、自信をなくしたり、無理だと思ったから。
・実習をしてみて、自分には合わないと思ったから。と聞きました。
・実習行ってすごく大変だったから。自分にはできないと思ったから。
・実習へ行って保育士に向いていないと感じたから
・実習先がきびしかったから
・実習に行って“無理”と思った
・実習で向いていないと思った
・実習で子どもと関わる事が嫌になったから。
・実習に行き、自分には向いていないと思ったからと聞いた
・実習へ行き、思っているような環境と大きく違うと感じたり、自分にはむいていないと感じたりして、就職しない（保育士として）が多い。子どもが好きだからという理由だけではやっていけないと言っていた。
・実習で、職場の大変さを実感し、他の職業も視野に入れていたりしたから
・実習がしんどくて違う企業に就職しました。
・実習で大変だと感じたり、ちがうことがしたくなったなど友人は言っていた。
・実習で施設が良いと思ったり、実習で想像していた保育士像とのギャップがあり、別の

職を選んだり、資格のみという考えの友人もいた。
・私自身は就職したが、実習後に子どもが好きでないと感じ、別の職種を希望した友人がいた。また、実習先で保育士同士がもめている姿を見た友人や、人間関係が複雑そうだと感じた友人がいた。また資格取得中に妊娠し、就職を断念した友人も数名いる。
・実習を通して自分にはまだ子どもを保育する能力がないため企業での経験を得てから就職したいと思っているから
・幼稚園実習で理不尽な事を言われたから。指導案を書くにあたって、アドバイスをくれなかったのに書いていくと全否定をされ、自信を失くしたから。
・指導者の方が厳しかった。子どもに対する態度が、自分の思う保育者像と極端にずれていた。
・保育実習では、自信がつき努力をしていた人だが、施設実習で理不尽な対応を指導者から受け資格を取ることをあきらめた
・資格をとるために、養成校に通っていた（もともと、就職するつもりはなく）
・大学の単位を落としたから
・うつになった→やめた
・友達や、同級生は、みんな、保育、教育関係の仕事につきました。
・子どもが苦手だから。
・免許、資格をとりあえず持っておきたかったため
・おしゃれがしたいけど、できないため
・子どもとの接し方が分からない
・興味がもてない
・子どもが好きではない
・元々資格を取るためだけだった
・人の下で働きたくないから園長になるための資格を取る。
・単位がとれなかったから
・結婚、出産後続けていく自信がない
・子どもがあまり好きではない
・資格が取れなかったから
「免許だけ取りたかった」と言っている子が多い。実習で嫌になった。
・プライベートと仕事を分けたかったから。
・叱ってばっかりが嫌。子どもはかわいいけどしんどい。
・給食の味がうすい
・記録、指導案が続くってことはわざわざ私生活にも影響するってことだから資格だけでいい。保育者とうまくいかなかったから嫌。保育者が上から目線で腹立った。
・とりあえず免許だけ

5. 総合考察

５－１．委員による感想と考察

調査について、以下、総合的に考察を試みたい。その前に、本調査を実施するにあたり、尽力された先生方に心より敬意を表するとともに、先生方がお寄せくださった感想と考察を紹介したい。

為谷智恵美委員長より

「会員施設対象」

１－１１－２より

実習生を受け入れている施設が９６％あり、その理由として保育士確保の為という意見は予想通りでしたが、職員の資質向上という意見がその次に多かったのは、会員施設の向上心の高さが伺えます。

５より

実習の指定時間が８０時間ですが、その設定通りに実習を実施している施設が８４％、それ以外の意見が１６％ある実態に驚きました。「実習生・養成校」アンケートの中にも寝る時間がないという意見がありましたので、それぞれの施設のお考えもあるかと思いますが、指定時間を守る事がより良い実習を送ってもらえる事につながるのではと感じます。

９より

実習の指導者になられた場合、保育士の職務を伝えるためと捉えて指導されておられる中、業務が増えて負担を感じている現状や指導に迷いを持たれておられる事がわかりました。やはり、実習生を受け入れるにあたり「てびき」の重要性や、指導する方の業務負担軽減を考慮する必要性も感じます。

１７より

毎日の業務多忙な保育士の方々が、実習生のために時間を割き指導や協議の時間を取られている現状に大変感銘を受けました。その事への感謝の気持ちが「実習生のアンケート」の中にも複数回答がありました。指導保育士からの励ましで実習を乗り切った学生の方もいらっしゃることでしょう。ありがたいことだと思います。

３４より

実習生に対して、社会人として挨拶など一般常識を養成校で身につけて欲しいという意見が複数件ありました。養成校へのアンケート９で養成校が実習生に指導している内容の９２％が挨拶などのマナーでした。指導はされているが、実際は難しい学生が居られ、お困りの施設があるという実態がわかりました。もちろん、養成校にもお伝えしなくてはなりませんが、養成校との懇談会の中でもコミュニケーションが取りにくい学生が増えていることをお聞きしましたし、私達も実習生の中にそのような学生の傾向があることを認識し、挨拶やマナーなどはこちらから先に指導できるように、

あくまで実習生として育てていくという気持ちを持つと良いのかもしれません。
「養成校対象」
１４より
養成校からと実習生のアンケートの中からも、実習中に困ったことの中で実習生の前で職員の悪口や陰口を言う園があると複数回答がありました。
このアンケート結果を受けて、職員への指導や注意喚起が必要であることは当然ですが、保育士本人の自覚がないこともあろうかと思います。対策としては、休憩室を分けたり、休憩時間を分けるなどでこのような場面に実習生が遭遇することもないのではないかと思います。
実習中に就職の勧誘をされることに戸惑いを持たれることが複数回答ありました。施設側のアンケートの中で、実習生を受け入れる理由に就職につながるからと回答がありましたので、この結果は少なからず頷けます。保育士不足な中ですが、この結果を受け困ってしまう学生も居られることを認識してどのように対応していくべきかを考慮する必要があります。
１５より
実習生のアンケートからも、保育士としての資質が問われるケースが複数回答ありました。自園ではないと思わずに、再度聞き取りなどをする必要があると感じました。また、実態調査ができていないので本当のところはわかりませんが、困った保育士が存在することもわかりました。今一度振り返り見直すことが大切です。

「実習生対象」
１より
実習生が保育士になりたいと思う理由が、実習やボランティアでやりがいを感じたという回答が２２％あったことに驚きました。実習の中で挫折してしまうこともあるかと思っていましたが、大変な実習の中で将来の夢に希望を持たれている学生の存在は素晴らしいと思いました。
４より
実習前と後で気持ちの変化があったかとの問いに、良い方に変わったとの回答が６０％と半数以上だったこと。理由の中に、担当保育士の姿を見て自分もこのような保育士になりたいと考えられたことや、担当保育士の丁寧な指導があったことで自信につながったなどがあげられており、質の高い保育をされておられる保育士の存在に私達も支えられていることがわかり嬉しく思いました。また、良くない方に変わった意見として、職員の態度についての意見もありましたが、「業務自体が自分に向いていないことがわかった」という意見の方が多く、保育士を希望されないということは、施設側としてはマイナスですが、就職してからすぐに退職される新人保育士の存在を考えるとご自分の方向性が早い段階で理解されたので、ご本人にとっても良かったのではないかと思います。
７．８．９より

実習の中で学生が不満や困惑されたことが書かれています。学生ご本人はいやな思いをされて、その事をバネにし次の実習に生かすことができれば良いのですが、そのことがトラウマにならなければ・・・と願います。それらも、これから取り組む実習生を受け入れるための研修会やてびきの作成の中で改善ができるのではないかと考えます。
１２より
保育園などに就職しなかった理由の中に、給与が低いという処遇の面が１００件ありました。
給与面は、かなり上がってきている実態を学生は知らないのではと思います。以前保育士の給与が安すぎるとの報道がなされその印象をそのまま持っておられるので、なんらかの形でマイナスイメージを崩さなければならないと感じました。

荻原隆浩委員より
まず、アンケートの回収結果についてですが、本協会会員施設の回答が約 6 割(58.5%)に対して保育士養成校が 2 割強（23.3%)、実習生等が約 3 割（28.2%）
養成校と実習生の回答率の低さがとても気にかかります。
次に本協会会員施設の設問で、「実習の指導者が実習に対して感じるイメージを教えてください。」との問いに対して、自身の勉強になる 61.99%、保育士の職務を伝える大事な機会だと思う 77.05%と約 7 割の先生方が自分はもちろんのこと、実習生に、保育士として、将来頑張って欲しいとの願いが真摯に伝わってきます。これは一方で業務が増えて負担だと感じる、が 3 割（28.08%）を下回っており、実習生を受け入れることによる業務の負担よりも、その子が次の立派な保育士となって成長してもらいたいとの素直な現れと思います。

保育士養成校の「実習施設に直接言えないような困ったことケースがあれば教えてください。」との内容は衝撃的ではありますが、受け入れる多くの施設の中には、そのような旧態依然の施設も存在することを改めて実感させられました。
実習生の回答では「実習前と実習後で気持ちは変化しましたか？その理由も具体的に教えてください」では約 6 割の実習生が「良い方に変わった」と回答があり、ほっと安心しました。また「実習を振り返って、勉強になったこと、楽しかったこと、よかったことなど、上位 4 つを教えてください」については、子どもとの関わりが 95.71%と保育士・保育教諭との関わりが 44.85%と実習生が将来を見据えて保育士になる土台を作りため、一生懸命に保育を学ぶ姿、真面目さが浮かび上がります。これは「実習を振り返って、大変だったこと、苦労したこと、つらかったことなど」の回答にも「子どもとの関わり」と「保育士・保育教諭との関わり」が上位約半分であることが裏付けていると思います。

最後にまとめとしてですが、上記から判るように実習生の皆さんは、単に単位の修得が目的ではなく、当たり前ですがその大部分が、将来の保育士を目指して、希望に膨らみながら保育実習に臨んでいると思います。一方で、受け入れ側の施設も最初の投げかけの通り、たとえ業務が過多となろうとも、次の立派な保育士の先生を育成したいとの思いが、実のところ、希望ありです。
ではなぜ、養成校の「実習施設に直接言えないような困ったこと」や実習生の設問で「理不尽なこと」に対して、辛辣な多くの回答が寄せられたのでしょうか。
最初の回答率の差でも判るように、両者には大きな乖離が生じているのでしょうか。
明確な答えは見いだせませんがここで直近の出来事を記したいと思います。
現在、当園に実習生が１名来ています。この子はある養成校を通じて、「実は前の実習で及第点にならず、不可となってしまい、本人は保育をする自信を無くしています。なんとか貴園で再度、実習を受けさせて頂けませんか。この子は既に保育士として、ある施設より内定を受けていますが…」という内容で、当園の主任が即、受け入れをＯＫしました。既に受け入れて１週間が終わりましたが、とても真面目そうで、おとなしそうな子です。中間で、担当のリーダー保育士に「あの子はどう？」と聞いたところ、「最初はおどおどしていてなにもできませんでした。ただボ～と立っているだけでした。あとで本人から聞いたのですが、質問をすることも前のトラウマからできなかったそうです。今は落ち着いてきて、少しずつですが子どもとの関わりも良くなり笑顔もでています。」と言いました。この子は、前の受けた施設に対しては、多くを語りませんでしたが、とても厳しかったとのことです。訪ねて来られた養成校の担当の先生からは、面談で本人から「はじめて子どもと接する喜びを感じた」と言っていました。将来、是非とも保育士となって頂ければと思います。
「理不尽なこと」の中に「つらい時に泣いていると「私の時も泣かされたから」と、当たり前のような対応をされた」とありました。
答えにはなっていませんが、ここら辺が鍵となるのでしょうか？

大前恵子委員より
実習生の感想を読んでいて、1 番感じたのは、実習先の園や指導者によって、未来は大きく変わるのだということです。
園児にも同僚にも心温かい指導者の存在が不可欠です。実習生の資質向上の前に職員の資質向上が大事ですね。
夢をもっている学生もいざ就職、という時になってやはり保育士の待遇の低さは問題のようなので、待遇の改善は強く訴えていかなければなりませんね。アンケートの結果、受け入れ側で良かれと思ってしていることも
実習生には負担に感じたり、受け止め方もいろいろあるとわかったので、
参考になりました。アンケートをとったことには大きな意味が
あったと思います。

加藤美輪委員より
＜施設回答について＞
・就職につながればと思いながらの実習生の受け入れ、行事日程などを考えながらもできる限りの受け入れ保育実習ⅠとⅡの違いへの迷い・・・等など、どの結果も共感できるものばかりでした。
・実習生のマナーの指導はどこが行うべきものなのか、実習生の資質についてなどは難しい問題で、養成校との協議が必要なものだと思いました。
＜養成校回答について＞
・書類の統一化が可能ならばそれは施設側にとってはありがたいことですが、養成校としてはそれぞれの学校の特色もあるでしょうから、難しいことだと思っていました。アンケートによると統一も可能に感じるので、やはり養成校との協議の場が必要だと感じました。
・学生からの声を聴いてのご意見も多いと感じました。
＜実習生回答＞
・同じ出来事に対しても、学生の感じ方と施設側の感じ方にはかなり隔たりがあることも多いように思います。誤解で終わってしまうのは残念です。
学生の保育士への夢を誤解や理解不足で壊してしまわないようにするためにも、養成校と施設で話し合えたらと思いました。

荻野尚子委員より
実習園と養成校間において、より良い実習のためという熱意を持ち、平素から本音の意見を直接伝え合えればよいのにと感じました。今回、アンケートで率直な生々しい意見がたくさん出てよかったと思います。そしてこれがスタートではないかと思います。誰もが自分のこととして受け止めて改善に向かうことは、実習生や現場の保育者をはじめ、何より子ども達にとって大変すばらしいことだと思います。このアンケートが実習のてびきの作成に生かされ、養成校とともにその内容を考えていくことができればと思います。実習ノートの様式や用語、評価の観点などについても認識を共有することが望ましいのではないかと思いました。

５－２．考察とまとめ
５－２－１．実習園対象調査についての考察
５－２－１－１．実習生の受け入れについて
実習生の受け入れについては、年間受け入れが、1-2 名の園が 32.53%、3-4 人の園が 32-53%であり、同時期受け入れについては、1-2 人が 61.30%、3-4 人が 31.16%となっている。このことから、実習生が孤立しがちであることを認識しておく必要があると考える。特

に 1 名で受け入れていただく場合には、相互に確認したり、相談したりといったことが難しいようにも思われる。実習園側も、対象が複数である方が、認識のずれなどが生じにくいと思われる。

実習生の学びの観点からも、複数であることにより学びあいの機会が保障される。この点について、確認し、特に 1，2 名の実習生での実施が 60 ポイント以上と多い点について、再考したり、工夫したりすることが必要であると考える。

５－２－１－２．実習園の受け入れ状況と内容について

実習を断りたいと思った園は 16.78%、実際断ることがある園は 15.75%であり、その理由を実習生の態度としているものは前者 2 件と後者 11 件である。断る（断りたい）理由の多くが、園の事情（行事や受け入れ体制等、園側の事由）となっている。

実習を受け入れている園では、実に多くの園が実習前からオリエンテーション（98.57%）や、施設見学（66.07%）などを実施している。園の事情により実習生を受け入れがたい状況にある園については、実習前オリエンテーションや施設見学などの負担感も大きいことと思う。実習の受け入れについては、断わらざるを得ない園や、断りたいと考える園については、ご無理いただかず、一方で多大に尽力くださっている園を実習指定園として位置づけたり、開示したり、などして敬意をしめし、またその評価やインセンティブを検討してく必要性があると考える。

５－２－１－３．実習指導者とその業務について

実習生指導については、経験 4 年未満の保育者が担当している率は 1.72%であり、多くが、10 年以上（39.38%）である。多くが、担当リーダー（66.1%）と主任保育士・主幹保育教諭（43.84%）であるが、役職のない保育者も 19.18%もある。よって、これらの先生方への自負につながる認定資格などの位置づけや、対価を保障するなどの改善が必要であると考える。

実際、実習指導者の負担は、個別指導を毎日行っている園が 69.86%、2 日に一回が 11.3%になり、その時間は 15 分（55.07%）、30 分（39.49%）でもある。しかも、95.21%もが各養成校の指定する実習記録票を使用しているといった実態がある。養成校により様式がことなることの困難への指摘が、36.99%もある。実習担当者は、コメントや訂正についての指導部分をして、その日のうちに記録を学生に返す場合が 14.73%で、翌日に返す場合は、64.38%である。大変丁寧で、労力費やして指導してくださっていることが分かる。実際、45.55%もの指導者が、記録を見る時間が足りないと述べている。これらから、実習先の担当者の負担が大変大きいことを意識する必要があると考える。

多くの担当者が、実習生指導について、保育士の職務を伝える大事な機会であり（77.05%）、自身の勉強にもなる（61.99%）と答えている。その姿勢に感銘を受けると共に、それに応える制度設計を行う必要があると考える。

５－２－１－４．学生の課題について

マナーや態度・意欲といった社会人としての基礎的なことが指摘されている。養成校教員に実習園の声をしっかりと伝え、相互理解を促すことが必須と考える。

加えて、学生への精神面への実に温かく優しい配慮や、学生と共にまた学生を通じて学びたいといったきわめて謙虚な要望もあり、敬意に値するものもあった。この点から、養成校との相互理解の深化や、ますますの協同の可能性があると大いに期待する。

５－２－１－５．養成校の課題について

記録様式の統一化への要望が寄せられている。各養成校の独自性もあるが、県によっては養成校の連携による実習指導の統一ガイドラインや様式、さらには、実習後の学びの機会の共有などが進められている地域もある。兵庫県においても、様式の統一化について、検討を始め、進めていく必要があると考える。

学生の態度については、やはり、資格取得のためだけとの態度で実習を受けることは、実習園および専門職である保育者に極めて失礼であると考える。養成校側の責任を明確にすることが必要であると考える。一方で、実習園も資格取得の重みについて考え、実習園においても、実習内容の保障や実習指導者の力量についての責任があることを確認する必要があろう。両者が責任ある関係性で、兵庫県の保育者養成が進められていくことを願っている。そして、特に、指導、評価については話し合いを重ね、合意を得ることが大切であると考える。

５－２－２．養成校を対象とした調査についての考察

５－２－２－１．実習先との関係性について

実習園は普段から交流のある施設かという問いについて、「はい」が 34.38%、「どちらともいえない」が 43.69%、「いいえ」9.38%であった。その内実をみると、例年、実習を実施しているといった関係性があげられており、保育の内容や実践そのものについてかかわるといった関係性ではない様相である。

国内外では、資格の更新講習が大学院での実践検討を行う演習と重ねられていたり、行政監査や研修に養成校教員が大いに関わっており、そこでの教え子との関係性も良好に発展していたり、現職保育者の現場での課題の解決が研究課題となって大学院進学や学位取得にもつながったりしている例もある。

実習巡回が、園内研修日となっていたり、養成校の専門職による保育者支援（保育カウンセリング等）の機会となっていたりする例もある。養成校と実習先との、保育の質の維持・向上に繋がるような関係性づくりへと発展していくことが期待される。

５－２－２－２．保育実習の位置づけについて

「保育実習」が「教育実習」の前に実施するケースが 75%となっていた。その理由は、期間が短い方を先とする、というものが多い。「保育実習」が「教育実習」よりも前に実施されることについて、そのより積極的な学びの位置づけと、その理解の浸透が必要であると考える。つまり、例えば、「保育実習」を「教育実習」よりも先に実施することにより深まる

学びとしては、特に、0歳からの子どもの育ちの理解を深めることが可能となること、養護と一体となった教育を体験的に学び、それを基盤として実習することがより可能となることなどがあげられると考える。

５－２－２－３．指導者の対応について

「実習施設に直接言えないようなこまったこと」にあげられている内容は、ごく一部の極めて稀なケースであると考える。しかし、万が一の事態が起こらないように、実習園の関係者の方々に目を通しておいてほしいと考える。

保育者をあこがれの職業として目指し、実習に挑む学生にとって、非倫理的な保育者の言動を見聞きしてしまうことは、極めてショックな経験となる。実習生に対するかかわり方のみならず、子どもと接するときの言動、同僚との関係性、素行等についても、実習生に与える影響を考え、実習園においては、人権意識を高く持ち、保育者は実習生にとっての憧れのモデルとなってほしいと考える。

実習の最終的な単位認定は、養成校の責任である。しかし、実習園の評価がその判断の根拠となっている。保育者としての資格を得るという、大切な判断に関わっていることについて、自覚することが実習園には望まれる。現在が拙い状況にあったとしても、実習生の可能性をつむことなく、その成長への期待をもってほしいと願う。保育者としての向き不向きを断言したり、評価を盾にしたりといったことはあってはならないことである。

特に、指導者の実習生へのかかわりについては、養成校から実習生の実態の在り方について語られており、それへの対応への期待がなされている。実習生は、保育実践についての理解が極めて乏しい場合が多いことを、前提とすることが期待される。保育の仕事は、子どもと接するだけではなく、環境構成や環境の再構成、振り返りや、それに基づく計画など記録が大切であることや、それらに費やす時間があることすら、実習を通じてはじめて認識する実習生も多い。環境構成が雑務に思えたり、記録が苦通に感じたりといったことは、理解不足の場合もあるので、保育の仕事とその意味に関する丁寧な説明を実習生に現場において繰り返しすることが望まれる。

なお、これらについては、養成校の責任も多大であると考える。実習においてどういった仕事があり、それぞれにどういった意味があるのかについて学ぶ機会が実習前に十分に設けられている必要があると考える。その内容について、実習園が養成校に提案したり、教示したりして、養成校の教育の改善につなげていただきたいと期待する。

指導者の方の存在は、実習で大きな役割をはたしていることは、「実習施設に直接言えないようなこまったこと」の「指導者に対して」欄を読むと明らかである。実習生に与える影響を考えて、人権意識や倫理的配慮について、再度確認をしていただきたいと切に思う。

なお、極めて稀なケースではあると思うが、実習園における子どもに対する不適切な状況が実習生から報告された折、不測の事態にいたらぬように、情報を集約し、対応する方法を検討する必要があると考える。実習生の誤解である場合もあるが、その場合においても誤解を解くことが大切であると考える。組織として情報を受け入れ、集約する窓口を検討する必要があると考える。

５－２－３．実習生を対象としたアンケート

５－２－３－１．実習先選択について

近さや通園利便性が実習先選択の理由として圧倒的に多いが、卒園生であることが次に多かった。園に対する、素晴らしい評価であり、そのことを確認し、誇りに感じて欲しいと考える。

５－２－３－２．園の先生方の影響

実習前後に、保育者として働きたい気持ちが、変化したかどうかについての問いについては、「よくない方に変わった」が 16.31%であり、「良い方に変わった」が 60.73%であった。実習が保育者として働くことへの意欲の向上につながっていることがうかがえる。その中で、「良い方に変わった」その理由は、子どもと触れ合いその育ちを感じる喜びを実感したことなどが、89 件と最も多い。次に、自らの成長を感じた充実感などが、73 件と多い。さらには、保育者から受けた影響が 37 件と続く。子どもとかかわる実践経験や、充実感に続き、保育者の姿が、保育者になろうとする学生の意思に影響を与えていることが分かる。学生の将来設計にあたり、保育者の存在と影響力が極めて大きいことについて、多くの実習園の保育者に知ってほしいと考える。

一方で、「悪い方に変わった」理由として最も多いのは、「保育実践や保育業務によるもの」が 46 件と多い。保育の仕事は、重責を伴い、大変高度なものである。保育者の専門性や保育の仕事の重要性をしっかりと可視化し、この仕事が、誰にでもすぐにできるようになる仕事ではないことを、より社会に伝える必要があると考える。そのうえで、保育者としての経験をつみながら、その実践力を少しずつ積み重ねていき、いかにキャリアを形成していくのかのイメージを実習生に提供することが、実習園および養成校の共通した課題であるように思う。

実習生や初任者が、過度に、自らの力不足に憂いたり、現状に落胆することがないように、励ましつつ、指導することが今後ますます必要となってくると考える。保育者は、実践経験を積み重ね、経験と共に省察して学び続けることにより、成長していく仕事であり、そこにやりがいを感じたり、自己実現を見出したりすることを、実習校と養成校とが協力して支援する必要があると考える。

５－２－３－３．実習の感想・振り返りについて

実習生の実習を終えての感想で、肯定的な内容としては、「子どもとの関わり」が 95.71%で最も多く、続く、「指導案の組み立て方、書き方」(47.85%)、「実践的な部分」(47.64%)、「保育士・保育教諭との関わり」(44.85%)、「子どもの発達」(41.85%)、「記録の書き方、評価」(39.70%) と 50 ポイント近くの差がある。一方で、否定的な内容については「記録の書き方、評価」(80.47%)、「指導案の組み立て方、書き方」(78.54%) が極めて多く、続いて「実践的な部分」(57.41%)、「子どもとの関わり」(51.07%)、「保育士・保育教諭とのかかわり」(40.13%) となっている。

養成教育においては、幼稚園教諭については、免許法改訂に伴い、保育の「領域に関する専門科目」がもうけられた。同科目では、理論的基礎の修得に加えて、指導案の作成や、模擬保育の実施等、実践に関連づけた記録を学ぶ機会が新たにつくられている。現在、移行措置中ではあるが、今後、より保育実践につながる指導が実習前に養成校で実施されることが予測され、また、その充実には、実習園からの養成教育への支援や助言が期待されると考える。

指導者の指導については、多くの実習生が、いずれの項目についても、指導者の丁寧でこまやかな指導があったこと、適切なアドバイスを得たことを評価している。相談しやすい雰囲気づくりや、相談する時間や場所の設定があったことが、よかったとの声も多い。なお、要望や課題についても、担当者の態度が問題としてあげられている。

５－３．おわりに

本調査から明らかになった課題としては、まず、実習にあたっては、実習園の指導者の影響が大きく、実習生の育ち、進路選択に、大きく関わっているということである。実際に多くの実習園の指導者が、高い志を持ち、多くの労力を実習指導に費やしてくださっていることが、本調査からも分かった。実習生指導を任される力量のある保育者に対して、その位置づけや、インセンティブを検討することを強く要望したい。

次に、実習園と養成校の連携の充実がさらに望まれることが明らかになったと考える。個々の園や養成校レベルではなく、より一体的で組織的な、連携体制を創ることが今後、必要であると考える。実習内容や、指導者の役割、さらには、記録様式などについても、共通化を図る方向で議論を始める必要があるようにも思う。

次世代育成の根幹を担う、生涯の人格形成の基礎を培う、保育者の仕事は、社会において極めて重要な仕事であり、また責任も大きく、実際に、大変高度な仕事である。保育者の専門性を構成する、実践力は、一石二鳥で修得されるものではなく、省察と対話を伴う実践の積み重ねと共に培われていくものである。その成長の第一歩を踏み出す、実習は、保育者養成においても、現場に就職し、園でキャリアを形成していく上でも、極めて重要である。しかし、日本の実習教育は大変短く、その内容も画一化されていない。世界各国では、実習期間は、平均 15 週、北欧では 20 から 22 週、タイなどでは 1 年にもおよぶ。実習園および養成校における指導者の資格認定がなされている国等もある。日本においても、実習園における実習教育が極めて重要であることへの認識を広め、その体制づくりや内容の充実を図ることが、今後ますます期待されると考える。

文責　北野幸子（神戸大学大学院）

6. おわりに

私たちにとって保育士不足は大きな問題としてここ近年どこの施設でも叫ばれています。保育士不足の問題はいくつかの理由があると思いますが、その中の１つが養成校との懇談会から見えてきた実習中に心が折れる学生の存在です。どのような実態があるのかという思いで、今回実習について調査いたしました。

この調査から、実習生に真摯に向き合い協議の時間を作り、励まし指導する担当保育士の存在や、そのような保育士から学生自身も多くを学び、自身も「保育士への道を選択し有意義な実習時間を送りました。」という喜ばしい回答も数多くありました。そんな中、全く正反対の意見の中に、怖い保育士や陰口を言う保育士によって心が折れてしまう現状が見受けられました。保育士個人の問題と捉えがちですが、施設の問題として考え、職場環境を向上するなどを整備することにより保育士自身の心に余裕が生まれ、笑顔で実習生に向き合えるかもしれません。

施設側として思い当たることや、腑に落ちないことも多々あるかと思いますが、この調査から見えてきた課題をご自分の園のこととして考え、改善できるように私たちが努力することは、実習生だけではなく今現在働く保育士の離職防止にもつながることと考えます。

私たちは優秀な学生を保育士として迎える上でも、養成校と協力しながら未来の保育士を育てていくことが大切でしょう。

最後になりましたが、この調査結果をまとめるにあたりご協力いただきました神戸大学大学院 北野幸子准教授、保育士部会委員長、調査研究委員の先生方、兵庫県保育協会事務局の方々にも心より感謝申し上げます。

兵庫県保育協会 調査研究委員長　爲谷智恵美

2019 年度　実習受け入れ施設、保育士養成校、

実習生を対象としたアンケート集計結果

2020 年 3 月発行

発行
公益社団法人兵庫県保育協会
〒651-0062　神戸市中央区坂口通 2-1-1
電話：078-242-4623　FAX：078-242-1399

●兵庫県保育協会調査研究委員会
委 員 長　　爲谷智恵美（バラホーム保育所）
副委員長　　藤原和則（あけぼの認定こども園）
委　　員　　加藤美輪（認定こども園あおい宙川西）
荻原隆浩（保育園ゆりかごの家）
小林俊光（めばえのにわ保育園）
荻野尚子（いちじまこども園）
大前恵子（中田保育園）

●監修　　北野幸子（神戸大学大学院　准教授）
●協力　　保育実習充実支援実行委員会委員